



TOKUSHIMA UNIV. CAMPUS LIFE 29th

キャンパスライフ 第29回 学生生活実態調査報告書



徳島大学
Tokushima University

まえがき

キャンパスライフ―「第29回学生生活実態調査報告書」―は、本学学部生の生活の実態や要望を把握し、今後の修学支援並びに福利厚生施設等の改善に資する基礎資料を得る目的で、令和元年11月に、全学部の学生全員にアンケート調査を実施したものです。本報告書には、①基本事項、②住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤食事、⑥学生生活上の問題点、⑦修学状況、⑧課外活動、⑨進路・就職などについて、全部で80問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。

本学は、「自主と自律の精神に基づき、真理の探求と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し向上させ、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する」を教育理念とし、教育上の目標を「学生が志をもって学び、感じ、考え、生涯にわたって学び続ける知と実践にわたる体系的な教育を行う」「自律して人類の諸問題の解決に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成を行う」としており、この目標に向かって学生、教職員共に協働しながら努力しているところです。しかし残念ながら、入学後に将来の夢を持たず、目的意識・学習意欲を失い、留年や退学、また精神的に不安定に陥る学生が増加しているのも事実です。

社会から求められる人材が高度化・多様化する中、教育の目的が豊かで健全な未来社会の実現に貢献できる人づくりであることを考えると、高度で多様な人材の育成のためには、日頃の授業は勿論のこと、学生目線を重視したきめ細かい正課及び正課外の教育支援や学生生活支援が不可欠であり、一人一人の学生に合った適切な指導を行い、学生と共に考えることがわれわれ教職員の責務であります。本報告書が、学生の立場に立った教育改革に活用されることを強く望みます。

最後になりましたが、徳島大学高等教育研究センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の先生方、ご協力いただいたキャンパスライフ健康支援センターおよびキャリア支援部門の先生方、学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきましたことに対し、松木均支援室長をはじめとする皆さんに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学生の皆さんにもこの場を借りて感謝致します。

令和2年3月

徳島大学理事・副学長(教育担当)
高等教育研究センター長

高 石 喜 久

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「令和元年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	7
第1章 住居・通学について	15
1-1 住居区分	15
1-2 1か月の家賃	15
1-3 住居満足度	16
1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者	17
1-5 通学方法	18
1-6 通学時間	18
1-7 通学中の交通事故	19
第2章 収入・支出について	21
2-1 家庭の年収	21
2-2 授業料の免除について（年収が500万円未満の家庭）	21
2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】	22
2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】	23
2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】	24
2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】	24
2-7 経済状況	25
2-8 奨学金	26
2-9 1週間のアルバイト従事日数	26
2-10 1週間のアルバイト従事時間数	27
2-11 アルバイトと勉強	27
2-12 アルバイトの目的	28
2-13 アルバイトの種類	28
2-14 アルバイト収入	29
2-15 アルバイトの紹介者	30
2-16 アルバイトのトラブル内容	30
第3章 健康状態について	32
3-1 睡眠時間	32
3-2 気になる症状	33
3-3 喫煙について	34
3-4 飲酒について	35
第4章 食事について	38
4-1 朝食	38
4-2 昼食	39
4-3 夕食	39

4-4	昼食の利用場所	40
4-5	学生食堂について感じていること	40
第5章	学生生活上の問題点	42
5-1	大学生活の意義	42
5-2	悩みと相談	43
5-3	迷惑行為	45
5-4	教職員・友人との交流	51
5-5	大学事務室の対応への満足度	54
5-6	盗難等犯罪被害	55
第6章	修学状況について	58
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	58
6-2	単位取得状況と授業出席状況	59
6-3	授業の満足度	60
6-4	授業予習復習時間	62
6-5	学修支援制度の利用状況	62
6-6	図書館の利用状況	64
第7章	課外活動について	66
7-1	サークル加入状況	66
7-2	活動状況	67
7-3	加入の動機	69
7-4	サークルに加入していない理由	70
7-5	学生行事	72
7-6	大学祭への参加状況	74
7-7	ボランティア活動	75
	まとめと今後の課題	75
第8章	進路・就職について	77
8-1	進路情報入手手段	77
8-2	就職・進学相談相手	77
8-3	就職・進学希望について	78
8-4	就職先選択で重視するもの	79
8-5	就職情報の入手方法	79
8-6	希望する職種	80
8-7	社会人になるために必要な学外に関わりをもったキャリア形成項目	81
8-8	キャリア形成を目的に割くことのできる週あたりの時間	81
8-9	キャリア支援室の利用状況	82
第9章	学部の現状と課題	84
9-1	総合科学部	84
9-2	医学部	86
9-3	歯学部	88
9-4	薬学部	92
9-5	理工学部	94
9-6	生物資源産業学部	96
第10章	総括と提言	98
	あとがき	101

序章 学生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学高等教育研究センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員及び協力者が中心となり、調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委員 長	松 木 均	大学院社会産業理工学研究部	教 授
委 員	山 口 裕 之	大学院社会産業理工学研究部	教 授
委 員	鶴 尾 吉 宏	大学院医歯薬学研究部（医学）	教 授
委 員	吉 村 弘	大学院医歯薬学研究部（歯学）	教 授
委 員	滝 口 祥 令	大学院医歯薬学研究部（薬学）	教 授
委 員	武 藤 裕 則	大学院社会産業理工学研究部	教 授
委 員	井ノ崎 敦 子	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門	講 師
委 員	TRAN HOANG NAM	高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班	講 師
協 力 者	井 崎 ゆみ子	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門	教 授
協 力 者	畠 一 樹	高等教育研究センター キャリア支援部門	講 師

3 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員5,848人（令和元年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務(教務)係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配付し、回答用紙(マークシート)を回収した。

4 調査の時期

この調査は、令和元年11月1日から11月11日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月15日までとした。

5 調査の内容

調査項目については、調査の継続性を考慮しながら必要な見直しを行い、「就学状況について」「進路・就職について」は、現状に応じた設問を新たに追加、内容修正する等の変更を加え、80項目とした。

6 略語等の表示等

本報告書中、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端数処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数としてそれに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

総合科学部改組前 → 総合科学部（旧）
 総合科学部改組後 → 総合科学部（新）
 工学部昼間コース → 工学部昼間
 工学部夜間主コース → 工学部夜間
 理工学部昼間コース → 理工学部昼間
 理工学部夜間主コース → 理工学部夜間

平成27年度学生生活実態調査（学部学生） → 前々回調査
 平成29年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

7 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者5,848人のうち回答数は4,009人で、回収率は68.6%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

令和元年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学 部	学 科	対象者数	回 収 数	回収率(%)
総 合 科 学 部	人 間 文 化 学 科	19	5	26.3
	社 会 創 生 学 科	15	8	53.3
	総 合 理 数 学 科	12	5	41.7
	社 会 総 合 科 学 科	700	318	45.4
	計	746	336	45.0
医 学 部	医 学 科	689	303	44.0
	栄養学科・医科栄養学科	201	163	81.1
	保 健 学 科	517	385	74.5
	計	1,407	851	60.5
歯 学 部	歯 学 科	249	221	88.8
	口 腔 保 健 学 科	59	59	100.0
	計	308	280	90.9
薬 学 部	薬 学 部 共 通 学 科	6	0	00.0
	薬 学 科	258	247	95.7
	創 製 薬 科 学 科	167	153	91.6
	計	431	400	92.8

工 学 部	建 設 工 学 科	15	9	86.7
	機 械 工 学 科	48	26	54.2
	化 学 応 用 工 学 科	17	12	82.4
	生 物 工 学 科	8	5	62.5
	電 気 電 子 工 学 科	36	21	58.3
	知 能 情 報 工 学 科	28	14	50.0
	光 応 用 工 学 科	10	6	60.0
	計	162	93	61.1
理 工 学 部	理 工 学 科	2,392	1,690	70.4
生物資源産業学部	生 物 資 源 産 業 学 科	402	359	89.3
合計		5,848	4,009	68.6

<学年別>

学 年	対象者数	回収数	回収率(%)
1 年	1,361	974	71.6
2 年	1,350	895	66.5
3 年	1,399	919	65.5
4 年	1,359	962	70.7
5 年	187	164	87.7
6 年	192	95	49.5
計	5,848	4,009	68.6

<男女別>

学 部	回 収 率(%)		
	男	女	計
総 合 科 学 部	40.9	47.4	45.0
医 学 部	48.1	69.3	60.5
歯 学 部	83.7	96.5	90.9
薬 学 部	88.3	96.9	92.8
工 学 部	59.7	87.5	61.1
理 工 学 部	69.4	77.7	70.4
生物資源産業学部	87.5	90.8	89.3
計	65.9	72.9	68.6

令和元年度 学生生活実態調査(学部学生対象)

令和元年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、令和元年11月1日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月1日～11月11日]

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月15日（金）です。

所属学部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 令和元年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、問30については気になる具体的な症状を、問41、問42、問43、問61、問64についてはその具体的内容を書いて下さい。
- 5 *は、前回からの継続調査項目です。

学生生活実態調査票

A. 基本事項について

1 * 【全員】 あなたはどちらですか。	1. 日本人学生・男 3. 留学生・男	2. 日本人学生・女 4. 留学生・女	
2 * 【全員】 所属学部はどこですか。	1. 総合科学部 4. 薬学部 6. 工学部（夜間主コース） 8. 理工学部（夜間主コース）	2. 医学部 5. 工学部（昼間コース） 7. 理工学部（昼間コース） 9. 生物資源産業学部	3. 歯学部
3 * 【全員】 学科・コースはどこですか。	<p>総合科学部</p> <p>〔1. 人間文化学科 3. 総合理数学科 5. 社会総合科学科国際教養コース 7. 社会総合科学科公共政策コース 2. 社会創生学科 4. 社会総合科学科(1年生) 6. 社会総合科学科心身健康コース 8. 社会総合科学科地域創生コース〕</p> <p>医学部 〔1. 医学科 2. 医科栄養学科 3. 保健学科〕</p> <p>歯学部 〔1. 歯学科 2. 口腔保健学科〕</p> <p>薬学部 〔1. 薬学科 2. 創製薬科学科〕 (学科未配属学生は〔1. 薬学科 2. 創製薬科学科〕の選択は不要)</p> <p>工学部 〔1. 建設工学科 2. 機械工学科 3. 化学応用工学科 4. 生物工学科 5. 電気電子工学科 6. 知能情報工学科 7. 光応用工学科〕</p> <p>理工学部 〔1. 社会基盤デザインコース 2. 機械科学コース 3. 応用化学システムコース 4. 電気電子システムコース 5. 情報光システムコース 6. 応用理数コース〕</p> <p>生物資源産業学部 〔1. 生物資源産業学科(1年生) 2. 生物資源産業学科応用生命コース 3. 生物資源産業学科食料科学コース 4. 生物資源産業学科生物生産システムコース〕</p>		
4 * 【全員】 何年生ですか。	1. 1年生 4. 4年生	2. 2年生 5. 5年生	3. 3年生 6. 6年生

B. 住居, 通学について

5 * 【全員】 あなたの住居区分はどれですか。	1. 自宅(家族と同居) 3. 学生寮 5. 親戚・知人宅	2. アパート・マンション(家族と別居) 4. 間借り(下宿) 6. 国際交流会館・日亜会館	7. その他
6 * 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃(電気代, ガス代等諸費用を除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 4万円～5万円未満 5. 6万円～7万円未満 7. 8万円以上	2. 3万円～4万円未満 4. 5万円～6万円未満 6. 7万円～8万円未満	
7 * 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 現在の住居に満足していますか。	1. 満足している 3. やや不満足である	2. ほぼ満足している 4. 不満足である	
8 * 【問7で「3」,「4」を選んだ方】 その理由はどれですか。 (複数回答可)	1. 狭い 3. 通学に不便 5. 周りの環境が良くない	2. 家賃が高い 4. 日常生活に不便 6. その他	

9 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】住居（部屋）の紹介・斡旋者は誰ですか。	1. 徳大生協 3. 友人・先輩 5. 新聞・雑誌	2. 徳大教員 4. 不動産業者 6. その他
10 *	【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。	1. 徒歩 3. バイク（原付自転車・自動二輪） 5. バス・JR	2. 自転車 4. 自動車
11 *	【全員】通学時間はどのくらいですか。	1. 15分未満 3. 30分～1時間未満	2. 15分～30分未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間以上
12 *	【全員】通学中に交通事故をおこした事、または交通事故の被害にあったことがありますか。	1. ある 2. ない	

C. 収入・支出について

13 *	【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はどれくらいですか。	1. 250万円未満 3. 500～750万円未満 5. 1,000～1,500万円未満	2. 250～500万円未満 4. 750～1,000万円未満 6. 1,500万円以上
14 *	【問13で「1」又は「2」を選んだ方（年収500万円未満の家庭）】授業料免除についてお尋ねします。（直近のものでお答えください）	1. 授業料免除は知っているが申請していない 2. 全額免除を受けている 3. 半額免除を受けている 4. 申請したが不許可だった 5. 授業料免除制度を知らなかった	
15 *	【自宅外通学者】あなたの1か月の平均収入額（保護者等からの援助を含む）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
16 *	【自宅外通学者】保護者等からの援助はいくらありますか。	1. 全くない 3. 3～5万円未満 5. 7～10万円未満 7. 15～20万円未満	2. 3万円未満 4. 5～7万円未満 6. 10～15万円未満 8. 20万円以上
17 *	【自宅外通学者】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
18 *	【自宅外通学者】1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1. 2万円未満 3. 3～4万円未満 5. 5～7万円未満	2. 2～3万円未満 4. 4～5万円未満 6. 7万円以上
19 *	【全員】現在の経済状況について	1. ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ） 2. 普通（あまり不自由を感じない） 3. やや苦しい（奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる） 4. 大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）	
20 *	【全員】奨学金を受けていますか。	1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する 2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する 3. 現在受給中であるが、次は希望しない 4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する 5. 現在受給していないし、希望もしない	
21 *	【全員】現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1. いいえ 3. 2日 5. 4日	2. 1日 4. 3日 6. 5日以上

22	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * 1週間の従事時間は合計何時間ですか。(移動に要する時間も含む)	1. 5時間未満 3. 10～15時間未満 5. 20～25時間未満	2. 5～10時間未満 4. 15～20時間未満 6. 25時間以上
23	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1. 支障が生じている 2. 支障は生じていない	
24	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトは主にどのような目的でしていますか。 (複数回答可)	1. 生活費や学費のため 3. 日常の娯楽・嗜好品等のため 4. 高額商品(自動車・パソコン等)購入のため 5. 課外活動費のため	2. レジャー・旅行費のため 6. 社会体験のため 7. その他
25	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * どのようなアルバイトをしていますか。 (複数回答可)	1. 家庭教師・学習塾講師等 3. 受付・接客 5. 商品販売 7. 飲食店等手伝い 9. 引越しスタッフ	2. 会場設営・撤収, 搬入搬出 4. イベントスタッフ補助 6. 商品等整理・包装 8. 駐車場整理員 10. その他
26	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * あなたのアルバイトによる収入(1か月平均)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15万円以上
27	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * そのアルバイトはどこで(誰に)紹介してもらいましたか。 (複数回答可)	1. 徳大生協 3. アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ 5. 家族 7. その他	2. 友人・先輩 4. 教員 6. 自分で開拓
28	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。 (複数回答可)	1. ない 3. 給料が契約より低かった 5. 解雇 7. 事故・ケガ	2. 給料の不払い 4. 客とのトラブル 6. 雇用者との意見の不一致 8. その他

D. 健康状態について

29	【全員】 * 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。(休日を除く)	1. 4時間未満 3. 6～8時間未満 5. 10時間以上	2. 4～6時間未満 4. 8～10時間未満
30	【全員】 * 現在気になる症状は何ですか。 (複数回答可)	1. 特にな 3. アトピー・アレルギー 5. 動悸・不整脈 7. 咳・痰 9. その他(マークカードの裏面の自由記入欄に具体的な症状を書いてください)	2. 頭痛・めまい 4. 不眠 6. 下痢・便秘 8. 生理痛・生理不順
31	【全員】 * 喫煙について	1. 喫煙したことはない 3. 毎日喫煙している 5. その他	2. ときどき喫煙している 4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない
32	【全員】 * 飲酒について	1. 飲酒はしない 3. 1週間に1～2日飲酒している 5. 1週間に5日以上飲酒している	2. たまに飲酒する 4. 1週間に3～4日飲酒している
33	【問32で「4」～「5」を選んだ方】 * 1回に飲む量はどのくらいですか。 (日本酒ならコップ1杯(180ml), ビールなら中瓶1本(500ml)を1合としてお答えください)	1. 1合未満 2. 1合以上2合未満 3. 2合以上3合未満 4. 3合以上4合未満 5. 4合以上5合未満 6. 5合以上	

E. 食事について

34 * 【全員】 朝食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
35 * 【全員】 昼食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
36 * 【全員】 夕食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
37 * 【全員】 昼食は主にどこを利用していますか。	1. 常三島第1食堂（生協） 3. 蔵本会館食堂 5. 自宅（下宿）	2. 常三島第2食堂（工学部構内） 4. 弁当を購入 6. その他
38 * 【全員】 学生食堂について感じていることはどれですか。 <複数回答可>	1. メニューが少ない 3. 値段が高い 5. 場所が不便 7. その他	2. 昼食時の混雑がひどい 4. 開店時間が短い 6. 特にない

F. 学生生活上の問題点

39 * 【全員】 あなたは、大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	1. 勉強や研究 3. 趣味・娯楽 5. 将来を考えた資格等の取得 7. 特に重点もなく程々に 9. その他	2. サークル活動 4. 豊かな人間関係を結ぶこと 6. アルバイト 8. ただ何となく
40 * 【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 <複数回答可>	1. ない 4. 交友・異性関係 7. 自分の性格 10. その他	2. 経済状態 5. 身体的不調 8. 就職や進路 9. 生き甲斐や目標 3. 勉強 6. 家族関係
41 * 【全員】 悩み事は誰に相談しますか。 <複数回答可>	1. 友人 3. クラス担任・指導教員 5. 総合相談部門（学生相談室） 7. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的に書いてください） 8. 誰にもしない	2. 家族 4. 担任・指導教員以外の教員 6. 学務（教務）係
42 * 【全員】 あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 <複数回答可>	1. 受けたことはない 3. いたずら電話を受けた 5. 大学内でセクハラを受けた 7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった 8. サークル内でいじめ（嫌がらせを含む）を受けた 9. カルトの勧誘を受けた 10. その他 (※「2」～「10」を選んだ方：マークカードの裏面の自由記入欄に具体的内容を書いてください)	2. 悪徳商法に引っかかった 4. ストーカーにあった 6. 大学内でアカハラを受けた
43 * 【問42で「5」又は「6」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	1. 友人 3. クラス担任・指導教員 5. 総合相談部門（学生相談室） 7. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的に書いてください） 8. 誰にもしない	2. 家族 4. 担任・指導教員以外の教員 6. 学務（教務）係
44 * 【全員】 総合相談部門（学生相談室）を利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. 総合相談部門（学生相談室）があるのは知っているが、利用したことはない 3. 総合相談部門（学生相談室）があるのを知らない	
45 * 【全員】 あなたは、今年度中に教員と話や質問をしたことがありますか。	1. 全くない 3. 2～3回程度したことがある 5. 7回以上したことがある	2. 1回はある 4. 4～6回程度したことがある

46	【全員】 * あなたには、親しい教職員や親しい友人はいますか。 (複数回答可)	1. クラス担任や指導教員と親しい 2. クラス担任や指導教員以外に親しい教員がいる 3. 親しい職員がいる 4. 親しい友人がいる 5. 親しい教職員も親しい友人もない
47	【全員】 * 大学事務室の対応に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. やや不満足である 4. 不満足である
48	【全員】 * あなたは、入学以来、盗難(盗み)、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。 (複数回答可)	1. 被害に遭ったことはない 2. 盗難(盗み) 3. 強盗 4. 傷害 5. 痴漢 6. その他
49	【問48で「2」～「6」を選んだ方】 * あなたは、どこで被害に遭いましたか。 (複数回答可)	1. 大学構内 2. 自宅、アパート 3. 路上 4. その他

G. 修学状況について

50	【全員】 * あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 (複数回答可)	1. 地元の大学だから 2. 親や親戚に進められたから 3. 高校の進学指導による 4. 希望する学部・学科があったから 5. 就職等将来を考慮して 6. 国立大学だから 7. ただ何となく 8. 先輩や友人に勧められて 9. その他
51	【全員】 * あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. やや不満足である 4. 不満足である
52	【全員】 * これまでの単位の取得状況はどうですか。	1. 全部取得できた 2. ほとんど取得できた 3. 半分程度取得できた 4. あまり取得できなかった 5. 全く取得できなかった
53	【全員】 * 授業によく出席していますか。	1. 全部出席している 2. ほとんど出席している 3. 出たり出なかつたりしている 4. ほとんど出席していない 5. 全く出席していない
54	【問53で「3」～「5」を選んだ方】 * 授業を欠席する理由は何に当たりますか。 (複数回答可)	1. 勉学の意欲がわからない 2. 授業に魅力がない 3. 授業が理解できない 4. その他
55	【問54で「3」を選んだ方】 * あなたは、授業内容が理解できなかった場合、どのようにしていますか。 (複数回答可)	1. 教室で質問する 2. 教員に後で個人的に質問する 3. 先輩・友人と議論・相談する 4. 参考書等で調べる 5. 気になるけど何もしない 6. 気にしない 7. その他
56	【全員】 * あなたは、受講している授業に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. やや不満足である 4. 不満足である
57	【問56で「3」、「4」を選んだ方】 * 授業が満足できない理由は何ですか。 (複数回答可)	1. 授業内容が難し過ぎて理解できない 2. 授業内容がつまらない 3. 教員の教え方に工夫が足りない 4. 受講者が多すぎて精神集中できない 5. 休講が多すぎる 6. 試験・レポートが多すぎる 7. 単位認定が厳しすぎる 8. その他
58	【全員】 * あなたは、1日平均何時間ぐらい授業の予習・復習をしていますか。ただし、試験期間中は除いてください。	1. 1時間未満 2. 1時間以上～2時間未満 3. 2時間以上～3時間未満 4. 3時間以上～4時間未満 5. 4時間以上～5時間未満 6. 5時間以上

59	【全員】 * オフィスアワーを利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない 3. オフィスアワーがない 4. オフィスアワーについて知らない
60	【問59で「2」を選んだ方】 * オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4. 教員に相談するのが面倒である 5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない 6. その他
61	【全員】 あなたは現在のクラス担任制度に満足していますか。	1. 満足している 2. どちらかといえば満足している 3. どちらかといえば不満足である 4. 不満足である (注:「3」「4」を選んだ方は、マークカードの裏面の自由記入欄に具体的に書いてください)
62	【全員】 * 図書館にどのくらいの頻度で来館しますか。	1. ほぼ毎日来館している 2. 1週間に2～3回くらい来館する 3. 1週間に1回程度来館する 4. 2週間に1回程度来館する 5. 1か月に1回程度来館する 6. 半年に1回程度来館する 7. 1年に1回程度か、それ以下の来館頻度である
63	【対象者：全員】 * 図書館を利用する主な目的は何ですか（非来館利用も含む）。 (複数回答可)	1. 図書等の貸し出し 2. 図書等の閲覧やコピー 3. 自習 4. グループ研究(学習) 5. パソコンの利用 6. 電子ジャーナル・データベース 7. 授業等の間の時間調整 8. その他
64	【対象者：全員】 図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。	1. 満足している 2. どちらかといえば満足している 3. どちらかといえば不満足である 4. 不満足である (注:「3」「4」を選んだ方は、マークカードの裏面の自由記入欄に具体的に書いてください)

H. 課外活動について

65	【全員】 * 学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系、体育系及びサポート系サークルで、2つ以上に加入している人は、主として活動している方に回答してください）	1. 学内の文化系サークルに加入している 2. 学内の体育系サークルに加入している 3. 学内のサポート系サークルに加入している 4. 学外の文化系サークルに加入している 5. 学外の体育系サークルに加入している 6. 学外のサポート系サークルに加入している 7. 以前加入していたが現在は加入していない 8. 加入したことがない
66	【問65で「1」～「6」を選んだ方】 * サークルでの活動状況はどうですか。	1. かなり熱心に活動している 2. まあまあ熱心に活動している 3. どちらともいえない 4. あまり活動していない 5. ほとんど活動していない 6. その他
67	【問65で「1」～「6」を選んだ方】 * サークルに加入した主な動機は何ですか。	1. サークルの活動内容に魅力があったから 2. 集団活動に魅力があったから 3. 友人を得るため 4. 先輩・友人に勧められたから 5. 学生生活を豊かにするため 6. 健康増進のため 7. 自分の特技を伸ばすため 8. 自分の短所を補うため 9. その他
68	【問65で「7」,「8」を選んだ方】 * サークルに加入していない主な理由は何ですか。	1. 学業の妨げとなる 2. 練習がいやである 3. 活動するための体力・能力に自信がない 4. 個人の自由が束縛される恐れがある 5. 集団生活についていけない 6. アルバイトをしているので時間的余裕がない 7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない 8. 個人の金銭的負担が多すぎる 9. 魅力的なサークルがない 10. 特に理由はないが何となく

69	【全員】 * 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。	1. 必要だと考えており積極的に参加している 2. 必要だと思うがあまり参加していない 3. どちらでもいい 4. なくてもいい
70	【全員】 * あなたは今年の大学祭に参加しましたか（参加しますか）。	1. はい 2. いいえ
71	【全員】 * あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	1. 個人でしたことがある 2. 団体（組織）に入っていたことがある 3. ない

1. 進路・就職について

72	【全員】 * 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 指導教員 3. 先輩・知人 5. 就職情報誌・新聞・マスコミ 7. 大学内資料 9. キャリア支援室の情報	2. 就職担当教員 4. 直接会社に照会 6. 家族等 8. インターネット 10. その他
73	【全員】 * 進路、就職について信頼できる相談相手は誰ですか。 〈複数回答可〉	1. 家族等 3. 職員 5. その他	2. 教員 4. 知人・先輩 6. 相談相手はいない
74	【全員】 * 就職希望ですか。進学希望ですか。	1. 就職 2. 進学 3. その他	
75	【問74で「1」を選んだ方】 * 就職先選択で重視するものは何ですか。 〈複数回答可〉	1. 収入 3. 就職先の社会的評価 5. 勤務地の地理的条件 7. 先端技術を駆使しているところ 9. その他	2. 就職先の将来性・安定性 4. 能力を発揮できること 6. 研究評価をしてくれるところ 8. 人間関係の良いこと
76	【問74で「1」を選んだ方】 * 就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。 〈複数回答可〉	1. 就職担当教員 3. 新聞・就職情報誌 5. ダイレクトメール 7. 会社等説明会 9. 家族等	2. キャリア支援室の情報又は就職相談員 4. インターネット 6. 直接会社等に照会 8. 先輩・知人 10. その他
77	【問74で「1」を選んだ方】 * 希望職種は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 大学・官公庁の教育・研究職 3. 技術職 5. 総合職・営業職 7. 教育職 9. マスコミ関係	2. 1以外の公務員 4. 企業等の研究職 6. 事務職 8. 専門職（医師・看護師等） 10. その他
78	【全員】 * 社会人になるために必要なキャリア形成を目的として、学外で関わりをもったものに該当する項目は何ですか？ 〈複数回答可〉	1. ボランティア 3. 留学 5. キャリア形成を意識したアルバイト 7. その他（キャリア形成を意識した社会人との交流） 8. なし	2. インターンシップ 4. 起業
79	【全員】 * キャリア形成を目的とするために割くことのできる時間は週あたり何時間ありますか。	1. 2時間未満 3. 4時間以上6時間未満 5. 8時間以上10時間未満 7. 13時間以上16時間未満	2. 2時間以上4時間未満 4. 6時間以上8時間未満 6. 10時間以上13時間未満 8. 16時間以上
80	【全員】 * 本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。	1. 現在も利用している 2. 以前に利用したことがある 3. 利用したことがない	

ご協力ありがとうございました

第1章 住居・通学について

1-1 住居区分 (図1-1)

全体として最も多いのが、アパートとマンション(55%)、次に自宅(27%)である。続いて、間借り(下宿)(15%)、学生寮(2%)、親戚・知人宅(1%)となっている。全体として前回調査とほとんど同じである。自宅の割合は、学部別では、総合科学部(新)(51%)と生物資源産業学部(37%)が高く、薬学部と理工学部夜間が最も低い(19%)。総合科学部(旧)、医学部、工学部(昼間、夜間)、理工学部昼間での自宅の割合は、23~28%である。総合科学部(新)と生物資源産業学部では、自宅の割合が37~51%であることから、この2つの学部では徳島県出身者が半数近くを占めると考えられる。

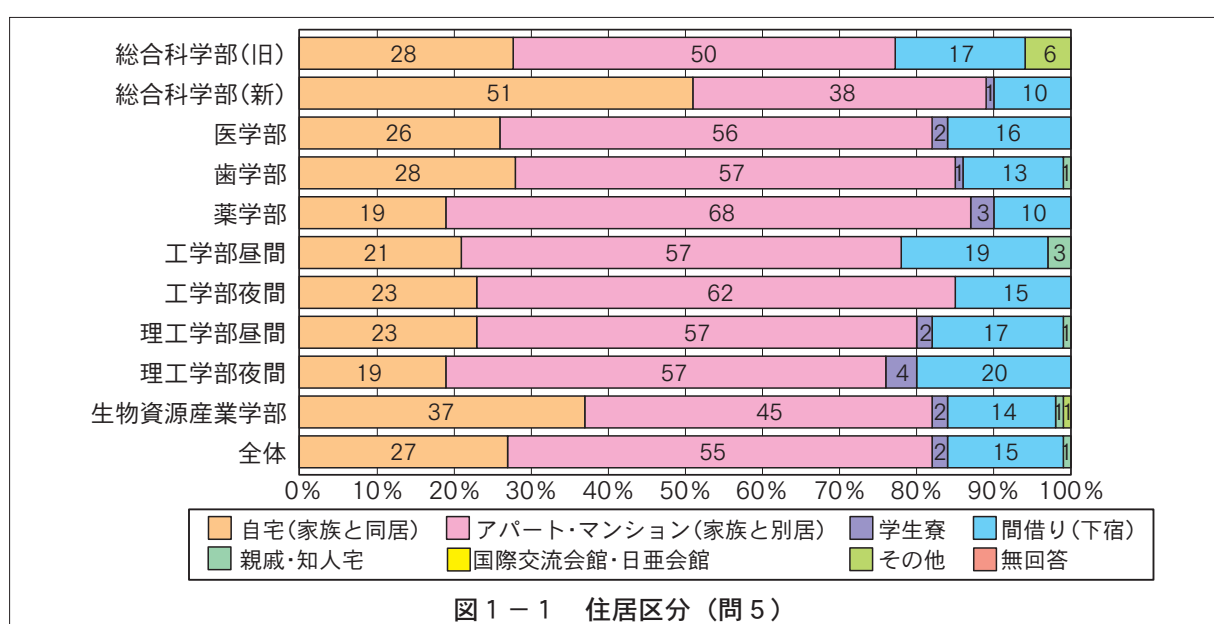
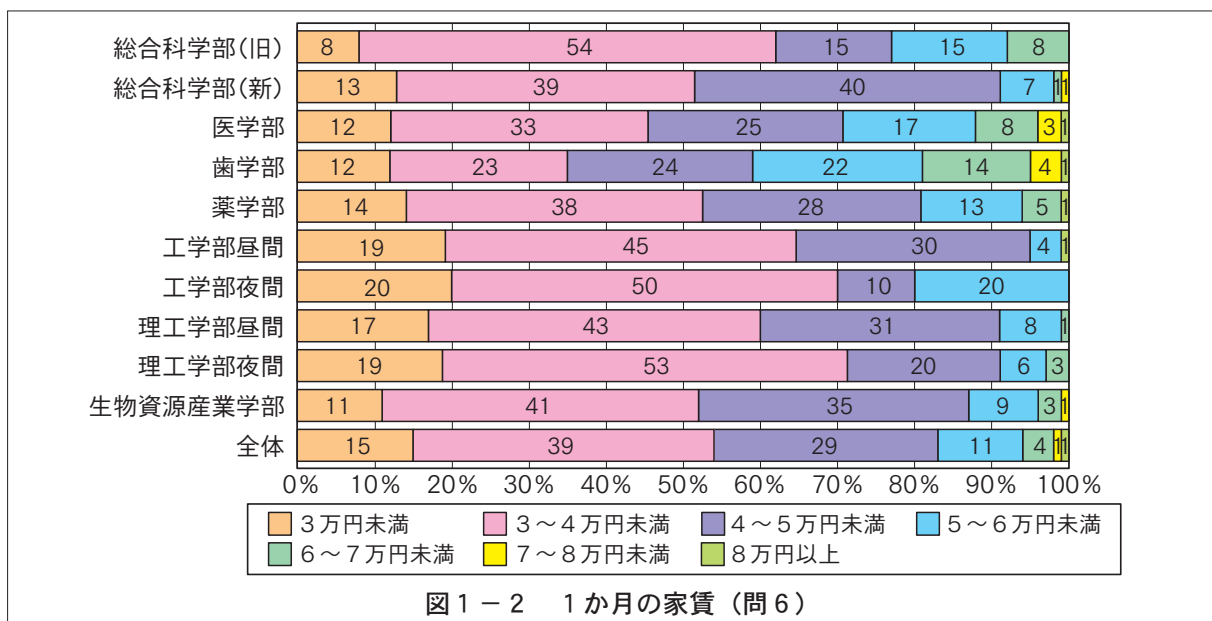


図1-1 住居区分 (問5)

1-2 1か月の家賃 (図1-2)

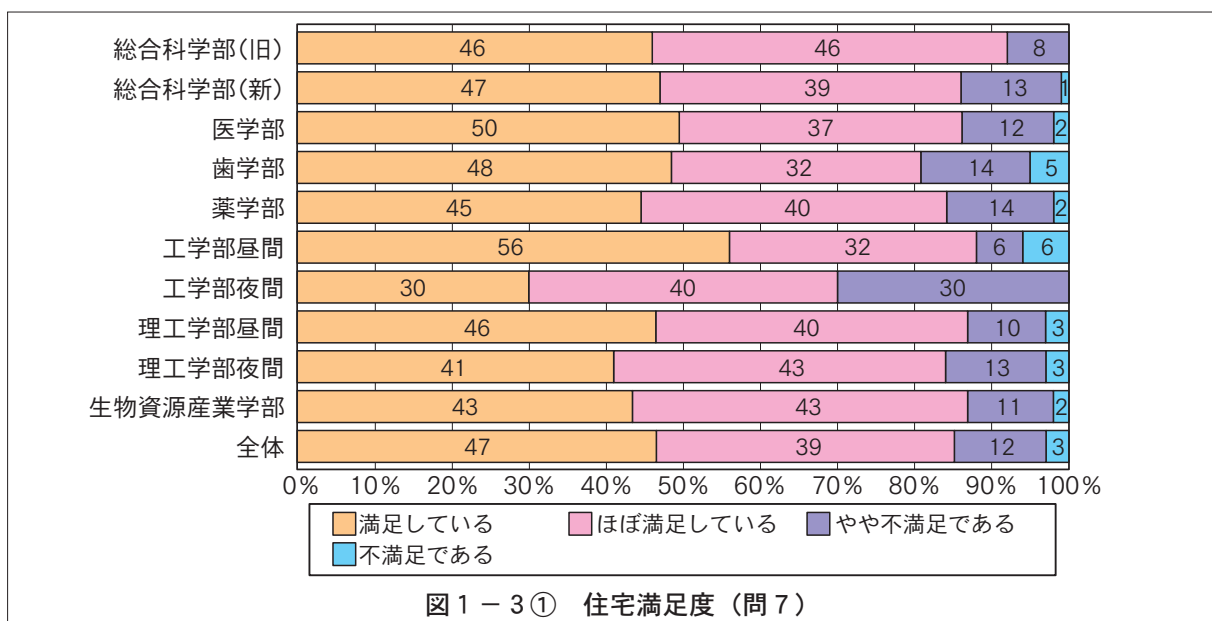
全体として5万円未満の割合が83%であり、前回調査から3ポイント増加しているが、家賃に対する支出はここ数年ほぼ同じ割合を示している。

学部によって家賃支出の割合は異なり、総合科学部(旧、新)、薬学部、工学部(昼間、夜間)、理工学部(昼間、夜間)、生物資源産業学部では4万円未満の物件の割合が多いが、歯学部、医学部では4万円以上の物件が半数を超えるか、あるいは半数に近い。これは、蔵本周辺の家賃相場や学生の家庭状況と関連するのかもしれない。歯学部、医学部の家賃支出は他の学部に比べて高い傾向にあるが、主に5万円~7万円未満の価格帯の割合が他学部と比べて高い傾向にあることがその要因となっている。



1-3 住居満足度 (図1-3①, 図1-3②)

自宅や学生寮等以外の、アパート等に住んでいる自宅外通学者における住宅満足度では、全体では「満足している」が47%あり「ほぼ満足している」が39%で、合計では86%である。学部間で満足度の割合に差はそれほどないが、工学部夜間では満足している割合が低い(30%)。不満を感じている場合は、各学部ともに、「狭い」、「日常生活に不便」、「周りの環境が良くない」を理由に挙げている割合が高く、不満を感じている学生の半数近くから約1/4が理由として挙げている。総合科学部(旧)では、不満を感じている学生の全てが「日常生活に不便」を理由に挙げている。「周りの環境が良くない」については、不満の理由を詳しく聞き取る必要がある。「家賃が高い」、「通学に不便」を不満の理由としている割合は低い。住宅選定において、日常生活に便利な住居で、周りの環境が良く、しかも広いことが求められていることがわかる。住宅を斡旋する業者、とりわけ徳大生協に対しては、物件情報の積極的な開示と、個別学生のニーズに耳をより傾けてもらい、学生が満足する住居を紹介してもらうことを期待する。



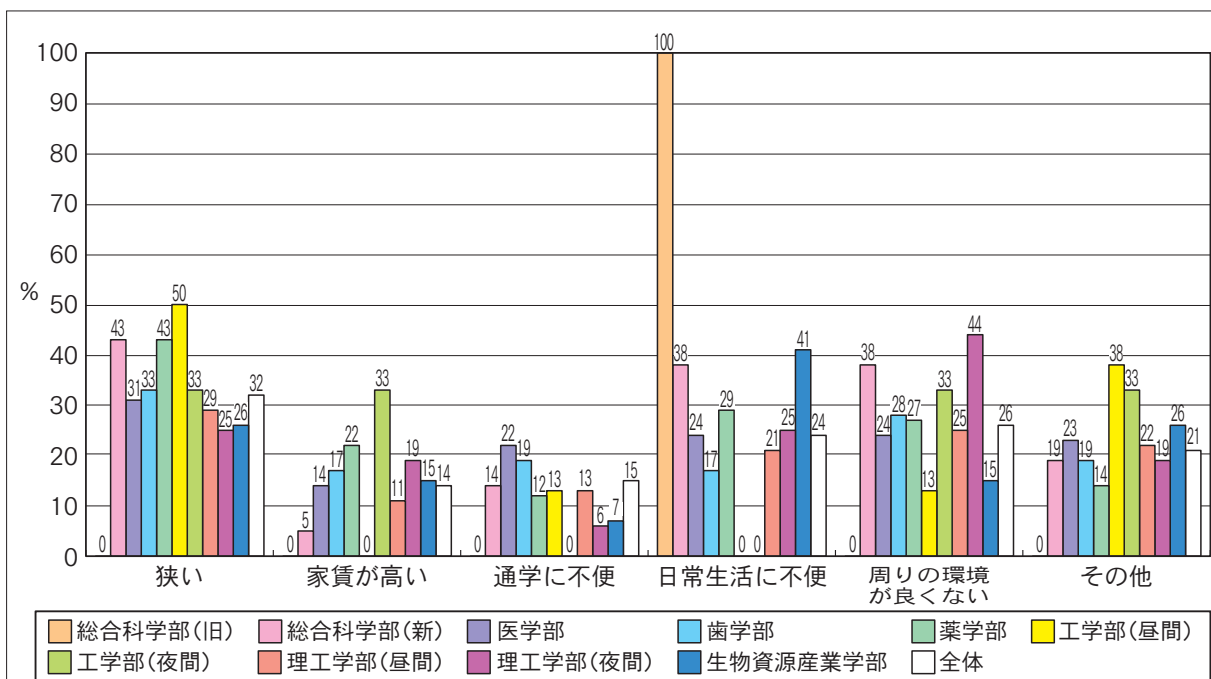


図 1 - 3 ② 住居の不満足理由 (問 8)

(※問 8 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

1 - 4 住居 (部屋) の紹介・斡旋者 (図 1 - 4)

学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋は、全体では徳大生協が 36%、不動産業者が 54%であり、徳大生協の果たす役割は大きい。学部別では、医学部と歯学部については不動産業者が斡旋する割合がやや高い (61%)。これはアンケート項目 1 - 2 で医学部、歯学部の学生の場合、家賃が比較的高額な物件の割合が高いことと関係するのかもしれない。全体において、住居の紹介・斡旋で徳大生協の割合が比較的高いことから、徳大生協に対して、前項の「住居の不満足理由」に関連する情報の提供などについて、より積極的な協力を期待したい。

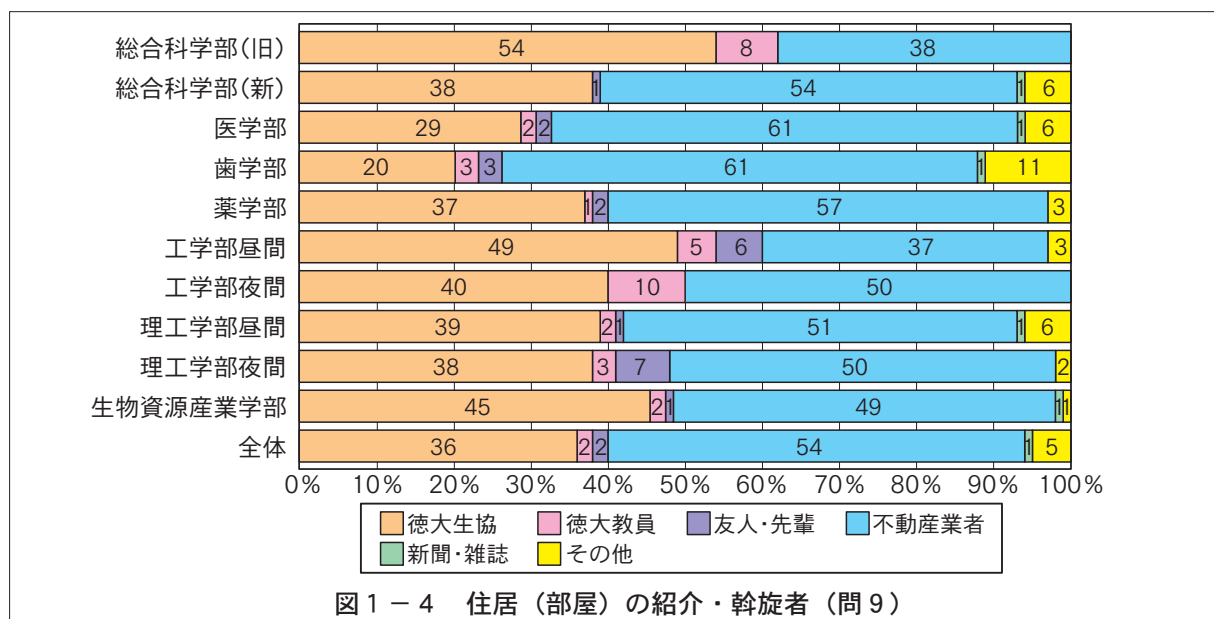


図 1 - 4 住居 (部屋) の紹介・斡旋者 (問 9)

1-5 通学方法 (図1-5①, 図1-5②)

全体として自転車の割合が73%で、前回調査と同様に自転車が主要な通学手段である。徒歩、バス・JR、バイク、自動車通学については、各学部とも、数%あるいは20%以下の割合である。学部別では、バス・JRの利用者の割合が、県内出身者の多い総合科学部(新)(19%)、生物資源産業学部(13%)でやや高く、総合科学部(旧)では、自動車を利用する割合が他学部よりも高い(22%)。男女別では、前回調査と同じく、男子、女子ともに自転車を利用する割合が最も高く(71~75%)、男子では、徒歩、バイク、自動車、バス・JRと続き、女子では、自動車、バス・JR、徒歩、バイクの順である。

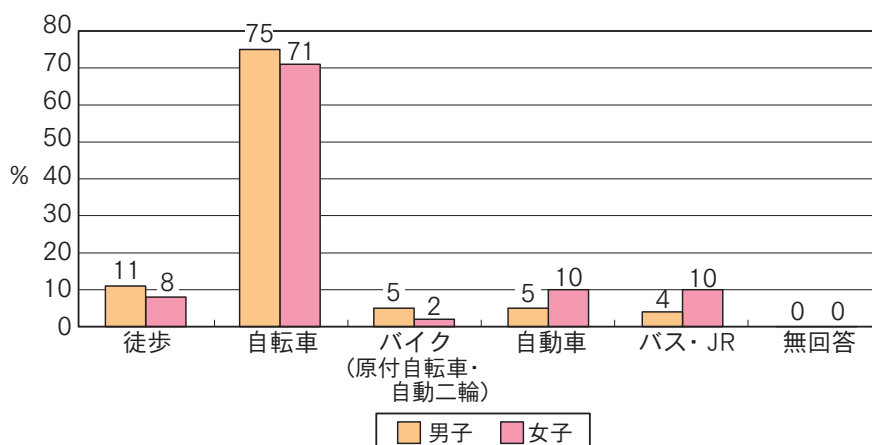


図1-5① 通学方法 (男女別) (問10)

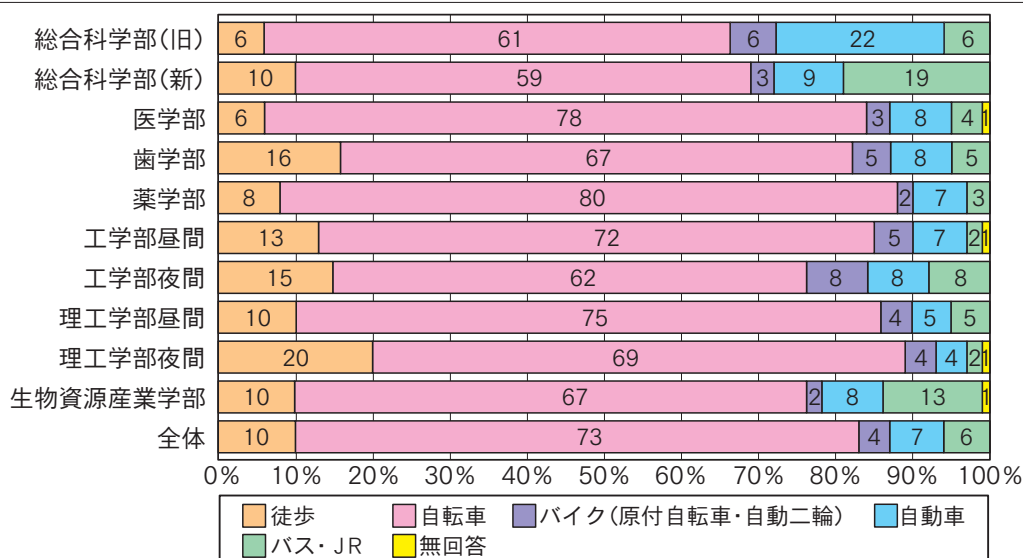
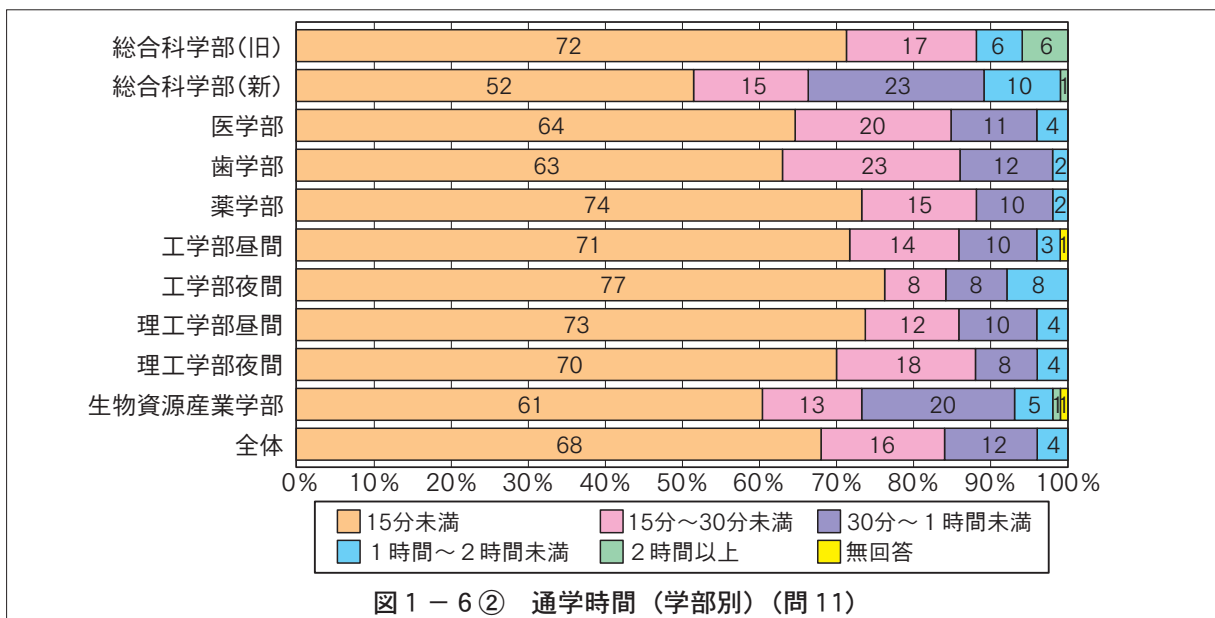
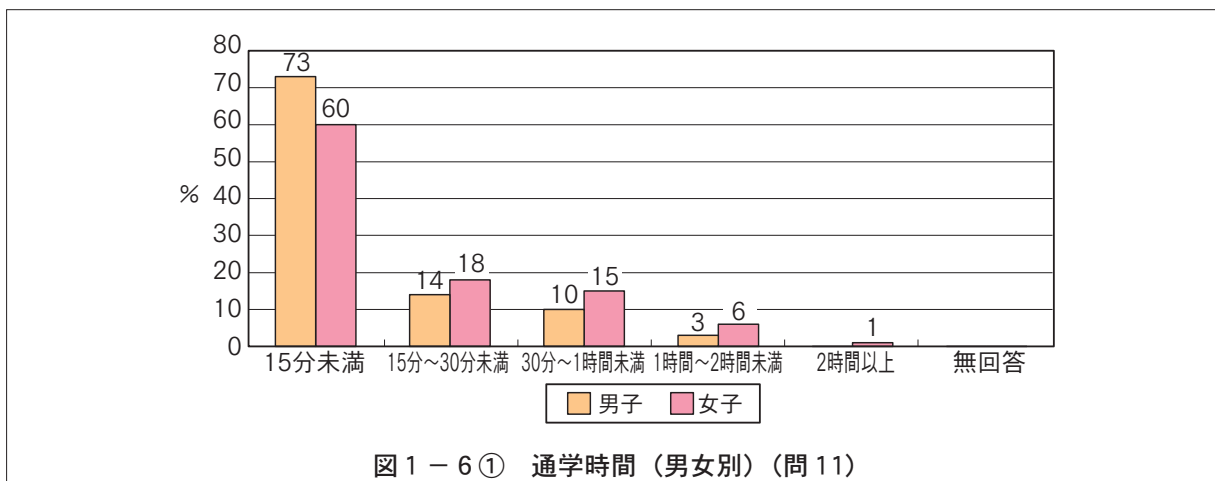


図1-5② 通学方法 (学部別) (問10)

1-6 通学時間 (図1-6①, 図1-6②)

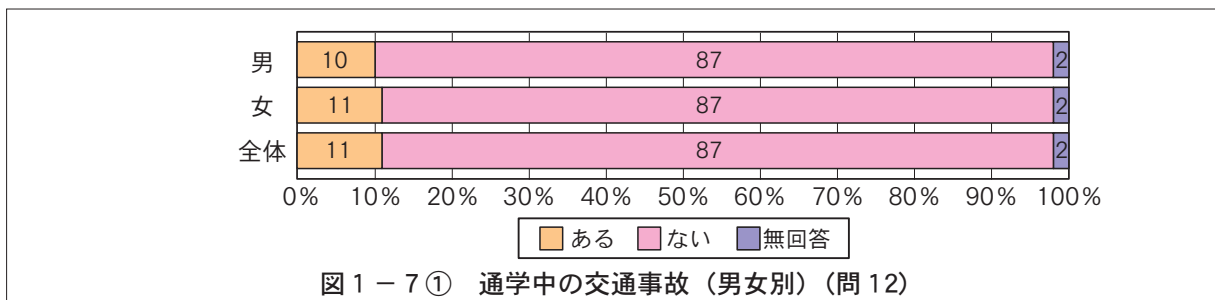
全体として通学時間の割合は、15分未満が68%で最も高く、15分~30分未満を合わせると84%であり、多くの学生の通学時間は30分未満と短く、1時間未満を合わせると96%の学生が含まれる。学部別では、通学時間が30分以上の割合が、総合科学部(新)(34%)、生物資源産業学部(26%)で、他学部よりも高かった。これは、アンケート項目1-1で、この2つの学部では自宅から通学する学生の割合が高いことと関係すると考えられる。男女別で、通学時間が15分以上である回答では、前回調査

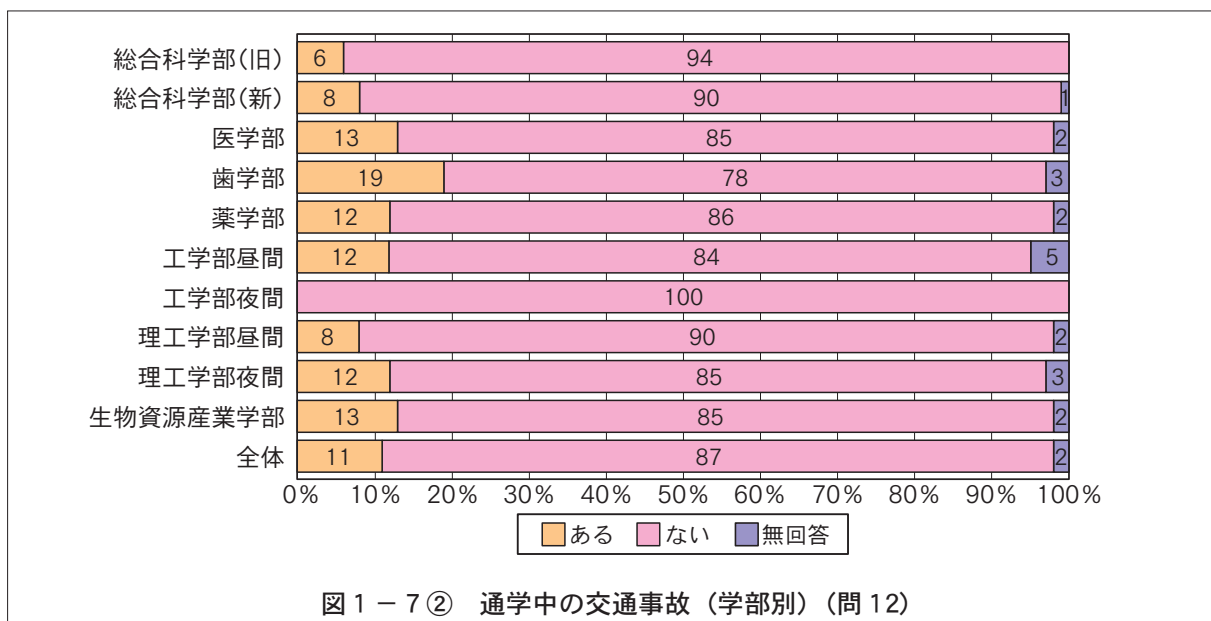
と同じく女子の割合が男子より少し高いが、自宅から通学する割合が女子に高いことと関係するのかもしれない。



1-7 通学中の交通事故 (図1-7①, 図1-7②)

交通事故を起こしたかあるいは被害に遭った学生の割合は、全体として前回調査とほぼ同じく11%であり、決して低いとはいえない。学部別では、歯学部で19%あり、他学部と比べると割合がやや高い。工学部夜間では、通学中の交通事故は認められなかった。男女別では、男子、女子ともに同様の結果であった。平成27年6月に改正道路交通法が施行されて自転車に対する規制が厳格化されており、学生の約70%が自転車通学していることを考慮すると、自転車通学者を含めた交通安全の指導を十分に行う





ことが必要と考えられる。

第2章 収入・支出について

2-1 家庭の年収 (図2-1)

家庭の年収について、大学全体では250万円未満(8%), 250~500万円未満(17%), 500~700万円未満(29%)までで54%を占め、次いで750~1,000万円未満(21%), 1,000~1,500万円未満(14%), 1,500万円以上(6%)である。前回の調査と比べて家庭の年収は1,000万円以上の高所得層で16%から19%と比率がやや上がっている。

学部別にみると前回の調査と同様、歯学部、医学部、薬学部、生物資源産業学部の学生の家庭は高収入の傾向にある。特に、1,500万円以上の割合は歯学部で17%と特に高い。一方、理工学部夜間は年収250~500万円未満の家庭の割合が最も高く(27%)、250万円未満の家庭も理工学部夜間で14%、総合科学部(旧)で17%と、他学部に比べ高い。多くの学部で、年収500~750万円の家庭の割合が最も高いが、総合科学部(旧)750~1,000万円未満の割合が高い。

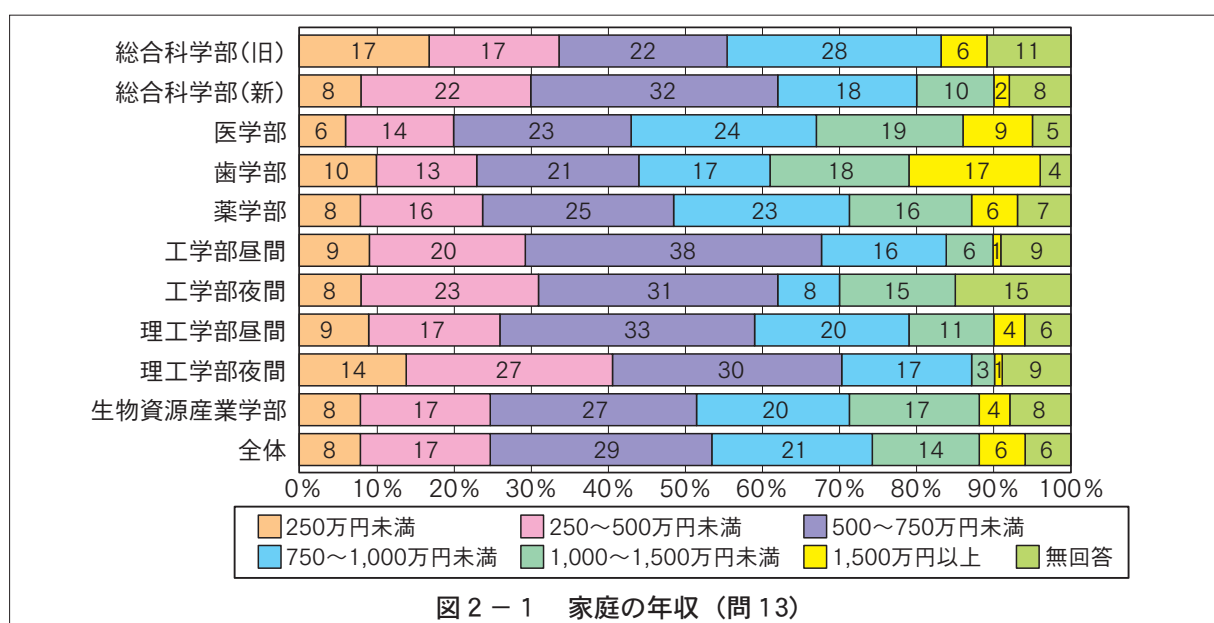


図2-1 家庭の年収 (問13)

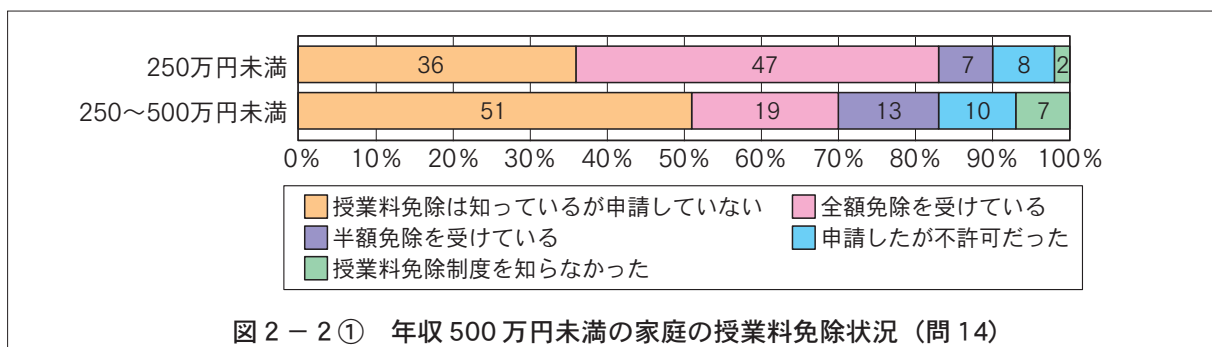
2-2 授業料の免除について (年収が500万円未満の家庭)

(図2-2①, 図2-2②)

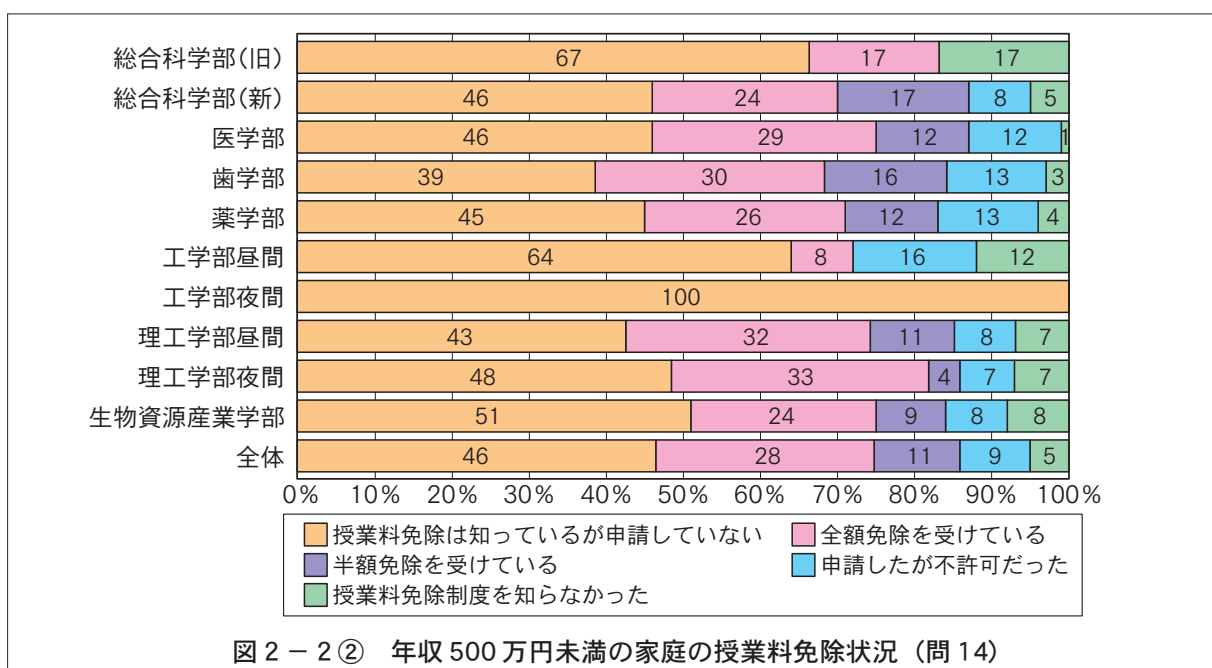
授業料の免除状況について、年収が250万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が36%で前回調査とほぼ同じであった。「授業料免除を受けている」割合は47%で、前回調査(42%)よりも5%増加している。また、「申請したが不許可だった」が8%であり、前回調査(13%)よりも減少している。「授業料免除制度を知らなかった」割合は2%で、前回調査(8%)より減少し、授業料免除制度の周知が以前より改善傾向にある。また、収入的には授業料免除対象であっても、成績が加味されて不許可になる場合がある。不許可になる割合が減少しているとはいえ、収入を得るためにアルバイト等に多くの時間を費やし、勉学に専念できず、結果、成績不振となり、免除不許可になるといった負のサイクルの可能性もある。この点は、個別指導などの指導体制も再検討すべきと考える。

年収が250~500万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が51%で前回調査(51%)と同じで、「授業料免除を受けている」割合は19%で、これも前回調査(20%)とほぼ同

じであった。「申請したが不許可だった」が10%で前回調査（9%）よりも微増した。「授業料免除制度を知らなかった」割合は7%で、前回調査11%よりも減ったが、まだ学生に対する周知徹底が必要である。



学部別にみると、「授業料免除は知っているが申請していない」の割合が多く、多くの学部で39～67%の範囲にあるが、工学部夜間では100%であった。「全額免除を受けている」割合が多いのは理工学部夜間33%、理工学部昼間32%で、最も少ないのは工学部昼間の8%である。「申請したが不許可だった」割合は、工学部昼間(16%)で最も高かった。「授業料免除制度を知らなかった」のは総合科学部(旧)(17%)で、工学部昼間(12%)と続く。制度の周知徹底が必要である。



2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(図 2-3)

この項目は自宅外通学者のみを対象にしている。全体では1か月の平均収入額（保護者等からの援助を含む）の最も多い区分は5～7万円未満の25%で、続いて3～5万円未満(21%)、7～10万円未満(20%)である。これら3つの区分(3～10万円未満)で3分の2を占める。3万円未満と10～15万円未満もともに15%である。これらは前回調査とほぼ同様の傾向である。

学部別では、総合科学部(旧)で5～7万円未満(46%)、工学部夜間で7～10万円未満(44%)が突出している。また、工学部夜間では10万円以上は0%である一方、3万円未満は21%であり、全学部中1か月の平均収入額は最も低い。10万円以上については、医学部(26%)、薬学部(24%)、総合科学部(旧)(23%)と続く。

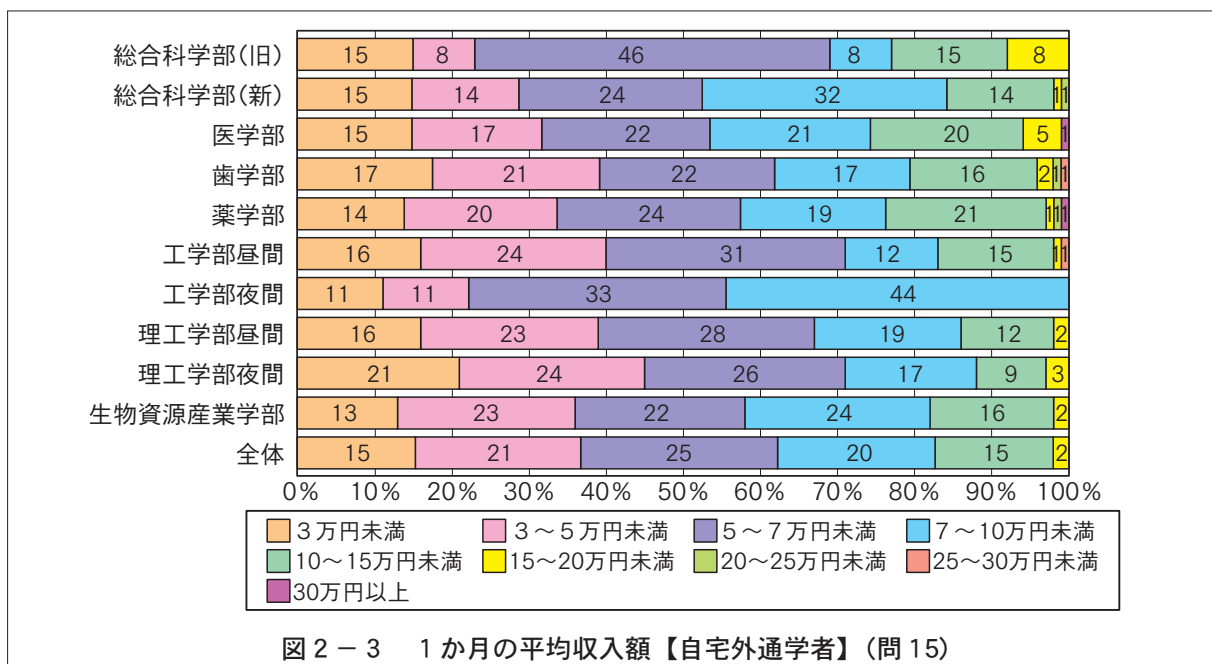


図 2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(問 15)

2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】(図 2-4)

自宅外通学者の保護者からの援助額については、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満(32%)であり、前回調査(36%)に比べて減少した。続いて3万円未満は21%、5～7万円未満は18%で、これらは前回調査と同じである。「援助が全くない」学生は12%であり、前回調査(10%)よりもわずかに増加した。一方、10万円以上の援助を受けている学生は6%で、前回調査と同じであった。

学部別にみると、総合科学部(旧)、医学部、薬学部、歯学部、で7万円以上保護者から援助を受けている学生の割合はそれぞれ31%、24%、23%、22%であり、他学部に比べ多い。一方、工学部昼間と理工学部夜間の20%は援助を全く受けておらず、3万円未満の援助の区分が多いのは理工学部夜間(29%)と生物資源産業学部(24%)である。

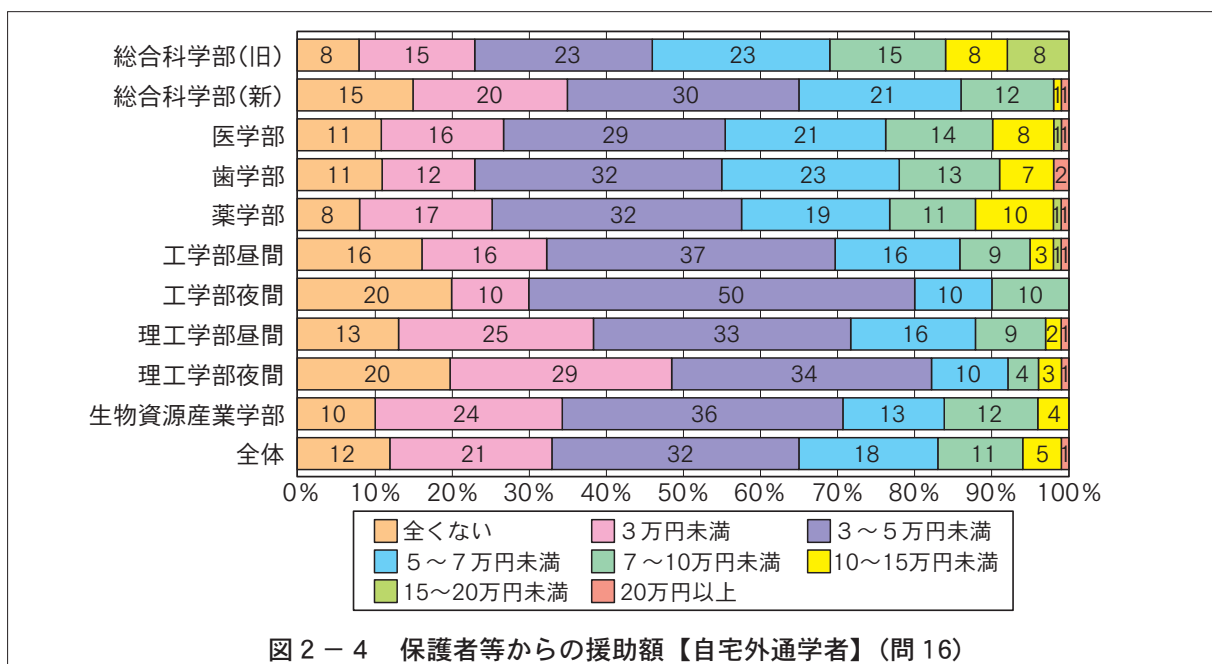


図 2-4 保護者等からの援助額【自宅外通学者】(問 16)

2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(図2-5)

自宅外通学者の1か月の平均支出額（授業料支出は除く）については、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満（33%）で、前回調査とほぼ同じ割合である。続いて5～7万円未満（26%）、3万円未満（19%）、7～10万円未満（16%）であり、これらの区分の割合も前回調査とほぼ同じである。10万円以上の平均支出額も7%であり、前回調査（8%）とほぼ同じである。

学部別では、総合科学部（旧）、歯学部、医学部で1か月に7万円以上支出している学生は、それぞれ38%、31%、30%であり、他学部よりも多いものの前回調査と比べると、減少傾向にある。理工学部夜間と理工学部昼間は、5万円未満の平均支出額の区分がそれぞれ60%と58%で、他学部に比べ多い。3万円未満の区分が多いのは、理工学部夜間（25%）、理工学部昼間（21%）、総合科学部（新）（21%）であり、これらの学生は支出を切り詰めていると考えられ、何らかの対策が必要と思われる。

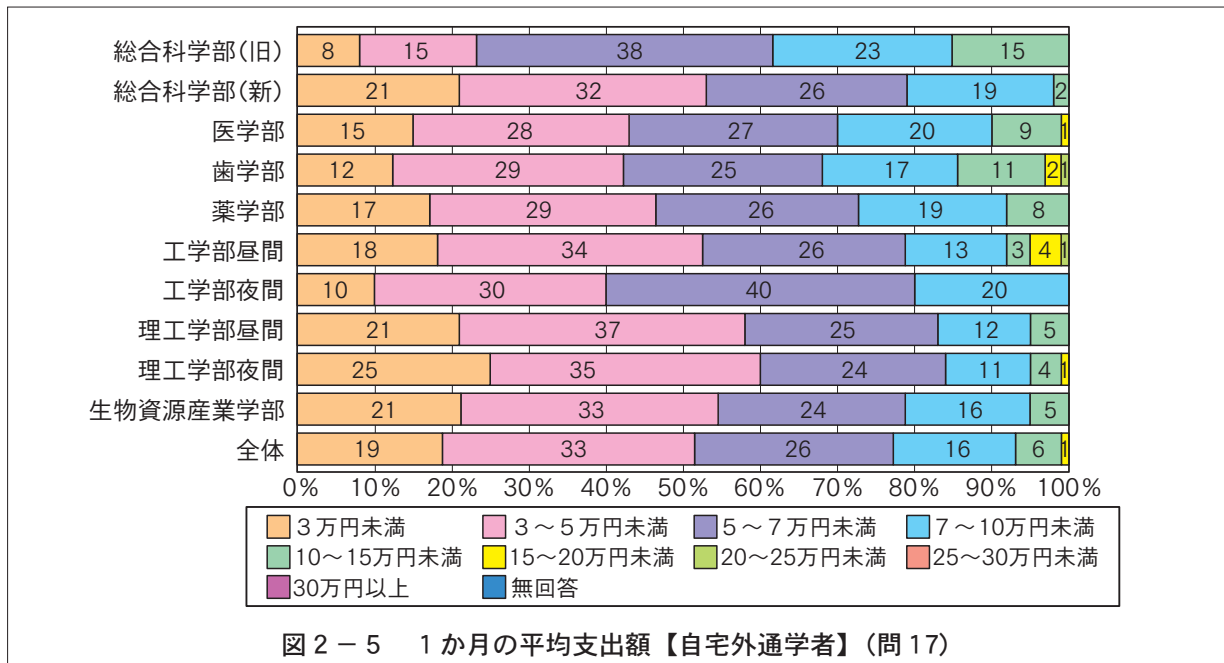
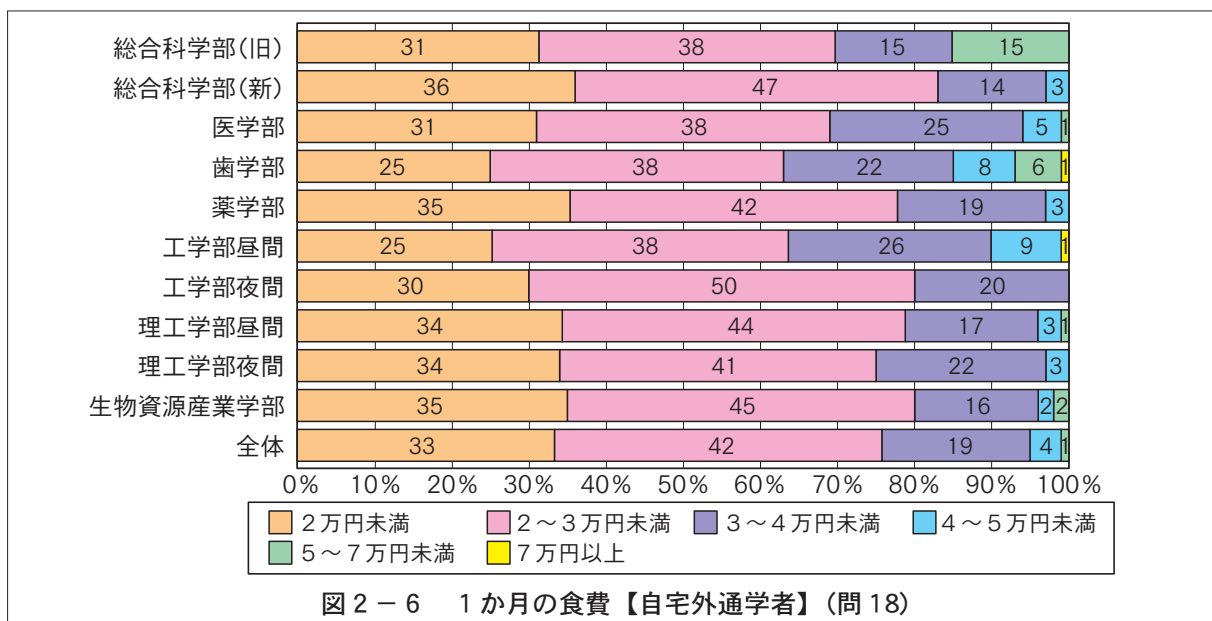


図2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(問17)

2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】(図2-6)

自宅外通学者対象の1か月の平均の食費については、大学全体として「2～3万円未満」の区分が42%で最も高く、「2万円未満」が33%、「3～4万円未満」が19%である。これは前回調査の結果（それぞれ42%、29%、22%）と傾向が似ていた。平均の食費が4万円未満で見ると、全体で94%に上る。

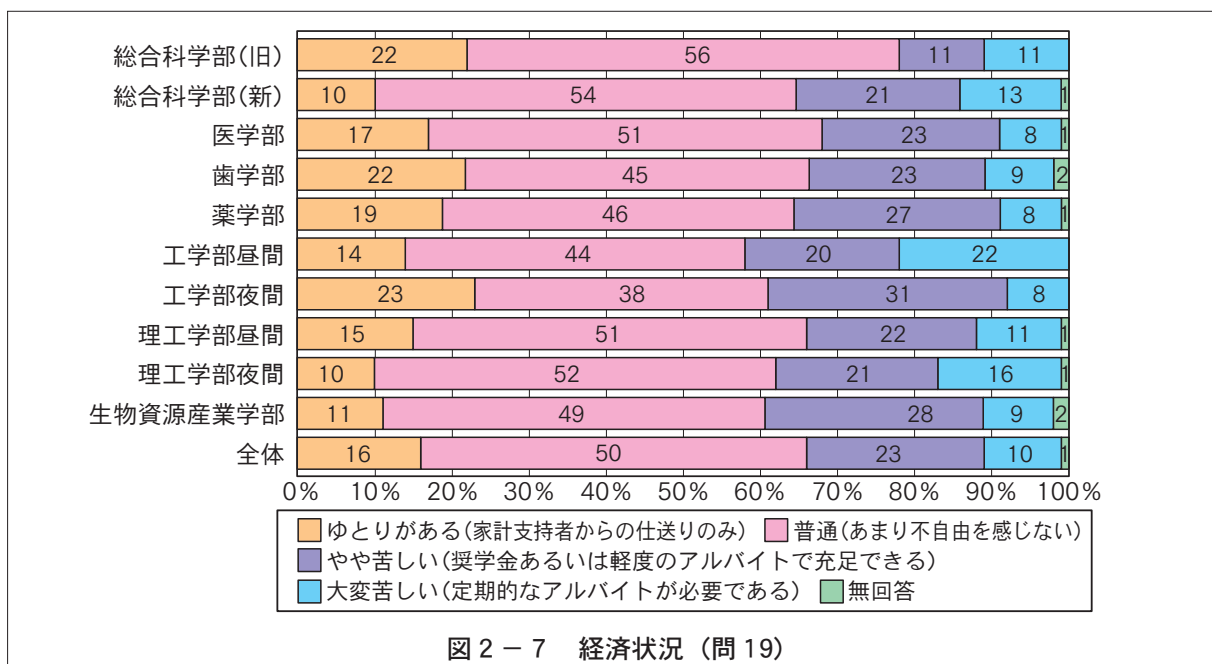
学部別にみると、総合科学部（新）、生物資源産業学部、薬学部、理工学部昼間、理工学部夜間については、食費2万円未満の割合がそれぞれ36%、35%、35%、34%、34%であるが、前回調査と比べるとその割合は減少傾向にある。食費を削って他の支出へ回す学生も多いと予想されるが、健康な学生生活を送るにはきちんと食事を摂ることが必要である。蔵本キャンパスも常三島キャンパスも食堂は整備され、提供する食事内容も充実しているので、大いに利用して欲しい。



2-7 経済状況 (図 2-7)

この項目からは自宅通学者も含めた全員が対象である。大学全体として33%の学生が、経済状況が「苦しい」と感じている（「やや苦しい」は23%、「大変苦しい」は10%）。一方、半数は「普通（あまり不自由を感じない）」と回答し、16%は「ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ）」と回答した。これらの割合は、前回調査の結果（それぞれ24%、9%、50%、15%）とほぼ同様であった。

学部別では、工学部昼間の22%が「大変苦しい」と回答し、他学部に比べて突出している。前回調査では11%であったので急増している。「やや苦しい」は、総合科学部（旧）を除く多くの学部で20～28%である。総合科学部（旧）では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせると22%で、他学部と比べるとその割合は突出して少ない。



2-8 奨学金 (図2-8)

大学全体としては、54%の学生は「現在受給していないし、希望もしない」。一方、32%は「現在受給中であり、受給の継続を希望する」と回答し、これに「現在受給中であるが、更に増額を希望する」2%と「現在受給中であるが、次に希望しない」4%を加えると、合計で41%になり、すなわち約4割の学生は奨学金の受給を今後も希望している。

学部別では、理工学部夜間の48%は奨学金を受給しており、他学部と比べて多い。奨学金の受給を希望しない割合は、工学部夜間で85%、総合科学部(旧)で78%であり、これらの2学部は他学部と比べて特に高い。

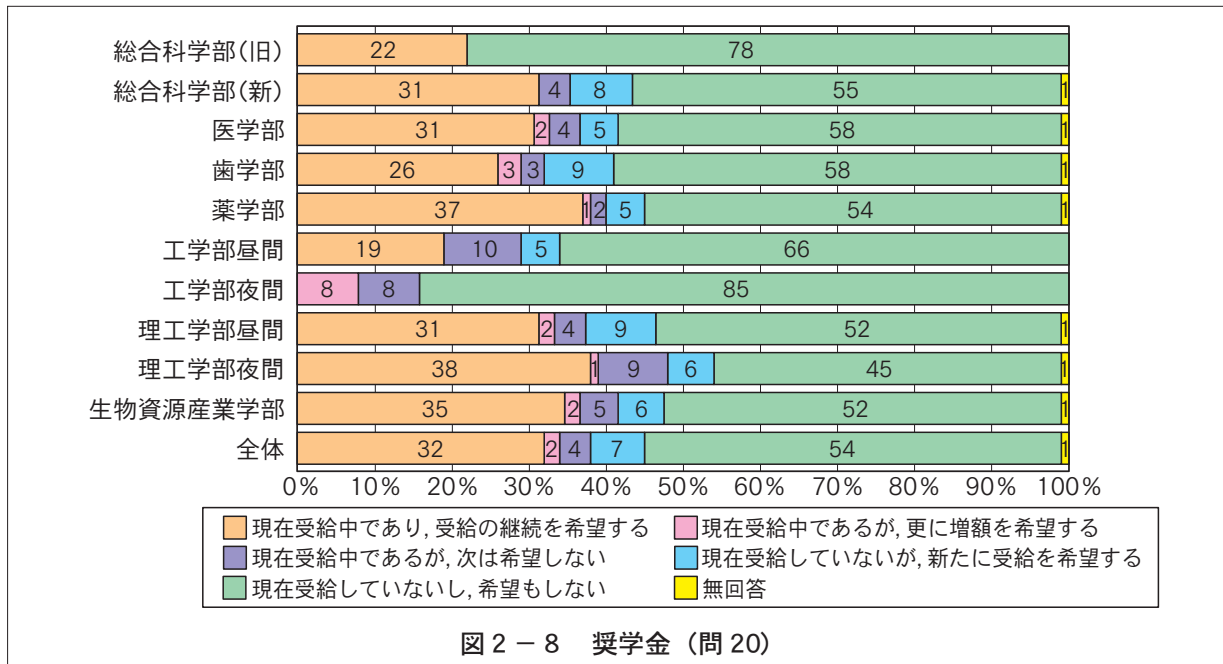


図2-8 奨学金 (問20)

2-9 1週間のアルバイト従事日数 (図2-9)

大学全体としては、約3割の学生はアルバイトをしておらず、逆に約7割の学生はアルバイトをして

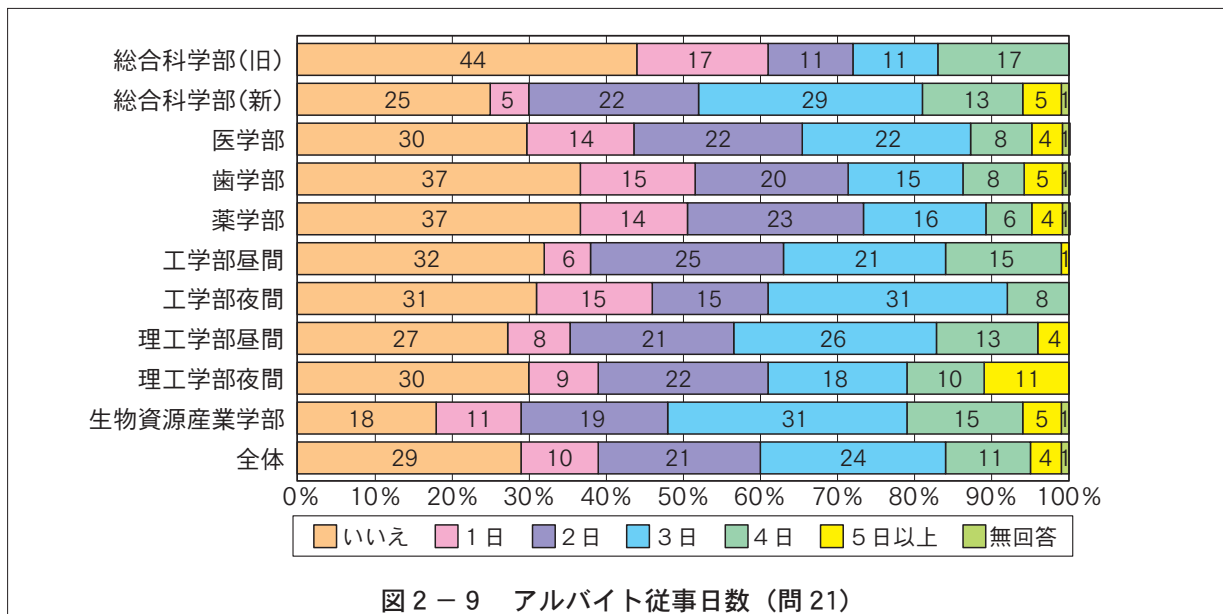


図2-9 アルバイト従事日数 (問21)

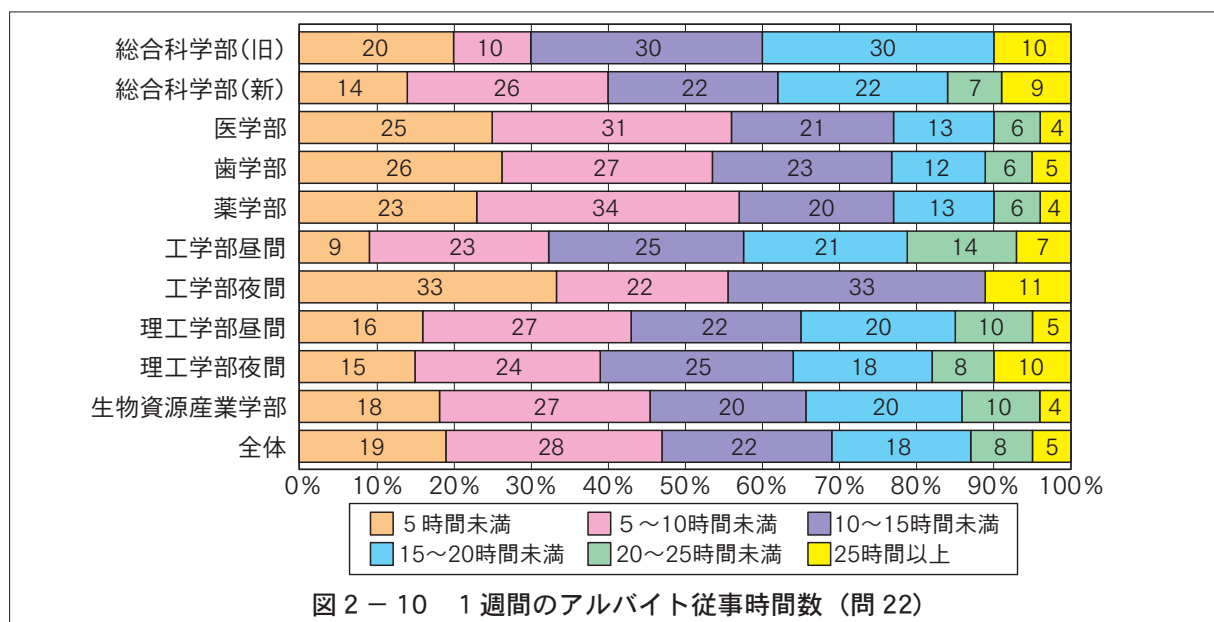
いる。前回調査と比べて、アルバイトをしている学生の割合は増加した。従事日数別の学生の割合は、1週間に3日が24%、2日が21%、1日が10%であり、一方、学生の15%は週4日以上アルバイトに従事している。

学部別では、アルバイトに従事していない学生の割合は、総合科学部（44%）、歯学部（37%）、薬学部（37%）の順で多かった。

2-10 1週間のアルバイト従事時間数 (図2-10)

問21で、アルバイトをしていると回答した学生に1週間のアルバイトの平均従事時間（移動に要する時間も含む）について尋ねた。大学全体では、5～10時間未満の割合が28%で最も多く、次いで10～15時間未満22%、5時間未満19%、15～20時間未満18%、20～25時間未満8%、25時間以上5%であり、前回調査の結果（それぞれ27%、22%、22%、16%、8%、4%）とほぼ同様の傾向であった。また、アルバイト従事学生の5人中4人が週平均5時間以上のアルバイトをしていることが分かる。

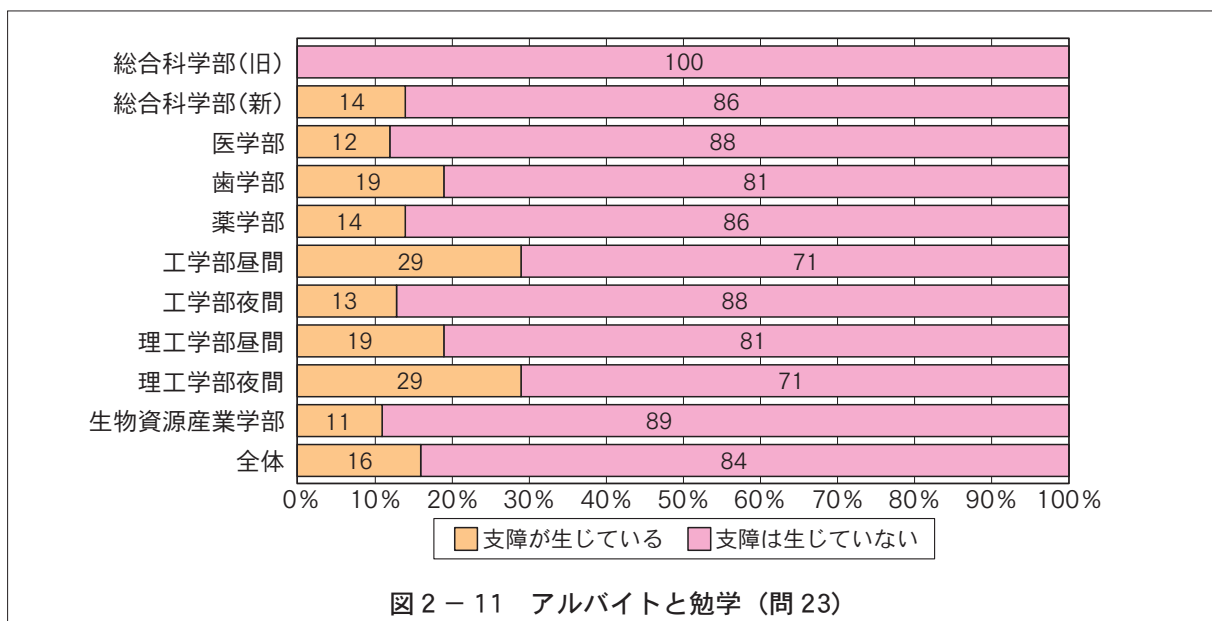
学部別では、週平均20時間以上のアルバイトに従事する割合は、工学部昼間、理工学部夜間、総合科学部（新）の順で高く、それぞれ21%、18%、16%であった。5時間未満については、工学部昼間で33%、歯学部26%、医学部25%の順であった。



2-11 アルバイトと勉学 (図2-11)

アルバイトによって勉学に支障が生じているかを尋ねたところ、大学全体では、「支障は生じていない」と答えた学生は84%で、前回調査と同じである。一方、「支障が生じている」と答えた学生は16%で、これも前回調査と同じである。今後は、家計の年収とアルバイトによる勉学への支障の関係性を詳細に調べる必要がある。

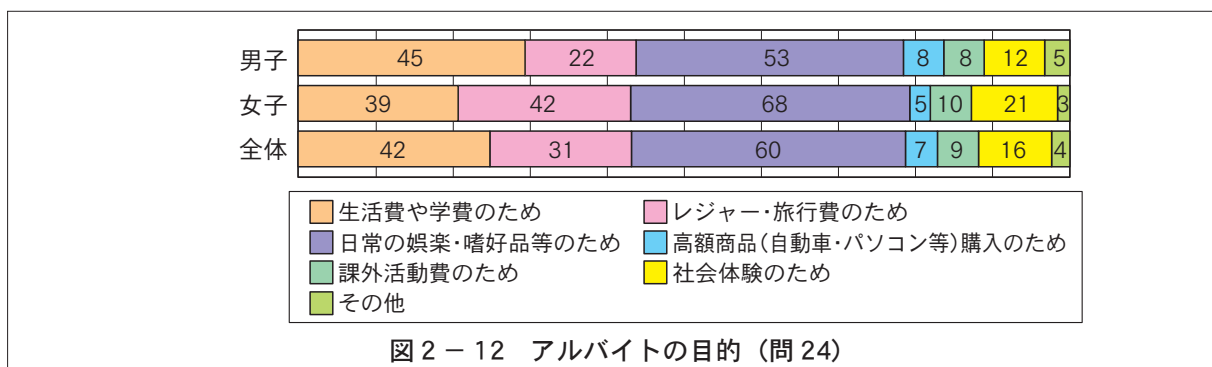
学部別では、「支障が生じている」と答えた学生の割合が多いのは工学部昼間（29%）と理工学部夜間（29%）であり、少ないのは総合科学部（0%）、生物資源産業学部（11%）、医学部（12%）と続く。



2-12 アルバイトの目的 (図 2-12)

アルバイトの目的(複数回答可)について、全体では、「日常の娯楽・嗜好品等のため」が60%、「生活費や学資のため」が42%で、この2つの割合が高い。次いで、「レジャー・旅行費のため」31%、「社会体験のため」16%などである。これらの傾向は前回調査(それぞれ55%、41%、29%、16%)とほぼ同様の傾向であるが、「日常の娯楽・嗜好品等のため」に注目すると、前々回は54%、前回は55%、今回は60%で、年々増加傾向にある。

男女別にみると、ともに「日常の娯楽・嗜好品等のため」が最も割合が多いが、男女の違いとして、女子では「レジャー・旅行費のため」が42%であるのに対して男子では22%であった。一方、「高額商品」については、男子8%、女子5%で、この傾向は前回調査と同様であった。



(※問 24 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

2-13 アルバイトの種類 (図 2-13)

アルバイトの種類(複数回答可)は、全体では「飲食店等手伝い」が31%で最も多く、次いで「家庭教師・学習塾講師等」が18%、「受付・接客」が14%である。これは前回調査の結果(それぞれ40%、30%、22%)と比べると、いずれも減少傾向にある。男女別にみても、この3種類の割合が高い。前回調査と比べて、複数のアルバイトをしている学生が減少しているのかもしれない。

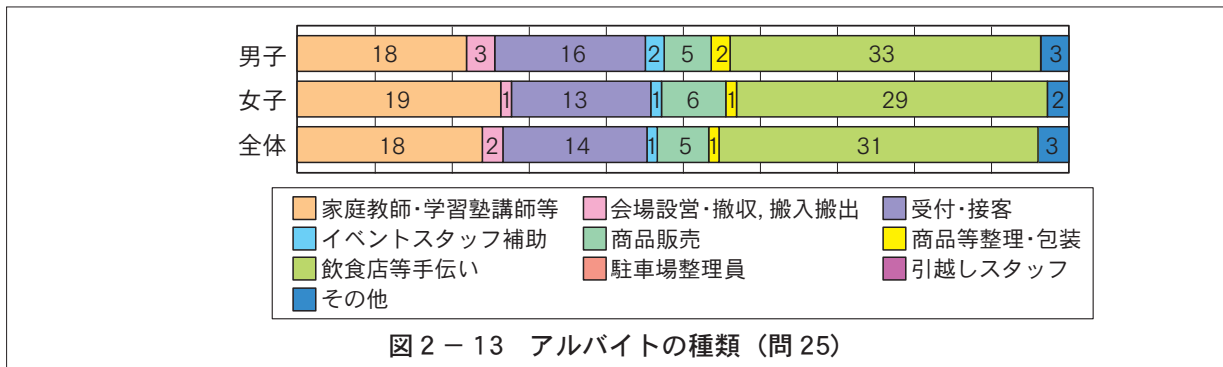


図 2 - 13 アルバイトの種類 (問 25)

(※問 25 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

2 - 14 アルバイト収入 (図 2 - 14 ①, 図 2 - 14 ②)

アルバイトによる学生の 1 ヶ月間の平均収入については、大学全体では、「3～5 万円未満」が 36%で最も多く、次いで「3 万円未満」26%、「5～7 万円未満」24%、「7～10 万円未満」12%となっている。「10 万円以上」も 3%の割合である。これは、前回調査の結果（それぞれ 38%、29%、21%、9%、2%）とほぼ同様の傾向であった。

男女間で比較すると、女子については「3 万円未満」の割合が 29%で男子 (23%) よりも高く、男子については「5 万円以上」の割合が 41%で女子 (35%) に比べて少し高い。これは、男子と女子のアルバイトの目的 (2 - 12) の違いが関連している可能性が考えられる。

学部別では、多くの学部は「3～5 万円未満」で 32～41%の範囲に収まるが、総合科学部 (旧) で 10%、工学部夜間で 13%と特に低くなっている。「3 万円未満」では、薬学部 (44%)、総合科学部 (旧) (40%)、工学部夜間 (38%) の順となっているが、工学部昼間で 17%、理工学部夜間で 18%、理工学部昼間で 19%と低い値となった。

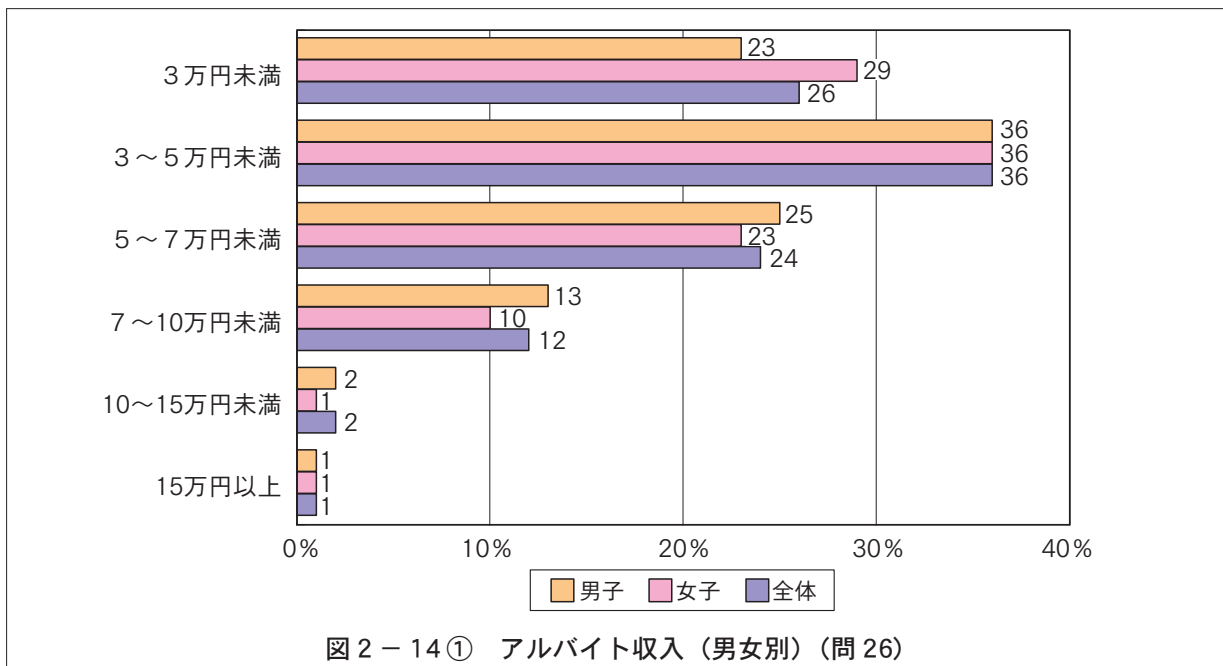
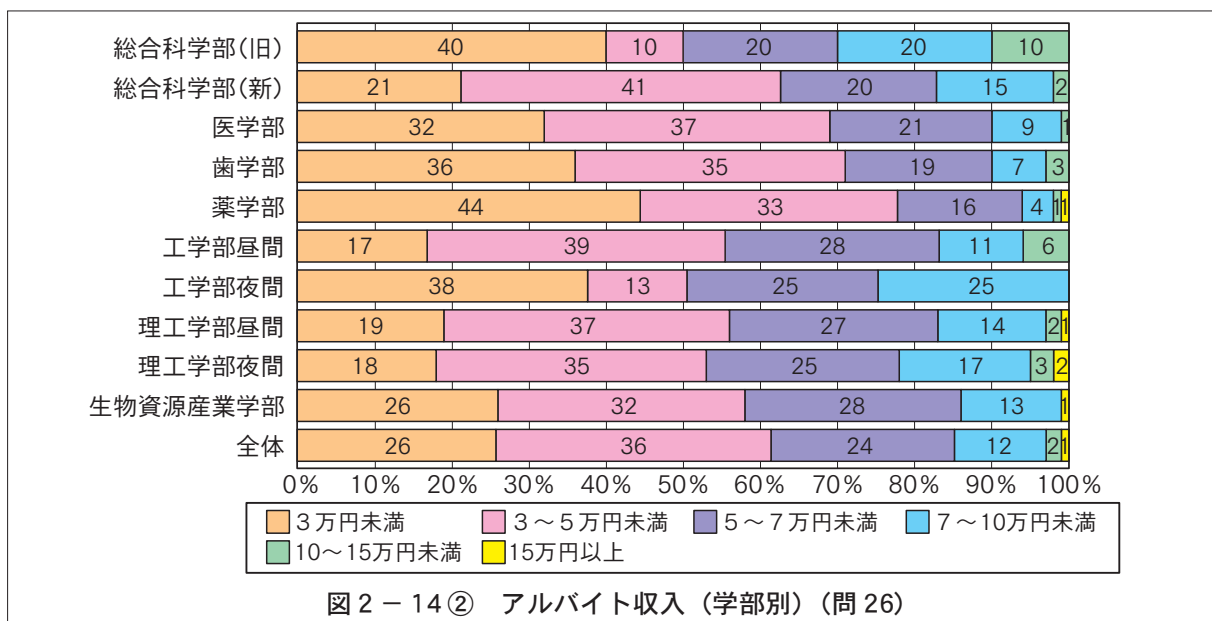


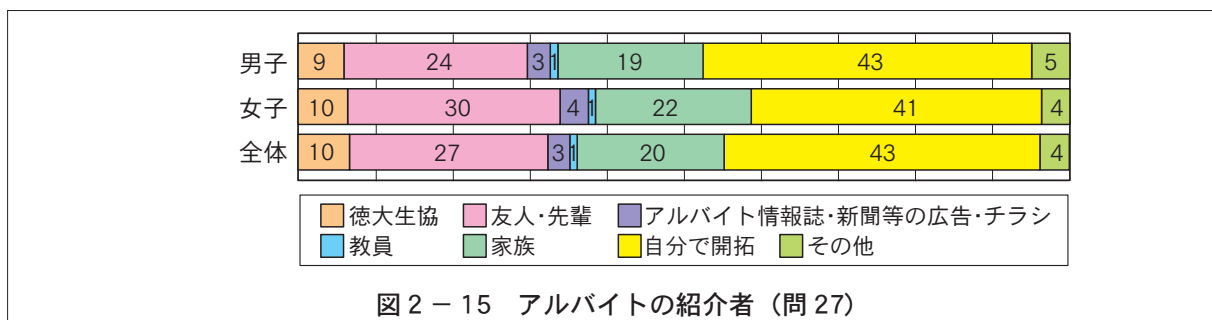
図 2 - 14 ① アルバイト収入 (男女別) (問 26)



2-15 アルバイトの紹介者 (図 2-15)

アルバイトの紹介者(複数回答可)は、大学全体では「自分で開拓」が最も多く43%で、次いで「友人・先輩」が27%、「家族」が20%であり、徳大生協は10%であった。前回調査の結果に比べ、「自分で開拓」が23%から43%へと増加し、「友人・先輩」が前回45%から27%と減少した。一方、「家族」については前回調査3%から20%へと増加した。「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」については、前回調査22%から今回調査3%へと激減した。

男女別でも、この傾向は同じであった。

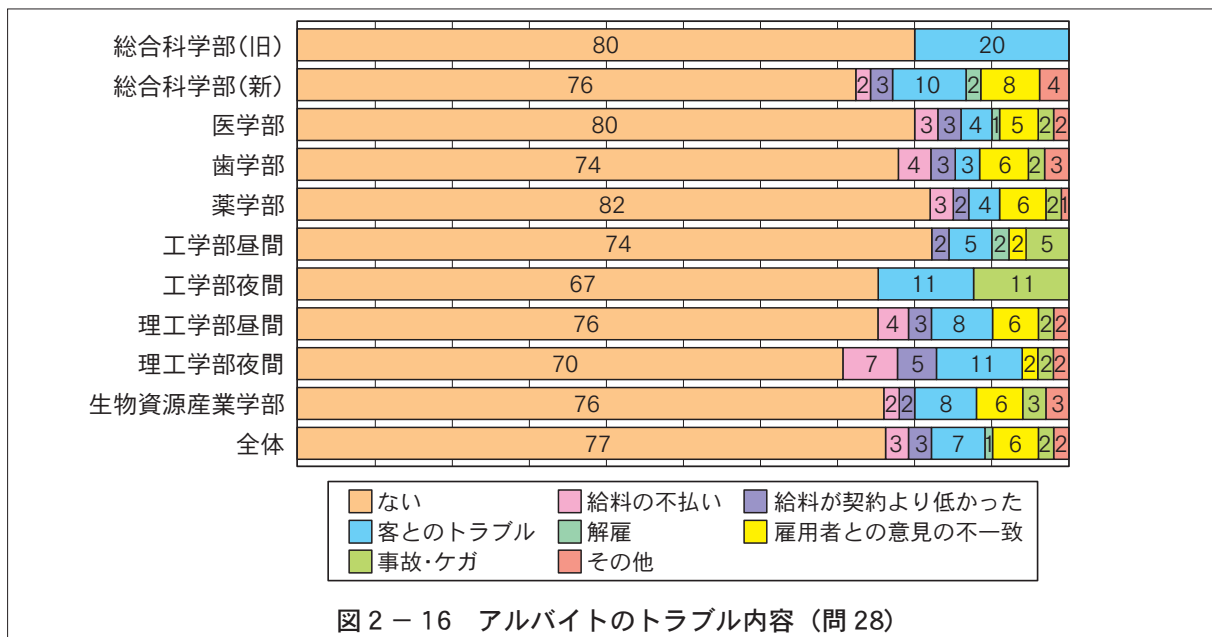


(※問 27 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

2-16 アルバイトのトラブル内容 (図 2-16)

アルバイトにおけるトラブル(複数回答可)について、「ない」と回答した割合が全体の77%であった。前回調査では76%、前々回調査では75%であり、トラブルは減少傾向にある。おもなトラブルの内容(複数回答可)は「客とのトラブル」(7%)や「雇用者との意見の不一致」(6%)などである。トラブルを経験した学生の割合は21%で、アルバイトをしている学生の5人に1人はトラブルを経験していることになり、割合は高いと考えられる。学生がアルバイトでトラブルに遭遇しないように、その内容を具体的に把握検証して、注意喚起する必要がある。

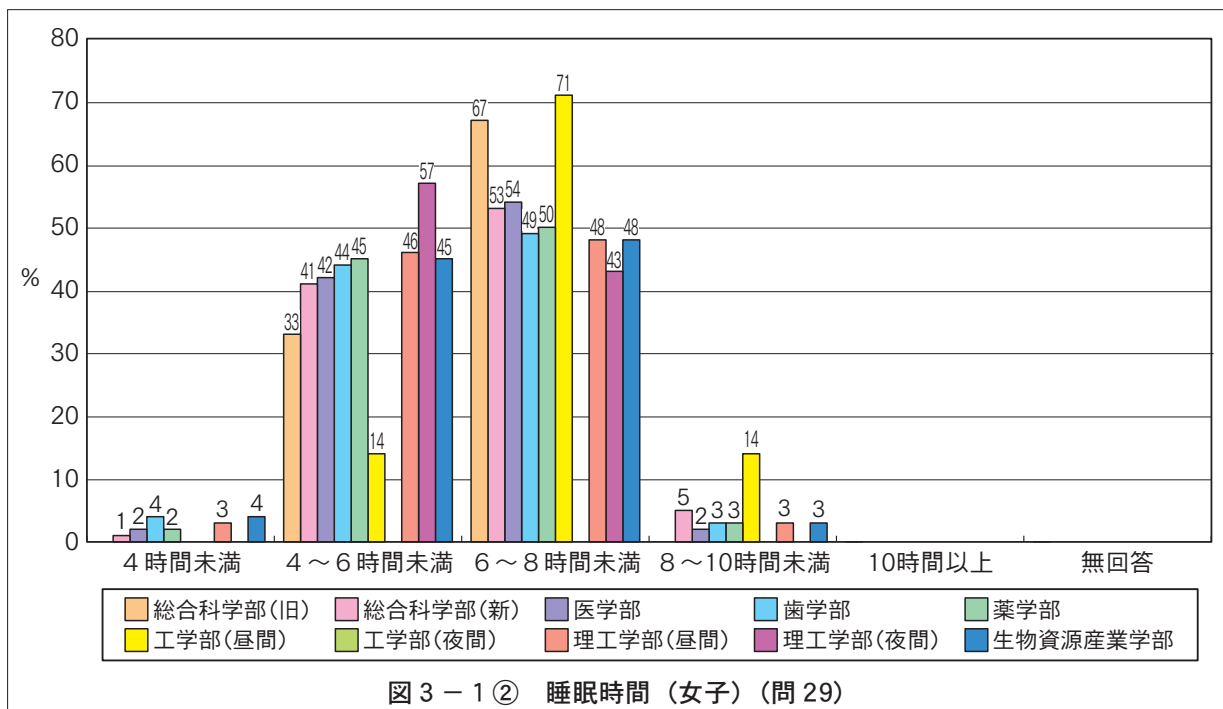
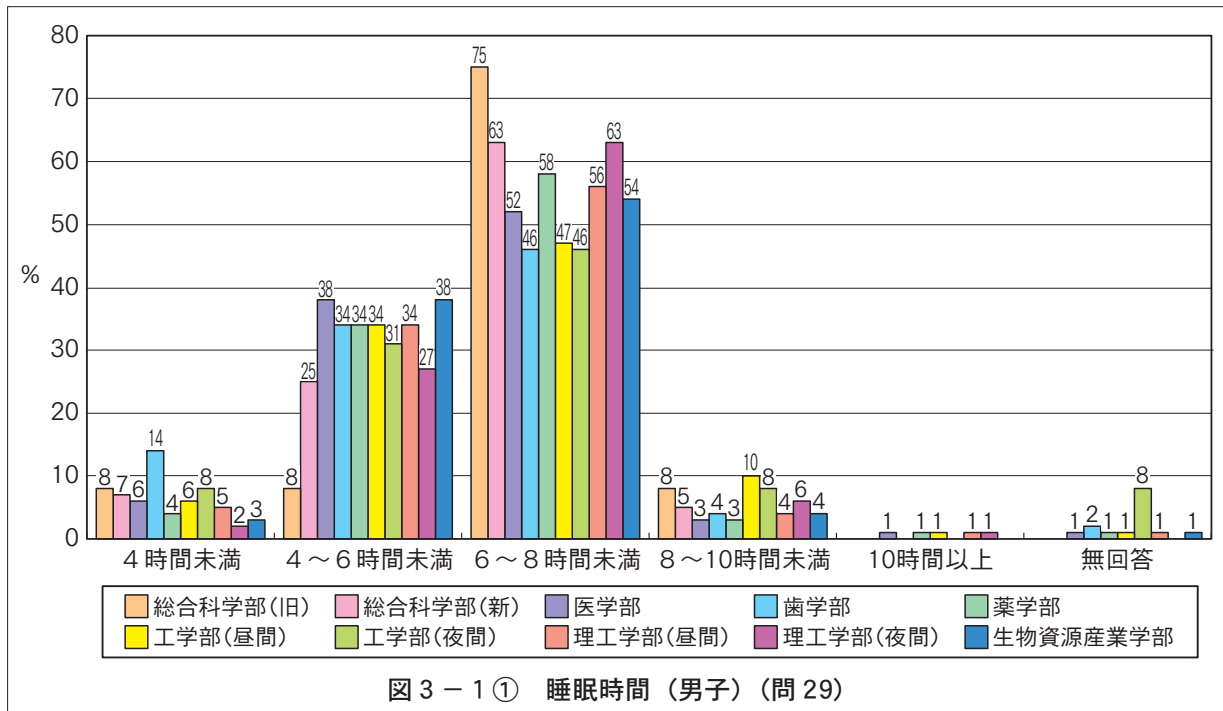
学部別では、トラブルを経験した学生の割合は工学部夜間(22%)、理工学部夜間(27%)の順で高く、薬学部(17%)、医学部(18%)、総合科学部(旧)(20%)の順で低い。



第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 図3-1②)

健康的な睡眠時間である「6～8時間」が男子55%、女子51%と前回調査から変化はなく、「8～10時間」の男子4%、女子3%と合わせると、全体の57%の学生が平日に十分な睡眠時間を確保できている。「4～6時間」が男子34%、女子43%であり、前回調査と変化はない。一方、男子5%（前回調査4%）、女子2%（前回調査3%）で「4時間未満」としており、過度の睡眠不足が危惧される。睡眠不足の状態が続くと、心身の変調を引き起こしやすく、活動性の低下や注意力・集中力の低下を招くため、



睡眠の心身の健康における重要性を引き続き認識させる必要がある。

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

何らかの気になる症状がある学生は、男子で34%, 女子で49%であり, 前回、前々回調査と同様で, また男子より女子で何らかの不調を抱えている傾向は変わっていない。症状の内容としては, 男子では「アトピー・アレルギー」が12%と最多, 「頭痛・めまい」「不眠」がそれぞれ8%, 7%, 女子では「生理痛・生理不順」が21%で最多, 「頭痛・めまい」「アトピー・アレルギー」が15%, 12%, 「下

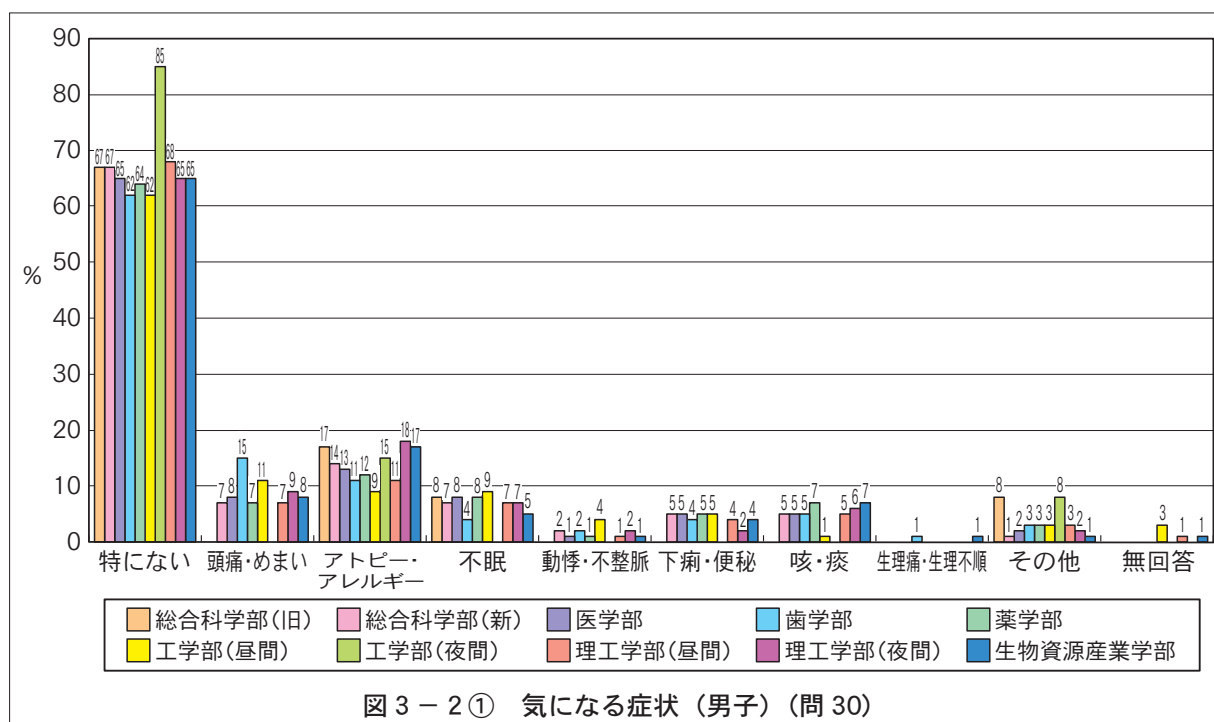


図3-2① 気になる症状 (男子) (問30)

(※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。)

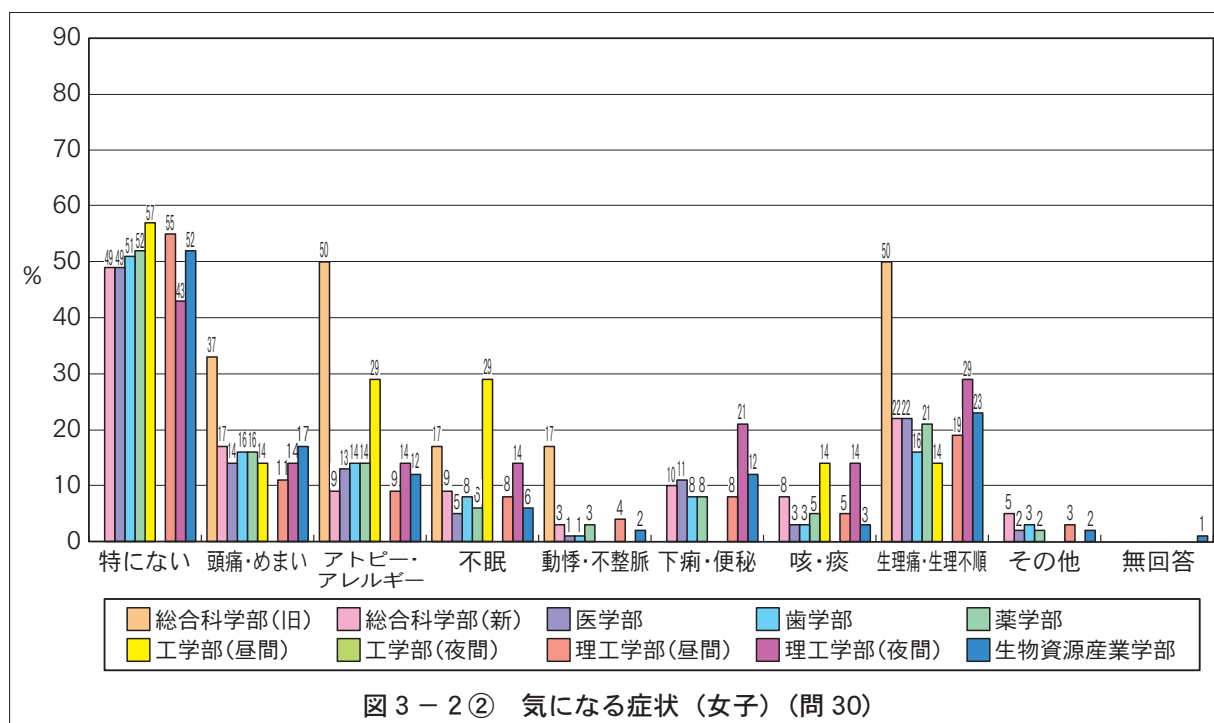


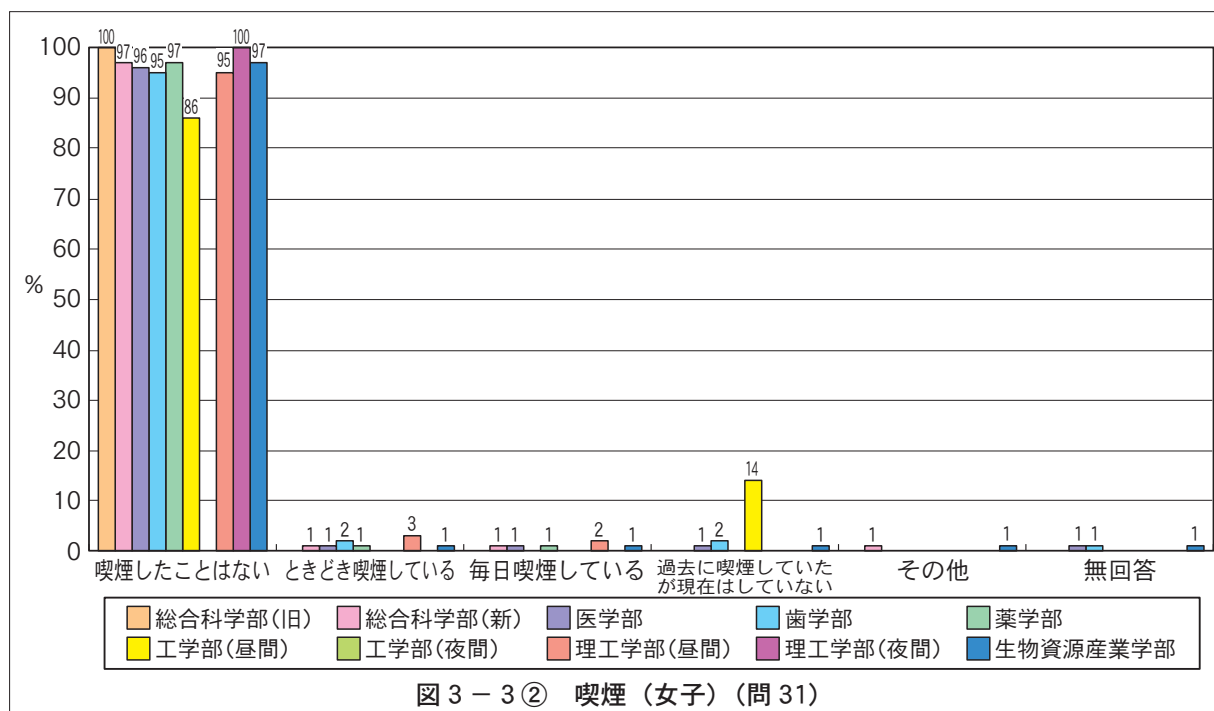
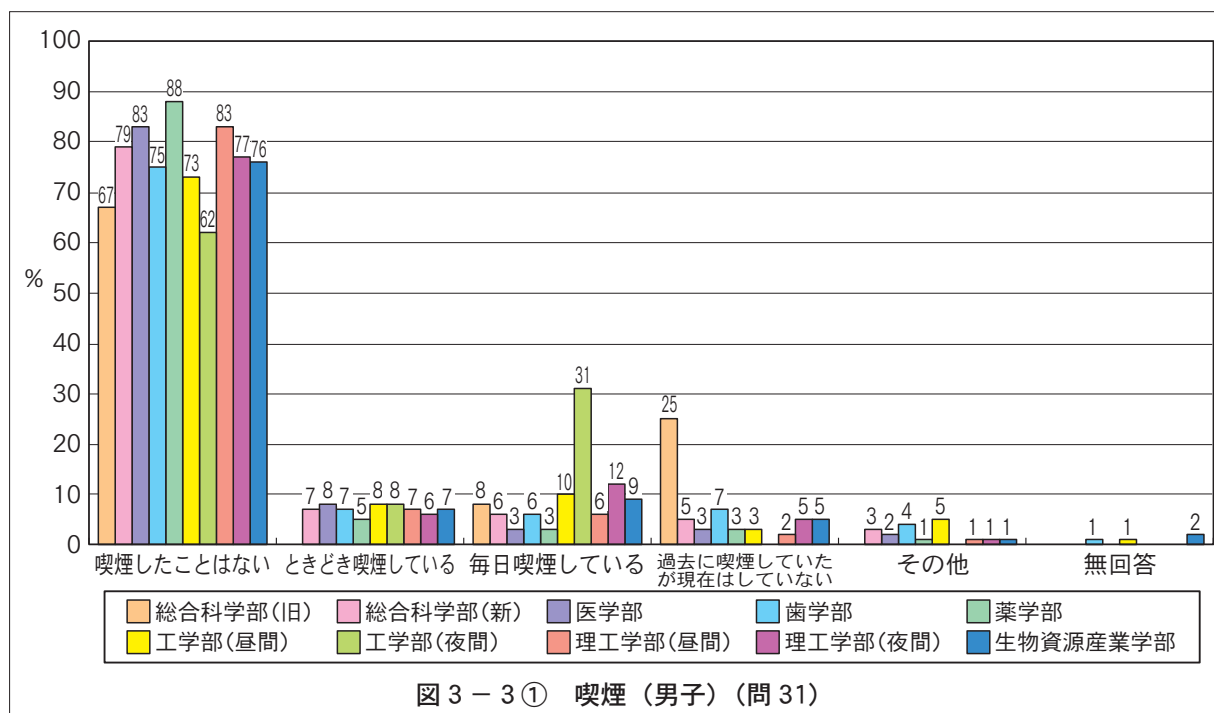
図3-2② 気になる症状 (女子) (問30)

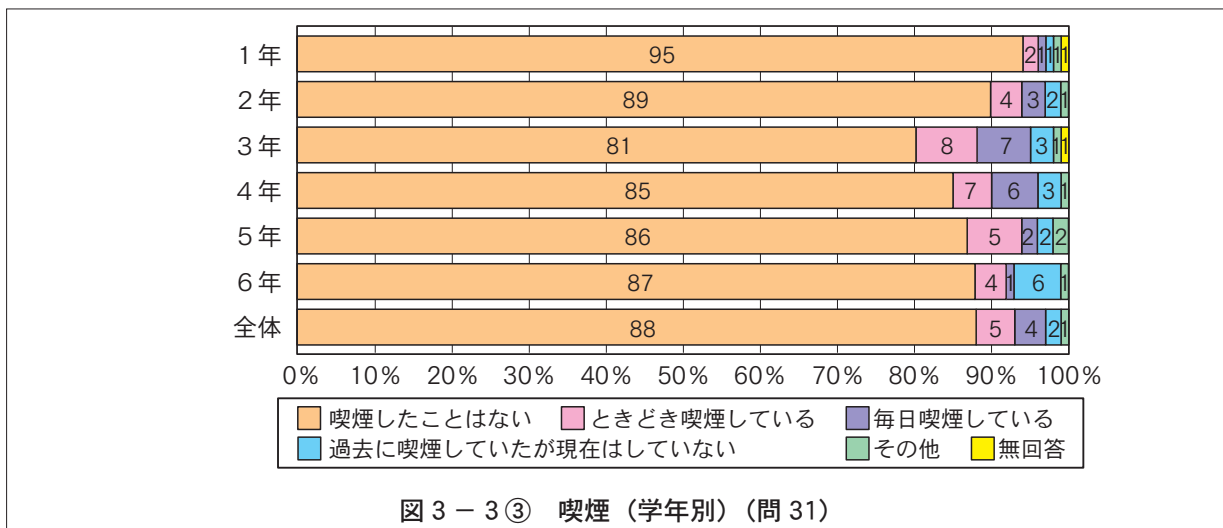
(※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。)

痢・便秘」が10%、「不眠」を7%に認めている。慢性的に続いている症状については、必要に応じて、医療機関での治療および生活習慣などの見直し、助言指導を得るためのキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の利用も望まれる。

3-3 喫煙について (図3-3①, 図3-3②, 図3-3③)

「喫煙したことがない」学生は男子で82% (前回調査84%), 女子で96% (前回調査97%) であり、「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生が男子3%, 女子1%であったため、非喫煙率は男子で85% (前回調査87%), 女子で97% (前回調査97%) という結果となった。男子の非喫煙率は前回調査まで上昇傾向であったが、今回は2ポイント低下した。「ときどき、もしくは毎日喫煙している」学

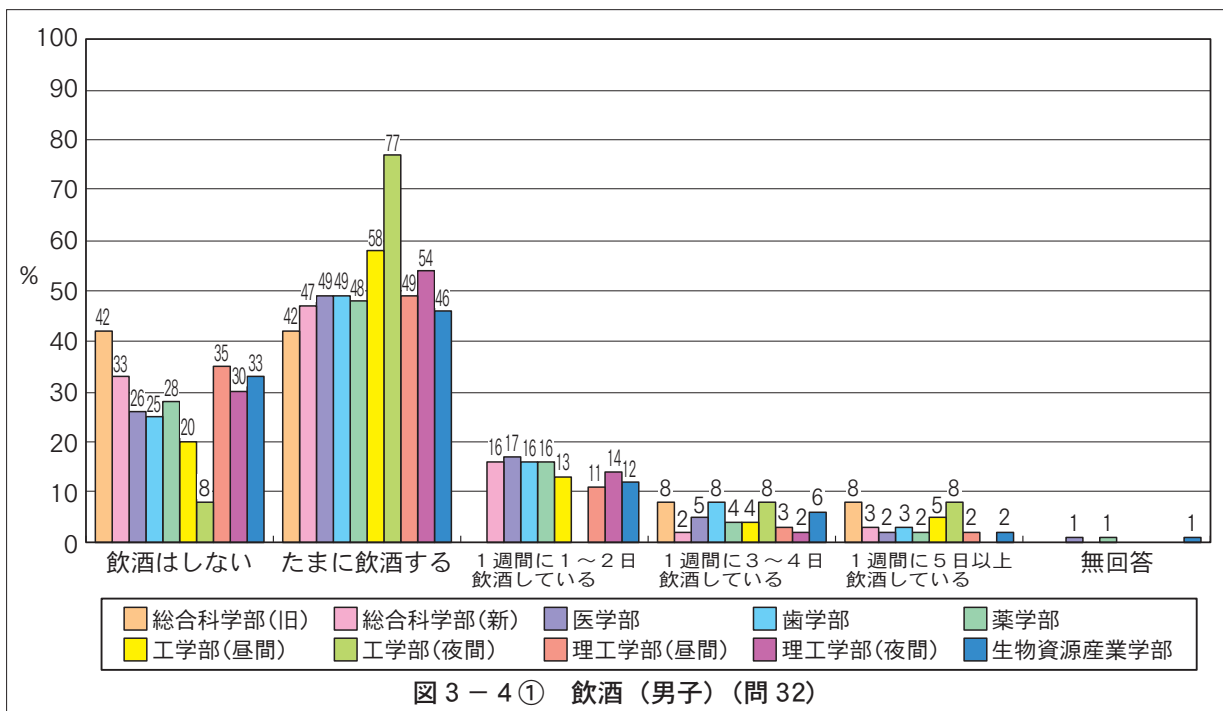




生は男子で13%（前回調査12%）、女子で2%（前回調査2%）であり、女子より男子で喫煙率が高い。平成30年の国民健康栄養調査（厚労省）では20代の喫煙率が男性26%、女性11%であり、これと比較して低いものの、男子においてはさらに低くなることが望まれる。学年別でみると、1年生の喫煙率は4%（前回調査4%）だが、3年生の喫煙率が最も高く15%で前回調査の12%と比較しても上昇している。喫煙習慣が長年に及ぶと様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を習慣づけないようにする必要がある。

3-4 飲酒について（図3-4①、図3-4②、図3-4③、図3-4④）

「飲酒はしない」と答えた学生は男子32%（前回調査26%）、女子34%（前回調査28%）であり、男女共に飲酒しない学生は前回調査より増加し3割に達した。「たまに飲酒する」と答えた学生は男子49%、女子55%であり、合わせて男子の81%、女子の89%の学生に飲酒習慣がみられなかった。一方、飲酒習慣のある学生のうち、週3、4日以上飲んでいる学生が男子で6%、女子で3%（前回調査ではそれぞれ5%、2%）見られるが、1回当たりの飲酒量が問題となる。



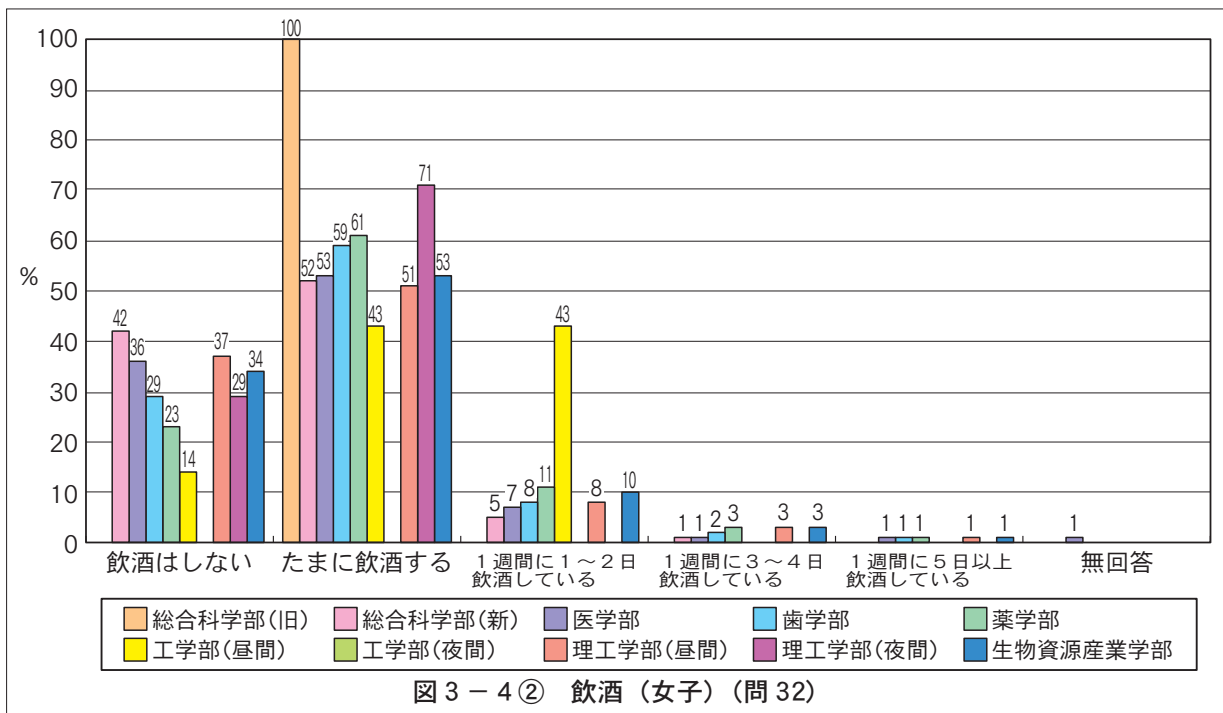


図 3-4② 飲酒(女子)(問32)

週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち、男子21%（前回調査22%）、女子21%（前回調査37%）では1回あたりの飲酒量が適度とされる量であった。一方、3合以上飲酒する学生が、男子で23%（前回調査33%）、女子で28%（前回調査9%）みられ、週3回以上の飲酒習慣のある者のうち多量飲酒が危惧される者の割合が女子で増加していた。1日平均純アルコール量で60g（日本酒で3合）以上の習慣的な飲酒は、長期間継続することによりアルコール関連健康障害などの酒害に発展する恐れがある。アルコールの適量は1日平均純アルコール20gといわれており、過剰摂取にならないよう指導していく必要がある。

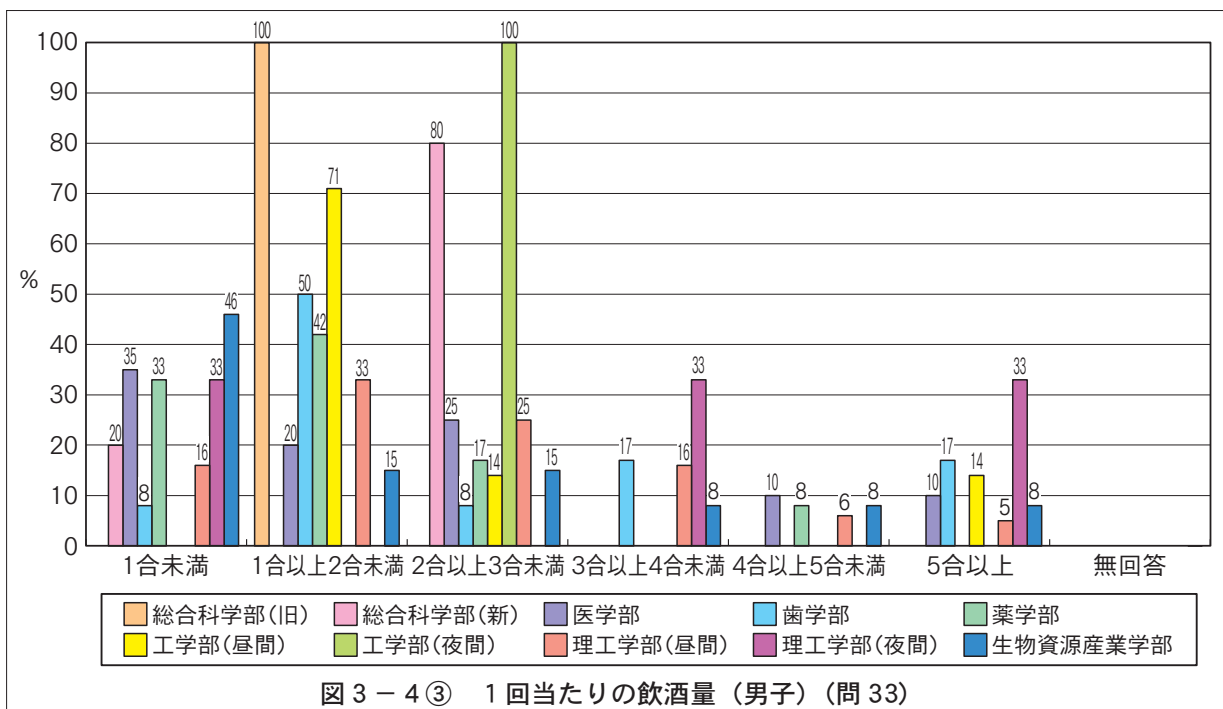


図 3-4③ 1回当たりの飲酒量(男子)(問33)

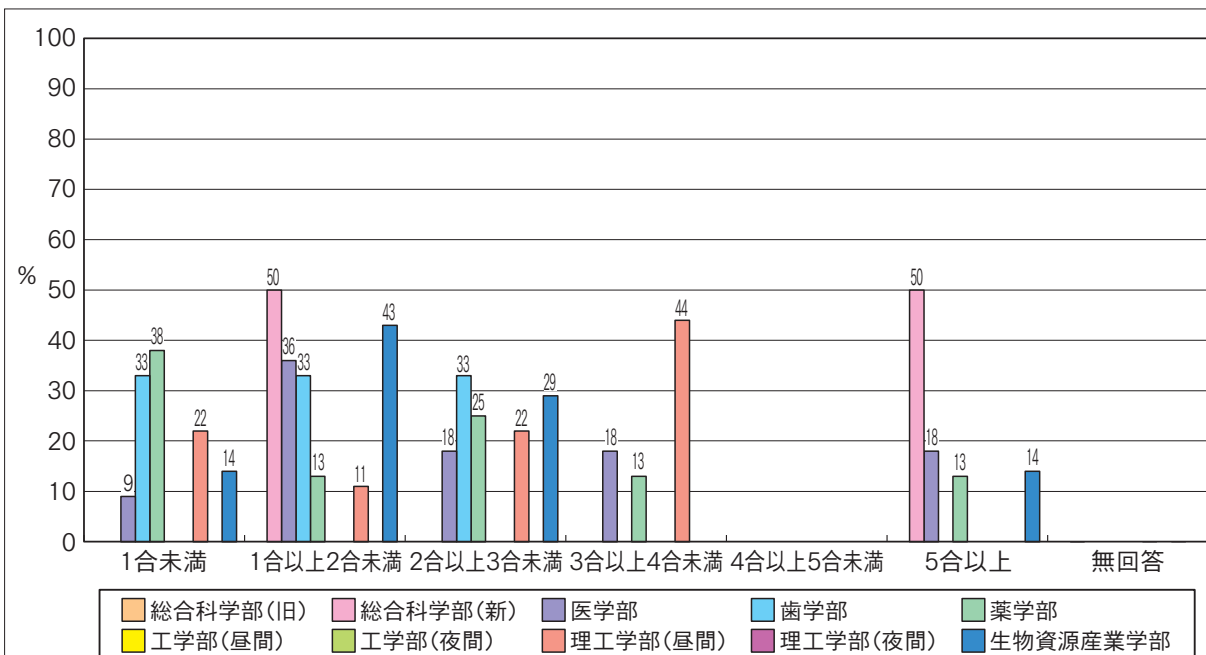


図3-4④ 1回当たりの飲酒量(女子)(問33)

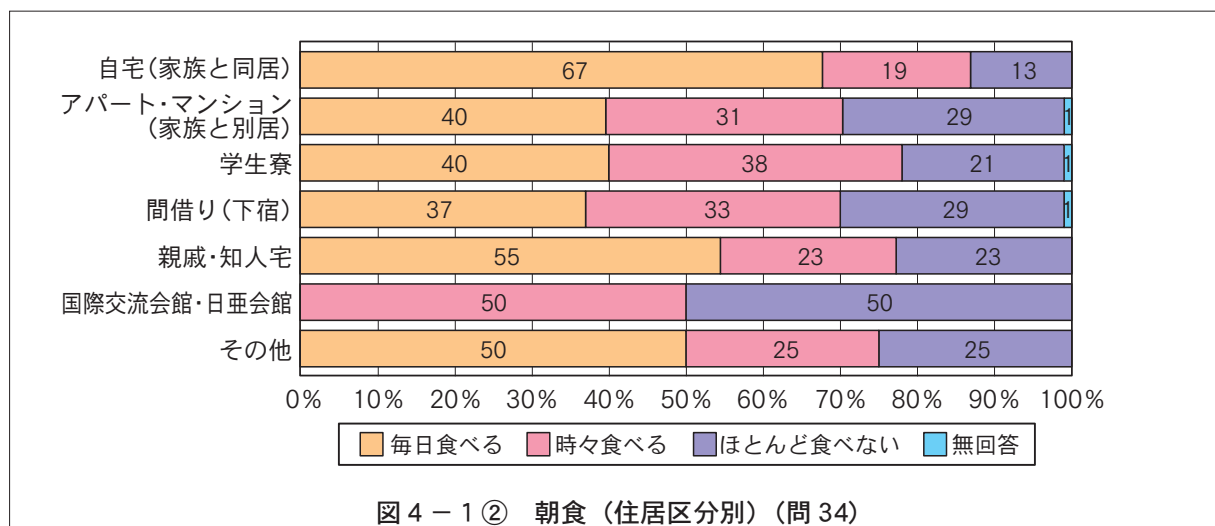
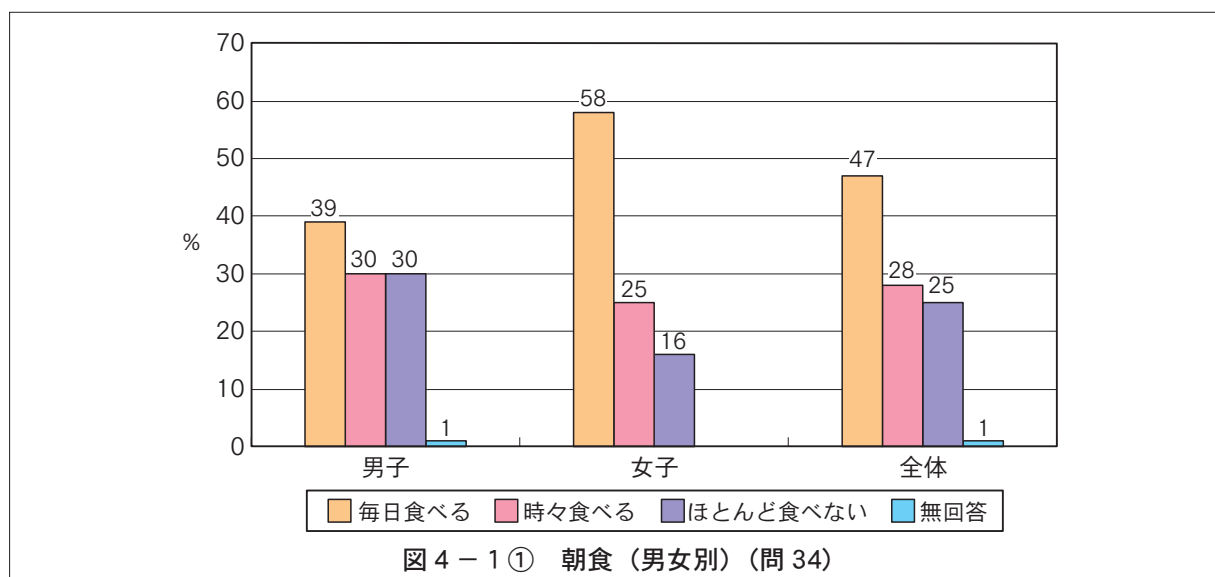
第4章 食事について

4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

学生全体では、約半数(47%)の学生は毎日朝食を食べているが、残りの半数は「時々食べる」(28%)、あるいは、「ほとんど食べない」(25%)のいずれかであった。男女別にみると、毎日朝食を食べている割合は、女子(58%)が男性(39%)よりも高かった。一方、朝食をほとんど食べない割合は女子(16%)が男子(30%)よりも低かった。つまり、男女の約半数は毎日朝食を食べているが、男子の約3人に1人、女子の7人に1人は朝食をほとんど食べていないことが分かった。全体および男女別ともに前回の調査結果と同じであった。

また住居区分別でも、前回調査と同様な結果が認められ、毎日朝食を食べている割合は、自宅(家族と同居)が67%、親戚・知人宅が55%、アパート・マンション(家族と別居)が40%、学生寮が40%、間借り(下宿)が37%であり、毎日朝食を食べる割合は、家族あるいは親戚・知人宅では約61%であるのに対し、学生単独の場合には約40%と低かった。国際交流会館・日亜会館では、毎日朝食を食べる割合は0%であり、ほとんど食べない割合は50%であった。

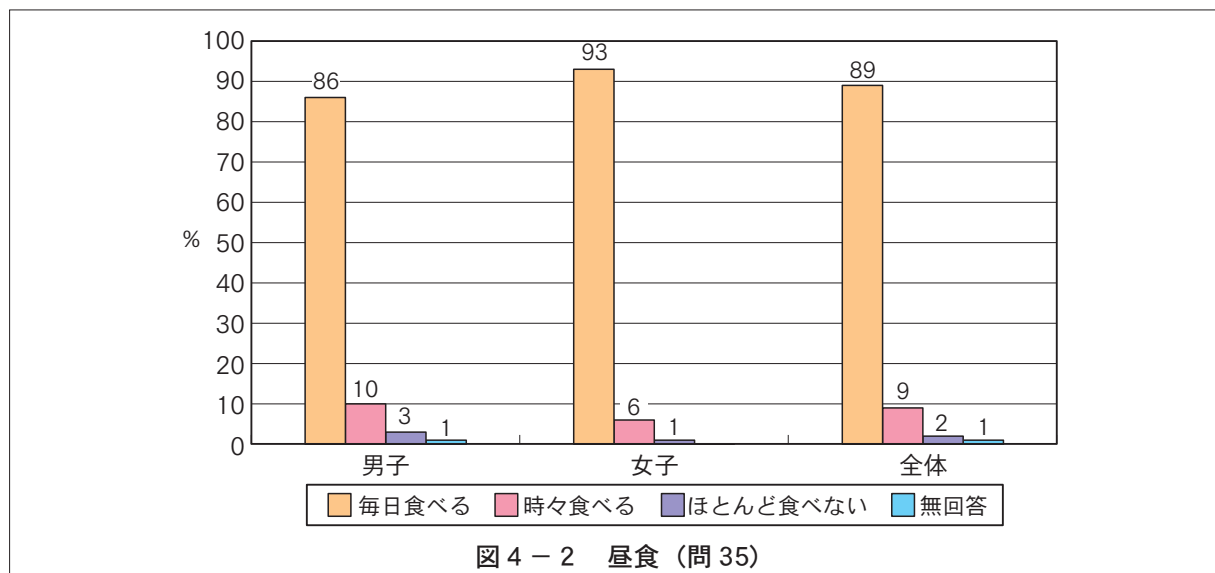
以上のことから、男子ならびに家族と別居して一人暮らしをしている学生は、毎日朝食を食べる割合



が低い。朝食を食べる生活習慣の指導が必要と考えられる。

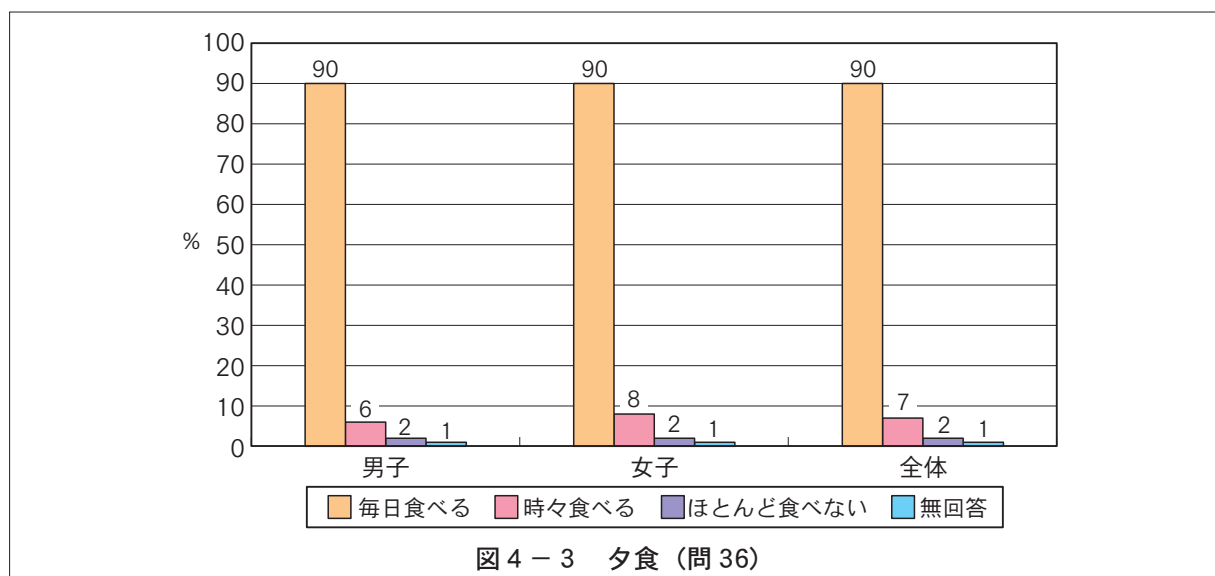
4-2 昼食 (図4-2)

学生全体では、89%の学生は毎日昼食を食べており、男女別にみると、毎日昼食を食べている割合は、女子が93%、男子が86%であり、やや女子の割合が高い。残りの9% (男子10%、女子6%)の学生は昼食を時々食べており、ほとんど食べない学生もわずか (男子3%、女子1%) ではあるがみられた。これらの結果は、前回の調査結果とほぼ同じであった。



4-3 夕食 (図4-3)

夕食についても、昼食の場合と同様に、ほとんどの学生 (男女ともに90%) は毎日夕食を食べている。残り7% (男子6%、女子8%) の学生は夕食を時々しか食べず、また、ほとんど食べない学生もわずか (男女ともに2%) であるがみられた。これらの結果は、前回の調査結果と同じであった。



4-4 昼食の利用場所 (図4-4)

学生全体での昼食の利用場所について、常三島第1食堂(生協)、常三島第2食堂(工学部構内)、蔵本会館食堂、弁当、自宅(下宿)の割合は、それぞれ23%、9%、17%、13%、18%であり、前回の調査結果と変わりはない。

学部別の昼食における食堂の利用は、常三島地区では総合科学部(旧)23%、総合科学部(新)44%、工学部昼間19%、理工学部昼間50%、工学部夜間31%、理工学部夜間37%、生物資源産業学部49%、蔵本地区では医学部51%、歯学部48%、薬学部67%であり、学部によって利用率に大きな違いが見られるが、傾向としては、前回調査と比べ、蔵本地区の各学部で利用者の割合が増加し、常三島地区の各学部では逆に減少していた。自宅で昼食を食べる学生の割合は、全体で18%であるが、食堂利用率が高い蔵本地区の学部では8~13%と低く、一方、常三島地区の学部では18から50%と高かった。弁当を利用する割合は、学生全体で13%であるが、各学部ともに食堂利用率との関係は見られなかった。

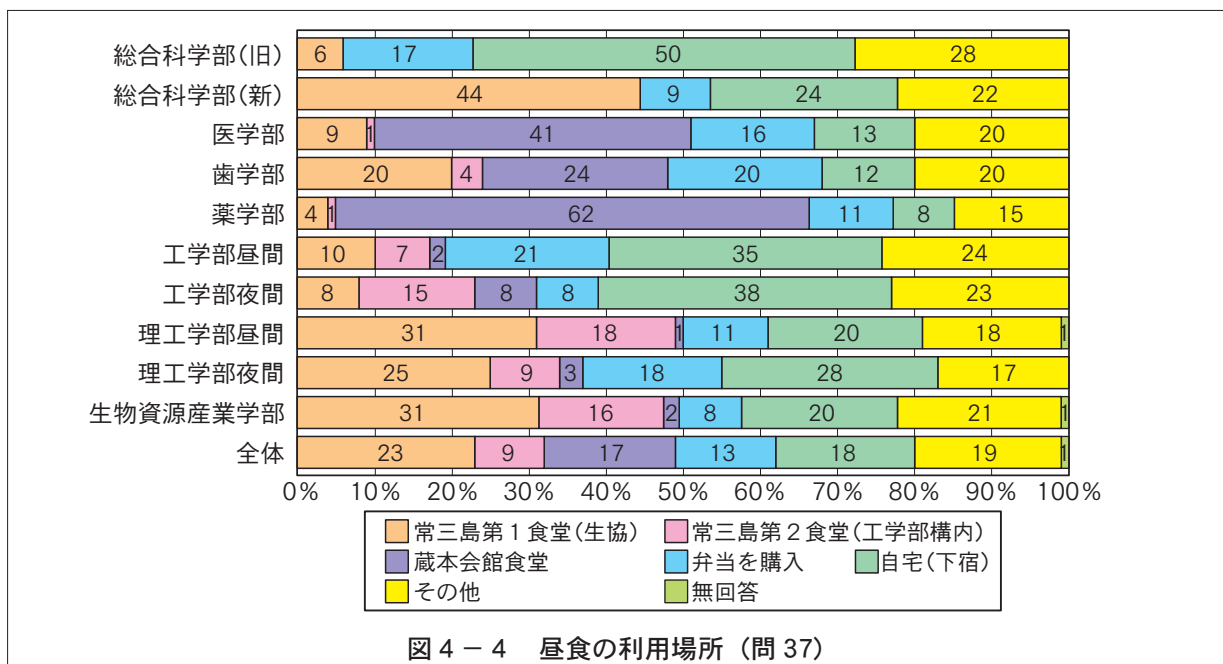


図4-4 昼食の利用場所 (問37)

4-5 学生食堂について感じていること (図4-5①, 図4-5②)

学生食堂について感じている回答の内容の割合は前回の調査結果とほぼ同じ傾向であり、約半数(51%)の学生が「昼食時の混雑がひどい」と感じている。授業時間割の都合により昼食の時間に学生が集中することは避け難く、特に食堂利用率が高い蔵本地区の各学部で本回答の割合が高い(57~61%)。一方、常三島地区では食堂利用率の低下もあり、前回調査に比べ混雑がやや解消されているようである。その他学生食堂への意見として多いのが、「値段が高い」(37%)と「メニューが少ない」(25%)であり、少数意見として「開店時間が短い」(8%)、「場所が不便である」(3%)が続く。「特に意見なし」は17%であった。

今回の調査結果から、特に昼食では学生の多くが学生食堂を利用していることを考え、混雑解消に加え、食堂のメニューや値段などについて検討して、学生の食生活をさらにサポートする必要がある。

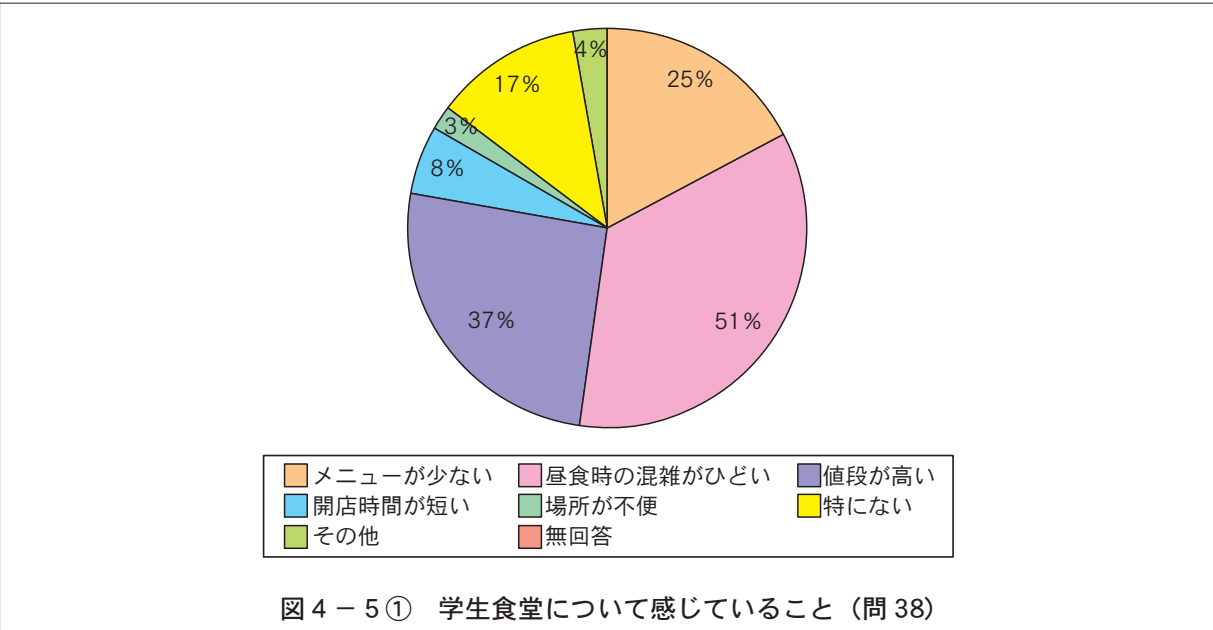


図 4-5 ① 学生食堂について感じていること (問 38)

(※問 38 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

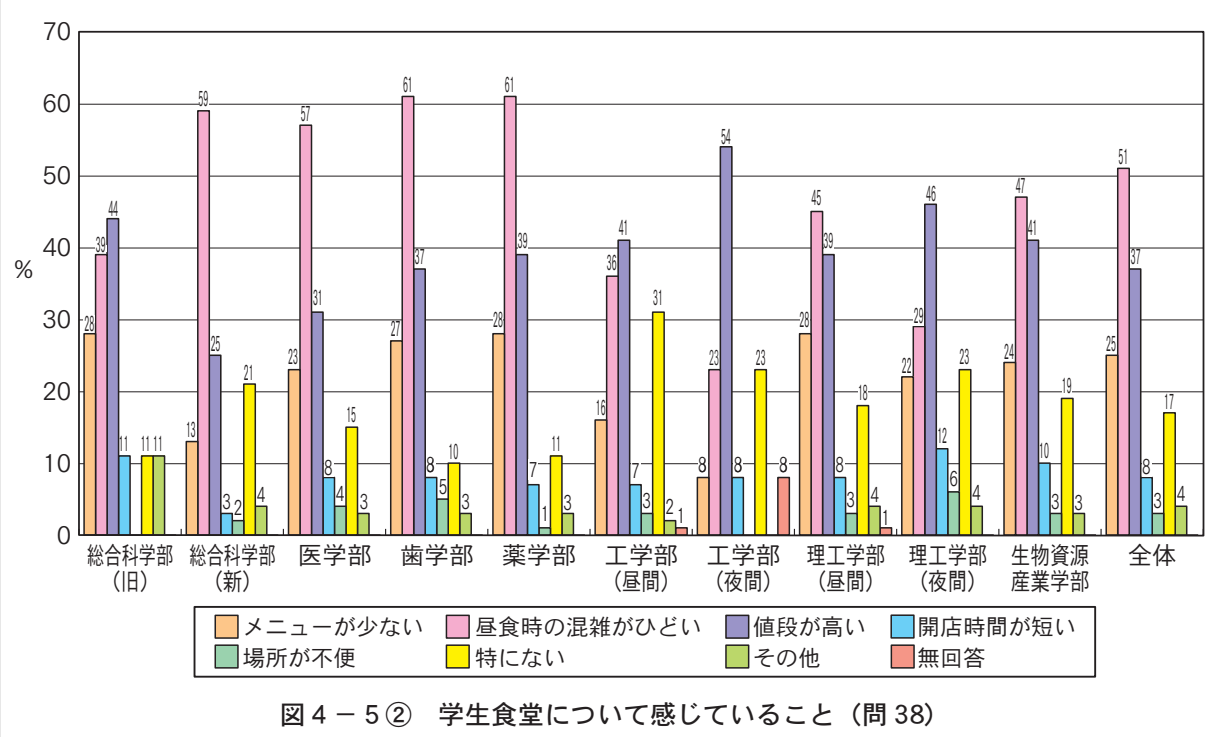


図 4-5 ② 学生食堂について感じていること (問 38)

(※問 38 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

第5章 学生生活上の問題点

5-1 大学生生活の意義 (図5-1①～図5-1③)

【項目間の比較】(図5-1①)

どの学部・学科共、第1位は「勉強や研究」であり(23～45%)、全体の平均値は、前回調査の値より1%低い37%である。教育・指導の効果が維持されている結果であると思われる。第2位は「趣味・娯楽」と「特に重点もなく程々に」となり、前回調査と順位が入れ替わった。第4位は前回調査と同様に「豊かな人間関係を結ぶこと」であった。第2位から第4位までは僅差であり、学生は個人活動を重視しつつも、他者との関わりにも重きを置いていることが伺われる。

【学部・学科・学年間での比較】(図5-1①～図5-1③)

「勉強や研究」は、薬学部が45%で最も高く、僅差で総合科学部(旧)と医学科が続いている。これは専門性の高い職業に結びつきやすい学部・学科では学業への意識が高いものと推察され、その結果であると考えられる。工学部昼間・夜間は他の学部・学科に比べ「趣味・娯楽」の割合が高く、個人活動を重視する傾向があるのかもしれない。

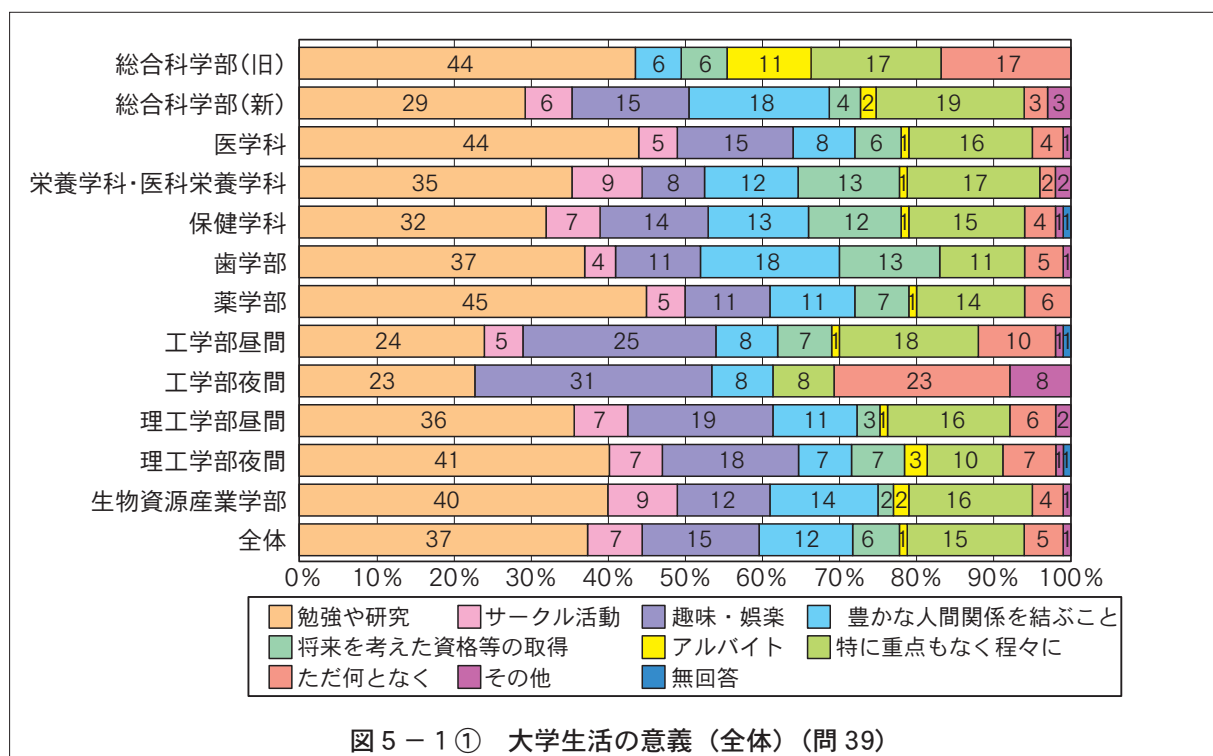
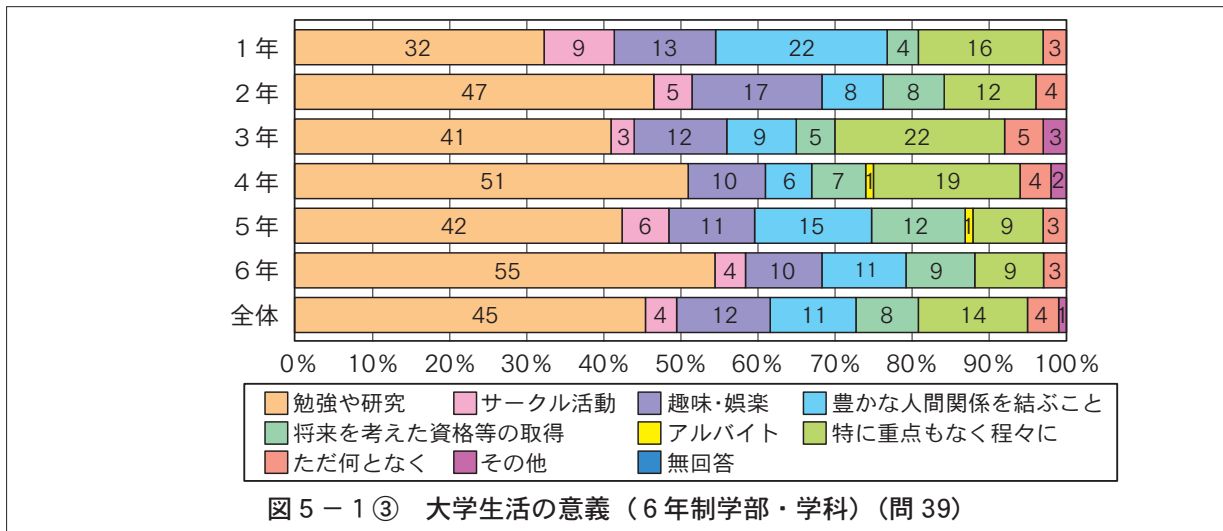
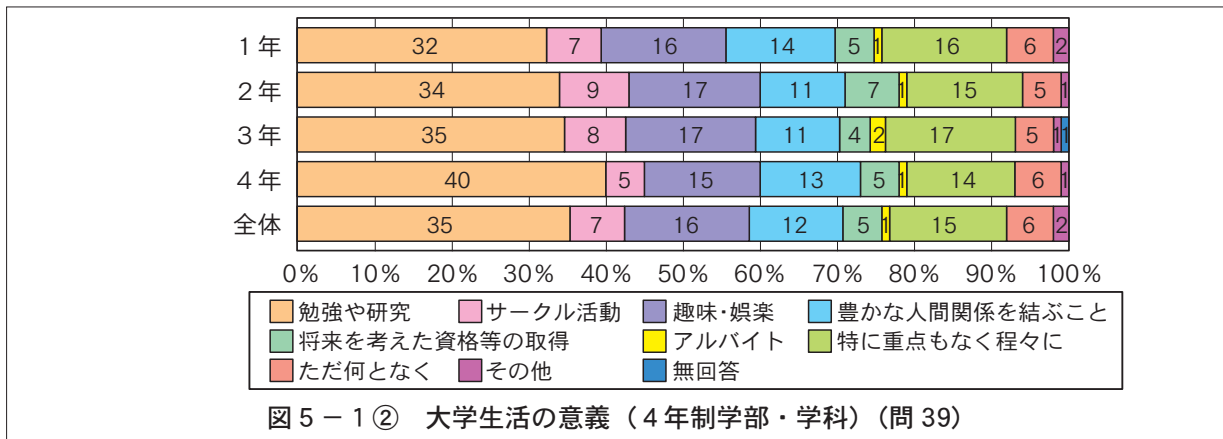


図5-1① 大学生生活の意義(全体)(問39)

4年制では「勉強と研究」の割合は、一番高いのは40%で4年生であり、卒業研究や卒業論文に真摯に取り組んでいる結果と思われる。1・2・3年生は32～35%と同じ程度になっている。全体では「趣味・娯楽」と「特に重点もなく程々に」の割合が前回調査より増え、「趣味・娯楽」や「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合より高いことから、価値観が多様化していることを表しているのかもしれない。

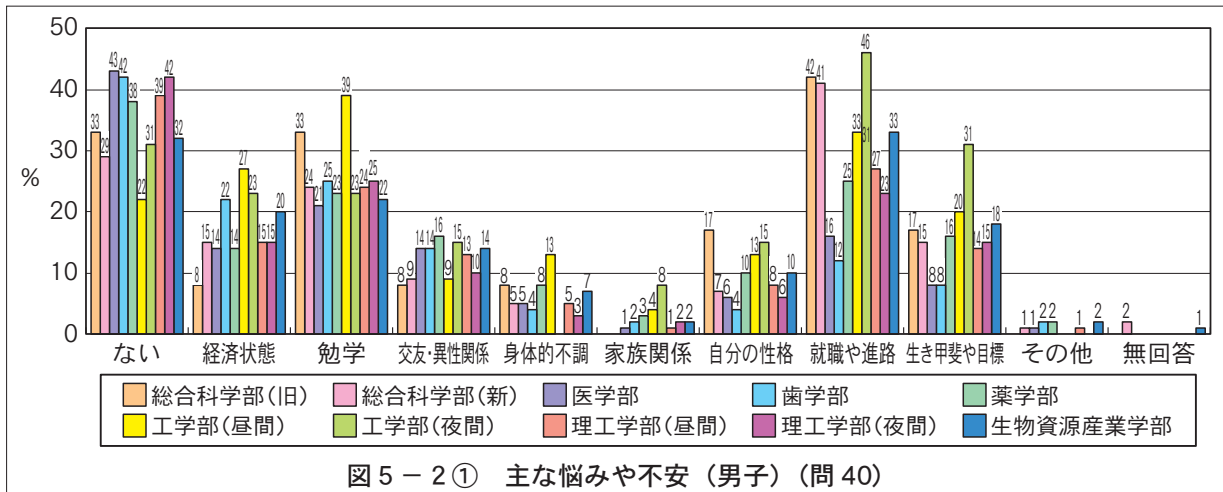
6年制では「勉強と研究」の割合は、前回調査で最も高かった6年生が55%で最も高い値を示しており、6年生に関しては、これまでの学業の成果に意義を感じているものと思われる。4年制・6年制共に「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合は、1年生が最も高く、入学時に新たな人間関係に期待していることの表れと考えることもできよう。



5-2 悩みと相談 (図 5-2①~図 5-2⑤)

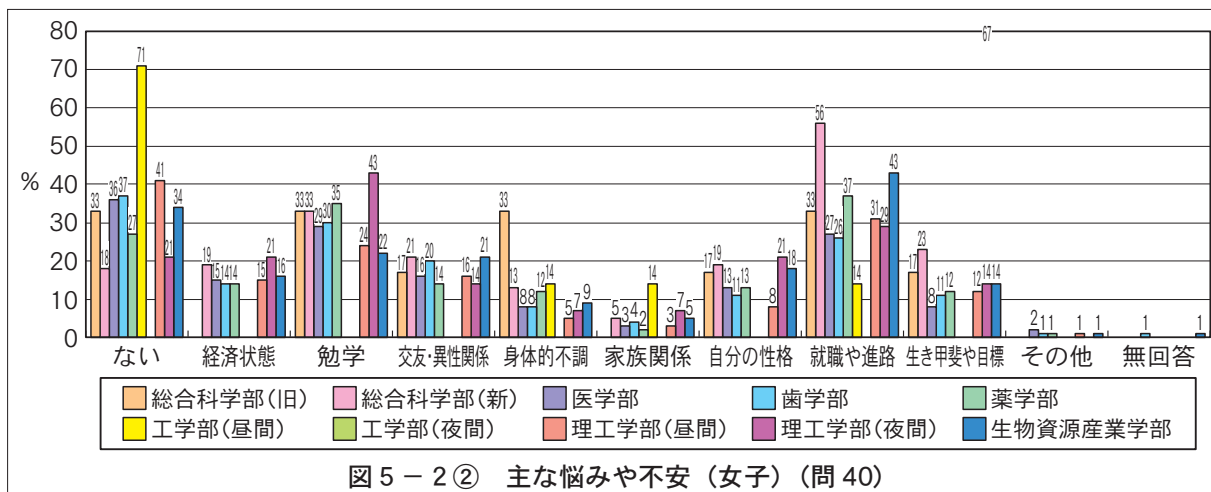
【主な悩みや不安】(図 5-2①~図 5-2③)

前回調査と同様、悩みや不安がないと回答した割合は男子の方が多かった。男子も女子もともに主な悩みの第1位が「就職や進路」、第2位が「勉学」であった。国家試験で資格を得られる学部では、「就職や進路」に関する悩みや不安を持つ学生の割合が低い傾向が見られる。逆にこの割合が高いのは、総合科学部（新）女子であり、半数以上にあたる56%が将来の就職・進路に不安を感じており、大学から

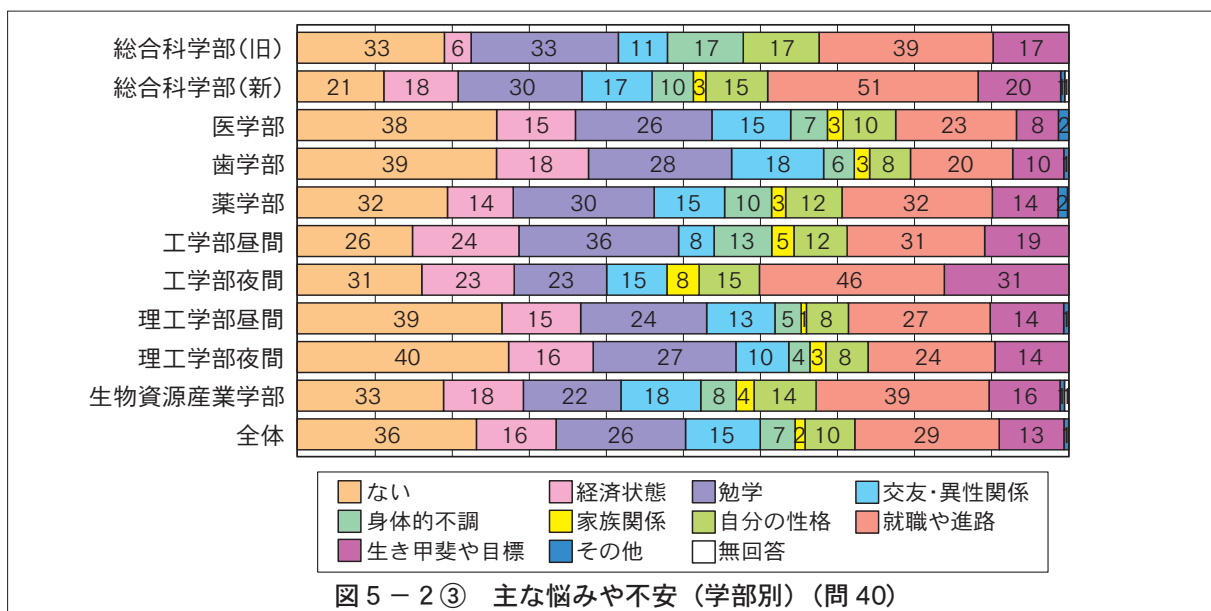


(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

の支援が必要と思われる。



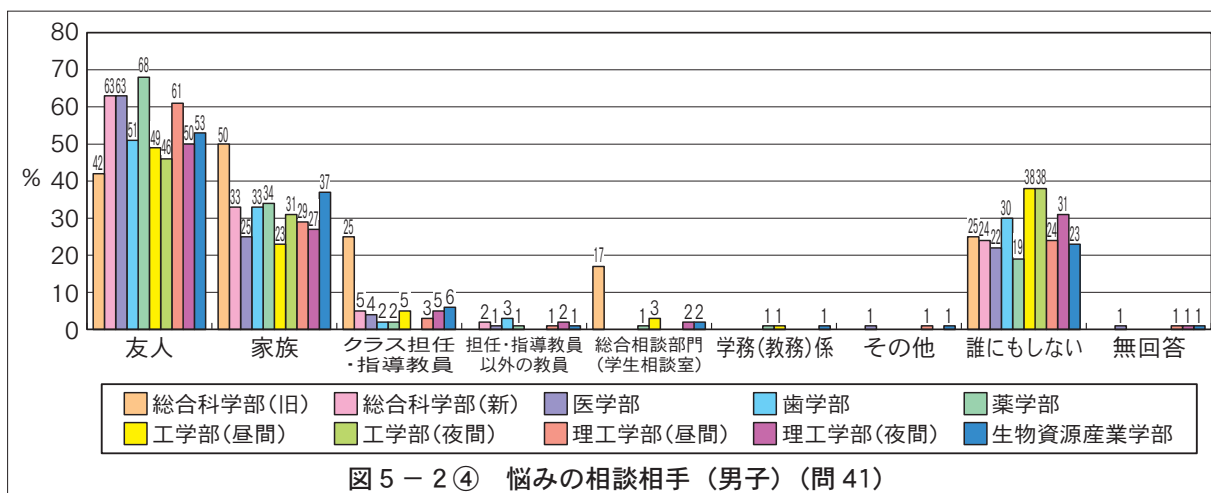
(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)



(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

【相談相手】 (図 5 - 2 ④, 図 5 - 2 ⑤)

総合科学部 (旧) 男子以外の学部・学科では、第 1 位が友人、第 2 位が家族であるが、それらの割合



(※問 41 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

は基本的には女子の方が男子よりも高かった。教員と回答した割合は低いですが、その中では、理工学部(夜間)女子が7%と高かった。部局関係者による対応が奏功していると思われる。男子の19~38%と女子の9~21%は誰にも相談しないと回答しており、前回調査と同様に、ある程度の学生が自力で悩みや不安を何とかしようとしている様子が伺われるが、解消できない場合も多いと思われるため、支援を要する学生を早めに見出し、悩みや不安の内容に応じて、部局教職員やキャンパスライフ健康支援センターにつないでいく体制を強固にすることが必要と思われる。

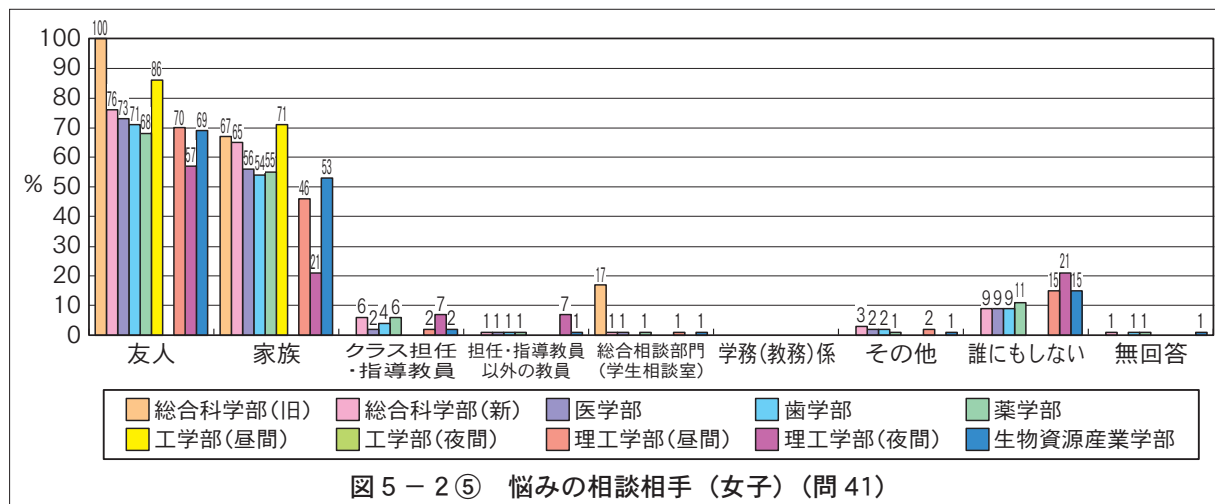


図 5 - 2 ⑤ 悩みの相談相手 (女子) (問 41)

(※問 41 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

5 - 3 迷惑行為 (図 5 - 3 ①~図 5 - 3 ⑩)

【迷惑行為全体】(図 5 - 3 ①)

迷惑行為を受けていないと答えたのは、男子全体で 85% (前回調査と同じ)、女子全体で 89% (前回調査 87%) であった。総合科学部 (旧) 女子で 67% と低かった。

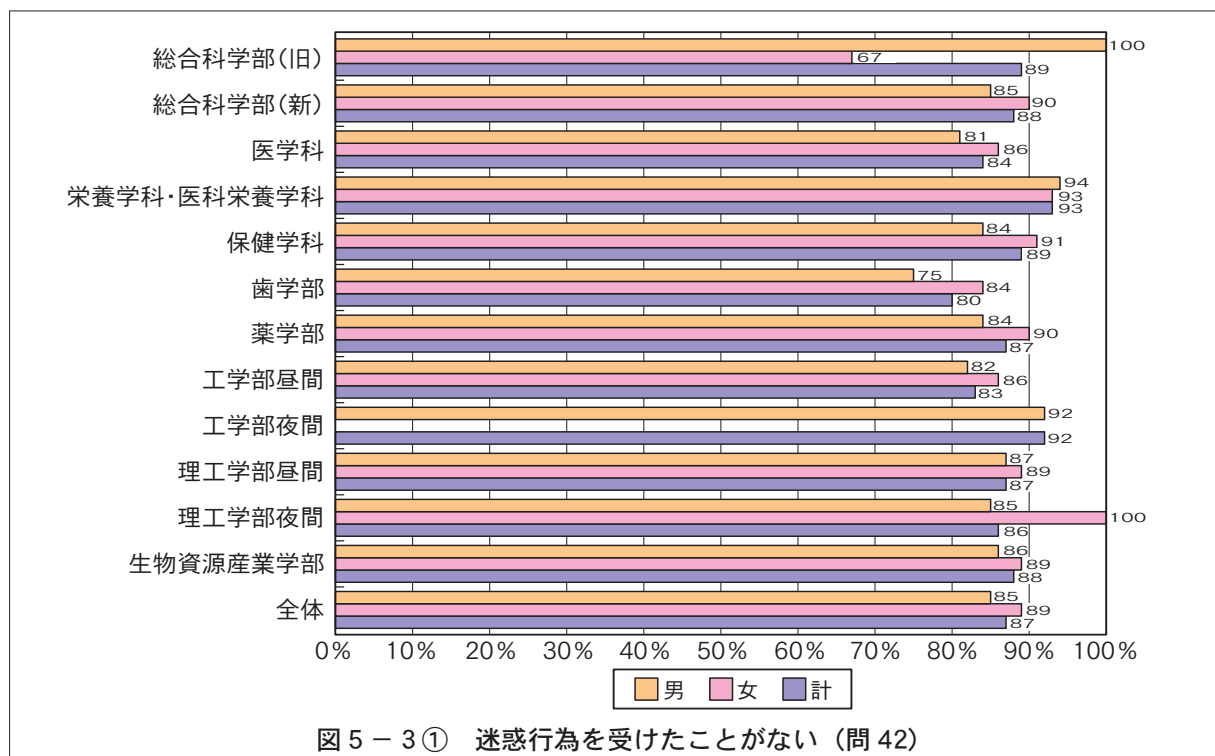
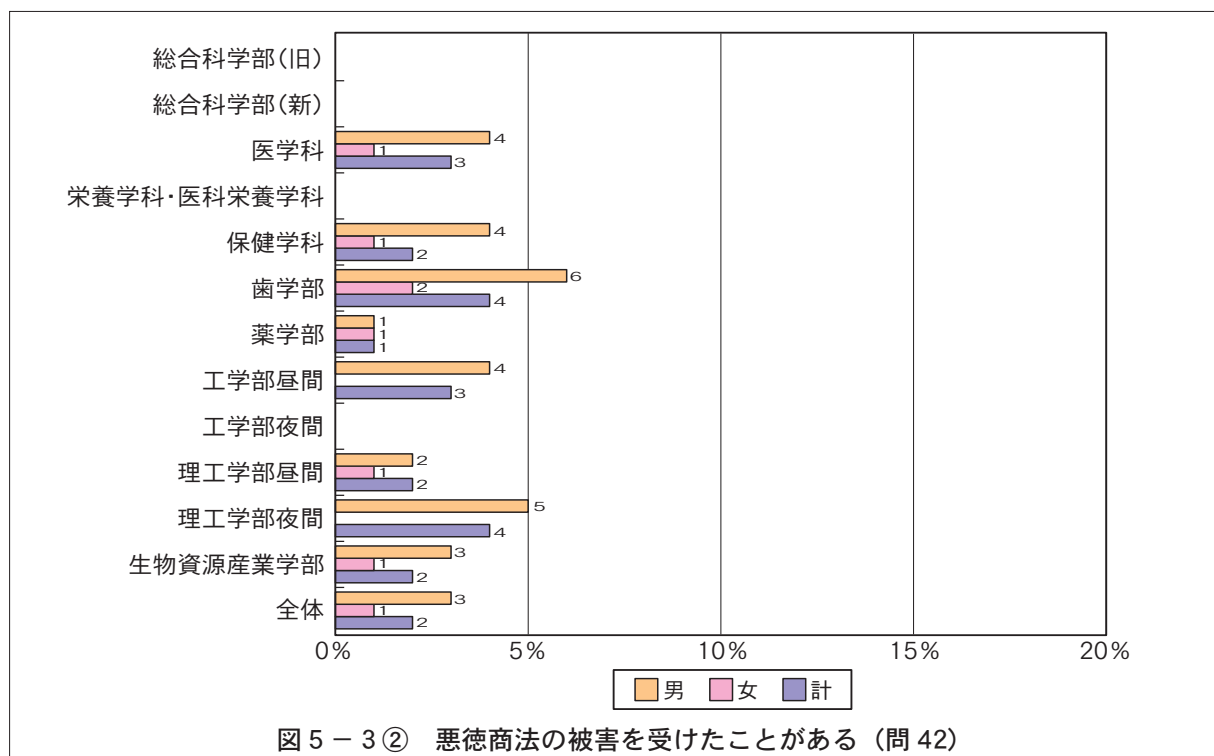


図 5 - 3 ① 迷惑行為を受けたことがない (問 42)

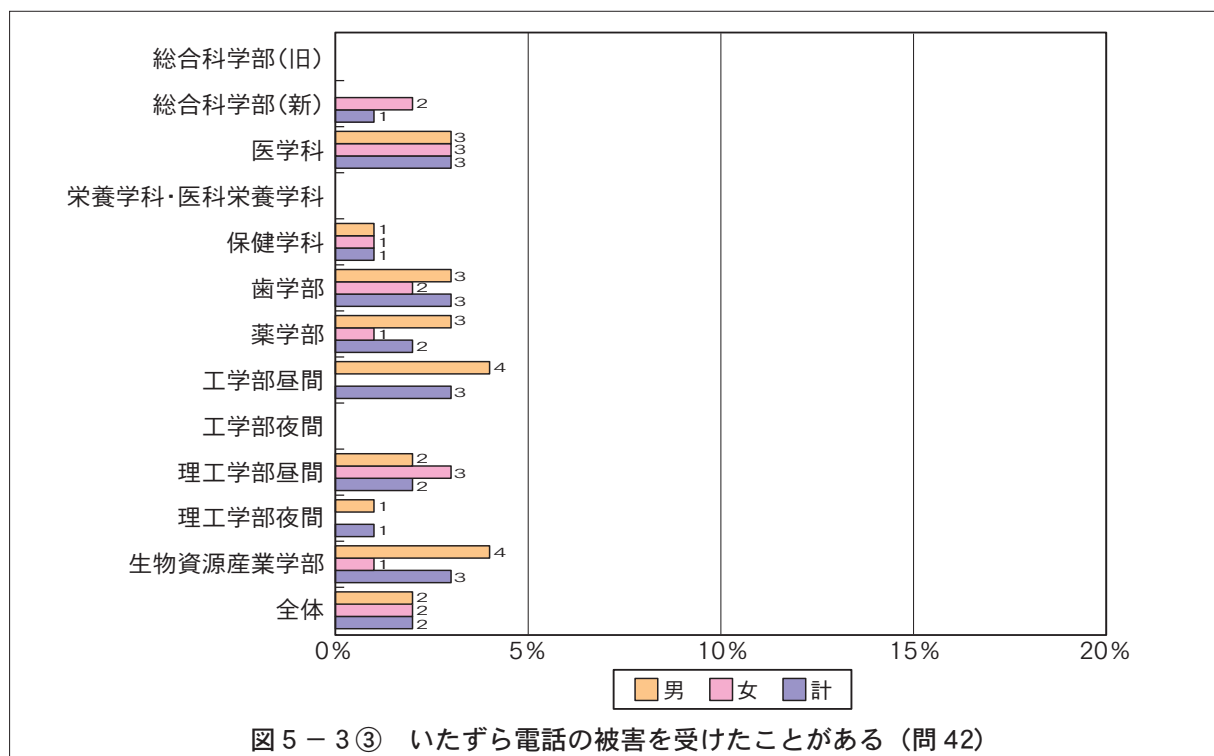
【悪徳商法】(図5-3②)

悪徳商法の勧誘を受けた学生は全体の2%であるが、歯学部男子は6%と高かった。前回調査では、歯学部男子は5%であったことから、何らかの要因が働いたように思われる。原因を調査し、注意喚起・予防対応の実施が必要である。



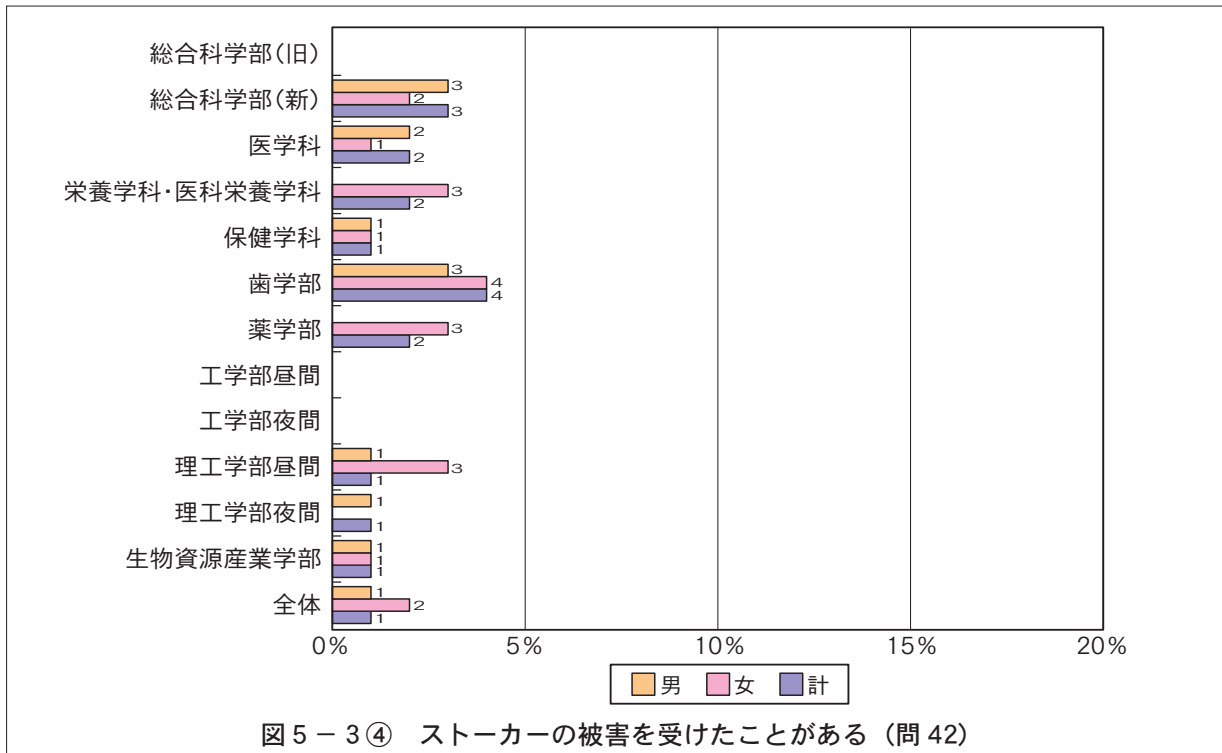
【いたずら電話】(図5-3③)

全体の2%の学生がいたずら電話を受けたと答えている。前回調査では、理工学部昼間女子が7%と突出して高かったが、今回はすべて4%以下に収まった。



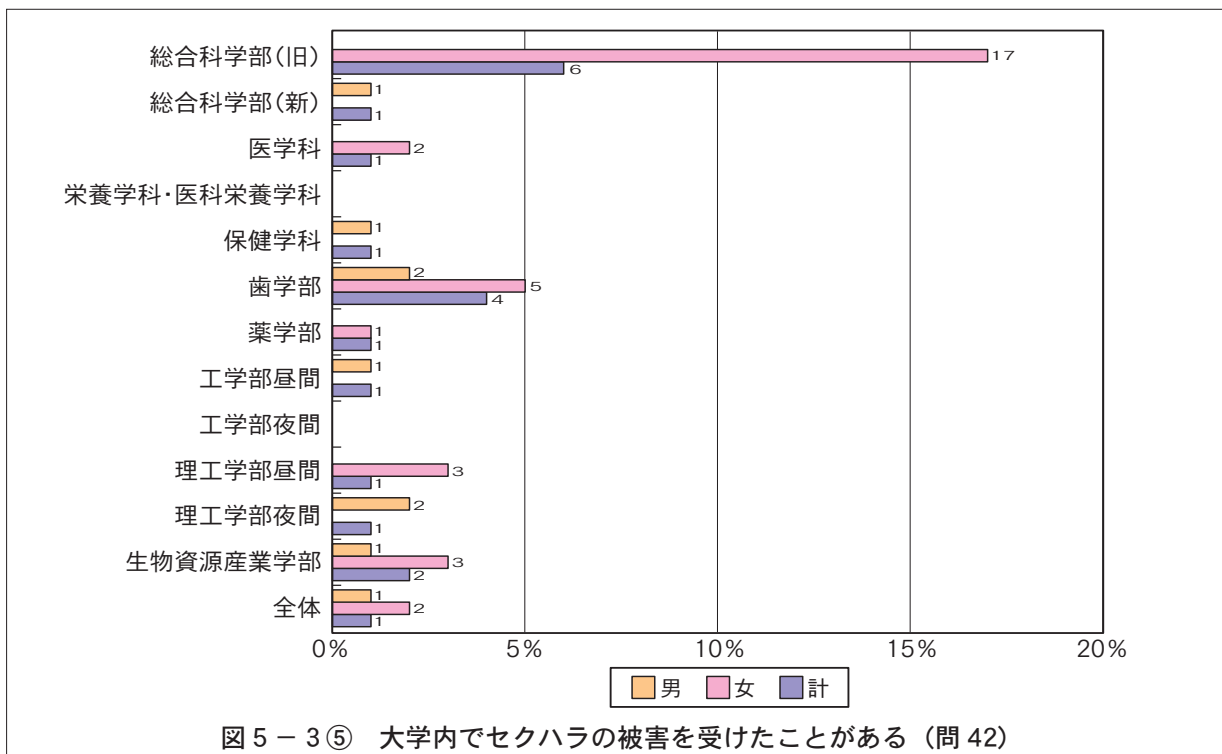
【ストーカー】(図5-3④)

今回調査は前回調査と同様で全体で1%であった。歯学部女子で4%と高く、前回調査と同様に女子学生の方が高い割合を示している。



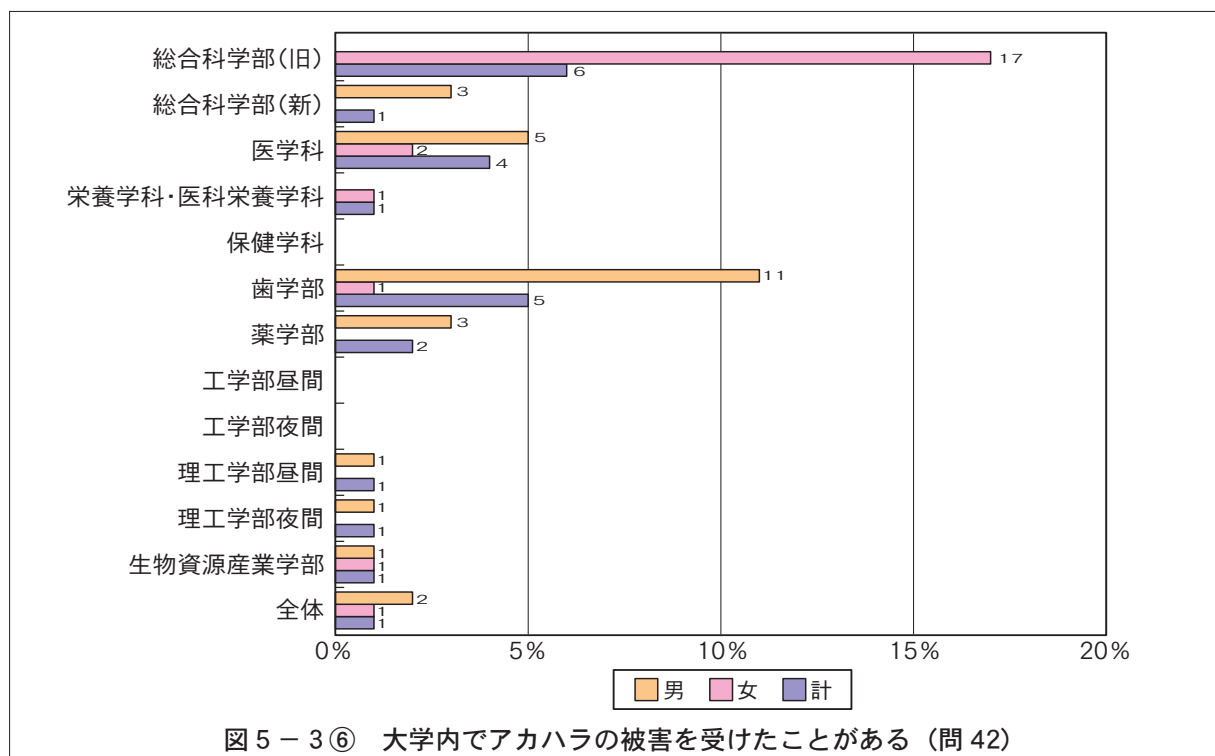
【大学内でのセクハラ】(図5-3⑤)

前回調査同様、全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は1%であった。女性の割合が高めであり、総合科学部(旧)女子で17%と突出していた。総合科学部(旧)を中心に、学内においてセクハラ被害撲滅のための啓発運動を強化する必要がある。



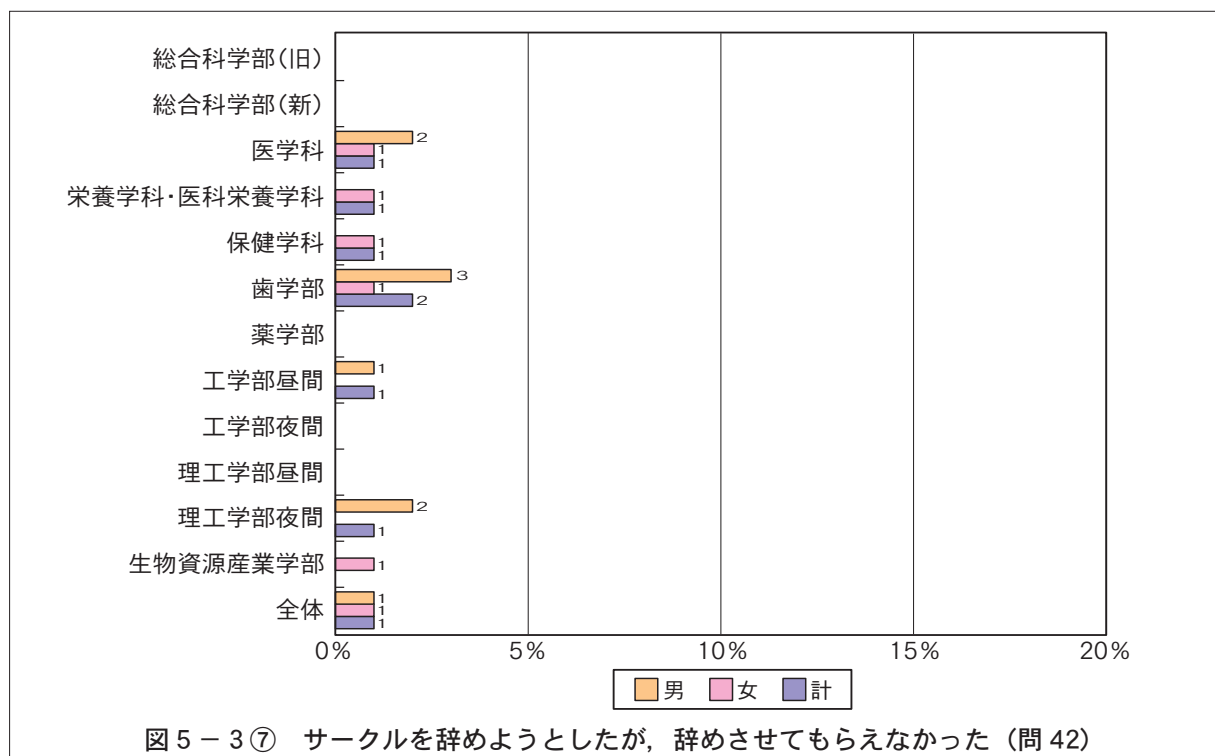
【大学内でのアカハラ】（図5-3⑥）

前回調査同様、全体では1%であるが、今回は総合科学部（旧）女子で17%、歯学部男子で11%がアカハラの被害にあったと答えている。大学と当該部局が連携して早急に解決に向け対応を協議する必要がある。



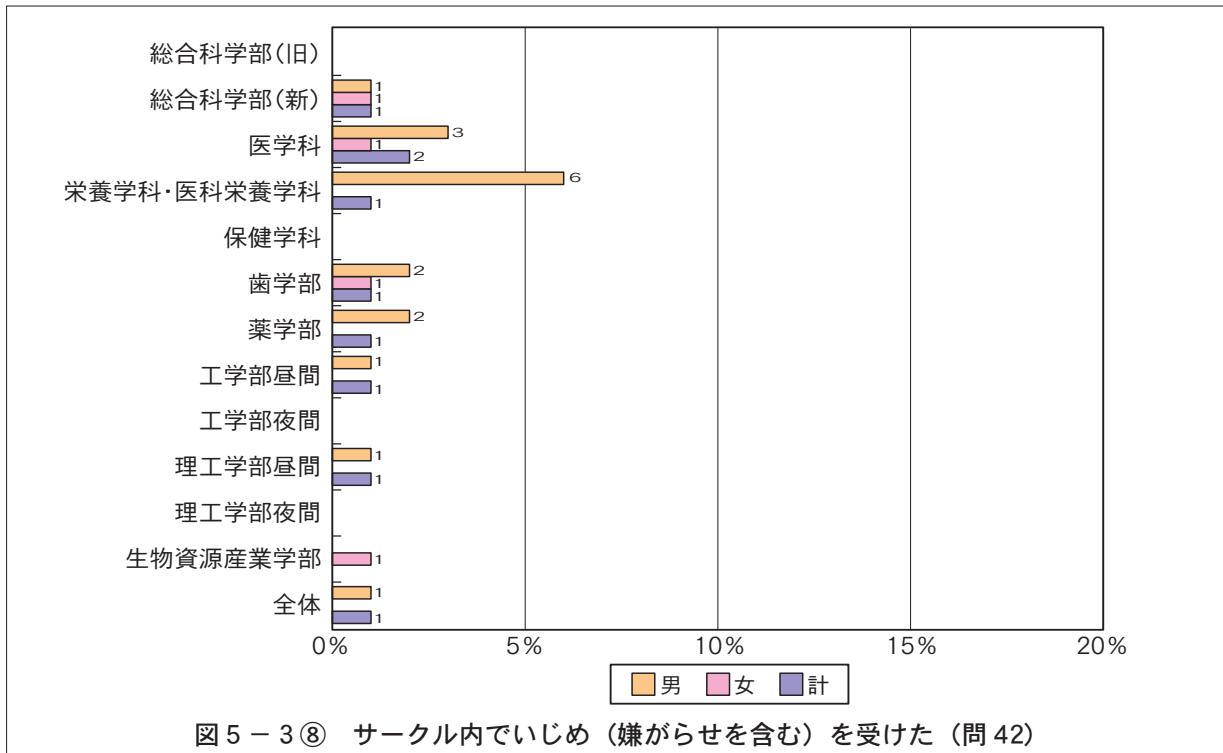
【サークル退部の阻止】（図5-3⑦）

前回調査同様、1%の学生がサークルを辞めさせてもらえなかったと回答した。前回調査同様、学部間差はあまりない。学生の意向を尊重するようサークル活動の指導を強化すべきである。



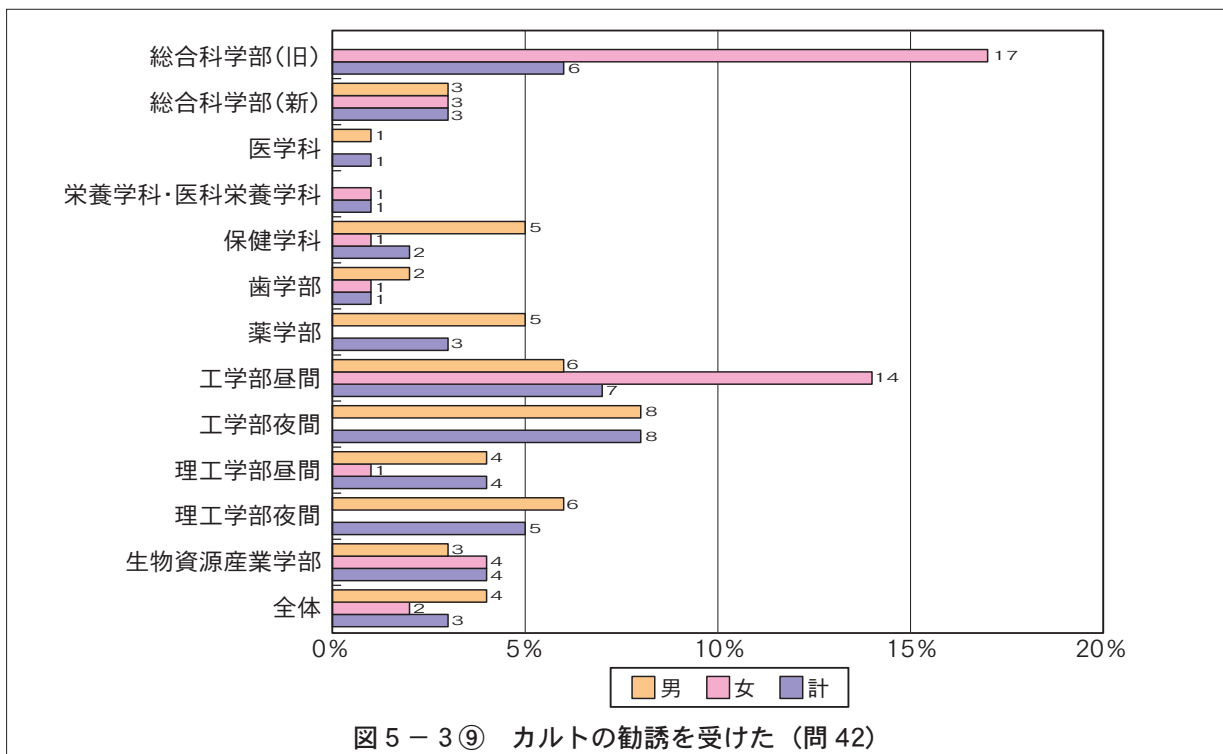
【サークル内でのいじめ】(図5-3⑧)

前回調査同様、全体の1%のサークル内でいじめを受けたと答えている。サークル活動・運営に関する指導の中にいじめや飲酒強要などの項目を引き続き盛り込み、予防に努める必要がある。



【カルトの勧誘】(図5-3⑨)

全体の3%がカルトの勧誘を受けていると答え、前回調査から1ポイント下がった。男子の方が女子よりも勧誘を受けた割合が高い。学部別では、前回調査では工学部夜間女子の8%が目立ったが、今回調査では、総合科学部(旧)女子の17%と、工学部昼間女子の14%が目立った。カルト勧誘は、被害



に繋がる潜在リスクを有しており、適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。

【迷惑行為を受けた際の相談先】（図 5 - 3 ⑩）

全体の傾向は、前回調査と順位が入れ替わり、誰にも相談しないが第1位、友人が第2位となっている。前回調査は、栄養学科・医科栄養学科で「友人」が100%であったが、今回調査は工学部昼間で100%であった。全体では、総合相談部門（学生相談室）への相談が前回調査の17%から5%に低下していた。工学部昼間では友人以外に相談していないことから、相談先の選択肢を広げる工夫をする必要がある。

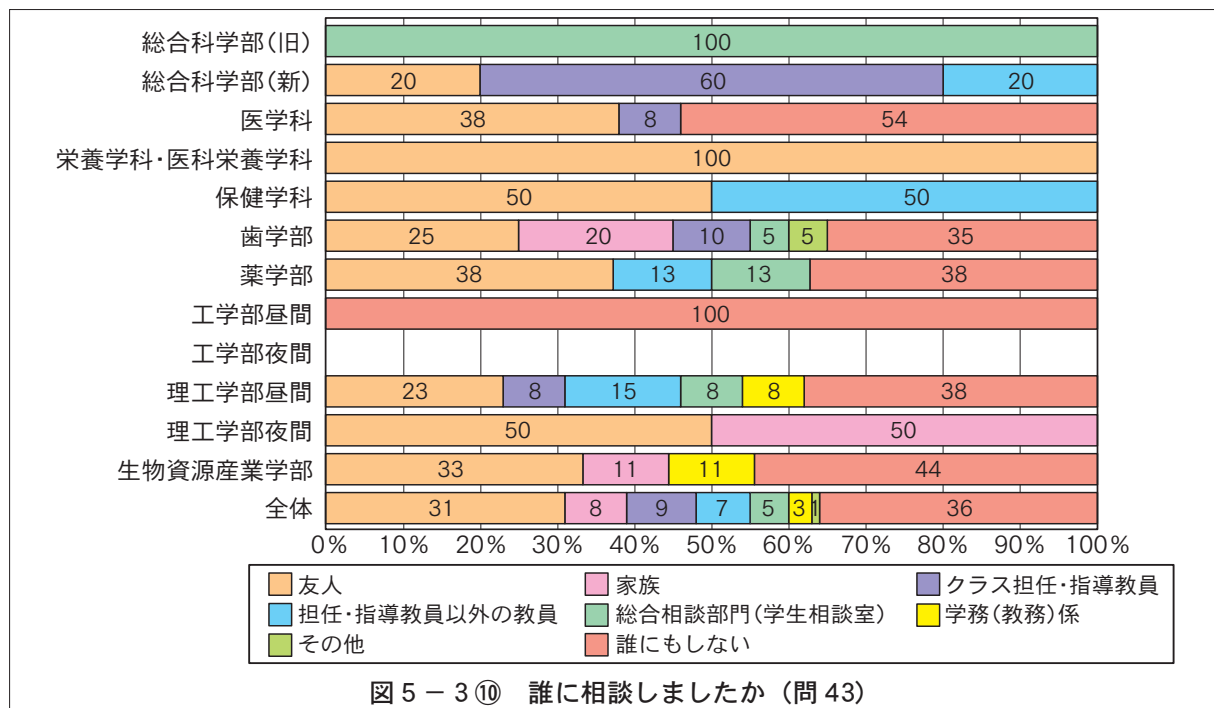
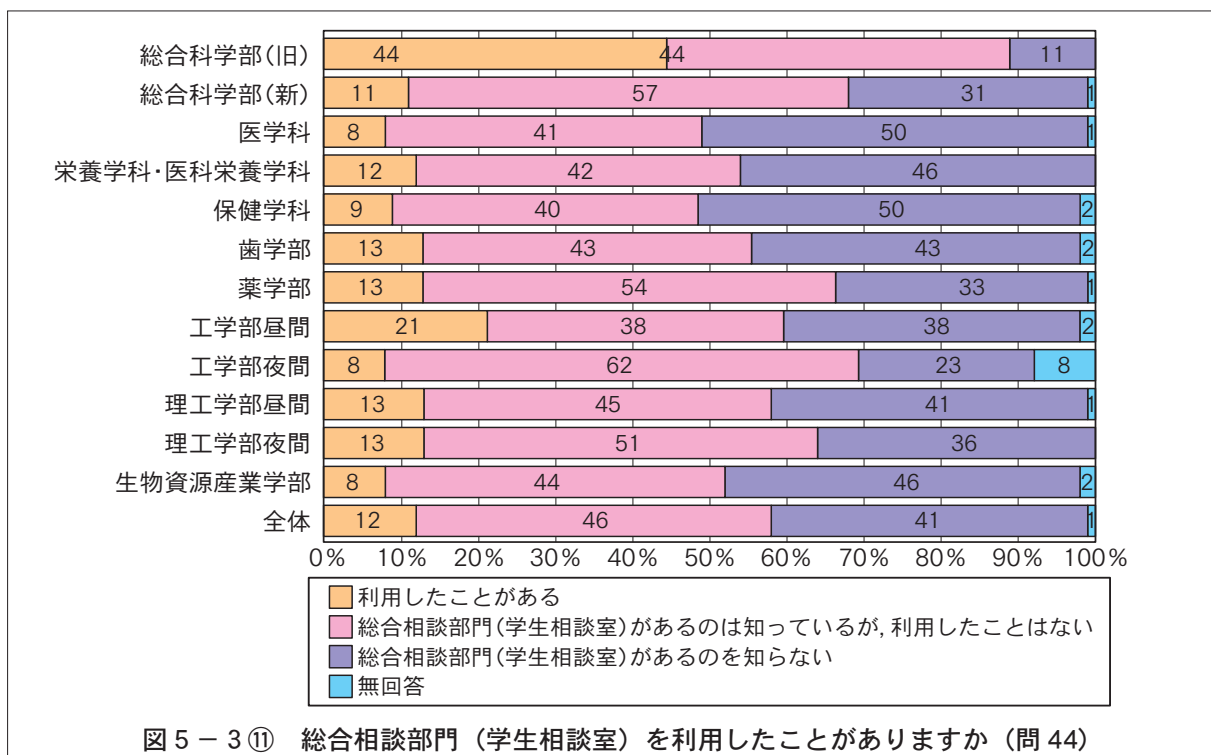


図 5 - 3 ⑩ 誰に相談しましたか（問 43）

【総合相談部門（学生相談室）】（図 5 - 3 ⑪）

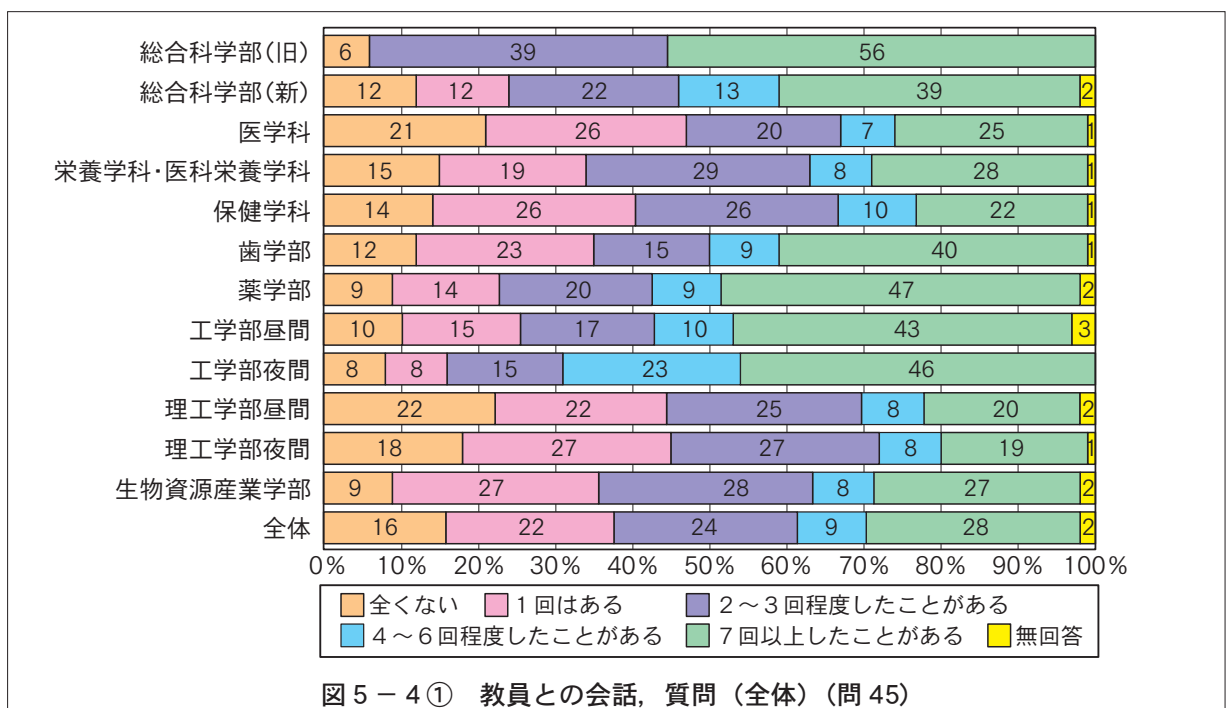
「総合相談部門（学生相談室）を利用したことがある」と答えた学生は、全体で12%で、前回調査より2ポイント上昇した。総合科学部（旧）が44%と高く、医学科，工学部夜間，および生物資源産業学部が8%と低かった。「総合相談部門（学生相談室）を知らない」と答えた学生は、全体で41%であり、前回調査の40%とほぼ同じであった。



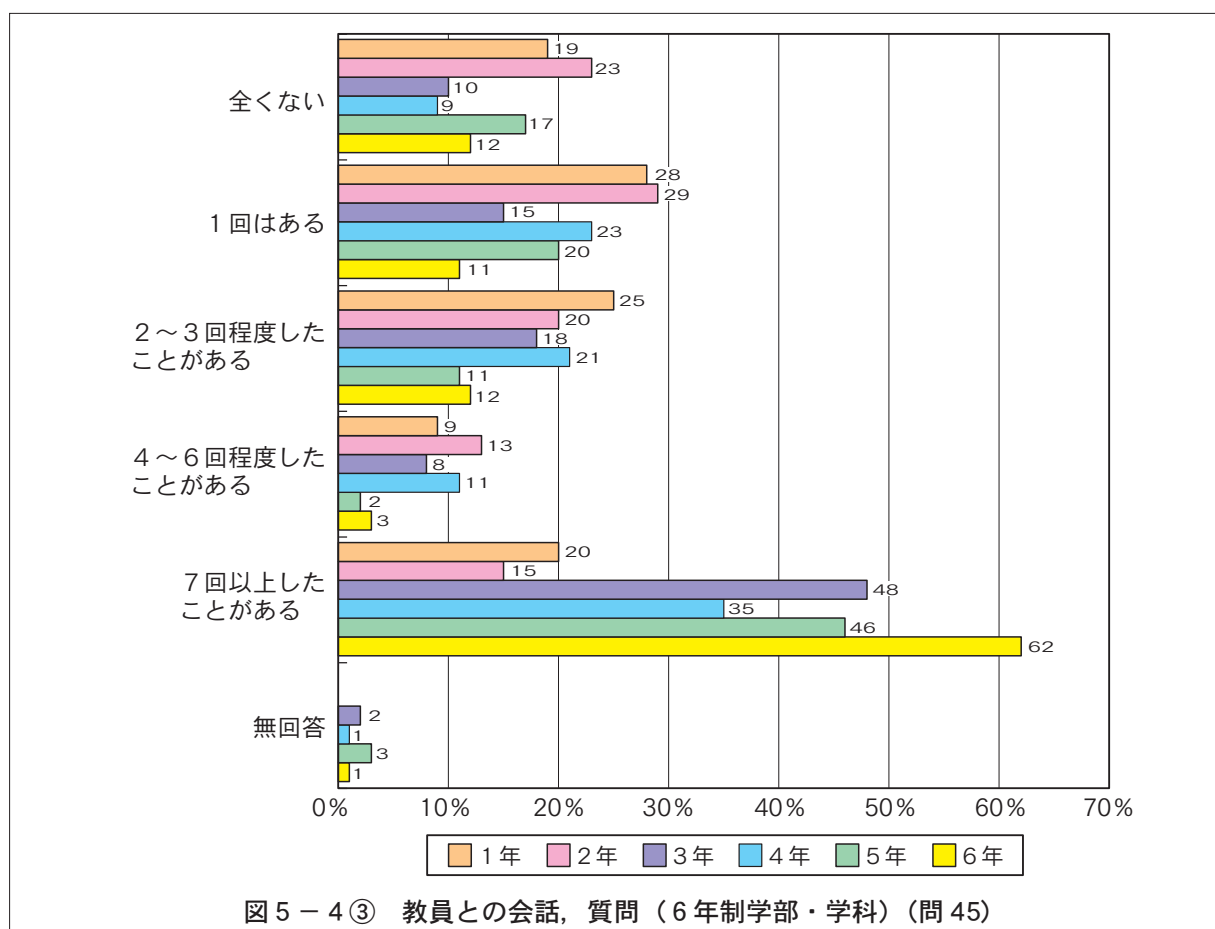
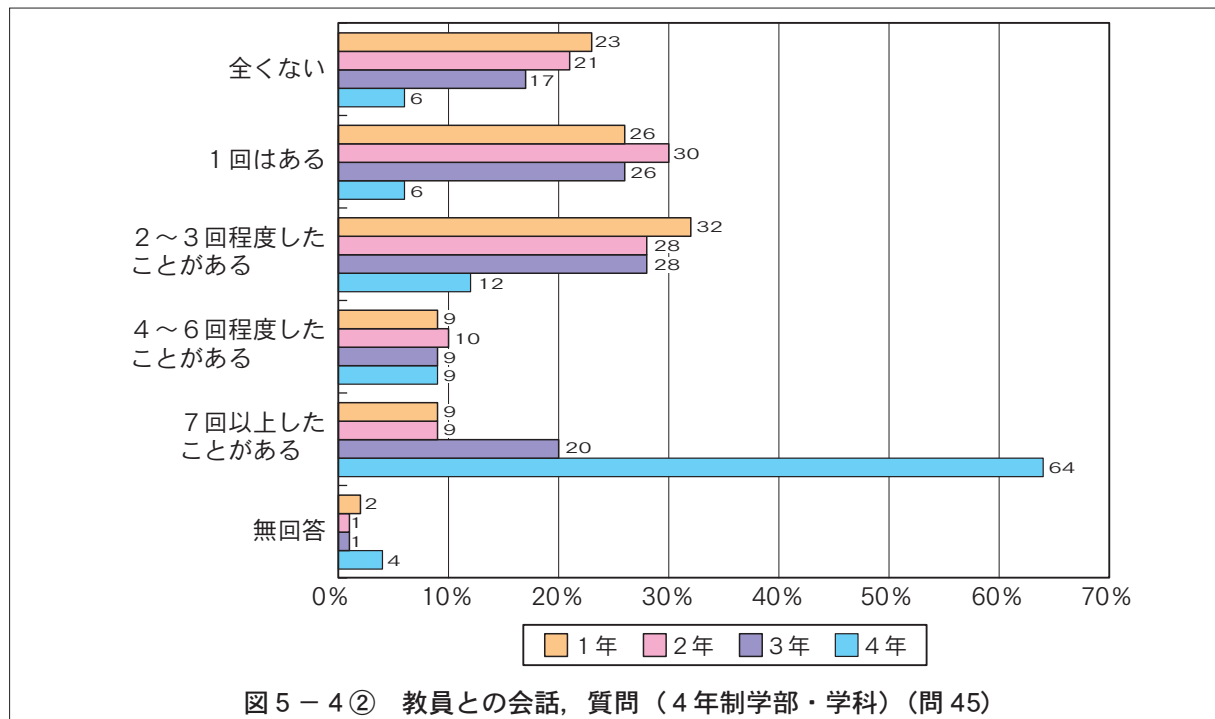
5-4 教職員・友人との交流 (図5-4①~図5-4⑥)

【教員との会話・質問】(図5-4①~図5-4③)

教職員と7回以上会話・質問した学生は、全体では28%であった(前回調査30%)。総合科学部(旧)は56%と高い値であった。クラス担任、学年担任研究指導で教員とのコミュニケーションが図られているものと思われる。「全くない」と答えた学生が全体で16%であり、前回調査の15%とほぼ同じであった。4年制では、4年生で会話回数の増加が顕著であった。6年制においても4年制に比べると学年間の差の開きは小さいものの、同様の傾向が見られた。学年が上がるにつれて研究やゼミナールなど指導

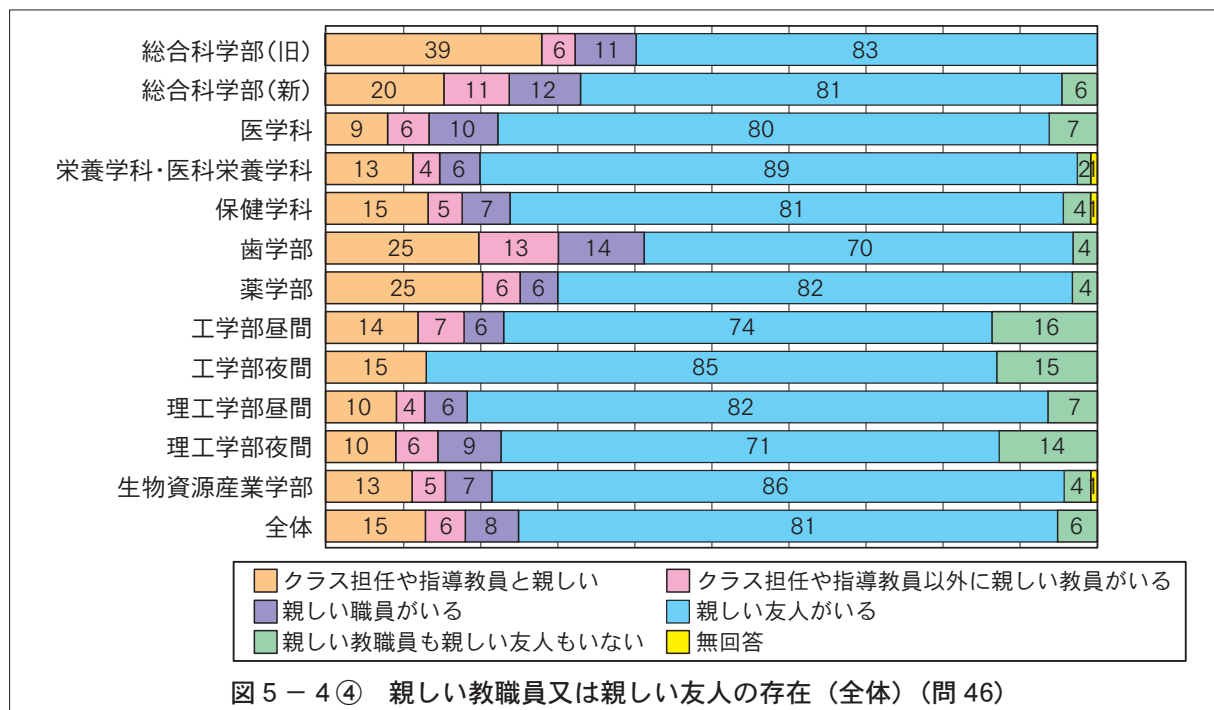


がより個別化していくためと思われる。学生の中には、教員とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生も含まれており、対話形式の授業、合宿形式の授業、体験授業、演習、実習を通じて教員側からの働きかけを強めていくことが望まれる。

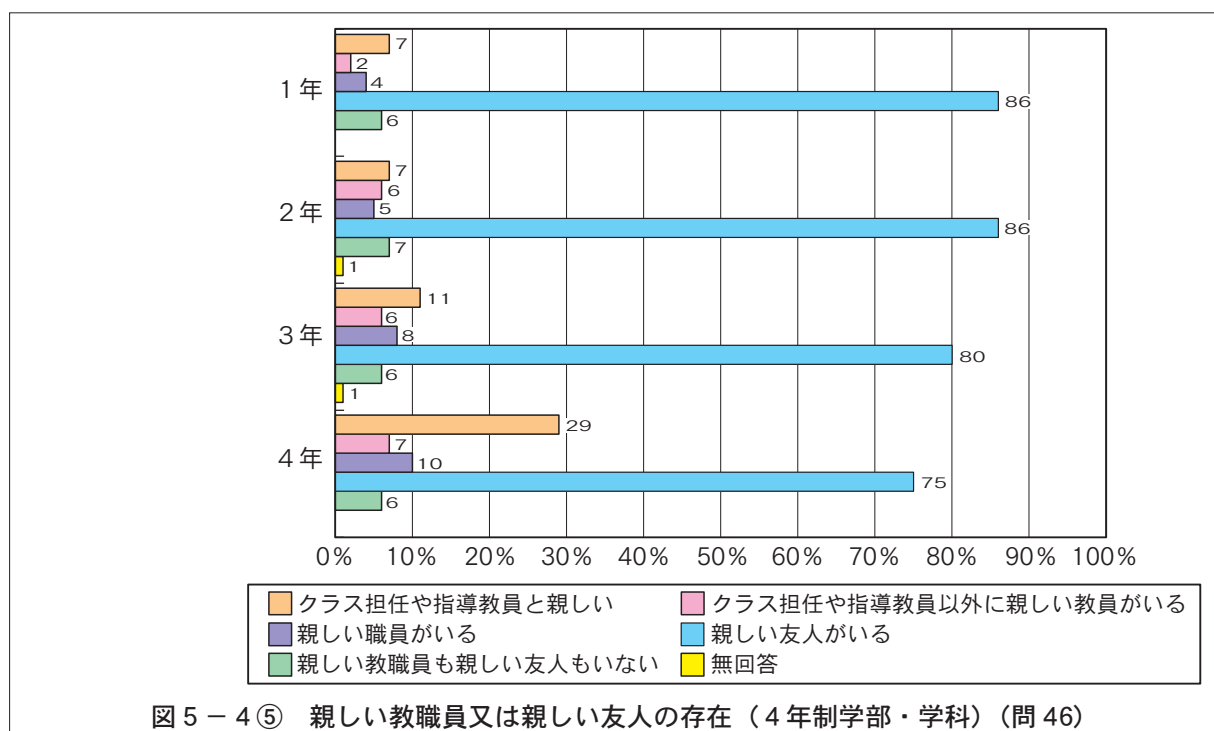


【親しい教職員・親しい友人の存在】(図5-4④～図5-4⑥)

「親しい教職員がいる」と答えた学生は、全体で15%（前回調査21%）であった。総合科学部（旧）が最も高かった。4年制では4年生、6年制では3年生以上になると「親しい教職員がいる」と答えた割合が高くなった。より長い期間での交流の成果であることが考えられる。担任制全学導入のガイドラインが制定され、次年度から全学部で担任制の運用が統一されることになっているので、さらに学生と教職員の距離が縮まることが期待される。親しい教職員も友人もないと回答した学生は、全体で6%と前回調査の5%とやや低下し、親しい友人がいると回答した学生が全体で81%と前回調査の78%より上昇した。



(※問46は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問46は複数回答のため合計は100%にはならない。)

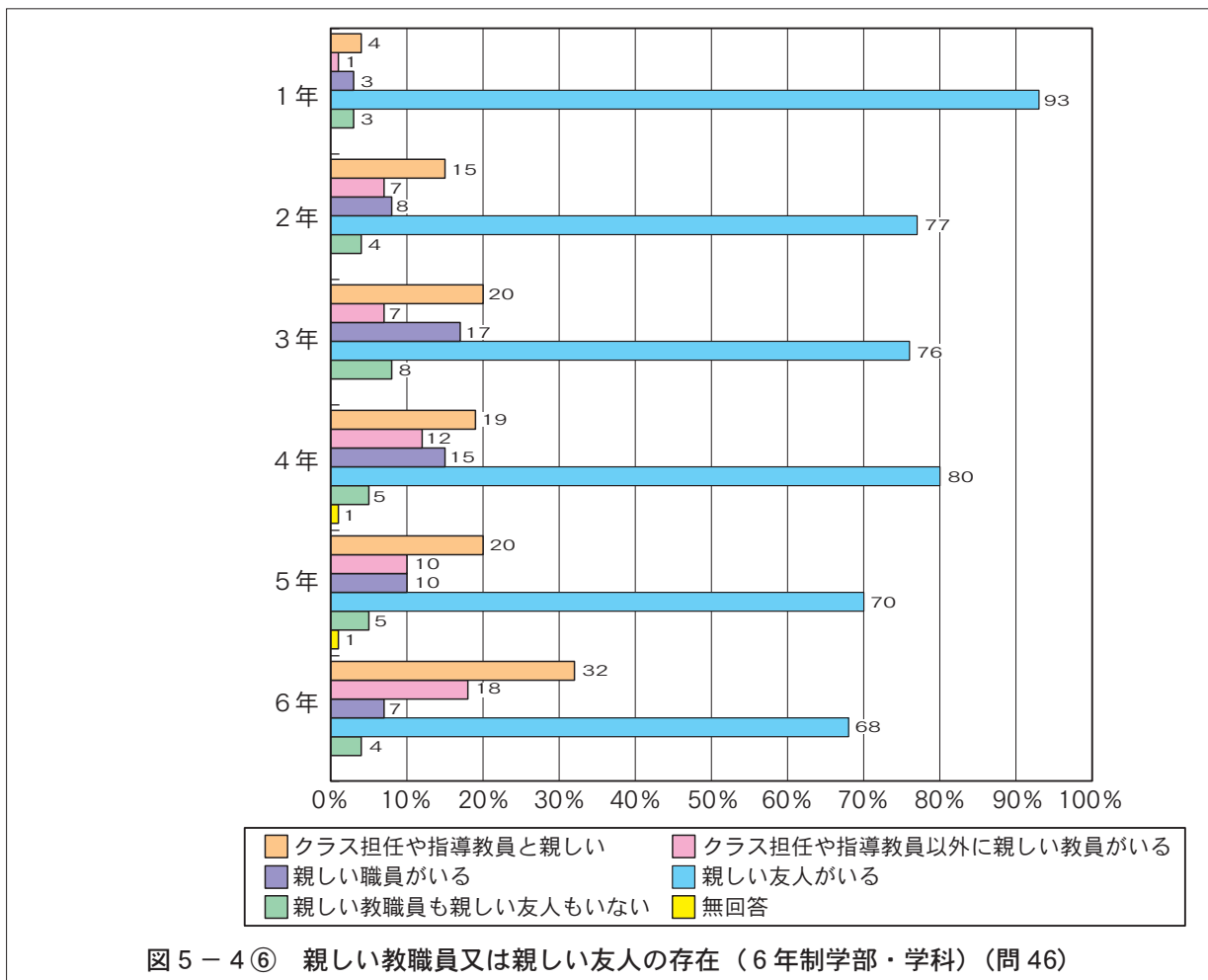


図5-4⑥ 親しい教職員又は親しい友人の存在（6年制学部・学科）（問46）

（※問46は複数回答のため合計は100%にはならない。）

5-5 大学事務室の対応への満足度（図5-5）

全体では、「満足」と「ほぼ満足」とを合わせると74%であり、前回調査の45%に比べるとかなり高くなった。大学職員が丁寧で細やかな対応を日頃から心がけてきたあらわれと考えられる。「やや不満足」と「不満足」を合わせた割合は、全体では26%、学部・学科別では工学部夜間が最も高く46%であった。満足度が低い学部・学科では改善策を検討する必要がある。

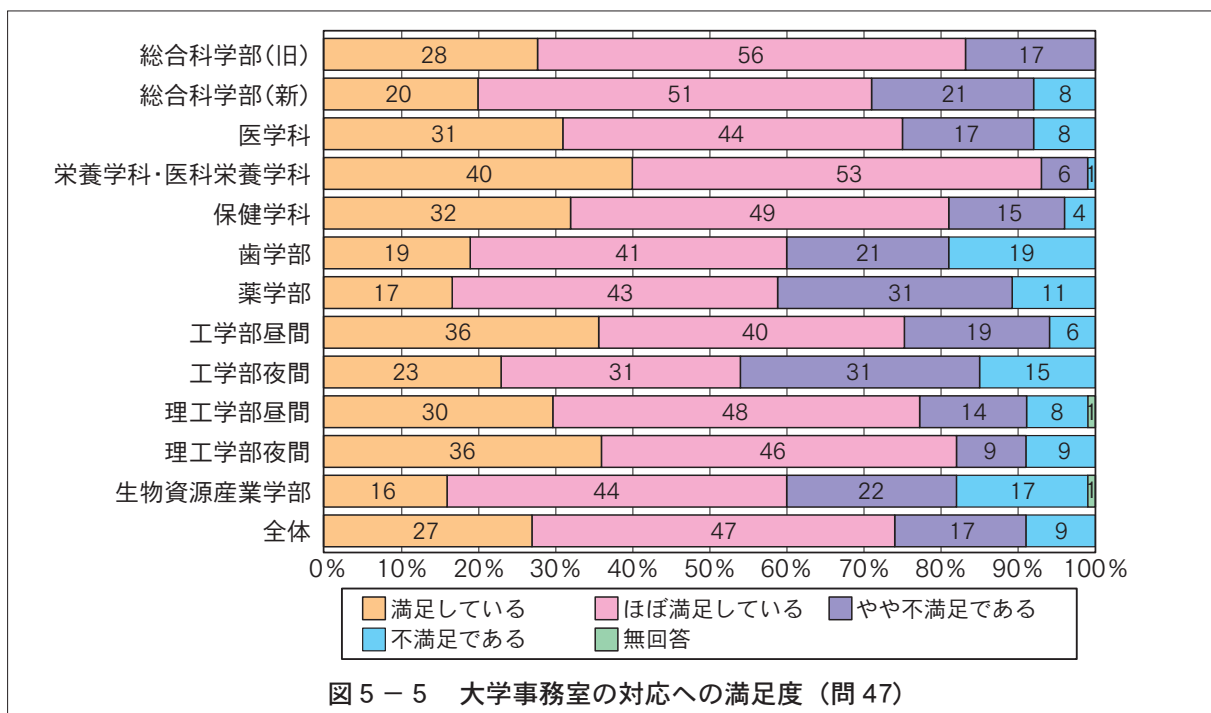


図 5-5 大学事務室の対応への満足度 (問 47)

5-6 盗難等犯罪被害 (図 5-6①~図 5-6⑤)

【盗難等犯罪被害】 (図 5-6①~図 5-6③)

盗難の被害にあったと回答した学生は、全体の13%であった。特に総合科学部(旧)では33%と高かった。男子は女子よりも被害にあった割合が高い。これは女子の方が警戒感を高めているからと推測される。今後は男子には防犯広報を強化し、被害を予防する生活態度を固めるよう指導することが必要である。強盗の被害は理工学部夜間が4%と高かった。強盗の被害比率も男性の方が女性より高かった。また、痴漢にあった学生の割合は全体の1%であった。医学科女子で3%とあり、防犯教育を強化する必要がある。

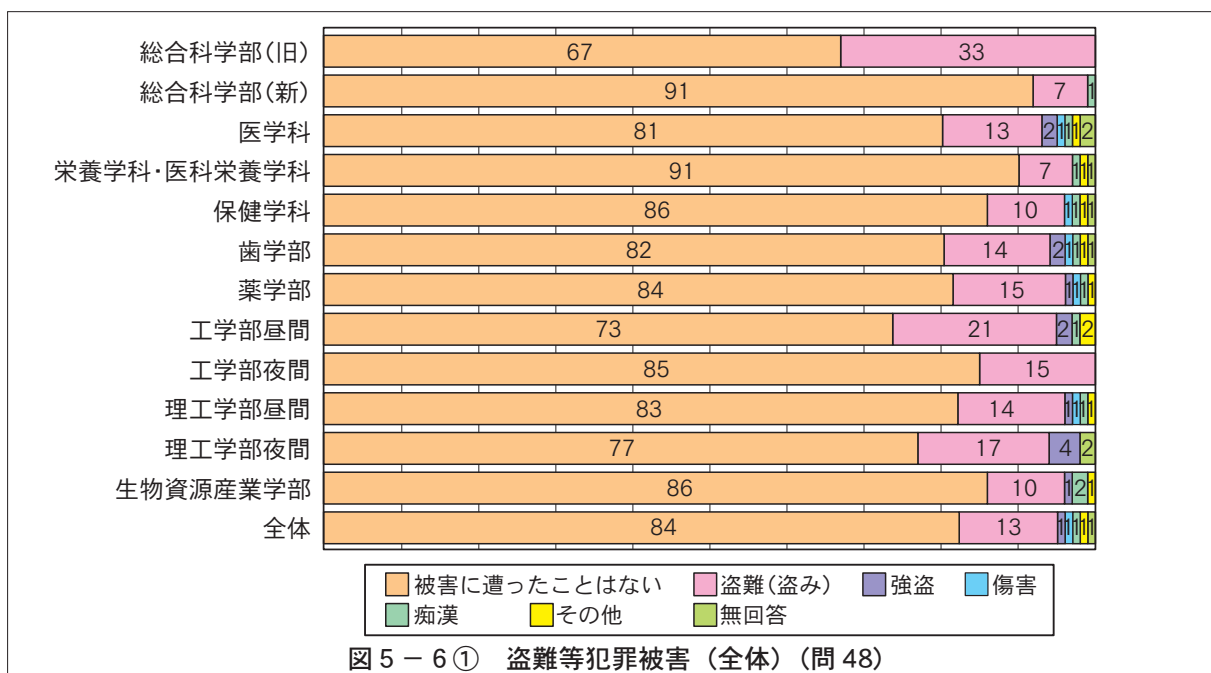
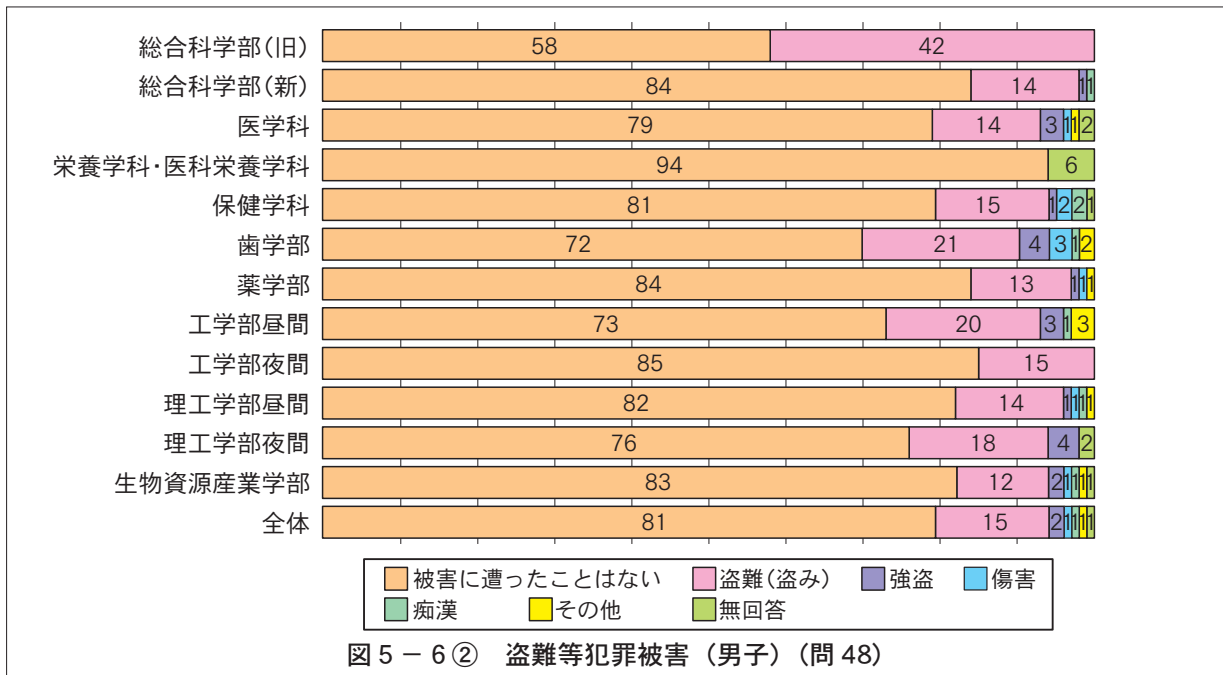
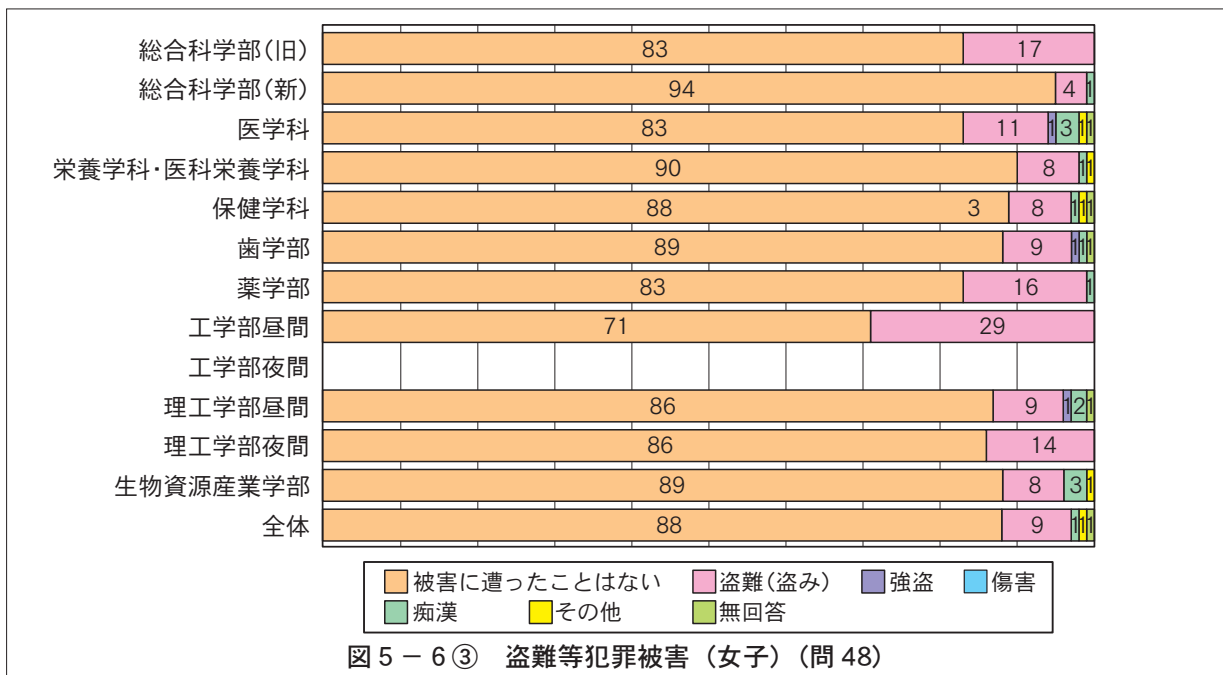


図 5-6① 盗難等犯罪被害 (全体) (問 48)

(※問 48 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)



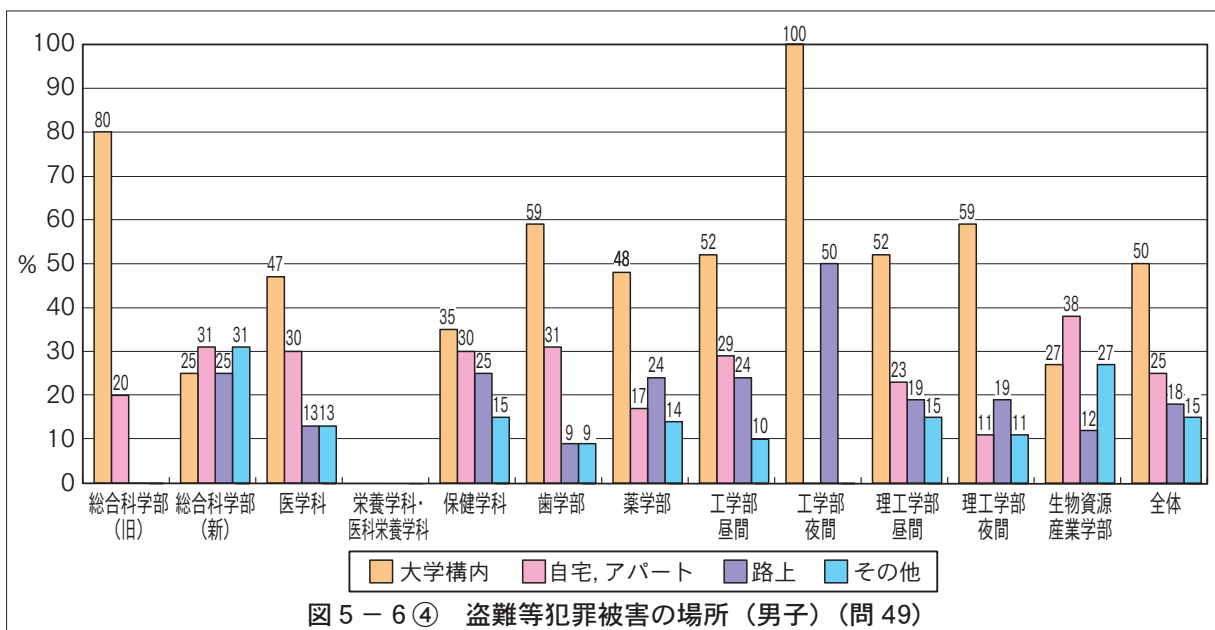
(※問 48 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)



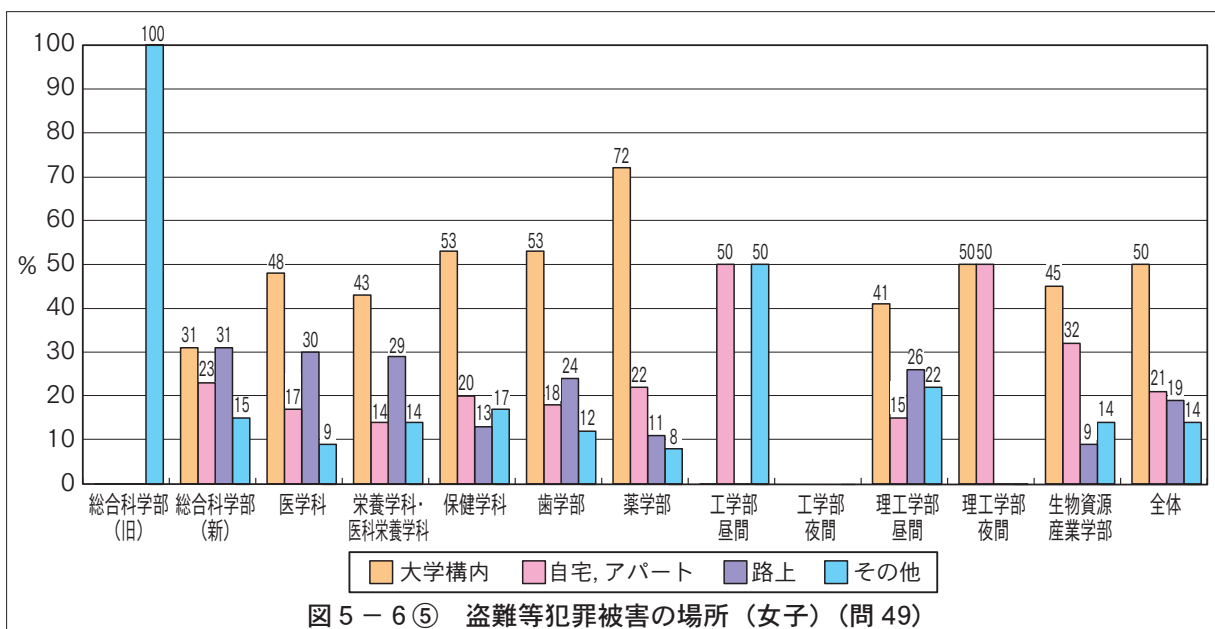
(※問 48 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

【盗難被害場所】(図 5 - 6 ④, 図 5 - 6 ⑤)

前回調査, 前々回調査同様, 大学構内と答えた割合が男女共, 最も高かった。今回の調査では男子も女子も全体の 50%が大学構内と答えている。今後は防犯教育を徹底し, 構内に防犯意識を高める啓発ポスターを多数掲示するなどの対策が求められる。また, 大学構内で起こった盗難等犯罪被害については, 即座に全学に通知し, 注意を呼びかけて再発防止を図るべきである。また, 大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。学生委員会委員や学生支援の担当教職員が適切に犯罪被害に対応できるよう定期的な研修を行う必要がある。



(※問 49 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

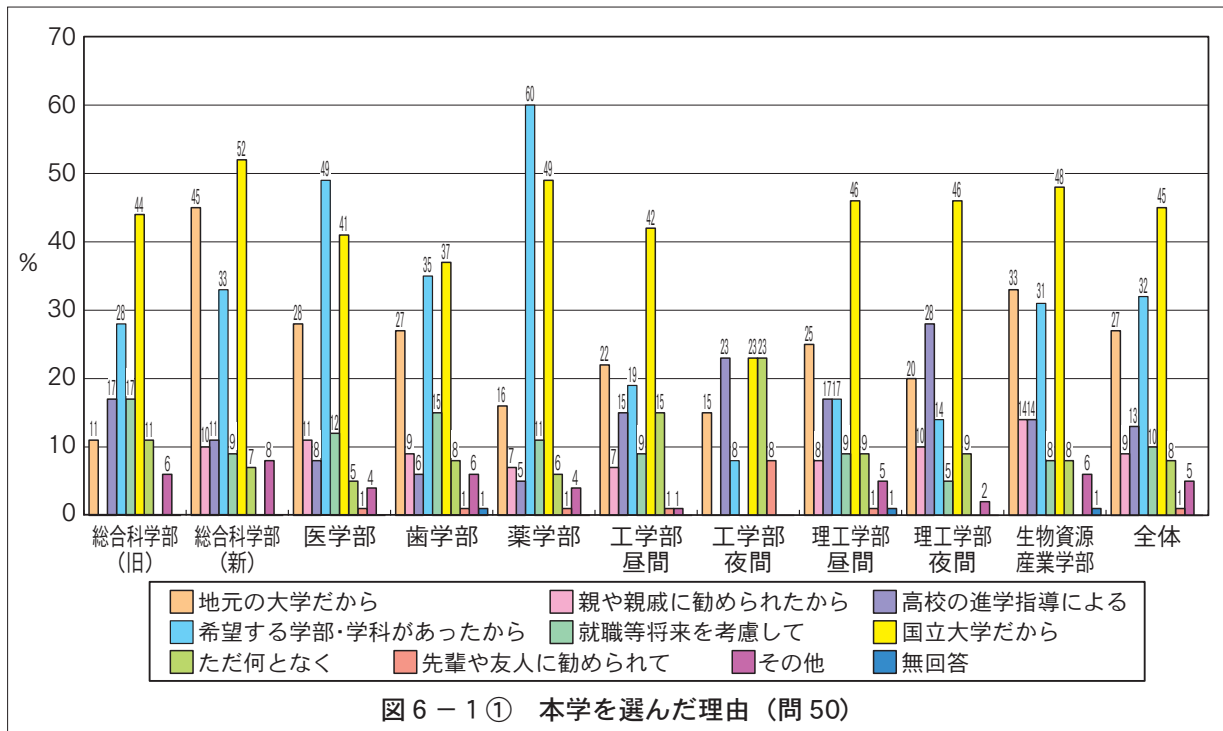


(※問 49 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

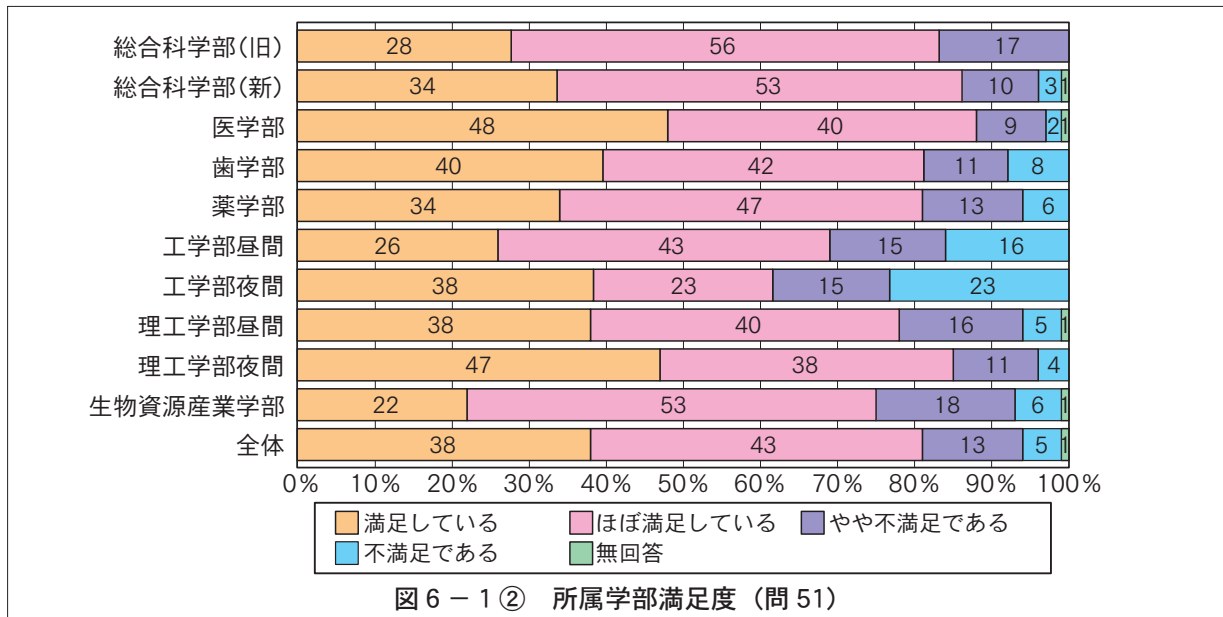
第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

本学を選んだ理由(複数回答可)は全体で見ると、「国立大学だから」が最も多く(45%)、続いて「希望する学部・学科があったから」(32%)、「地元の大学だから」(27%)となっており、前回調査と同様の傾向である(図6-1①)。学部別に見ると、医学部と薬学部を除いて「国立大学だから」との回答が最も多く、おおむね40%を上回る割合となっている。一方、医学部と薬学部では「希望する学部・学科があったから」との回答が最も多く(医学部:49%、薬学部:60%)、歯学部でも「希望する学部・学科があったから」(35%)が「国立大学だから」(37%)、とほぼ同じであり、医療系3学部では入学



(※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。)

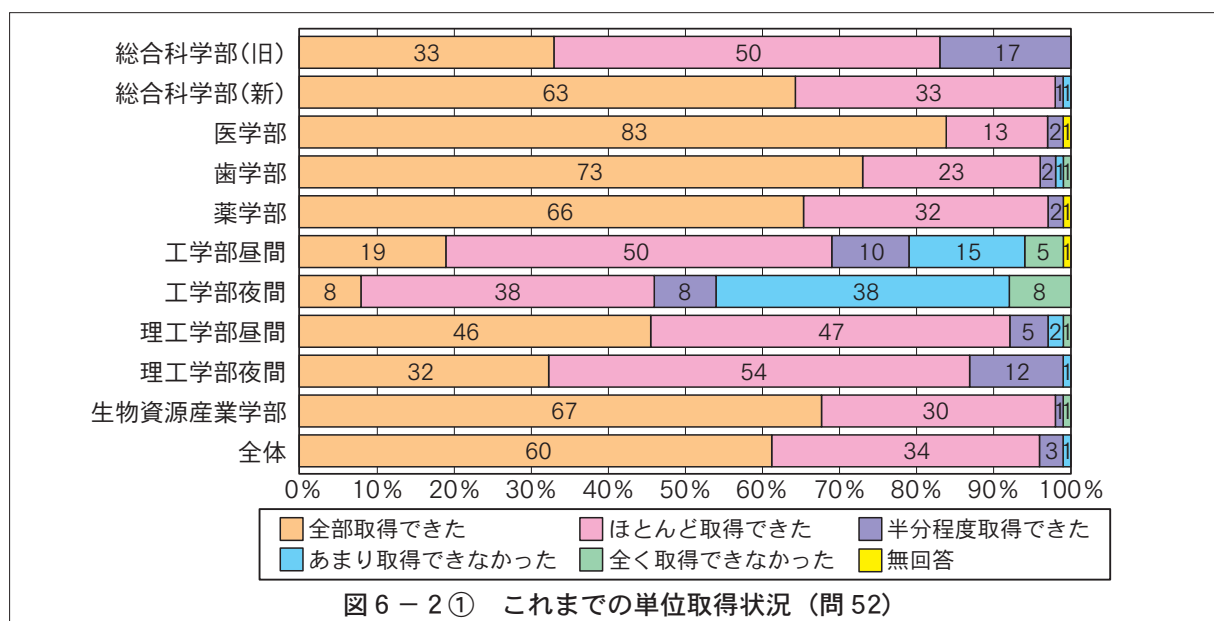


時における目的意識の高さがうかがわれる。また、総合科学部（新）と生物資源産業学部では「地元の大学だから」が比較第二位で他学部比べて多く（総合科学部（新）：45%，生物資源産業学部：33%），地域のニーズに応えたコースやカリキュラム構成が好感を持って受け止められていることが伺える。

所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は全体では38%であり、「ほぼ満足している」と答えた43%と合わせて81%と前回調査（66%）より大幅に増加した（図6-1②）。一方、「やや不満足である」は13%、「不満足である」は5%となっている。これは、前回調査にあった「どちらともいえない」という選択肢を削除した結果（前回調査では21%），そこを選択していた層が「ほぼ満足」（32%→43%）と「やや不満足」（6%→13%）に分かれた影響と思われる。学部別に見ると、工学部を除いて「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答がいずれも70%以上を示し、80%以上を示す学部も多く、所属学部には満足しているといえる。

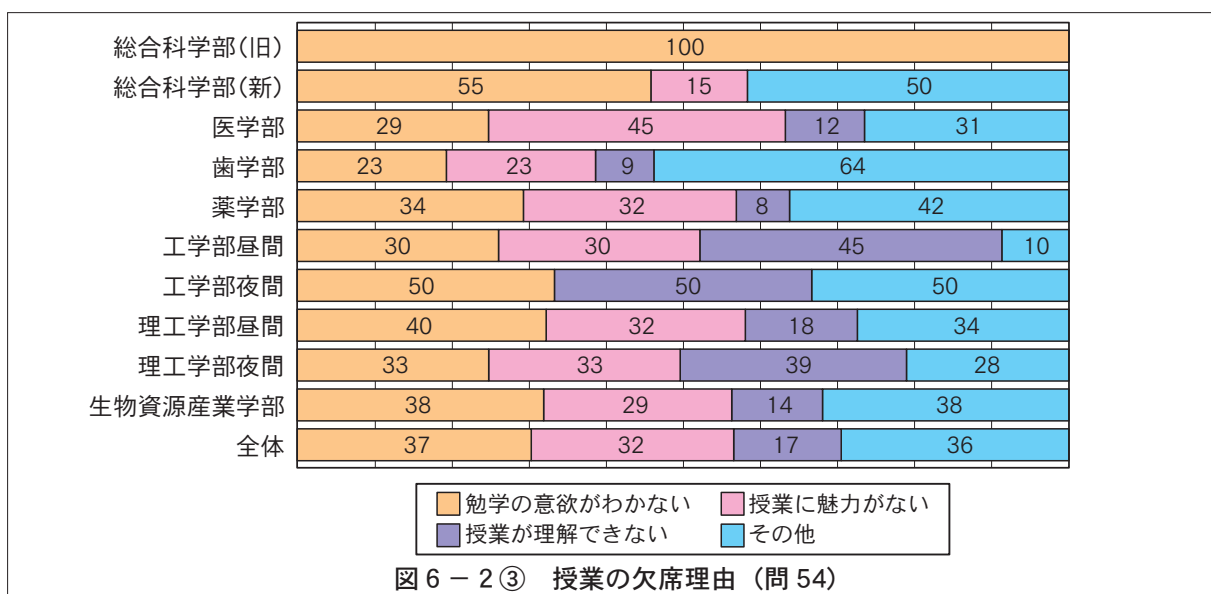
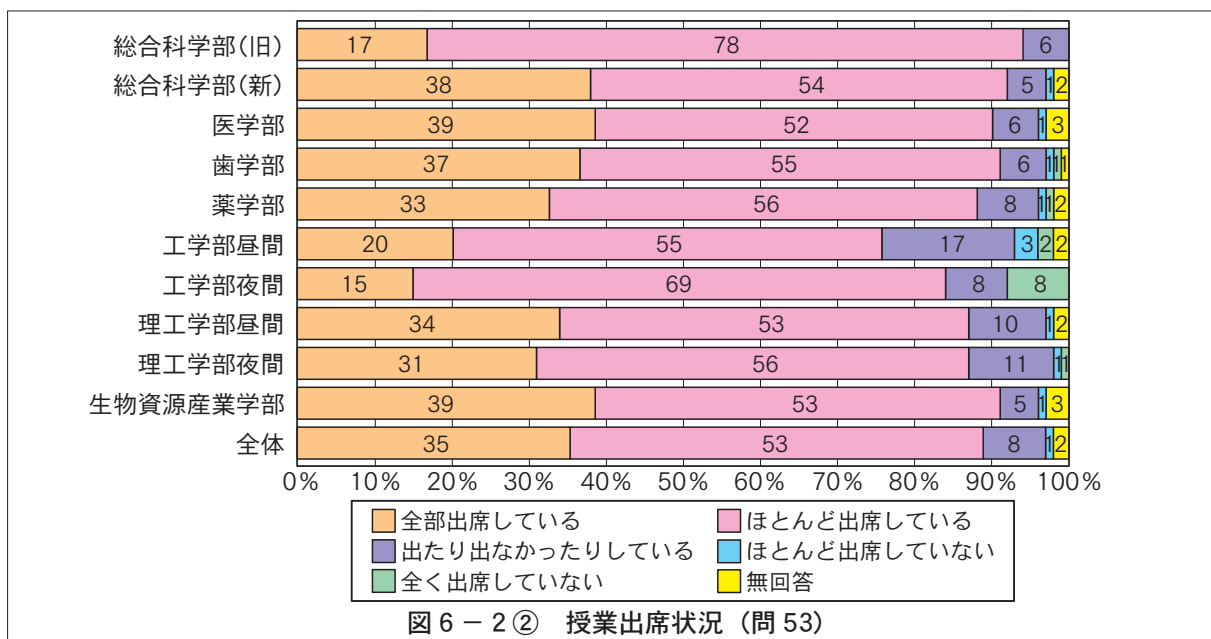
6-2 単位取得状況と授業出席状況（図6-2①～図6-2③）

図6-2①より、これまでの単位取得状況について全体では、「全部取得できた」（60%）または「ほとんど取得できた」（34%）と回答した学生の割合は94%であり、前回調査（92%）と同じであった。学部別に見ると、移行期にある総合科学部（旧）・工学部と理工学部（夜間）を除き、「全部取得できた」と「ほとんど取得できた」を合わせた割合はいずれも90%を上回っており、単位の取得状況は概ね良好と言える。理工学部（夜間）においてもその割合は86%に達している。



また、授業の出席状況について、図6-2②より、全体では「全部出席している」（35%）または「ほとんど出席している」（53%）と回答した学生の割合は、前回調査と同様の88%であった。学部別に見ると、「全部出席している」または「ほとんど出席している」と回答した学生が全体より多いのが、総合科学部（旧：95%，新：92%），医学部（91%），歯学部（92%），薬学部（89%），生物資源産業学部（92%）であり、工学部（昼間：75%，夜間：84%），理工学部（昼間，夜間共に87%）は平均より低い。

一方、授業の欠席理由（複数回答可）については、「勉学の意欲がわからない」が37%、「授業に魅力がない」が32%、「授業が理解できない」が17%と、順位については前回調査とほぼ同様である（図6-2③）。ただし、その他が36%と前回調査の29%から増えており、最近の学生の多様な趣向と生活スタイルとも関連して欠席理由も多様化しているのかも知れない。学部別では、医学部で「授業に魅力がな



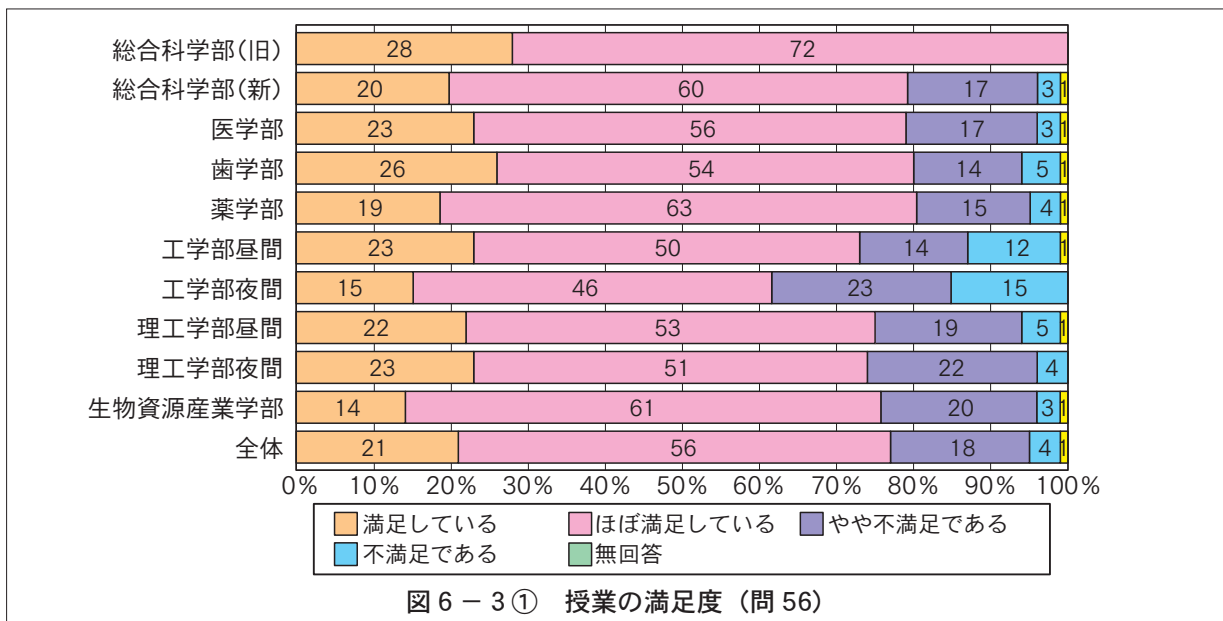
(※問 54 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

い」が、工学部（昼間、夜間）や理工学部（夜間）で「授業が理解できない」が多いのが目立つ。教員には、学生の興味を掻き立て、より分かりやすい授業を行うための一層の努力が望まれる。

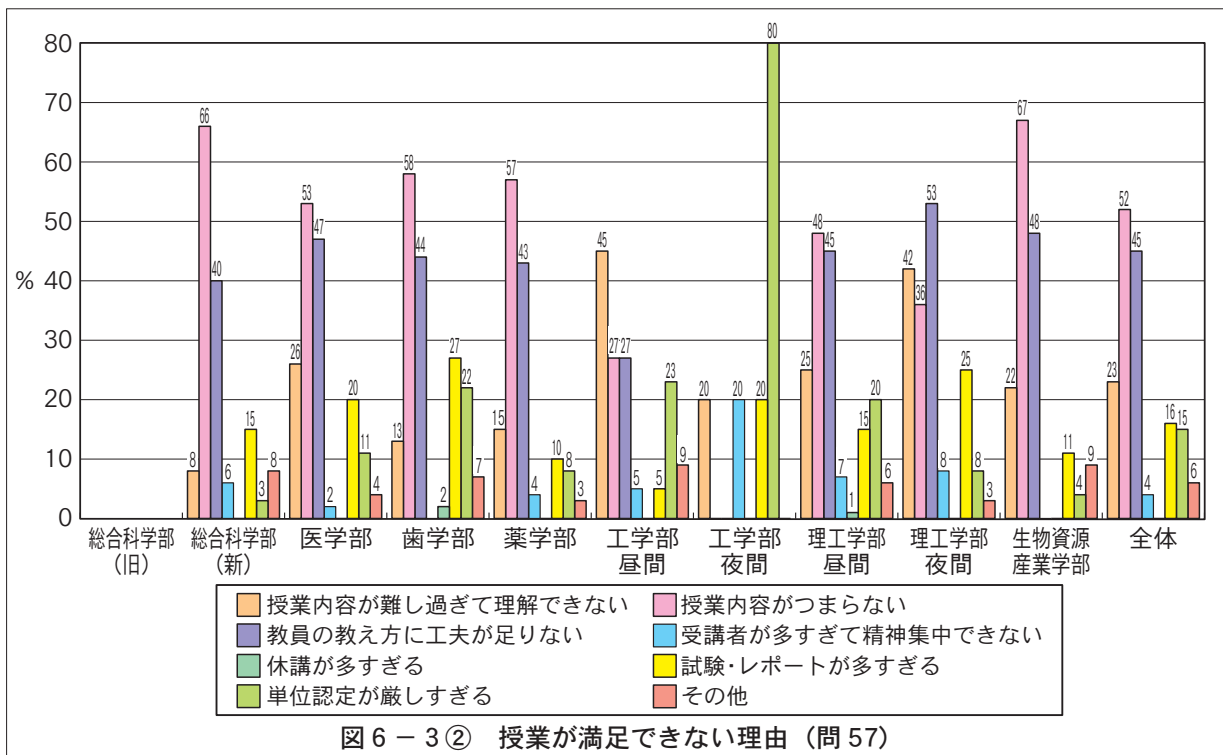
「授業が理解できない」と答えた学生に、授業が理解できなかった場合の対応法を問 55 とした。103 名からの回答 116 件について、「教室で質問する」：42%、「教員に後で個人的に質問する」：8%、「先輩・友人と議論・相談する」：32%、「参考書等で調べる」：10%、「気になるけど何もしない」：11%、「気にしない」：11%となり、前回調査で 0% であった「教室で質問する」が大幅に増加し、それに伴い「気になるけど何もしない」、「気にしない」等の無対応の学生（前回調査では合わせて 34%）が減少した。教室内で質問しやすい雰囲気を作るなど教員が工夫した効果が表れているものと思われるが、理解できない点をそのまま放置させないような工夫が引き続き必要である。

6 - 3 授業の満足度 (図 6 - 3 ①, 図 6 - 3 ②)

図 6 - 3 ①より、受講している授業への満足度に対する設問に対して、全体では「満足している」



(21%)と「ほぼ満足している」(56%)を合わせて77%となっている一方、「やや不満足である」が18%、「不満足である」が4%となっている。この設問でも、前回調査にあった「どちらともいえない」との選択肢を削除した結果(前回調査で28%),そこを選択していた層が「ほぼ満足」(41%→56%)と「やや不満足」(7%→18%)に分かれた傾向が読み取れる。学部別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は、総合科学部(旧,新),医学部,歯学部,薬学部で全体平均を上回っており、一方工学部(昼間,夜間),理工学部(昼間,夜間),生物資源産業学部で下回っているが、工学部(夜間)を除いておしなべて70%を超えており、概ね満足していると思われる。



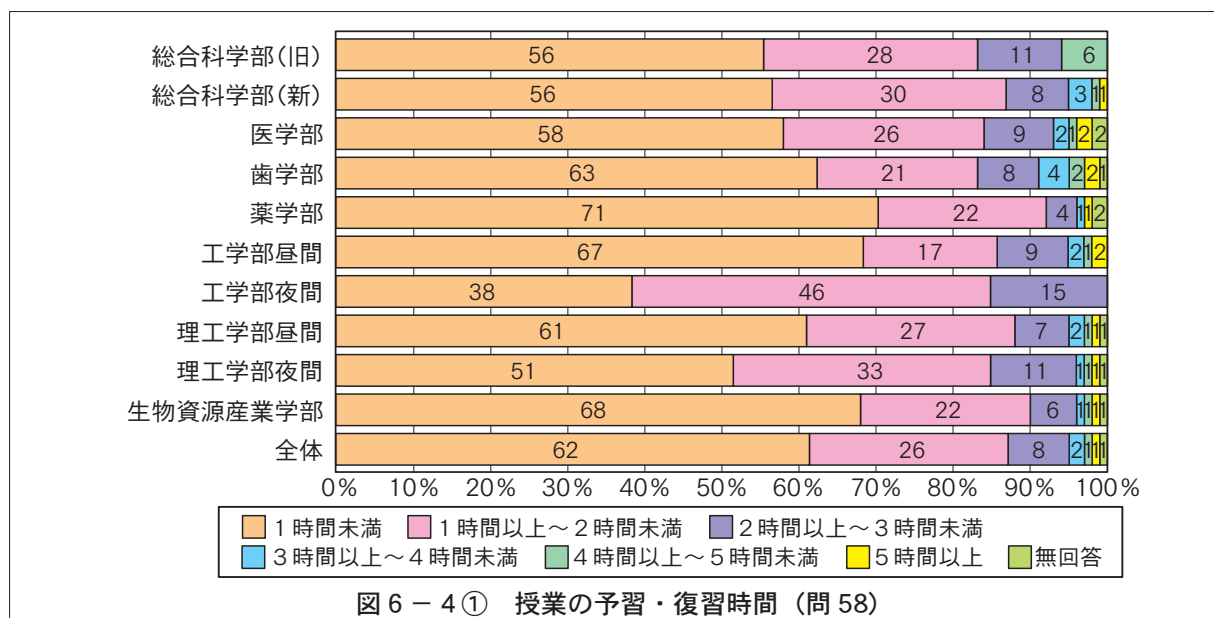
(※問 57 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

授業が満足できない主な理由(複数回答可)については、「授業内容がつまらない」が最も多く(52%),「教員の教え方に工夫が足りない」が45%、「授業内容が難し過ぎて理解できない」が23%と、前回調査(授業内容がつまらない:50%,教員の教え方に工夫が足りない:39%,授業内容が難し過ぎて理解

できない：23%）とほぼ同様であるが、「内容がつまらない」、「教え方に工夫がない」が微増していることは、アクティブ・ラーニングの導入やデジタル・コンテンツの利用など、様々な工夫がなされているにも関わらず、座学を主体とした講義がまだまだ多いことへの改善要望とも受け止められる。学部ごとの回答分布については、総合科学部（新）と歯学部において「試験・レポートが多すぎる」が3位となった他は、順位に変動はあるが概ねこの3つが比較上位であった（図6-3②）。

6-4 授業予習復習時間（図6-4①）

授業の予習・復習に費やす1日の平均時間は、「1時間未満」との回答（62%）が最も多く、次いで「1時間以上～2時間未満」が26%、「2時間以上～3時間未満」が8%となっており、前回調査（1時間未満：59%、1時間以上～2時間未満：27%、2時間以上～3時間未満：8%）から予習・復習に費やす時間はさらに微減傾向にある（図6-4①）。各学部とも同様の傾向ではあるが、「1時間未満」と「1時間以上～2時間未満」を合わせた回答が、薬学部で93%、生物資源産業学部で90%と他学部比べてやや多い。工学部夜間と理工学部夜間では「1時間以上～2時間未満」の回答が33～46%と他学部よりやや多い。



6-5 学修支援制度の利用状況（図6-5①～図6-5③）

オフィスアワーについては、全体では23%の学生が「利用したことがある」と答えており、前回調査（22%）と同様の結果である（図6-5①）。一方で、「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生（31%）も前回調査（32%）と同様であり、オフィスアワーの周知が未だ進んでいないことが伺われ、周知へ向けた一層の取り組みが必要である。学部別に見ると、前回調査同様、医学部でのオフィスアワー利用状況が他学部比べて極端に低い（利用したことがある：10%）。一方、歯学部では68%に達しており、前回調査（51%）からさらに増加して他学部より圧倒的に高い。歯学部での取組を他学部は参考にすべきであろう。

オフィスアワーを利用しない理由として、「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」（24%；前回調査22%）と「オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる」（9%；前回調査9%）については前回調査とほぼ同様であり、利用しないことについて特に問題は認められないが、「教員に相談する

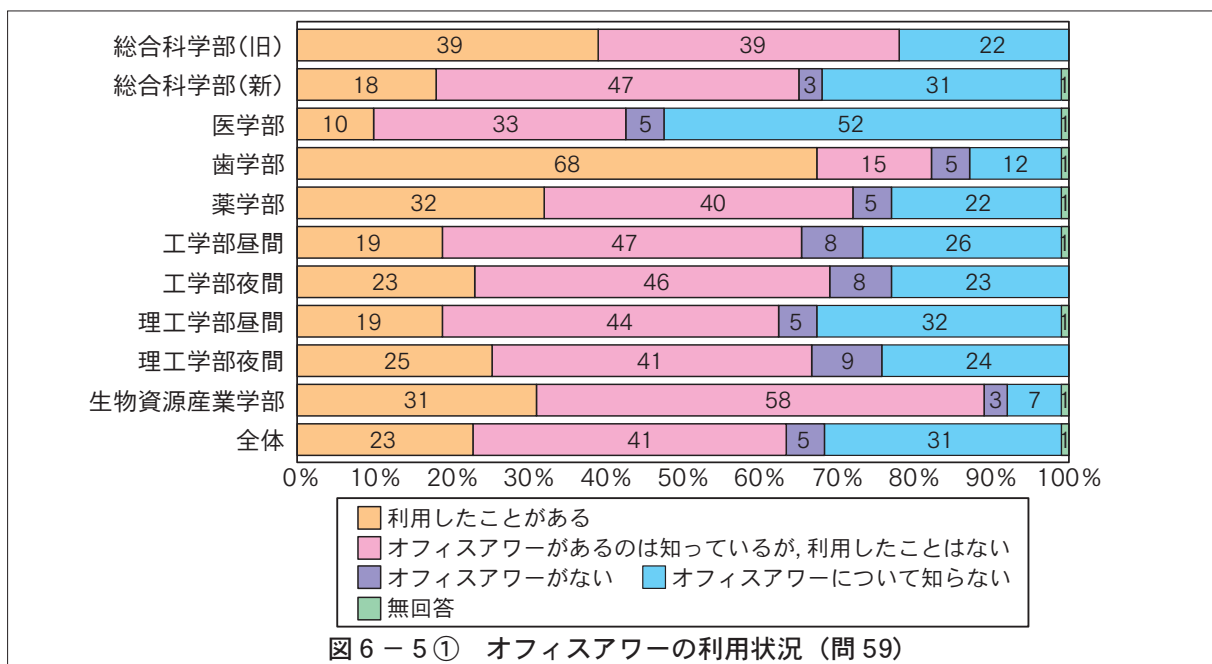


図6-5① オフィスアワーの利用状況 (問59)

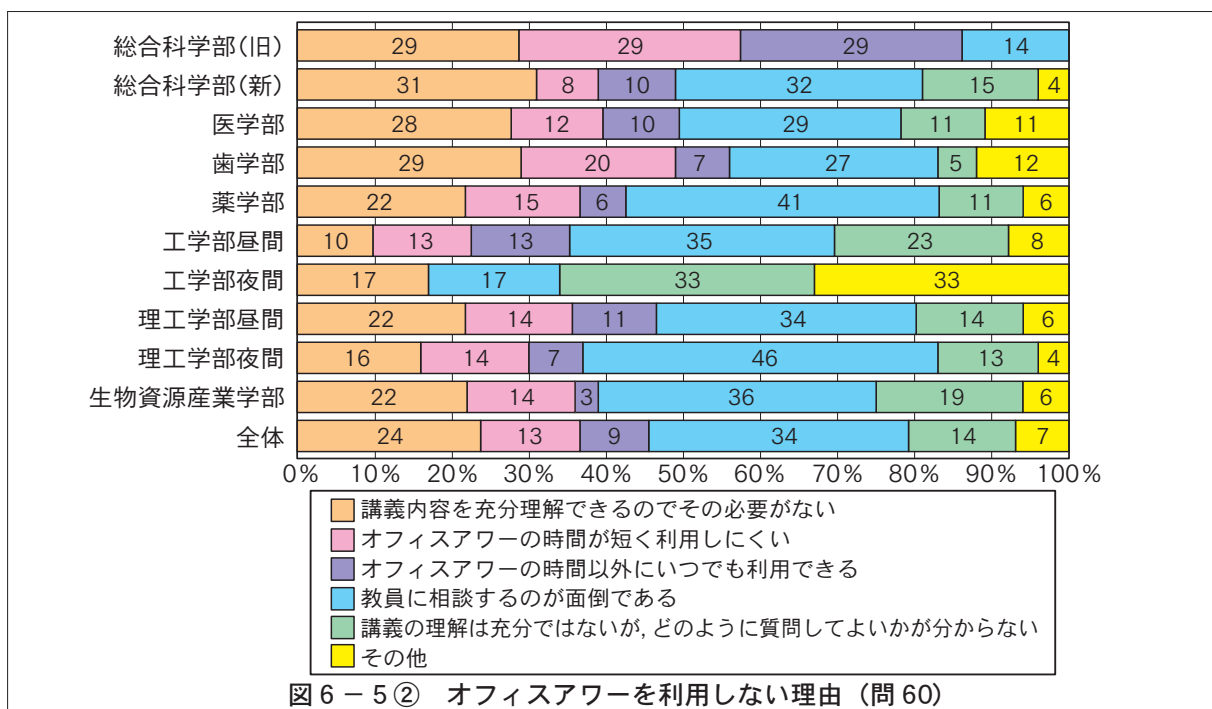
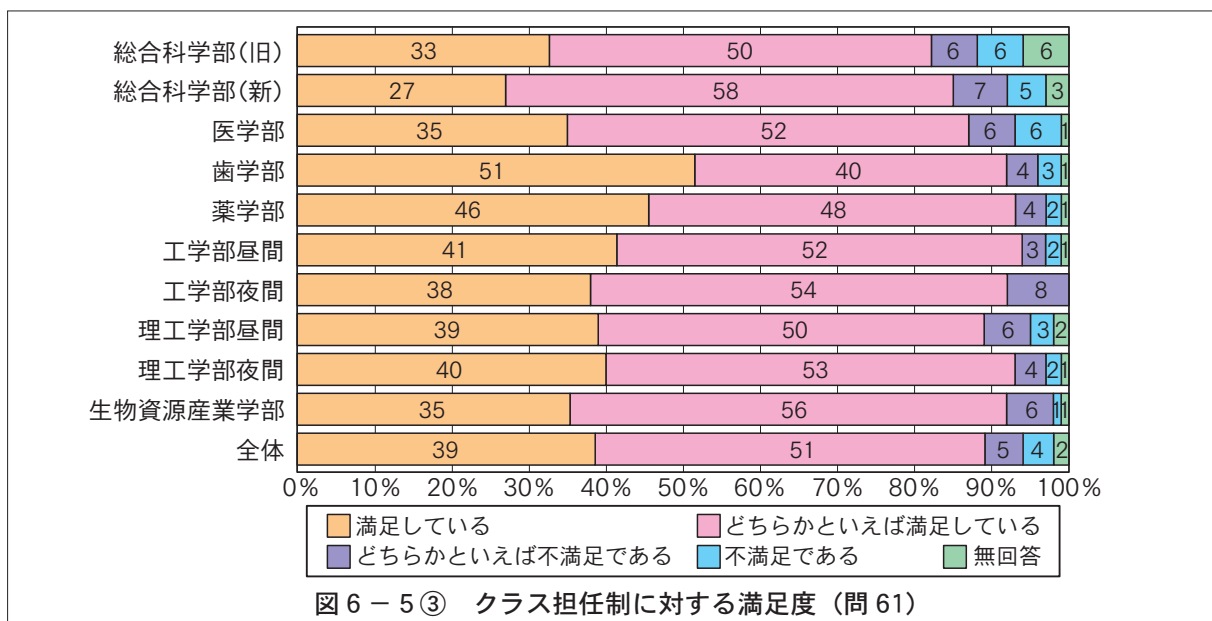


図6-5② オフィスアワーを利用しない理由 (問60)

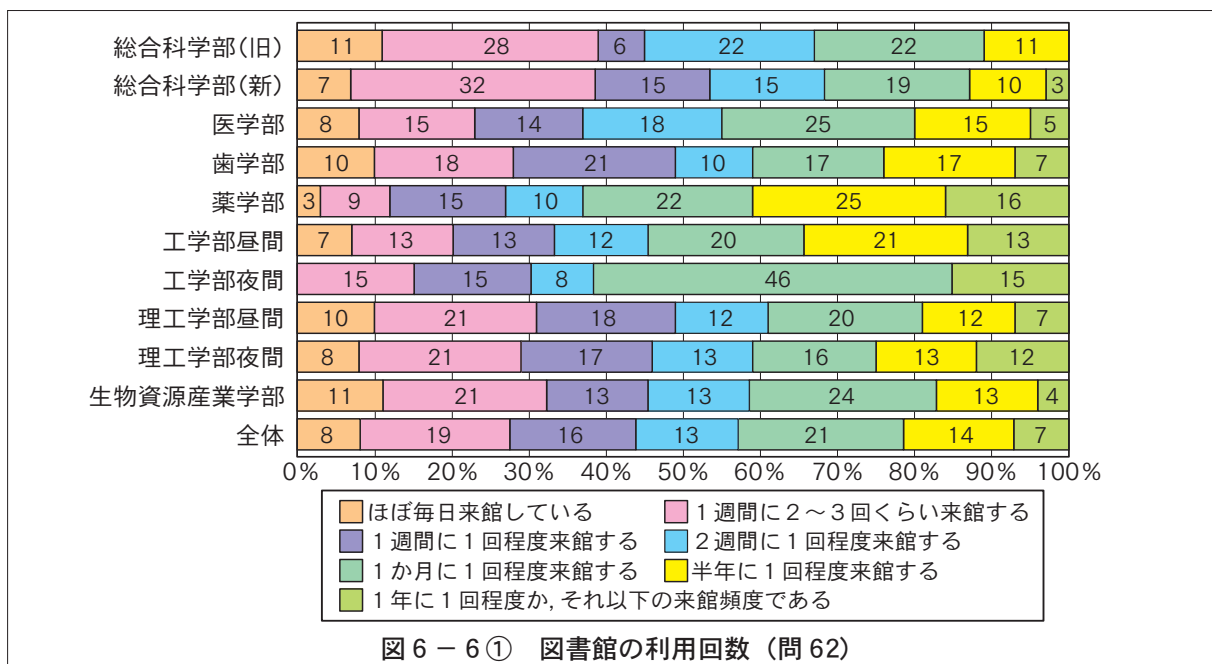
のが面倒である」(34%; 前回調査 34%)と「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」(14%; 前回調査 15%)が前回調査とほぼ同様の割合で存在する点は引き続き改善が必要である(図6-5②)。6-2に示したように、授業中に質問を受けやすい雰囲気を作ることはある程度効果を上げているが、逆に授業が終わってしまえば質問に行くのが面倒くさい、あるいはどう質問して良いか分からないという結果に陥っているとも読み取れる。学生が相談しやすい環境づくりなどオフィスアワーの利用改善に向けた取組が必要なことは毎回指摘される場所ではあるが、つまるところ学生が相談しやすい日頃からの関係づくりが求められるといえる。

クラス担任制度については、全体では「満足している」(39%)と「どちらかといえば満足している」(51%)を合わせて90%が満足との回答であった。学部別に見ると、総合科学部(旧、新)と医学部で「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は全体平均を若干下回ってはいるが、おしなべて80%を超えており、満足度は高い。



6-6 図書館の利用状況 (図 6-6①~図 6-6③)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は全体では43%（毎日：8%，週2～3回程度：19%，週1回程度：16%）であり、前回調査の42%（毎日：7%，週2～3回程度：20%，週1回程度：15%）とほぼ同じ結果であった。学部別に見ると、移行期にある工学部（昼間，夜間）を除いて、医学部（37%；前回調査36%）と薬学部（27%；前回調査25%）で全体平均より下回っている。前回調査において、生物資源産業学部ではこの割合が75%と著しく高いことが興味深い点として指摘されたが、今回調査では他学部とほぼ同様の値（45%）に落ち着いている。



図書館を利用する理由（複数回答可）としては「自習」（62%）が最も多く、次いで「図書等の貸し出し」が37%で、「図書等の閲覧やコピー」と「パソコンの利用」が15%である。総合科学部（旧）で「図書等の貸し出し（78%）」が多い他、生物資源産業学部で「パソコンの利用（28%）」がやや多いことが目を引くが、それ以外については各学部とも同様の傾向であった。学生の多様なニーズに対応した

サービスを引き続き提供されることが望まれる。

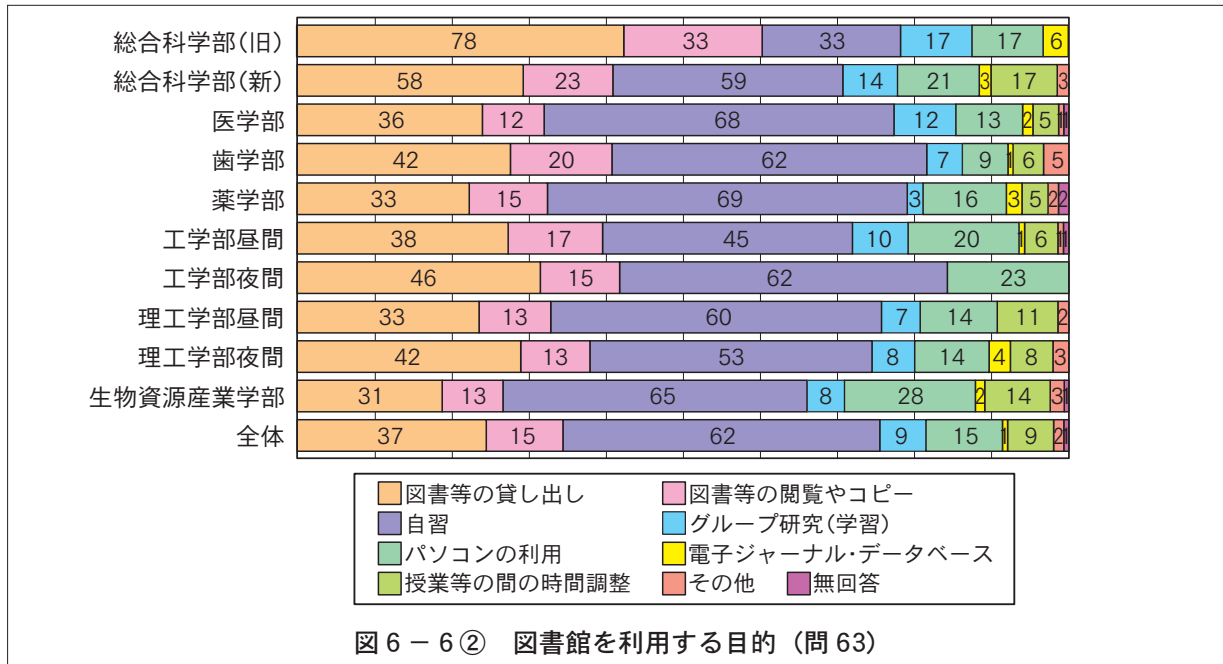


図 6 - 6 ② 図書館を利用する目的 (問 63)

(※問 63 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度について，全体では「満足している」（48%）と「どちらかといえば満足している」（45%）を合わせて 93%が満足との回答であった。学部別で見ても，両者を合わせた割合はおしなべて 90%を超えており，満足度は非常に高い。本アンケート調査結果とは別の情報ソースからとなるが，徳島大学で好きな場所について学生に尋ねた結果でも「図書館」が他を圧して 1 位となっており（「企業と大学 V o 1. 14, 2019 年 12 月号, 21 ページ, はてナニ？」より），サービスに加えて館内の利用しやすさや雰囲気などが好感を持って受け止められていることが伺える。

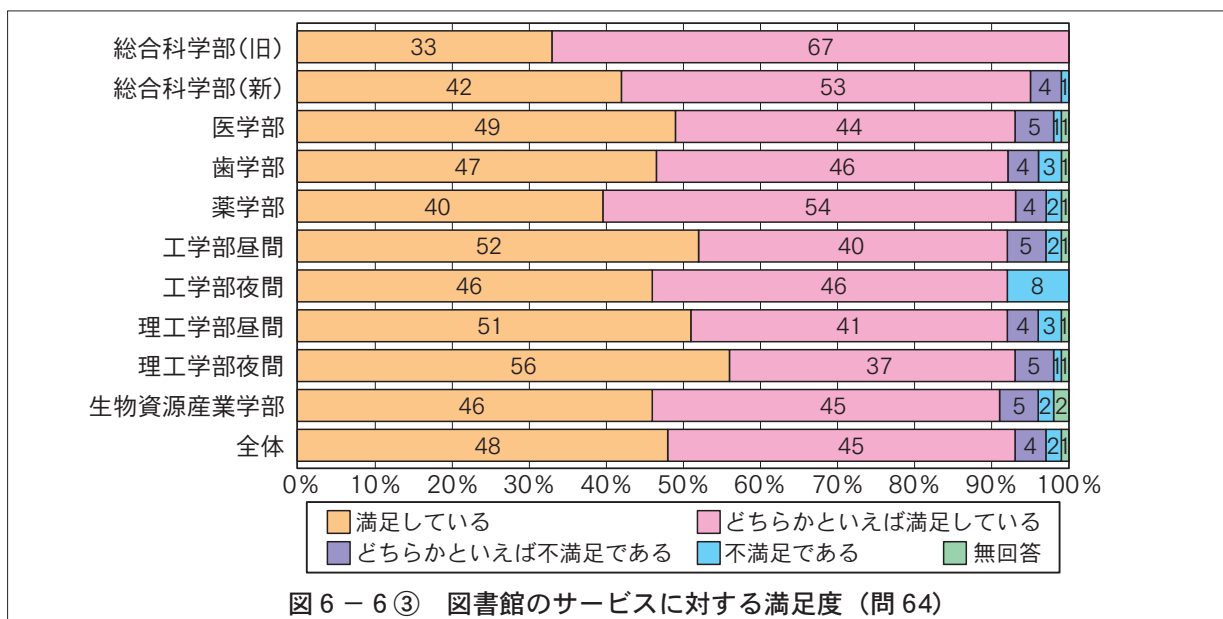


図 6 - 6 ③ 図書館のサービスに対する満足度 (問 64)

第7章 課外活動について

7-1 サークル加入状況 (図7-1①~③)

サークル加入状況は、3,990名の調査をまとめた結果、学内の文化系サークルが20%（男子18%、女子24%）、体育系サークルが41%（男子38%、女子46%）で、この比率は前回の調査とほぼ同様である。サークル加入率は、文化系より体育系が約2倍多い。男女の比率は、女性の方がどちらの系においても男子よりやや高く、この傾向も前回の調査結果と同様であった。学内のサポート系サークルへの加入率は3%である。以前加入していたが現在は加入していない学生の比率は16%で、昨年度よりも微増している。学外のサークルへの加入率は文科系・体育系・サポート系を合わせても2パーセント程度である。

学部別のサークル加入状況は、総合科学部（旧）は73%、総合科学部（新）は64%の学生、医学部は76%、歯学部は76%、薬学部は84%、工学部（旧）昼間は34%、工学部（旧）夜間は23%、理工学部（新）昼間は62%、理工学部（新）夜間は46%、生物資源産業学部は68%の学生がサークルに属している。総合科学部と工学部（理工学部）において、改組前と改組後で差があるが、それぞれ年次の進行とともに在籍者が激減しているため、単純に比較することは適切ではない（今回の回答者数でみると旧総科は18名、工学部（昼間）は86名、工学部（夜間）は13名である。それに対して新総科318名、理工学部（昼間）1,539名、理工学部（夜間）137名）。前回調査と比較して、蔵本キャンパスの医歯薬が常三島キャンパスの総合科学部、工学部（理工学部）よりサークル加入率が高く、工学部（理工学部）の夜間主コースは昼間コースより加入比率が低いという傾向は変わっていない。全く加入したことがない学生の比率（16%）も前回調査とほぼ同様の比率であった。

学年の進行とともにサークル加入率は低下するが、4年生でも加入率は57%と、過半数がサークル活動を行っている。

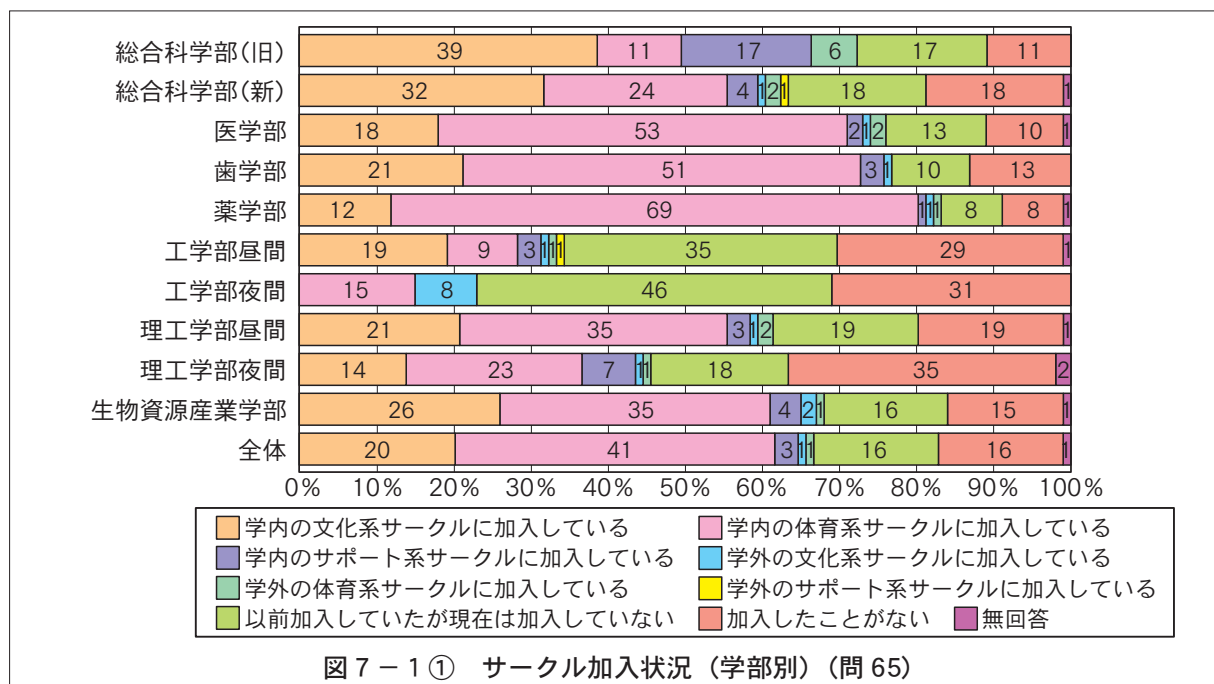
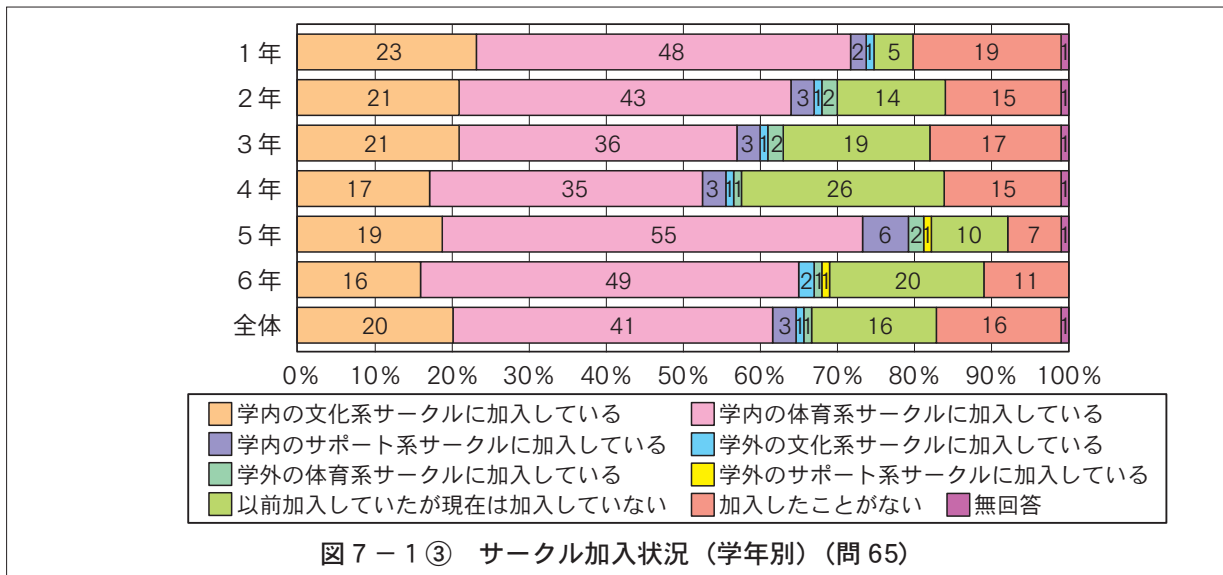
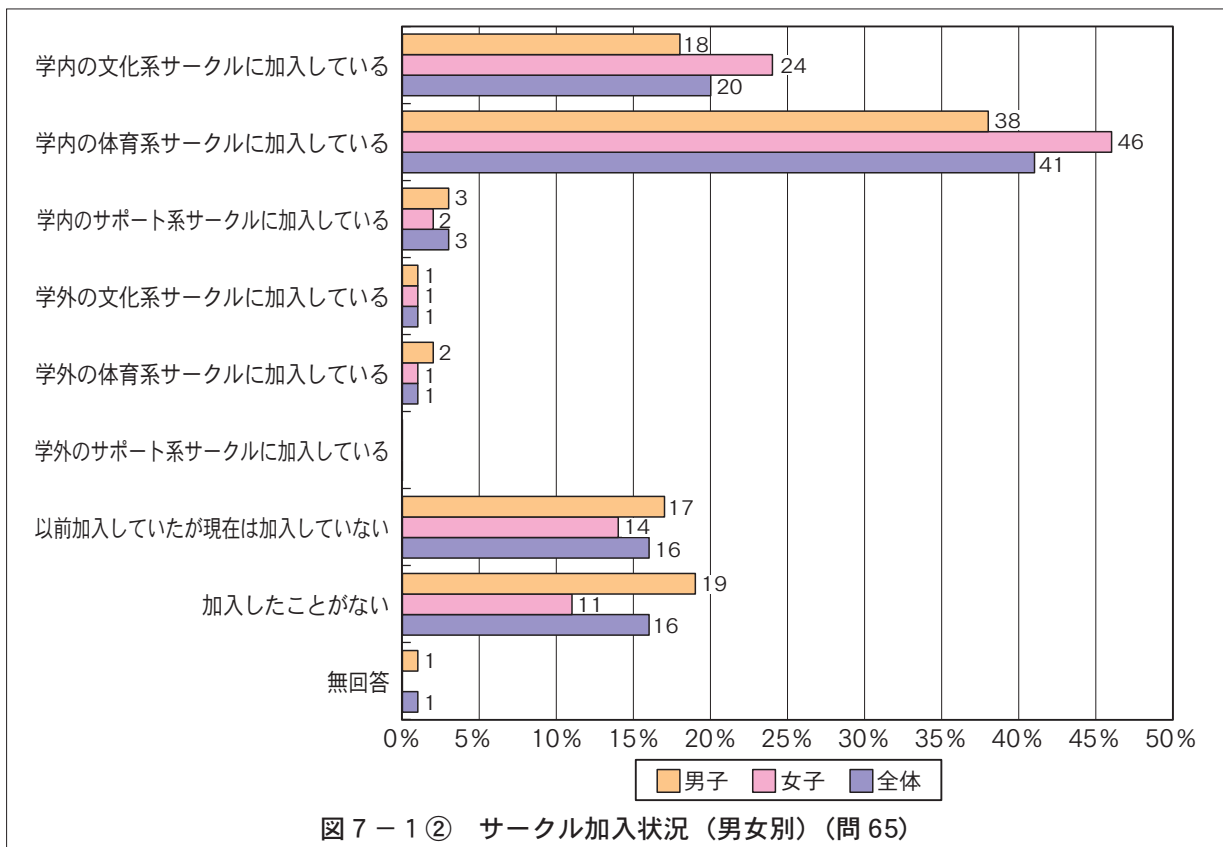


図7-1① サークル加入状況 (学部別) (問65)



7-2 活動状況 (図 7-2 ①~③)

サークル活動状況については、加入している学生の72%の学生が「熱心に活動している」「まあまあ熱心に活動している」と回答した。学部別に見ると、工学部(旧)夜間は全員が「熱心」「まあまあ熱心」と回答したが、回答総数は3名である。そこで、旧課程を除くと、総合科学部(新)が「熱心」「まあまあ熱心」と回答した学生の比率が78%で最も高かった。とはいえ、学部ごとの「熱心さ」の差は大きくはなく、いずれの学部も70%前後の学生が熱心に取り組んでいるといえる。

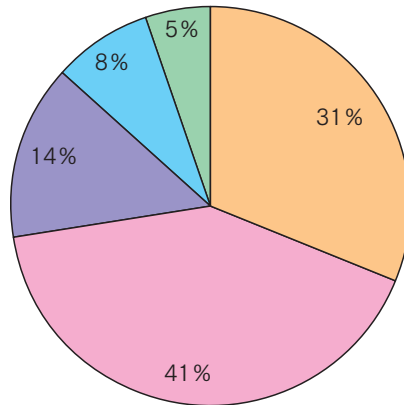


図7-2① サークル活動状況（全体）（問66）

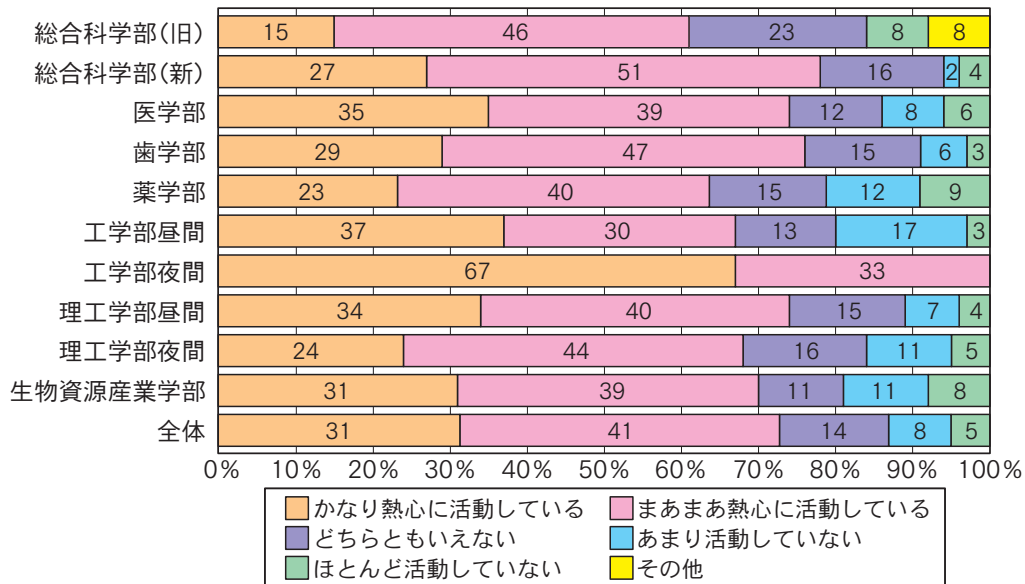


図7-2② サークル活動状況（学部別）（問66）

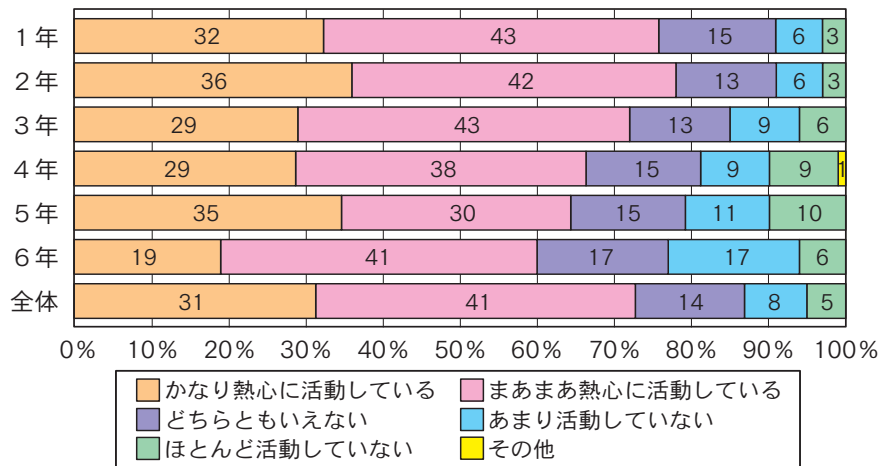


図7-2③ サークル活動状況（学年別）（問66）

7-3 加入の動機 (図7-3①~③)

加入動機については、上位3位は「活動内容に魅力があったから (48%)」, 「先輩友人に勧められたから (13%)」, 「学生生活を豊かにするため (11%)」である。他の加入動機も含めて、前回の調査結果とほとんど同じである。また性別の違いもほとんど見られないが、これも前回と同様に、「学生生活を豊かにするため」を選んだ学生は、男子学生が7%, 女子学生が16%であり、女子学生の比率が高かった。学部別に見ても、加入の動機に大きなばらつきは見られない。

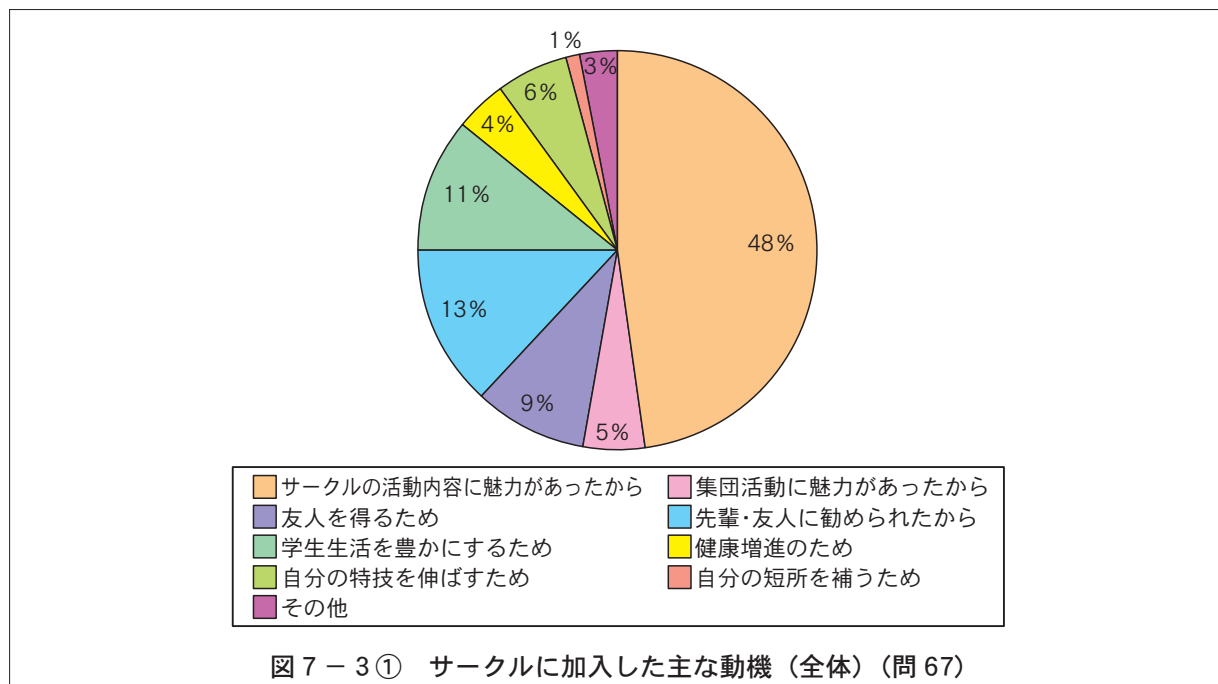


図7-3① サークルに加入した主な動機 (全体) (問67)

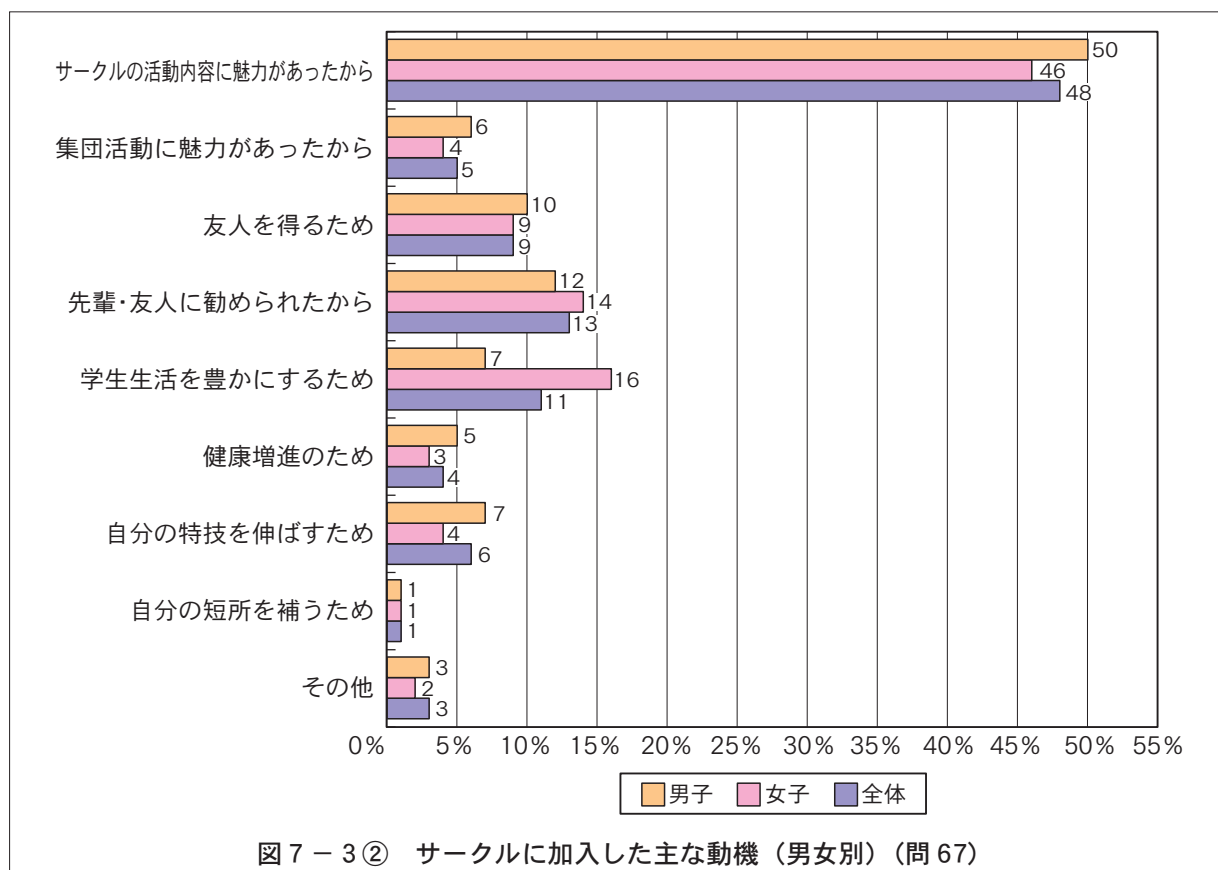


図7-3② サークルに加入した主な動機 (男女別) (問67)

「自分の特技を伸ばすため」を選択した学生は5%で、前回とほとんど同じであり、現在サークルで活動している学生の多くは、高校時代とは異なるサークル活動を行っていると考えられる。

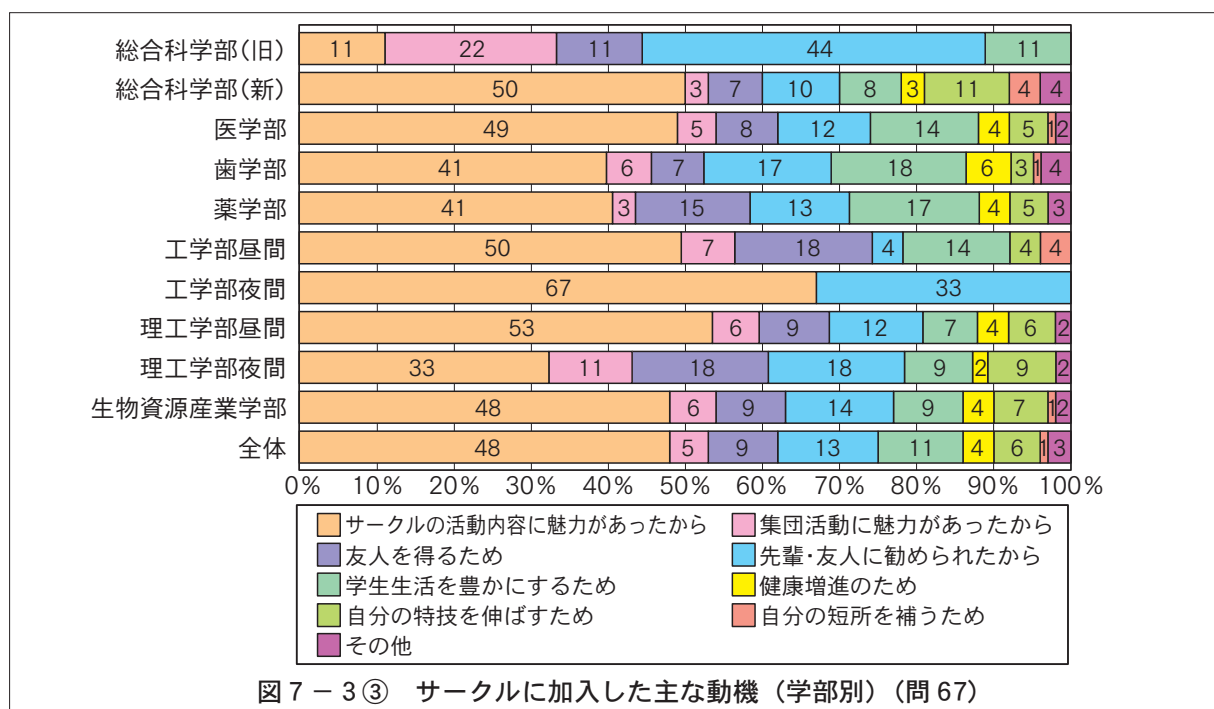


図7-3③ サークルに加入した主な動機(学部別)(問67)

7-4 サークルに加入していない理由(図7-4①~④)

サークルに加入していない学生は3,990名中1,274名(約32%)で、全体の約3分の1である。前回調査よりも微増している。加入していない原因は、「魅力的なサークルがない(22%)」、「特に理由はないが何となく(16%)」、「学業の妨げとなる(15%)」、「個人の自由が束縛される恐れがある(15%)」、「アルバイトをしているので時間的余裕がない(10%)」が上位である。上位の理由やその比率は、前回調査とほぼ変わっていない。

男女差についてはほぼ見られない。

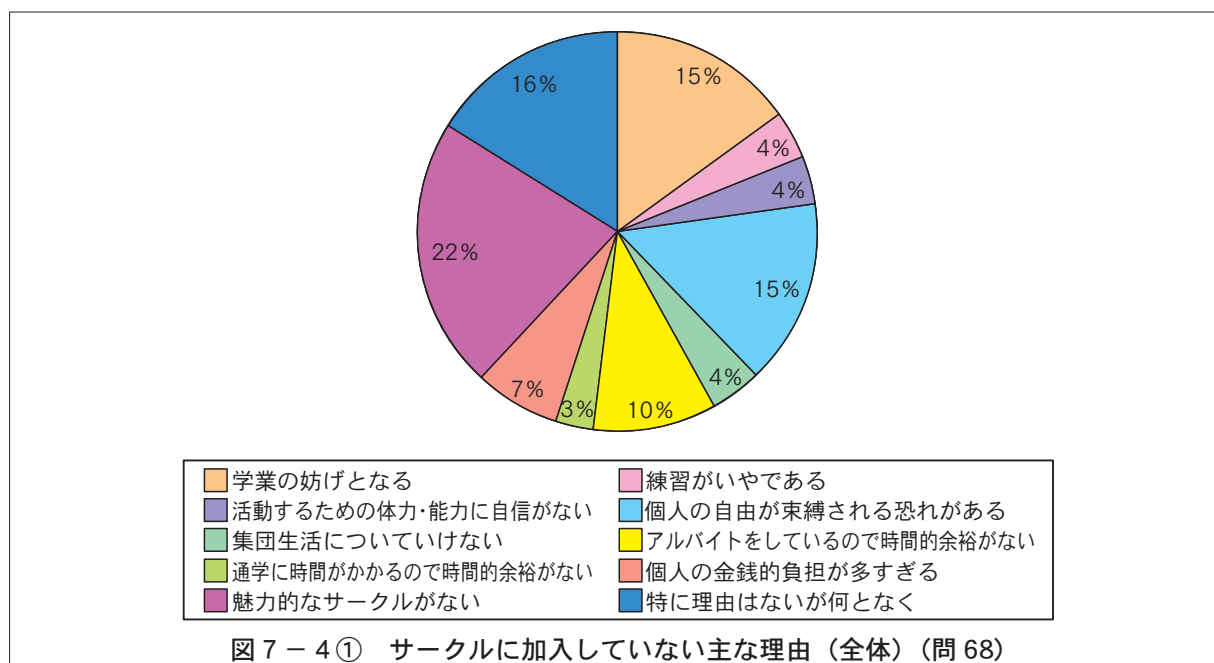
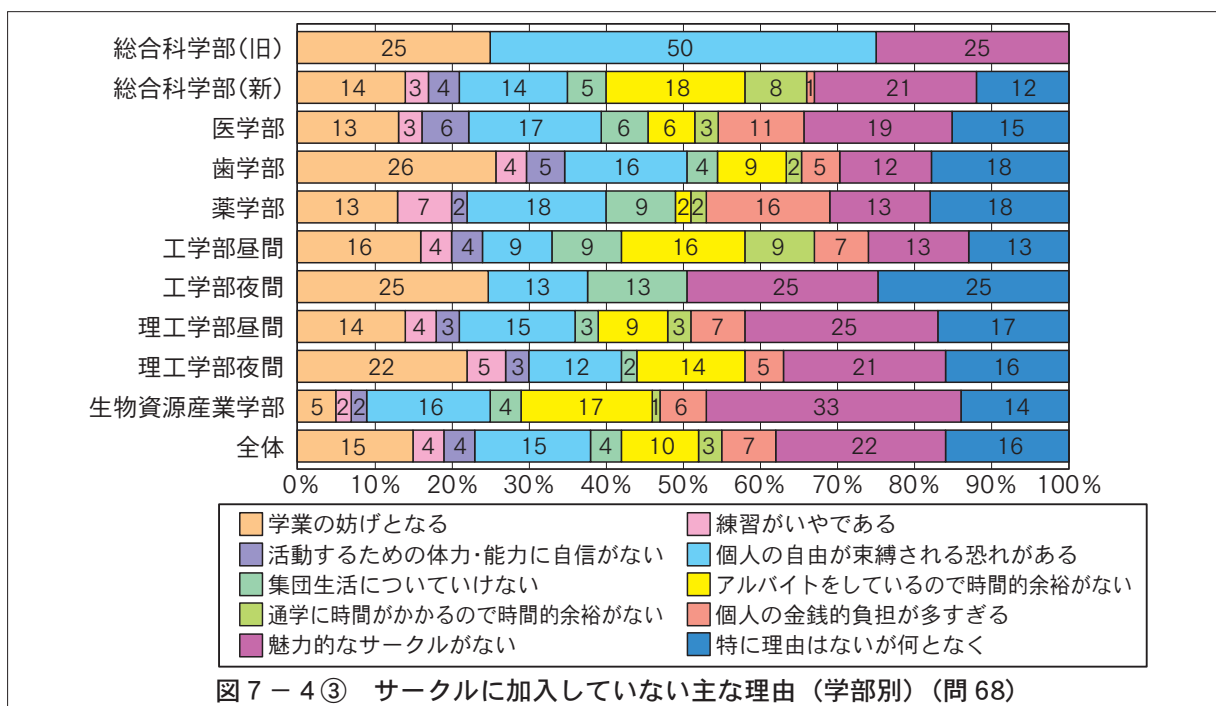
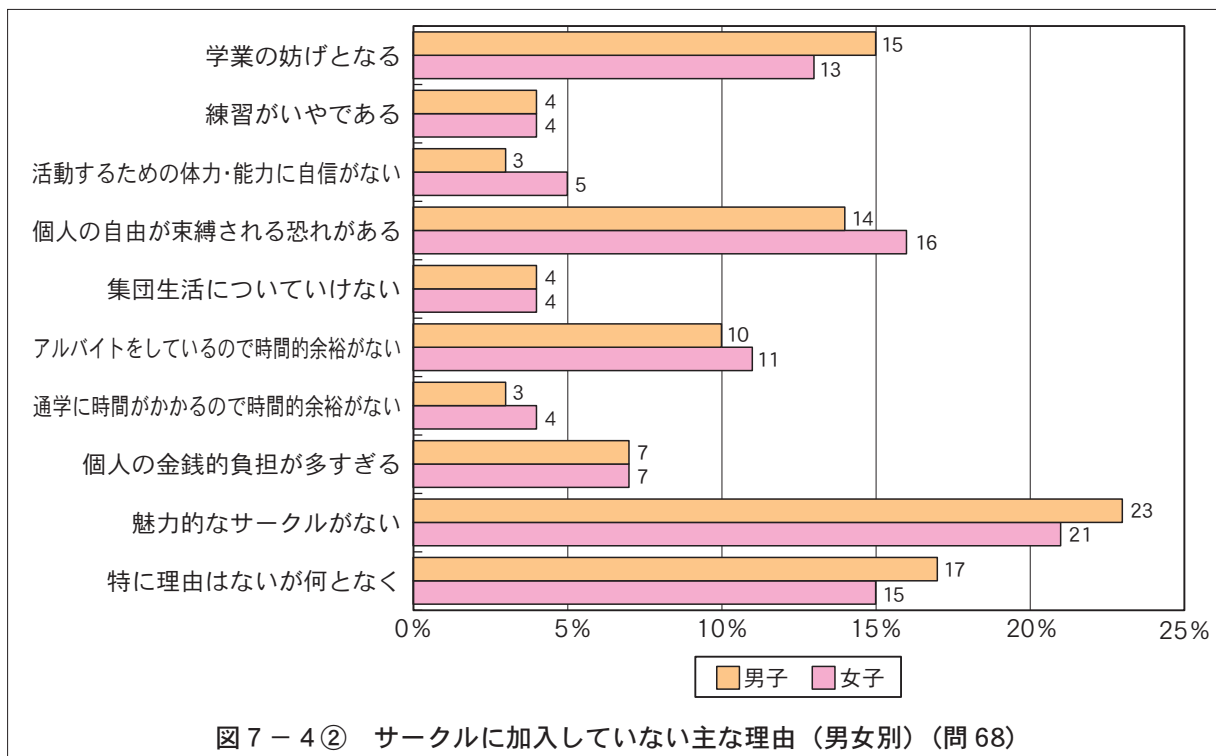


図7-4① サークルに加入していない主な理由(全体)(問68)

学部別では、「学業の妨げになる」を選んだ学生の比率が高いのは、回答数の少ない旧課程を除くと、歯学部26%、理工学部夜間22%である。他の学部はおおむね13～16%程度である。生物資源産業学部では5%と非常に低い。

「アルバイト」をサークルに加入していない理由として選択した学生の比率は、総合科学部(新)が18%、生物資源産業学部が17%で、他学部と比べてやや高めとなっている。医学部は6%、薬学部は2%で、やや低めとなっている。歯学部と理工学部昼間は9%で、平均値10%とおおむね同じである。

学年別の調査では、学年が進行するに従い、「学業の妨げとなる」が増加している。4年生で「個人の自由が束縛される恐れがある」という理由が激減しているが、原因は不明。他の理由はほとんど変化がなく、学年とは関係が小さい。



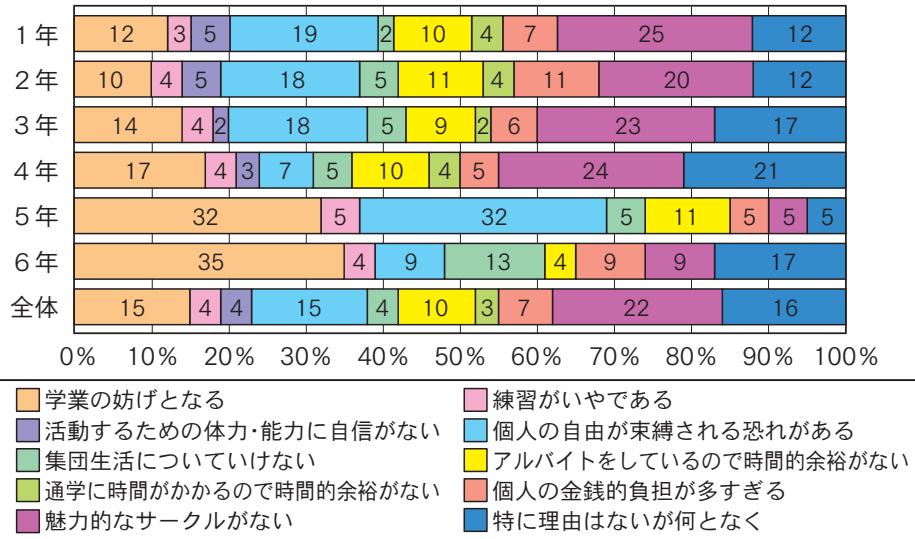


図7-4④ サークルに加入していない主な理由（学年別）（問68）

7-5 学生行事 (図7-5①~④)

新入生歓迎会や大学祭については、68%の学生が必要と考えているものの、積極的に参加している学生の比率は36%で、前回の結果より微減している。また、「どちらでもいい」「なくていい」を選択した学生の比率も微増しており、全体的に学生行事に対する学生の興味は減少傾向であると思われる。

学部別の分析では、医学部、歯学部、薬学部、生物資源産業学部 비해、総合科学部（新）、理工学部の積極的に参加する学生の比率がやや低い。学園祭が蔵本と常三島でキャンパス別に行われることが関係しているのだと思われる。特に夜間主コースの比率が低い。この傾向は前回の調査と同様である。

男女別にみると、積極的に参加したと答えた学生の比率は、男子学生が33%、女子学生が42%で、女子学生の方が積極的に学生行事に参加していることがわかる。この傾向も前回と同様である。「どちらでもいい」を選択した学生では、男子学生が23%、女子学生が20%でほとんど同じであるのに対し、「なくていい」を選択した学生は、男子学生が11%、女子学生が6%で、学生行事に否定的な態度を持つ学生の比率は男子学生の方が高い傾向がある。

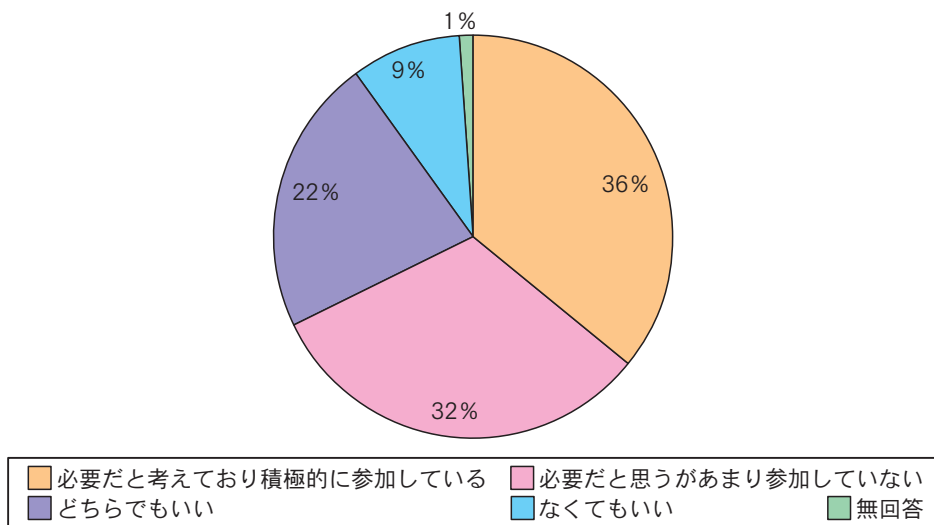
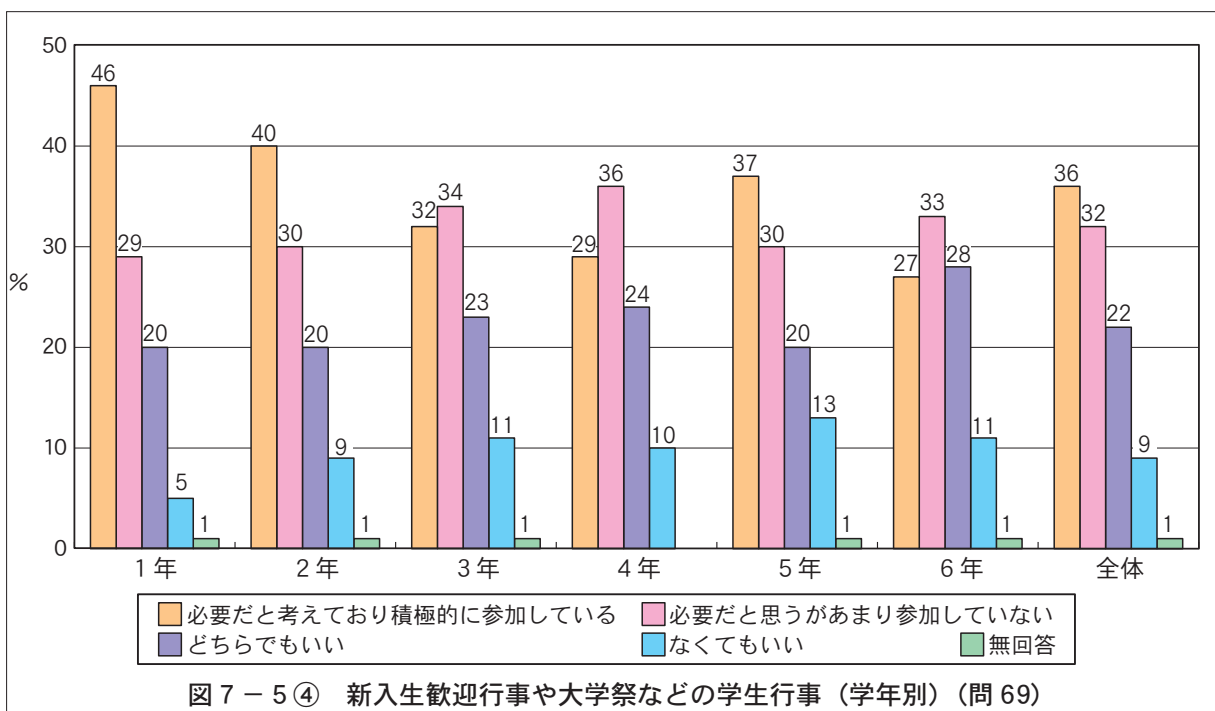
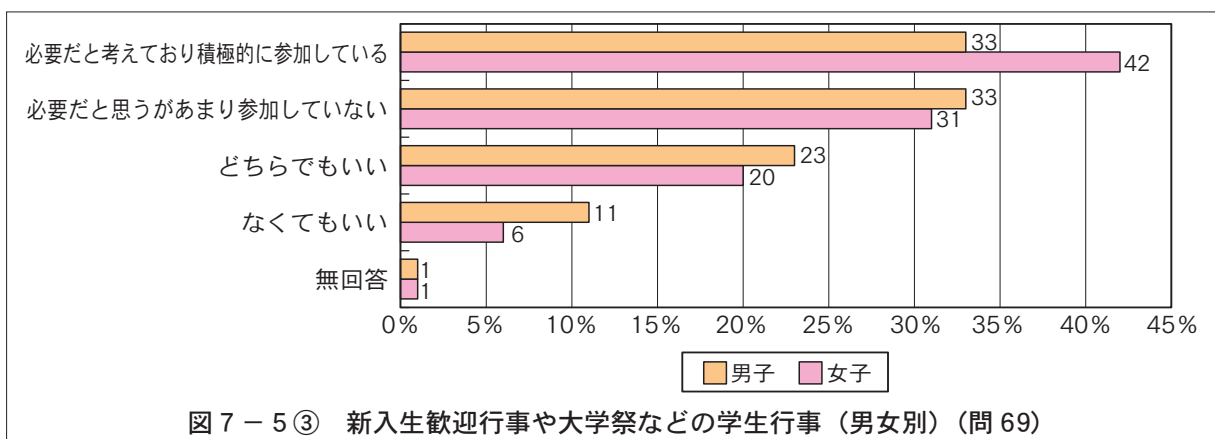
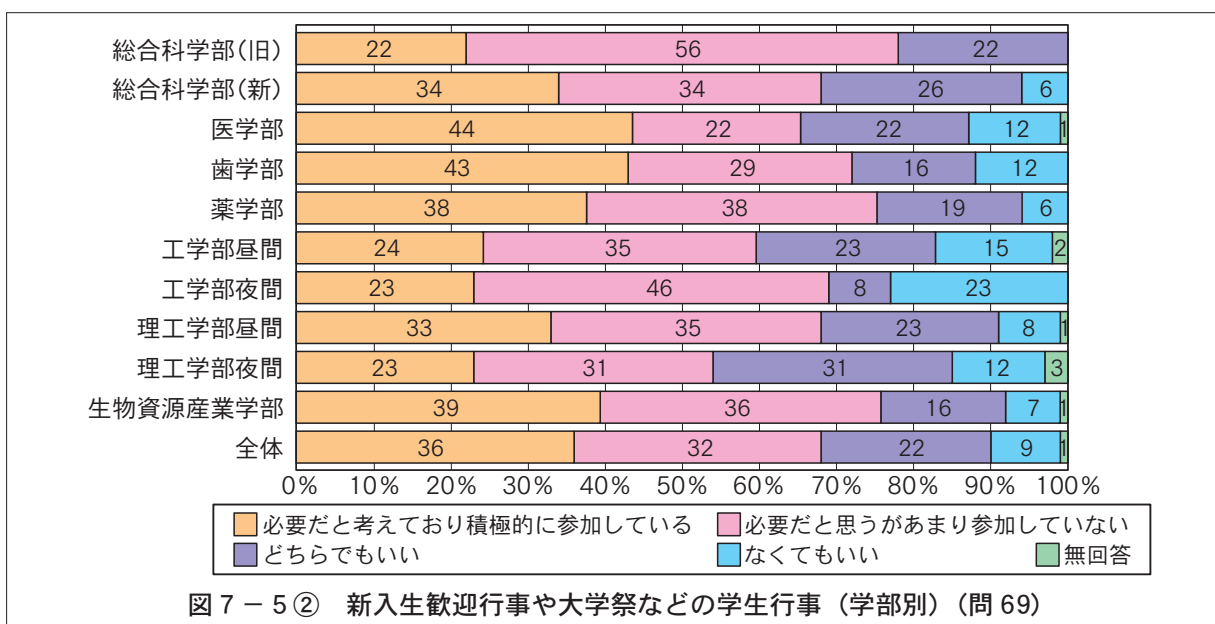


図7-5① 新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（全体）（問69）

最後に学年別にみると、積極的に参加した学生の比率は、3, 4年次で減少傾向である。学年進行とともに、おおむね1次曲線的に減少している。こうした傾向は例年みられるようである。

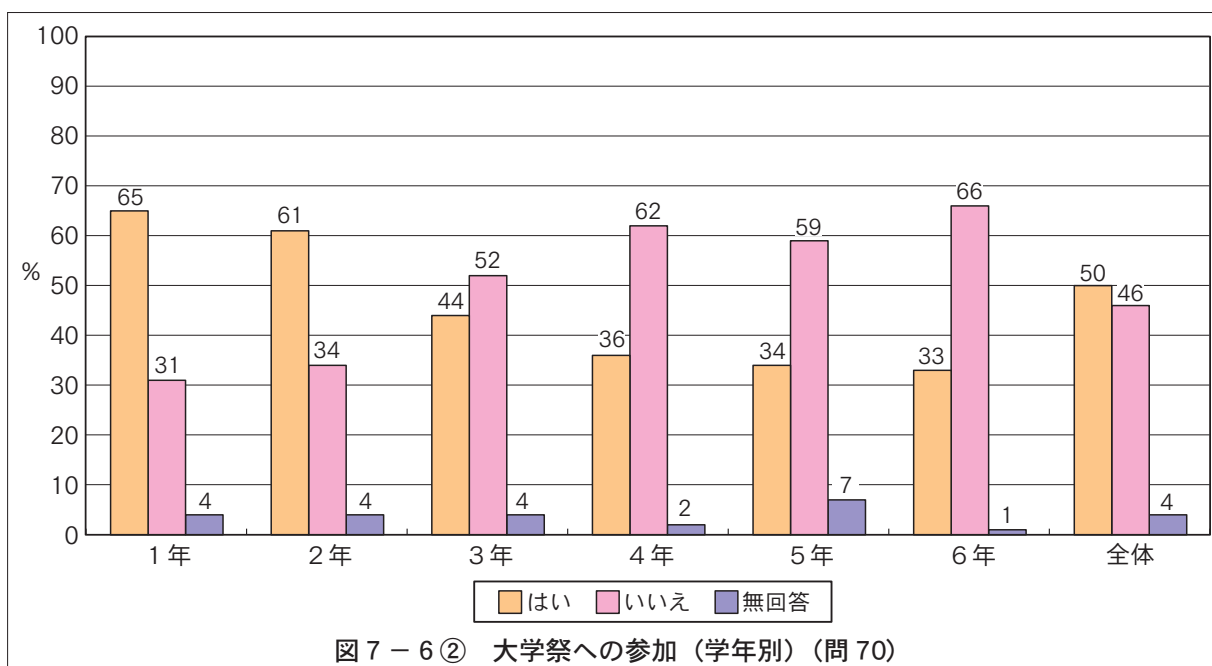
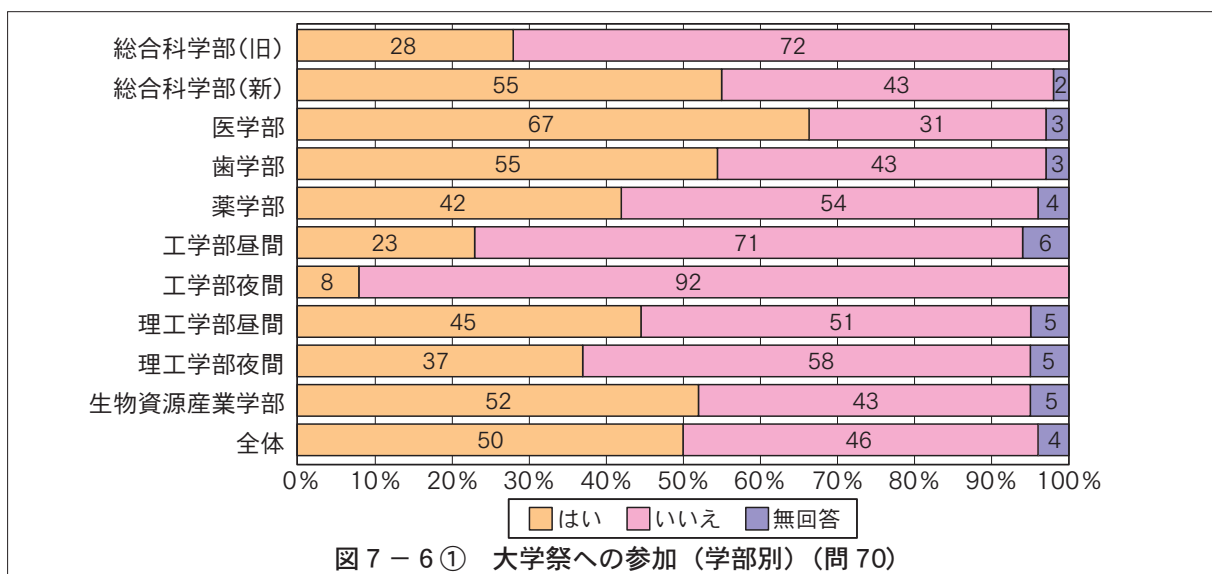


7-6 大学祭への参加状況 (図7-6①, ②)

大学祭への参加意志については「参加する」と答えた学生の比率は、全体の50%で、前回と同様である。

学部別では、医学部が最も高く、67%の学生が「参加する」を選択している。同じ蔵本キャンパスの歯学部は55%、薬学部42%となっている。常三島キャンパスでは、総合科学部(新)(55%)、生物資源産業学部(52%)、理工学部昼間は45%となっている。蔵本キャンパスの方が、やや参加率が高い。

学年別では、高学年になるにつれて、大学祭に参加した学生の比率は減少している。これも例年通りの傾向である。1年生は65%、2年生は61%、3年生は44%で半数以上が参加しているが、4年生は36%。といっても、4年生でも3分の1以上が参加している。



7-7 ボランティア活動 (図7-7①, ②)

全体の集計では、ボランティア活動の経験がある学生の比率は、個人で行った経験がある学生が16%、団体に入って行った経験がある学生が16%で、両方を合わせると32%。前回の調査とほとんど変わっていない。総合科学部(新)は個人と団体を合わせると49%と、他学部よりも高めとなっているが、他学部もおおむね30%前後となっている。

男女別にはボランティア活動への参加率に大きな差は見られない。

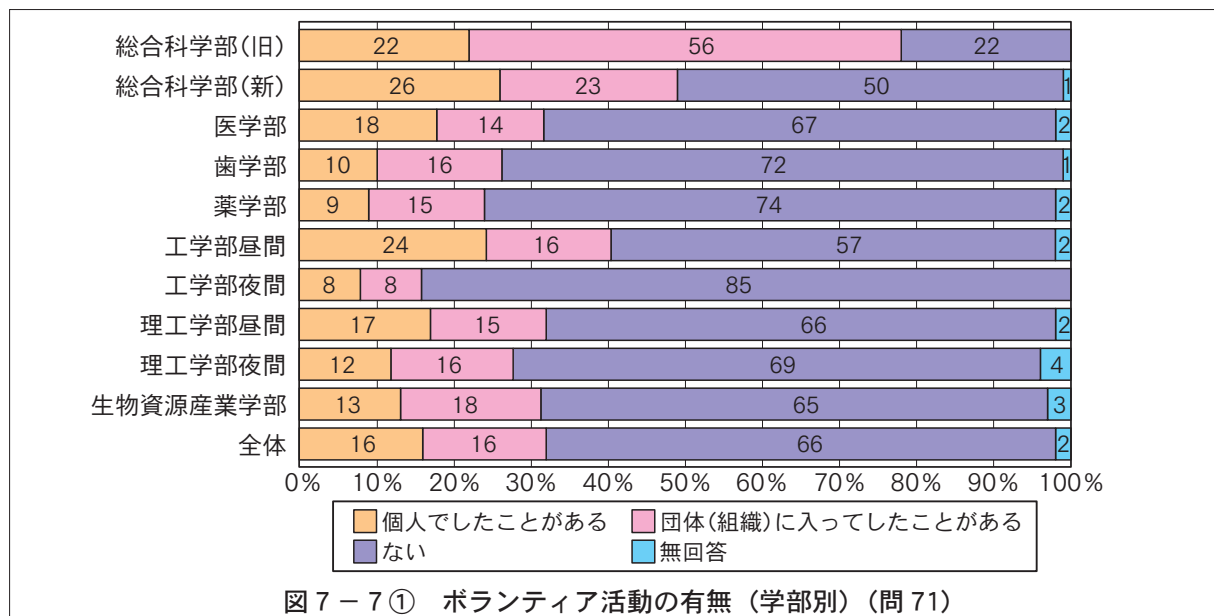


図7-7① ボランティア活動の有無 (学部別) (問71)

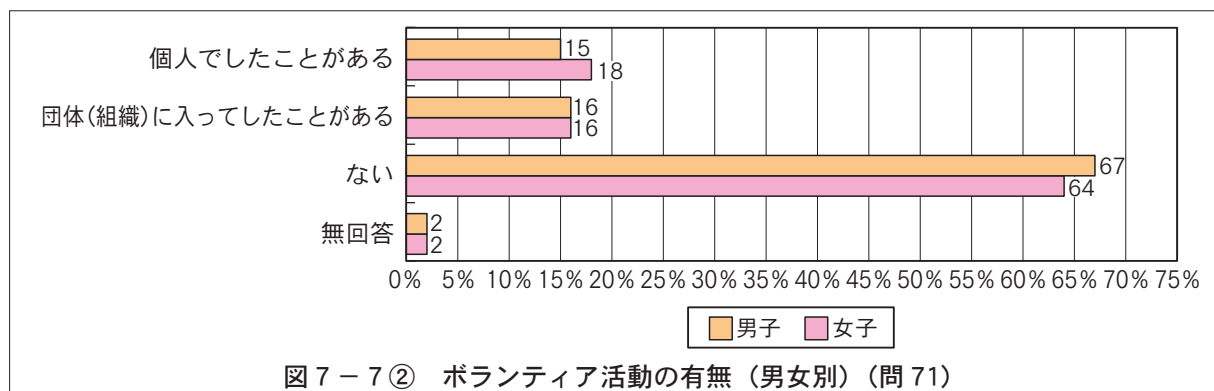


図7-7② ボランティア活動の有無 (男女別) (問71)

まとめと今後の課題

サークル活動や大学祭活動、ボランティア活動は、大学の課外活動として、単位にはならないものの、学生の多様な能力の養成、また新たな経験による今までない観点にたった考え方を身につけるために極めて重要な活動であると考えられる。高校生活では、受験勉強が生活の中心となりがちであり、社会人となれば仕事が生活の中心となる。その間に位置する大学では、サークル活動やボランティア活動の課外活動に取り組む人生でも稀有の機会となりうる。もちろん、共同活動を行うことによる協調性の涵養は、卒業後の社会生活にも有益であろう。もちろん、サークル活動を行わないのはよくないとは一概には言えないが、こうした理由から、大学としても、可能な限り、多くの学生がサークル活動に参加して活動できるよう支援することが必要であると思われる。

サークル活動を振興するためには、まず、「サークル活動を行わない理由」を把握することが重要であ

る。アンケートの結果を見ると、最多の理由は「魅力的なサークルがない」であった。サークル活動の内容にまで大学側が干渉するのは問題があるので、この点については基本的に学生諸君の活躍を期待したい。ただし、大学としては、たとえばアンケート調査において、「魅力的なサークルがない」と答えた学生には、どんなサークルなら参加するかといった質問をすることで、現在活動している学生諸君に情報提供することを検討する余地はあろう。

2番目に多い理由は「とくに理由はない」であった。こうした学生諸君への情報提供を増やすなどの取り組みは検討する余地はあるかもしれない。

「学業の妨げになる」「個人の自由が束縛される恐れがある」といった、サークル活動を忌避する学生も、あわせて3分の1程度存在している。何事にも向き不向きはあるので、こうした学生層にサークル活動をあえてやらせることまでは必要ないと思われる。

アルバイトのためにサークル活動に参加できないと答えた学生の比率は10%で、5番目ではあったが、学生の経済的状況は引き続き困難化しているように思われる。奨学金や授業料免除などの支援策を引き続き強化していくことが必要だと思われる。

学部別の分析結果では、特に体育系サークルへの加入率が、医学部53%、歯学部51%、薬学部69%に対して、理工学部昼間35%、総合科学部(新)24%と低い。この傾向は前回とほぼ同様である。全般的に蔵本キャンパスの方が体育会系サークルが活発なようである。そのことと関連があるのかどうかはデータからは分からないが、大学祭などの学生行事についても、蔵本キャンパスの方が、若干ではあるが参加率が高くなっている。

ボランティア活動については、総合科学部の経験率が比較的高く、約半数が経験しているが、他学部ではおおむね3分の1程度の経験率である。ボランティア活動の紹介や、ボランティアに行きやすい体制作りについても検討する必要があるかもしれない。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様な傾向を示している。各学部とも大局的にはよく似た傾向にあり、「先輩・知人」と「インターネット利用」がほとんどの学部で20%台と最も多く、次いで「指導教員」、「家族等」、「就職情報誌・新聞・マスコミ」、「大学内の資料」、「就職担当教員」の順となっている。医学部、歯学部および薬学部では「先輩・知人」の割合が高く（30%程度）、かつこの手段に関しては他の学部より高い比率となっている。また医学部、歯学部および薬学部では、「指導教員」の比率も高いが（ともに17%以上）、他学部より著しく高いとは言えない。これらのことより医学部・歯学部・薬学部では約半数の学生が「先輩・知人」あるいは「指導教員」から情報を得ていることがわかる。キャリア支援室からの情報入手率は3%と高いとは言えない。今後とも同室の情報収集・整備と学生への広報活動の充実が望まれる。また前回調査とほぼ同様、「直接会社に照会」は3%程度に過ぎない。これはインターンシップの充実が原因の可能性もあるが、学生のより積極的な活動も促す必要があると思われる。

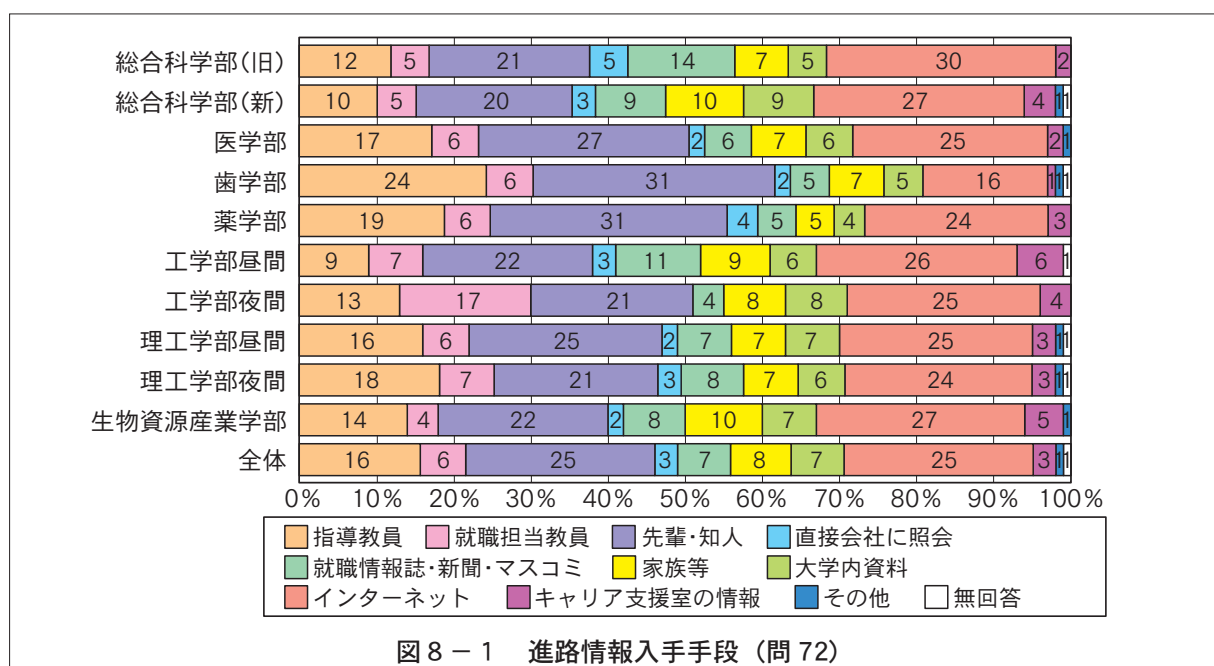
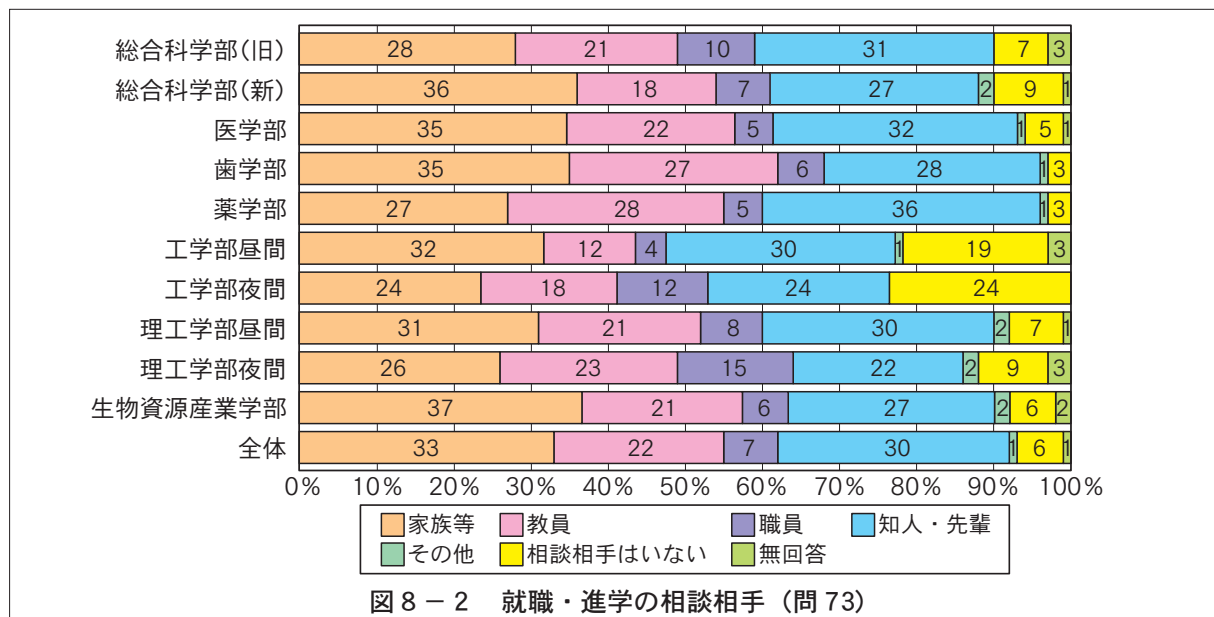


図8-1 進路情報入手手段 (問72)

8-2 就職・進学相談相手 (図8-2)

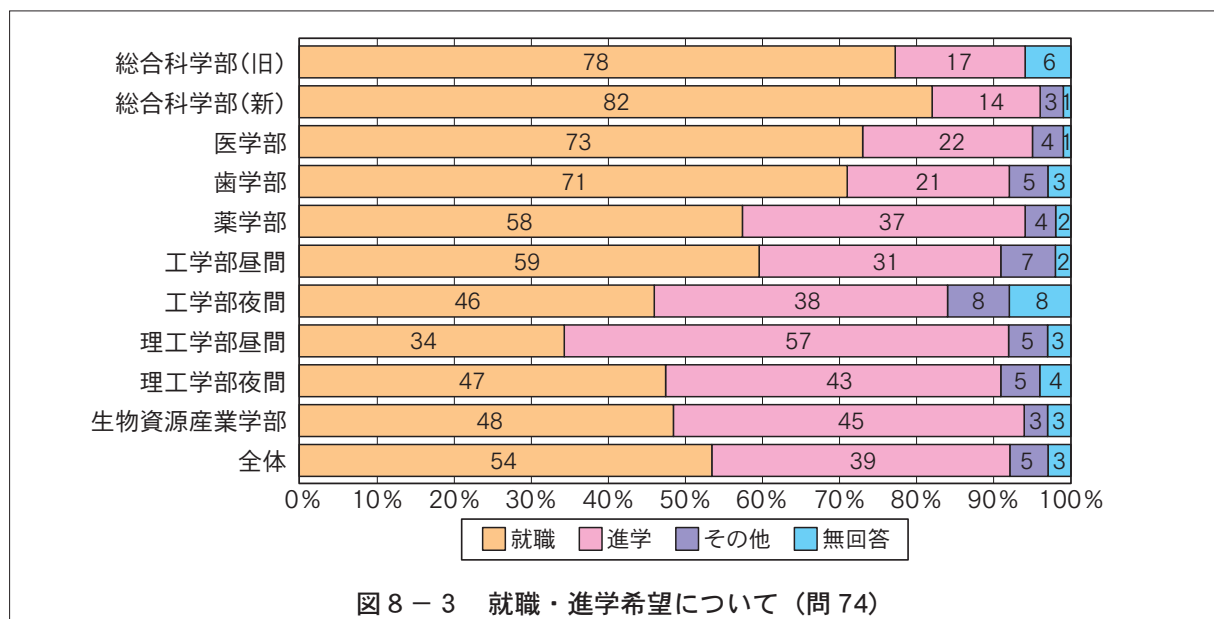
図8-2は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様な傾向を示しており、各学部とも大局的にはよく似た傾向を示している。信頼できる相談相手で最も多かったのが「家族等」であり30%程度で、家族への信頼感が伺われる。それに次ぐのが「知人・先輩」であり、これも30%程度で学生が信頼する相手であることが伺われる。また「教員」に相談すると回答した者も20%程度に上り、教員に対する信頼感も伺われる。相談相手としては、この三者で全体の70%から90%になっておりほとんど全ての学生は身近で信頼できる相手に就職・進学の相談をしている様子が伺われる。ただし、「相談相手がいない」という回答が工学部昼間と工学部夜間でそれぞれ19%、24%と特に高い。また、他学部も3%から9%となっており無視できない数字である。学生支援の一層の充

実が望まれるところである。



8-3 就職・進学希望について (図 8-3)

図 8-3 は、学部生全員に対して卒業後の進路を尋ねたものである。就職希望と進学希望の比率は全学部とも前回調査とほぼ同様な傾向を示しているが、工学部昼間については就職希望者が 21 ポイント増加した一方で、進学希望が 24 ポイント減少している。全体での進学希望者の割合は 40%程度であり、最も学生数の多い理工学部の昼間コースでは 57%の学生が進学を希望している。それに対し、総合科学部、歯学部および医学部における進学希望者の割合はこの順に低く、ともに 20%程度である。これらの学部における大学院進学希望者の増加対策の検討が求められる。



8-4 就職先選択で重視するもの (図8-4)

図8-4は、前出の間74で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様な傾向を示しており、各学部とも大局的にはよく似た傾向を示している。全体をみると、「収入」が24%と最も多く、次いで「就職先の将来性・安定性」23%、「人間関係の良いこと」18%、「勤務地の地理的条件」13%、「能力を發揮できること」11%となっている。「就職先の社会的評価」は7%と少なく、「研究評価をしてくれるところ」と「先端技術を駆使しているところ」はともに1%とさらに少ない。専門分野にかかわらず全体的に安定志向の傾向にあるといえる。

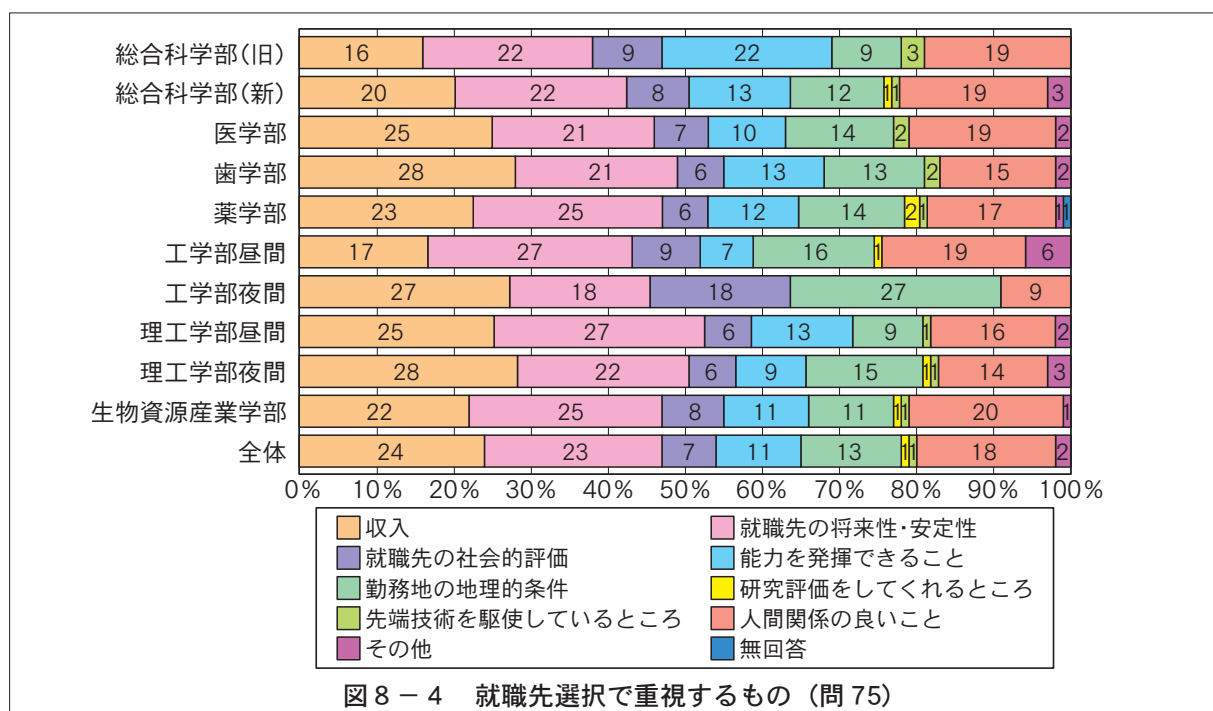


図8-4 就職先選択で重視するもの (問75)

8-5 就職情報の入手方法 (図8-5)

図8-5は、学部卒業予定の就職希望学生に対して、複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたものである。各学部とも前回調査とほぼ同様である。全体の傾向としては「インターネット」が38%とやはり多く、次いで「先輩・知人」15%、「会社等説明会」11%、「就職担当教員」10%、「家族等」7%、「キャリア支援室」6%、「新聞・就職情報誌」5%と続いている。総合科学部(旧)では「インターネット」が前回調査に比べて9ポイント減少し、「会社説明会」や「先輩・知人」が増加している。歯学部、薬学部ならびに医学部では、この順に「先輩・知人」の割合が高く、かつこの方法に関しては他の学部より相対的に高い比率となっている。この傾向は前出の8-1の進路情報入手手段の場合と同様である。工学部夜間では「就職担当教員」「新聞・就職情報誌」「ダイレクトメール」「直接会社等に照会」「家族」の回答がなく、偏った情報入手になっている。「直接会社に照会」は全体の2%に過ぎない。学生の自主的で積極的な行動が望まれる。

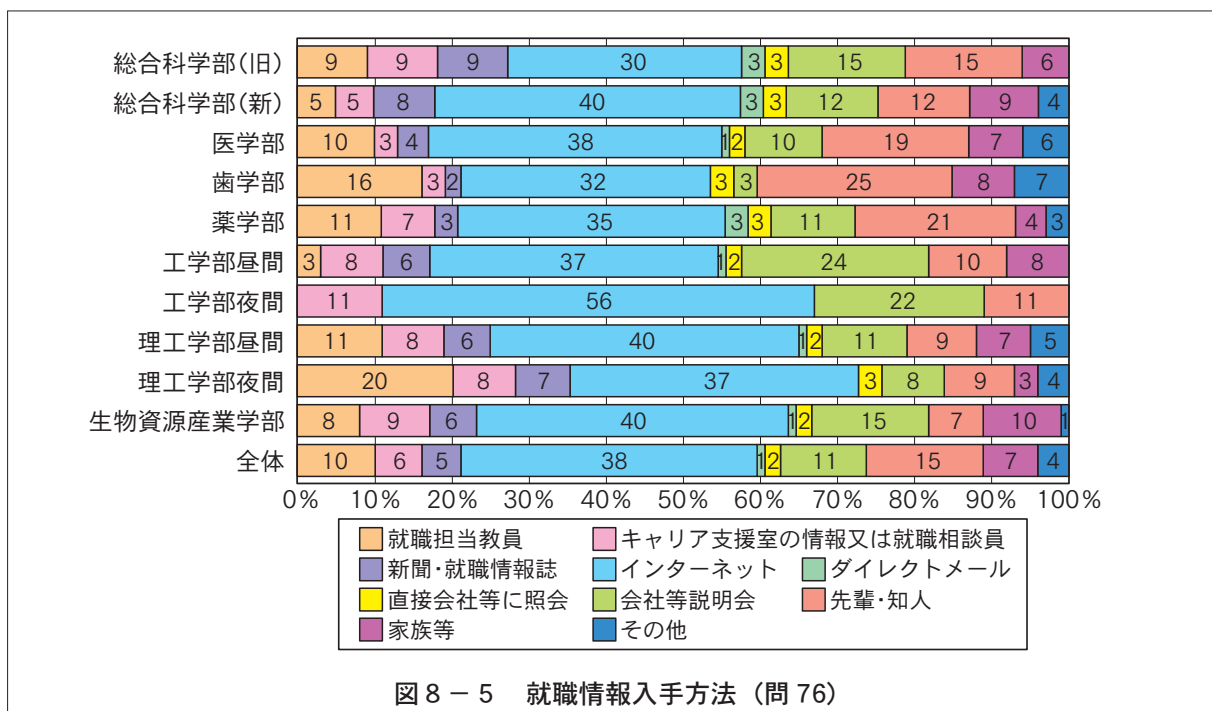


図 8-5 就職情報入手方法 (問 76)

8-6 希望する職種 (図 8-6)

図 8-6 は、問 74 で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的な傾向は前回調査と同様に「専門職 (医師・看護師等)」28%の割合が最も多い。一方で、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」と「技術職」はともに割合が低下し、その分が「大学・官公庁の教育・研究職」が7ポイント増加し、3者すべてが13ポイントと同じ割合になっている。総合科学部の旧・新では前回調査では「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が最も割合が多く24%、42%であったが、今回の調査では「総合職・営業職」の割合がそれぞれ25%、22%と最も多くなっている。また、他の学部 비해希望職種が多岐にわたっていることが分かる。工学部昼間・夜間では「技術職」がそれぞれ

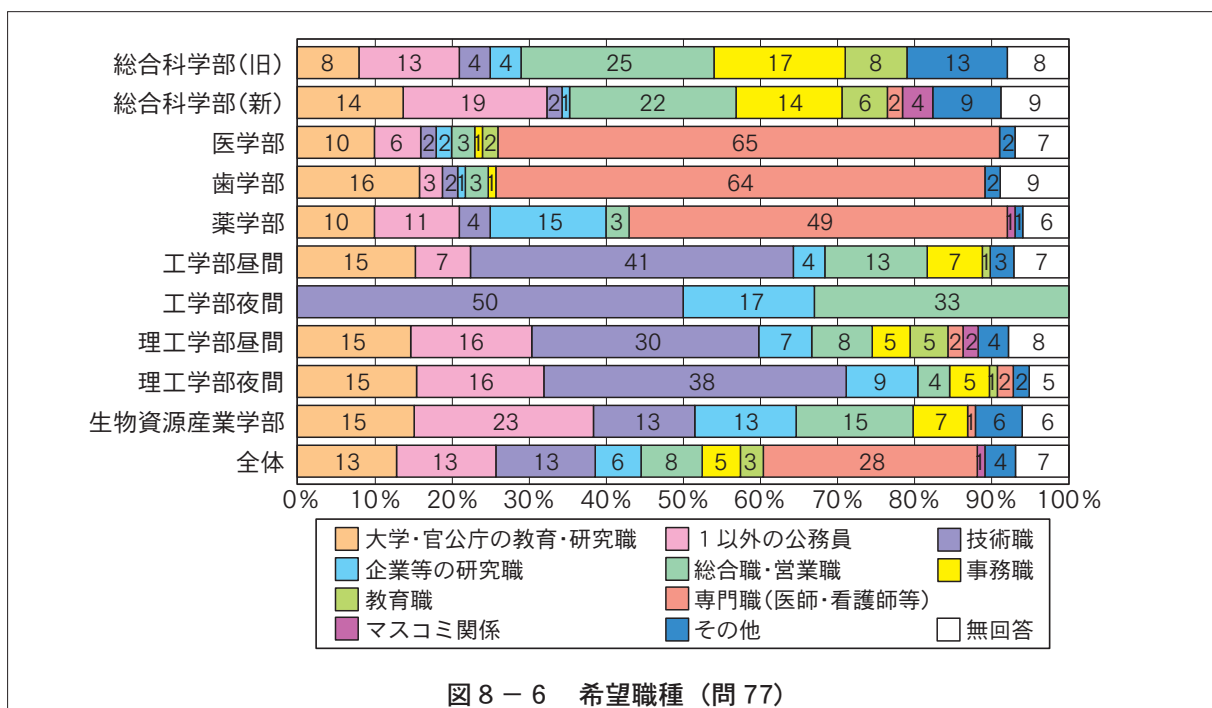


図 8-6 希望職種 (問 77)

れ41%、50%と卓越している。また理工学部昼間・夜間も「技術職」がそれぞれ30%、38%と割合が多いが、工学部ほど卓越はしていない。一方で、「大学・官公庁の教育・研究職」と「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」の合わせた割合がいずれも31%と公務員志向も強い。医学部・歯学部・薬学部では「専門職（医師・看護師等）」がそれぞれ65%・64%・49%と卓越している。

8-7 社会人になるために必要な学外で関わりをもったキャリア形成項目

(図8-7)

図8-7は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたもので、今回の調査で新規に設けられた調査項目である。全体では、「インターンシップ」27%が最も多く、次いで「なし」23%、「ボランティア」14%、「キャリア形成を意識したアルバイト」13%、「留学」10%と続く。就職活動の前にインターンシップに参加することが定着してきていることが伺える。一方で、「ない」が23%と2番目に高い割合を示しており無視できない数字である。学生支援の一層の充実が望まれるところである。問77の結果から希望職種として「専門職（医師・看護師等）」が卓越している医学部・歯学部・薬学部を除けば「インターンシップ」の占める割合は比較的高くなる。また、総合科学部の旧・新では「ボランティア」の割合がそれぞれ23%、19%と比較的高い傾向にある。さらに、「キャリア形成を意識したアルバイト」も20%、18%と工学部夜間に次いで高い割合を示している。

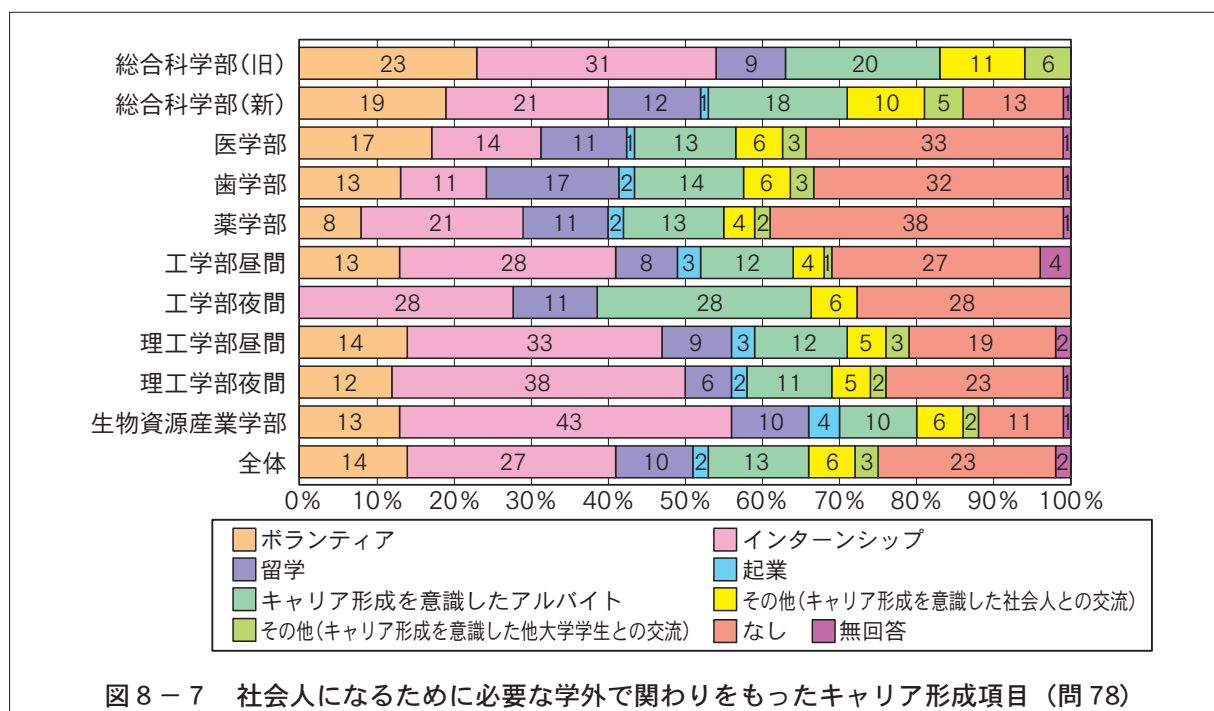


図8-7 社会人になるために必要な学外で関わりをもったキャリア形成項目 (問78)

8-8 キャリア形成を目的に割くことのできる週あたりの時間 (図8-8)

図8-8は、学部生全員に対して尋ねたもので、今回の調査で新規に設けられた調査項目である。各学部とも大局的にはよく似た傾向にあり、全体的にキャリア形成を目的に割くことのできる時間は、「2時間未満」57%、「2時間以上4時間未満」21%、「4時間以上6時間未満」10%と少ない。キャリア形成に割くことのできる時間が短い中で、キャリア形成を意識していないアルバイトなどにキャリア形成を関連させることを意識することでキャリア形成の時間を増やすことができるかもしれない。

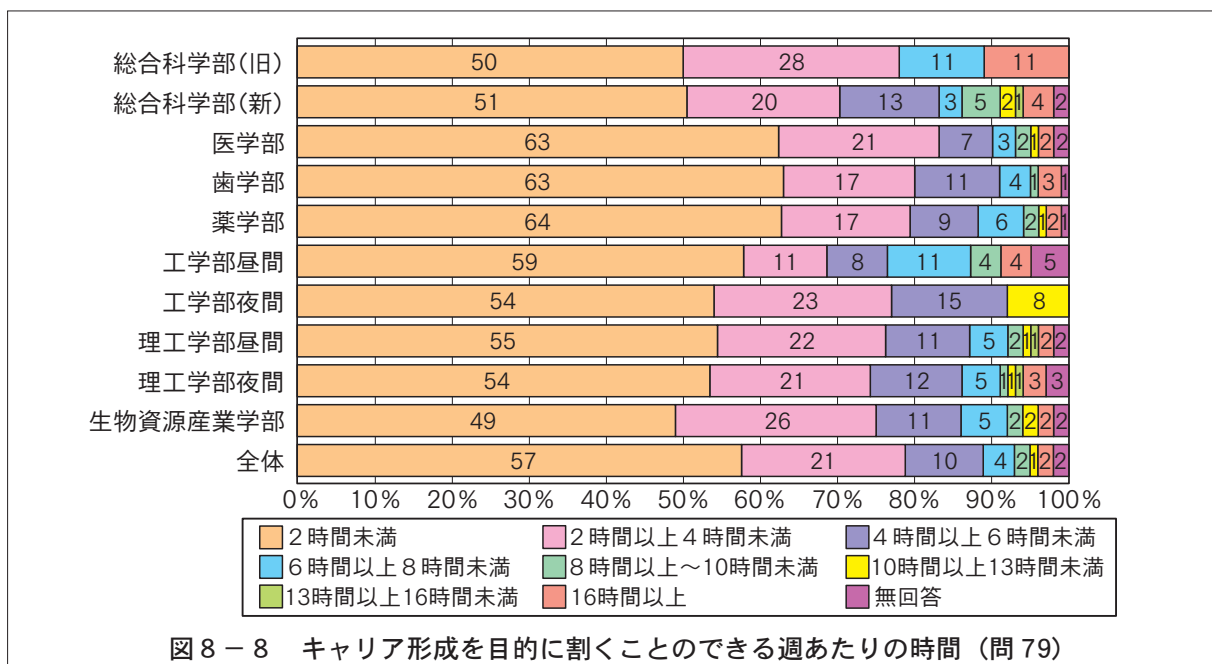


図8-8 キャリア形成を目的に割くことのできる週あたりの時間 (問79)

8-9 キャリア支援室の利用状況 (図8-9)

図8-9は、学部生全員に対してキャリア支援室の利用状況を尋ねたものである。キャリア支援室の利用状況を全体的に見ると、「キャリア支援室を利用したことがない」81% (前回調査77%) に対して「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計は17% (前回調査20%) と利用状況が若干低下している。

各学部別に「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計を前回の調査結果と比較すると、利用者が増加している学部が総合科学部(新) 12 p t, 医学部 5 p t, 歯学部 4 p t, 理工学部(昼間) 9 p t, 理工学部(夜間) 9 p t, 生物資源産業学部 22 p t と6学部であった。一方、利用者が減少している学部が総合科学部(旧) 2 p t, 工学部(昼) 10 p t, 工学部(夜間) 4 p t の3学部であった。利用状況は全体では若干低下しているが、学部別では利用状況が改善した学部が多い。

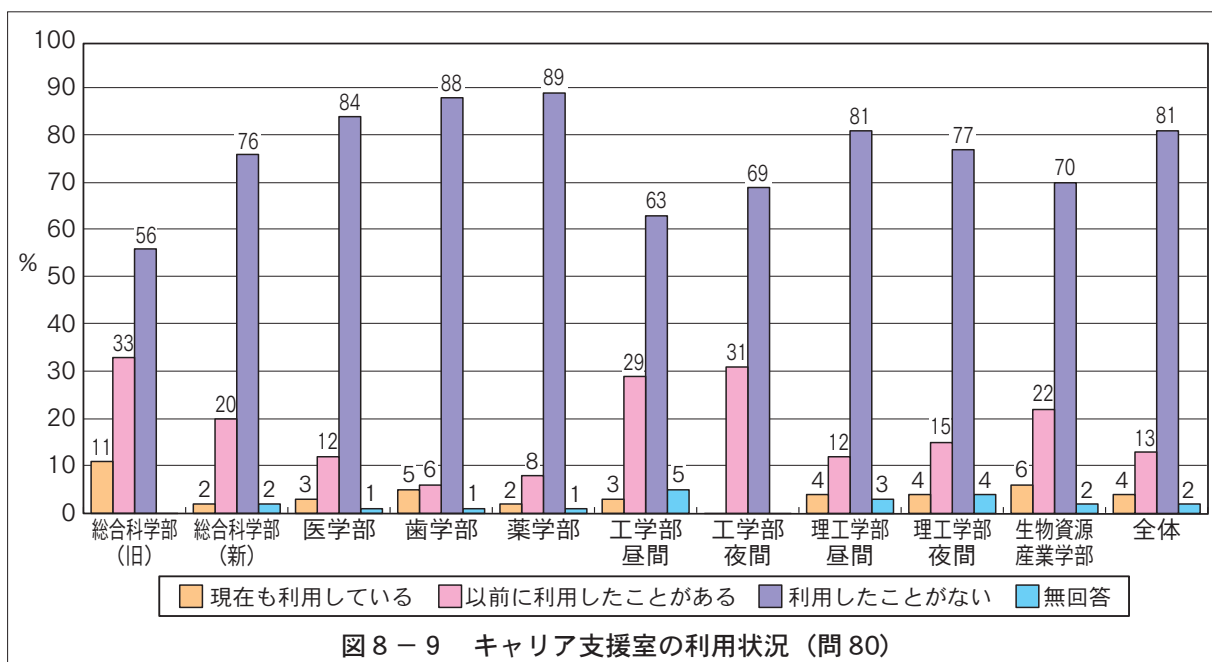


図8-9 キャリア支援室の利用状況 (問80)

なお、就職活動期にあたる学年に限定すればその利用率はもっと高いと思われる。

キャリア支援室では常三島地区および蔵本地区において就職相談体制を整えており、加えて常三島地区には就職コーディネーターを配置し、学生と企業の橋渡しを行っている。また就職ガイダンスやセミナーについてはこれまでの開催件数を増やすことに加え、少人数でワーク型の内容を増やすなど細やかな支援を強化している。今後さらにサービス内容の充実とともに学生への周知強化を図ることが望まれる。

第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、平成28年(2016)4月より、社会総合科学科(1学科)からなる学部として再スタートした(総合科学部(旧)は、人間文化学科、社会創生学科、総合理数学科の3学科体制をとっていた)。総合科学部(新)は、「国際教養コース」「心身健康コース」「公共政策コース」「地域創生コース」の4コースからなる。今年完成年度を迎え、初めての卒業生を送り出す。なお、改組前の総合科学部(旧)には、留学等で在学期間が延長した学生46名が所属している。

今回の調査において、総合科学部全体の調査票回収率は45.0%で、前回調査の52.3%、前々回調査の61.5%から低下傾向である。現在の総合科学部社会総合科学科の回収率は45.4%で、前回の64.8%から大幅に低下している。これは、前回調査では新総合科学部の学生はすべて1・2年生であったのに対し、今回調査では年次進行により調査対象者の半数が3・4年生になったことが原因だと思われる。1・2年生には学部共通科目等の全員必修の科目があるために、そうした授業でアンケートを配布・回収することで高い回収率が確保できるが、3・4年生にはそうした授業がないため、配布・回収が十分にできていない。3・4年生については、これまでもゼミの指導教員への依頼を行っているが、今後は呼びかけの強化など、さらなる工夫が必要である。

「住居・通学について」では、自宅からの通学者は総合科学部(旧)では28%であり、全学平均(27%)とおおむね同じである。一方、総合科学部(新)においては51%と高く、県内出身者の比率の高さがうかがえる。前回調査では46%だったので、県内出身者の比率はさらに高くなっている。総合科学部(新)は、「健康社会づくり、地域活性化、グローバル化」を理念の三本柱としているが、「地域密着型の学部」というイメージが県内で強まっている可能性がある。

家賃支出については、総合科学部(新)については「5万円未満」の割合が92%で、前回調査の90%と大きな変化はない。総合科学部(旧)は5万円未満が77%であり、高学年の学生は若干家賃の高い住居に住んでいるようである。なお、5万円未満の割合は、同じ常三島地域の工学部・理工学部・生物資源産業学部の学生とほぼ同じである。近隣の学生向け賃貸物件の価格帯が反映されているものと思われる。通学方法については、全学の傾向と同様、自転車が多くなっている。通学時間は、全学的には80%以上の学生が「30分未満」であるのに対し、総合科学部(新)では67%と若干低めとなっている。自宅生の占める割合が高いことが理由だと思われる。総合科学部(旧)では90%弱が30分未満となっている。

「収入・支出について」では、家庭の年間所得を500万円未満とする回答が総合科学部(旧)34%、総合科学部(新)30%であり、全学平均の25%よりも高くなっている。

授業料免除状況では、総合科学部(新)では年収500万円未満の層で「授業料免除制度を知らない」という回答が5%で、前回同様だった。さらなる周知が求められるであろう。また「授業料免除制度は知っているが申請していない」とする回答が46%(前回調査49%)にのぼる。これは全学の平均と同様である。今後、申請を躊躇する背景などを全学的に調査する必要があるかもしれない。

自宅外通学者においては、家計状況として保護者等から「5万円未満」の援助を受けているとする回答は総合科学部(旧)46%、総合科学部(新)65%であり、前回調査の74%から減少して、全学平均と同様の割合となった。学年進行により、3・4年生が半数を占めるようになり、学年構成が全学と同様になったことが理由だと思われる。1か月の平均支出額は「5万円未満」が総合科学部(旧)23%、総合科学部(新)53%で、全学平均とほぼ同額である。また、1か月の食費についても、「2万円未満」

が総合科学部（新）36%で、全学平均の33%と同様である。

アルバイトに週3日以上従事している学生は、総合科学部（新）で74%となっており、うち5%は「週5日以上」である。これは、生物資源産業学部の81%に次いで多く、3番目は理工学部（昼間）72%、4番目は理工学部（夜間）70%で、常三島キャンパスの学部の学生のアルバイト日数が、蔵本の学生のそれよりも多めとなっている。時間数でも同様の傾向があり、週のアルバイト時間が15時間以上の学生は総合科学部（新）29%で、旧課程（総合科学部（旧）と工学部）を除くと、生物資源産業学部を上回って全学で最多となっている。

他方、「勉学に支障はない」とする回答は、総合科学部（旧）では100%、総合科学部（新）では86%で、長時間労働をしている割には勉学に支障がないと考える学生が多いようである。

「健康状態について」では、睡眠時間、喫煙や飲酒の頻度についても、他学部と大きな違いは認められない。「週3日以上飲酒する」と回答した学生の飲酒量についても、おおむね適量の範囲内のものである。ただし、そもそも「週3日以上飲酒する」と答えた学生は極めて少数である。「飲酒しない」「たまに飲酒する」が総合科学部（新）では80%（男子）、94%（女子）で、どちらかというとならざるに飲酒する学生は少数である。

「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が総合科学部（旧）44%、総合科学部（新）29%であり、前回調査と同じく、全学平均の37%より低かった。旧課程を除くと総合科学部（新）の割合は全学最低である。逆に、「特に重点もなく程々に」と回答した学生は旧課程を含めても最高の19%であった。学習意欲の向上に対する取り組みを進める必要があると考えられる。

「就職や進路」についての諸項目についても、常三島キャンパスの学部（総合科学部・理工学部・生物資源産業学部）と蔵本キャンパスの学部（医歯薬学部）とがおおむね同様の傾向を示している。やはり、国家試験で資格を得て専門職を目指す学部とは異なる学部の性質に因るものではないかと思われる。ただし、「就職希望」と回答した学生が、総合科学部（新）では82%で他学部よりもかなり高くなっている。人文社会系学部であることが理由であろう。それに伴って、「現在の悩みや不安」を「就職や進路」と回答した学生が総合科学部（新）で41%と、平均よりも高めとなっている。こうしたことから、今後とも様々な情報提供を含め、初年次からの対応が必要であろう。

セクハラを受けたと回答した学生は、総合科学部（新）では前回調査と同じく1%であった（男子1%、女子0%）。全学的に見ても、男子学生がセクハラを受けたと訴えるケースが女子と変わらないほどある。「セクハラのは被害者は女子」という固定観念にとらわれず、男女ともセクハラを受けたということ念頭に置いて啓発活動を進める必要がある。なお、総合科学部（旧）女子では17%と突出しているが、調査対象人数が少ないことの影響が大きいと思われる。もちろん、だから放置してよいということではなく、セクハラ撲滅のための啓発運動を強化する必要があることを再度強調しておく。また、「アカハラを受けた」という回答が総合科学部（旧）女子で「セクハラ」と同じく17%となっており、セクハラとアカハラを同時に受けたのではないかと推定される。「セクハラとアカハラはセットで行われる」ことも念頭に置いておく必要があるだろう。

「修学状況について」では、「国立大学だから」が総合科学部（新）で52%、「地元の大学だから」が45%となっている。総合科学部（旧）ではそれぞれ44%、11%なので、総合科学部（新）の学生は「地元志向」がかなり強くなっているように思われる。先にも書いたとおり、総合科学部（新）については「地域密着型の学部」というイメージが県内で強まっている可能性がある。「健康社会づくり、グローバル化」という他の2つの理念の柱についても積極的に広報する必要があるかもしれない。

所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が総合科学部（旧）84%、総合科学部（新）87%で、全学平均の81%を上回り、総合科学部（新）は医学部の88%に次いで全学でも2番目の高率となっている。ただし、逆に言えば13%の学生は満足していないので、高率に

慢心せず教育内容や体制の改善に引き続き務めることが必要である。また、授業の満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計は、総合科学部（旧）100%、総合科学部（新）80%で、全学平均の77%を大きく上回っている。その一方、授業が満足できない理由として、総合科学部（新）66%が「授業がつまらない」と回答しており、これは全学平均の52%より高い。もちろん、「学生が面白い授業＝良い授業」とは限らないが、学生を引き付ける工夫は多少とも必要であろう。

「課外活動について」では、何らかのサークル（学内外の文科系・体育系・サポート系サークル）に加入している学生は総合科学部（旧）72%、総合科学部（新）64%である（全学平均68%）。加入しない理由としては、総合科学部（新）では「魅力的なサークルがない」21%、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」18%、「学業の妨げになる」と「個人の自由が束縛される恐れがある」がともに14%となっている。おおむね全学平均と同様の傾向であるが、「アルバイト」と回答した学生の割合が全学平均（10%）よりも高めとなっている。

大学入学後のボランティア活動では、総合科学部（旧）78%、総合科学部（新）49%の学生が何らかの活動に従事しており、全学平均の32%に比べると高い。ボランティア活動への関心の高まりとともに、ボランティア・パスポート制度の導入なども影響していると考えられる。

「進路・就職について」は、総合科学部（旧）で公務員志望者が13%、総合職・営業職25%、事務職17%、教育職8%で、総合科学部（新）でそれぞれ19%、22%、14%、6%となっている。おおむね同様の割合だが、若干公務員志向が強くなっているようである。やはり総合科学部（新）については「地域密着型」（→地方公務員志望）というイメージが強まっている可能性がある。

就職先の選択で重視するものとしては、「就職先の将来性・安定性」が総合科学部（旧）22%、総合科学部（新）22%とともに最多だが、総合科学部（旧）では「能力を發揮できること」22%が同率1位となっている。それに対して総合科学部（新）では「収入」が20%で2位となっており、「人間関係の良いこと」19%、「能力を發揮できること」13%、「勤務地の地理的条件」12%の順である。総合科学部（新）のほうが、安定志向・地元志向がやや強まっているのかもしれない。ただし、全学平均では「収入」24%→「将来性・安定性」23%→「人間関係」18%→「地理的条件」13%→「能力の發揮」11%となっているので、総合科学部（新）の傾向は全学的な傾向とおおむね一致しているといえる。

多くの学生が公務員講座などに参加している一方で、大学キャリア支援室の利用については、「利用したことがない」が総合科学部（旧）56%、総合科学部（新）76%である。ただし全学平均の81%よりは低い。とはいえ、大学終了後の進路として「就職」を希望する学生が他学部よりも多いことからすると、キャリア支援室の利用をさらに呼びかけるなどの対応が必要かと思われる。

9-2 医学部

医学部は、医学科、栄養学科・医科栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科303人（44.0%）、栄養学科・医科栄養学科163人（81.1%）、保健学科385人（74.5%）であり、医学部全体では851人（60.5%）であった。大学全体の回収率（68.6%）と比較すると回収率は少し低かった。前回調査での回収率は医学部全体で56.5%であり、今回はやや増加している。回収率は医学科でやや減少し、栄養学科・医科栄養学科ではやや増加して、保健学科は増加している。医学科の回収率が5割以下と低く、医学部全体では男子の回収率が低いことが問題である。

医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験（医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師等の国家試験）を受験して免許を取得し、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中は目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮して、以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」は、自宅通学が26%であり、前回調査の25%とほぼ同じであり、約25%の学生は自宅から通学している。また、70%の学生が毎月5万円未満の家賃を支払っている。「通学方法」では、「自転車」が78%と一番多く、他学部とほぼ同じ割合である。「通学中の事故あり」が13%であり、約1割の学生が通学中に事故を起こしているため、自転車通学を含めて事故に対する注意と交通ルールやマナーの遵守が必要である。

「収入・支出について」は、「家庭の年間収入」では、「750万円以上の収入」がある家庭が52%で、歯学部、薬学部、生物資源産業学部とほぼ同程度であり、全体と比較して割合がやや高いが、「500万円未満の収入」の家庭が20%、「500～750万円未満」の家庭が23%みられる。年収500万円未満の家庭において「全額あるいは半額免除を受けている」が41%あるが、「授業料免除を知っているが申請していない」が46%あり、「授業料免除制度を知らなかった」が1%あることから、授業料免除制度を十分に周知して活用してもらう必要がある。「自宅外通学者」について、「1か月の平均収入額」で、「10万円以上」の収入がある学生が26%であり前回調査の25%とほぼ同じであり、「5万円未満」の収入がある学生が32%であり前回調査の33%とほぼ同じで、約3割の学生の生活は楽ではない。また、「保護者等からの援助額」では、「10万円以上」の学生が10%であり前回調査の12%からやや減少し、「5万円未満」の学生が56%であり前回調査の57%とほぼ同じであることから、保護者等からの援助額は全体としてあまり変化していない。「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせて31%であり、前回調査と同じ状況である。経済的にゆとりがない学生の割合は他学部とほぼ同じであり、経済的に困窮している学生に対して、授業料免除および奨学金の受給などを通して経済的な支援を行う必要がある。アルバイトは70%の学生が行っており、従事日数は全体の割合とほぼ同じであるが、従事時間は5時間未満の割合が25%で工学部夜間を除くと歯学部、薬学部以外の他学部より従事時間数はやや少ない。しかし、アルバイトを行う学生の12%が勉学に支障が生じており、何らかの対策が必要である。

「健康状態について」は、「睡眠時間」は、他学部と同じで大部分の学生は4～8時間である。「気になる症状」も、他学部とほぼ同じ内容であり、男女とも「アトピー・アレルギー」、「頭痛・めまい」、「不眠」等が多く、女子では「生理痛・生理不順」、「下痢・便秘」が多い。「喫煙について」は、男子の83%が喫煙したことがなく、前回調査の88%よりもやや減少しているが、非喫煙者の割合はほぼ同じである。女子は96%が喫煙したことがなく、前回調査とほぼ同じである。「飲酒について」は、男子の26%、女子の29%が飲酒をしないが、女子で1回当たりの飲酒量が2合以上3合未満の割合が18%あり、飲酒量について注意が必要である。

「食事について」は、「昼食の利用場所」は「蔵本会館食堂」が41%で最も多く、次いで「弁当を購入」が16%、「自宅（下宿）」が13%であり、昼食に蔵本会館食堂を利用する学生が多い。「学生食堂について感じていること」は、「昼食時の混雑がひどい」が57%、「値段が高い」が31%、「メニューが少ない」が23%であり、昼食時における食堂の混雑を解消することが望まれる。

「学生生活上の問題点」については、「主な悩みと不安」は、学生の38%に悩みや不安がないが、「勉学」(26%)に関する悩みが最も多く、次いで「就職や進路」(23%)、「交友・異性関係」(15%)、「経済状態」(15%)、「自分の性格」(10%)などがある。「迷惑行為」では、「迷惑行為を受けたことがない」は、医学部の3学科は84～93%であり、10%前後の学生が迷惑行為を受けていることから注意喚起が必要である。「悪徳商法の被害」は各学科とも1～4%あるが、医学科と保健学科の男子は4%であり被害者が多い。「ストーカーの被害」は、医学科と保健学科の女子が1%、栄養学科・医科栄養学科の女子が3%であり被害者が多い。「大学内でのセクハラ」は、医学科の女子が2%であり、防止対策を行う必要がある。「大学内でのアカハラ」は、医学科の男子が5%、女子が2%であり、栄養学科・医科栄養学科の女子が1%であることから、防止対策が求められる。「カルトの勧誘」について、医学科の男子が1%、栄養学科・医科栄養学科と保健学科の女子が1%、保健学科の男子が5%勧誘を受けており、適

切な対策を講じる必要がある。

「修学状況について」は、「本学を選んだ理由」では、「希望する学部・学科があったから」が49%で最も高く、次に「国立大学だから」が41%で、「地元の大学だから」が28%であり、他学部の理由と類似している。「所属学部満足度」では、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて88%であり、他学部と同様に満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」は、「全部取得できた」が83%で、他学部と比較して割合が高い。医学部では、卒業時に国家試験を受けて取得する免許の種類と卒業後の進路が明確であり、本学を選んだ時点で将来の職種を考えている学生が多く、学部に対する満足度が高いと思われる。「授業に対する満足度」は、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて79%であり、全学平均の77%とほぼ同じである。授業に満足していない学生は20%であり、「満足できない」理由として「授業内容がつまらない」が他学部と同様にみられ、公開授業等で意見交換する等の努力が求められる。「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーについて知らない」が52%と全学部で最も高く、オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。

「課外活動について」は、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせて71%であり、学内のサークルへの加入者が多い。学生行事に積極的に参加している学生は44%で、「大学祭への参加」も67%あり、他学部と比較して学生行事や大学祭に積極的に参加している。

「進路・就職について」は、「希望職種」は「専門職（医師、看護師等）」が65%であり、歯学部、薬学部と同様に卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。「進路情報入手手段」は、先輩・知人が27%、インターネットが25%と多く、全体の割合とほぼ同じである。「会社等の情報をどのように入手しましたか」も、インターネットが38%で全体の割合と同じであり、インターネットによる情報の入手の割合が多くなっている。「キャリア支援室の利用状況」は、84%の学生が利用したことがなく、全体の81%よりも利用していない割合がやや高い。医学部では、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生が多いので、医療機関に関する就職情報の広報やセミナー開催等によって就職支援を充実させる必要がある。

9-3 歯学部

歯学部は歯学科と口腔保健学科の2学科から構成される。今回の調査の回収者数（回収率）は、歯学科221人（88.8%）と口腔保健学科59人（100.0%）であり、歯学科の回収率は前回調査（77.5%）に比べ10%も上昇し、口腔保健学科は前回同様、今回も学生全員から回答が得られた。歯学部全体でみると回収者数と回収率は280人、90.9%であり、回収率は前回調査（81.7%）と前々回調査（73.8%）よりも高く、学部別では薬学部（92.8%）に次いで高かった。回収率が高いことから、歯学部学生の実態を反映したデータが得られたと考える。

歯学部学生の28%が自宅通学、57%が家族と別居しアパートあるいはマンションを借りており、13%が間借り（下宿）である。約3割は自宅生、約6割はアパート・マンション暮らしの傾向は前回および前々回調査と差異がない。1か月の家賃は3万円～6万円未満が79%を占め、前回調査では73%、前々回調査では80%であった。また、住居の満足度については「満足している」と「ほぼ満足している」学生の割合は合わせて80%であり、前回調査（79%）と前々回調査（81%）とほぼ同様、概ね満足している。住居の紹介・斡旋者は、不動産業者の割合が61%と最も高く、次いで徳大生協からの紹介（20%）である。通学方法は自転車が多く67%を占め、徒歩通学の割合は16%、自動車の割合は8%であった。全学平均と比べると、徒歩の割合が高かった。通学時間は15分未満が63%、15分～30分未満が23%、30分～1時間未満が12%であり、前回調査同様の傾向である。また、歯学部学生の19%が通学

中の交通事故を経験しており、全学部中もっとも高く、前回調査（13%）と前々回調査（13%）よりも増加している。

経済面は、家庭の年収が750万円以上の学生の割合は52%であり、前回（50%）および前々回調査（43%）よりも増加した。とくに1500万円以上の割合は17%であり、全学部の中で最も高かった。一方、500万円未満の収入の家庭は23%であり、前回調査とほぼ同じであった。前々回調査（28%）と比べると減少傾向にあるので、日本の景気改善が学生の経済面にも反映されはじめたと考えられる。年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では、「授業料免除を知っているが申請していない」は39%であり、全学部中最も割合が低い。一方、「制度を知らなかった」のは3%であり、前回調査（16%）に比べ減少した。全額免除あるいは半額免除を受けている学生は合計46%であり、前回（38%）および前々回調査（25%）よりも増加した。自宅外通学者の1か月の平均収入額は10万円未満が83%を占め、前回調査（71%）に比べて増加した。自宅外通学者の保護者等からの援助額については11%が援助を全く受けておらず、この割合は前回調査（11%）と同じであった。一方、3～7万円未満の援助を受けている学生の割合は55%であり、前回調査（45%）よりも増加した。10万円以上の援助の割合は11%であり、前回調査（16%）に比べて減少した。自宅外通学者の1か月の平均支出額は、3～5万円未満が29%、5～7万円が25%で比較的高かった。また、7～10万円未満（17%）、10～15万円未満（11%）、15～20万円未満（23%）の区分のいずれも、全学部平均と比べると高い傾向にあった。一方、12%の学生は支出額が3万円未満で切り詰めた生活を送っており、前回調査（8%）と比べて増加した。自宅通学者の1か月の食費は3万円未満が63%を占め、前回調査（61%）とほぼ同じであった。一方、4万円以上は15%であり全学部の中では最も割合が多い。学生自身の経済状況は、「ゆとりがある」学生の割合は22%であり、一方、「大変苦しい」と回答した学生は9%であり、前回（10%）とほぼ同じであった。奨学金を受給している学生の割合は32%であり、前回調査30%とほぼ同じであった。一方、61%の学生は奨学金を希望しておらず、また、37%の学生はアルバイトをしておらず、いずれも前回調査とほぼ同様であった。アルバイトをしている学生の50%は週に1～3日の従事であるが、5%の学生は週に5日以上も従事している。1週間のアルバイト従事時間数は、5時間未満の学生の割合が26%、5～10時間未満が27%、10～15時間未満が23%を占める。これら3区分を合計すると76%となり、前回調査とほぼ同様である。歯学部は、高学年では学内臨床実習や研究室配属、学外臨床研修など長時間の実習・研修があるため、長時間のアルバイトは従事しにくいと考えられる。また、アルバイトによって勉学に「支障が生じている」と回答した学生の割合は19%であり、前回調査（19%）と同じであった。アルバイト収入は5万円未満が71%を占め、それほど高額な収入は得ていない。74%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない一方、18%は何らかのトラブルを経験しており、この割合は前回（24%）、前々回調査（20%）よりも減少した。

歯学部男子学生の50%と女子学生の52%の睡眠時間は6～10時間未満である。また、男子の48%と女子の49%は健康状態について何らかの気になる症状を持っている。女子の気になる症状は生理痛・生理不順（16%）が最も多く、次いで頭痛・めまい（15%）、アトピー・アレルギー（14%）、下痢・便秘（8%）、不眠（8%）である。男子は頭痛・めまい（16%）が最も高く、次いで、アトピー・アレルギー（10%）、不眠（5%）、下痢・便秘（5%）である。喫煙に関して、男子の75%と女子の96%は「喫煙歴がない」。喫煙している男子のうち、ときどき喫煙している学生は7%、毎日喫煙している学生は6%である。飲酒について、男子の15%と女子の23%は「飲酒しない」であり、「たまに飲酒する」割合が最も高く、男子49%、女子59%である。週3回以上の飲酒習慣があると回答した学生の1回あたりの飲酒量は、男子は「1合以上2合未満」が50%で最も多く、「3合以上4合未満」が17%、「5合以上」は17%である。女子は「1合未満」、「1合以上2合未満」、「2合以上3合未満」がそれぞれ33%を占めている一方で、「3合以上」は0%である。

食事について、歯学部学生の24%は蔵本会館食堂を利用し、20%は昼食に弁当を購入している。蔵本会館食堂の利用は前回調査(29%)よりも減少しており、蔵本地区の学部の中で最も低い。歯学部学生の61%が学生食堂の昼食時の混雑に不満を抱き、値段が高いこと(31%)やメニューが少ないこと(27%)を不満に思っている。

大学生活の意義としては「勉強や研究」が37%と最も高く、前回(44%)および前々回調査(41%)よりも少し減少した。「特に重点もなく程々に」は11%、「将来を考えた資格等の取得」は13%、「豊かな人間関係を結ぶこと」は18%であった。歯学部の男子の42%と女子の37%は悩みや不安は「ない」と回答しており、ともに他学部よりも比較的割合が高い。主な悩みの内容としては、男女ともに「勉学」(男子25%、女子30%)の割合が高く、男子の「経済状況」(22%)は前回調査(13%)よりも大きく増加した。また、相談相手は男女ともに「友人」(男子51%、女子71%)と「家族」(男子33%、女子54%)の割合が高い。一方、「誰にもしない」と回答した男子は30%であり、女子は9%であった。相談相手が「教員」である割合は男子5%、女子2%であった。メンター制度のさらなる充実を図り、教員が相談相手となれるような支援体制を構築・推進していく必要性を感じる。迷惑行為に関して、80%の学生は迷惑行為を受けたことがないが、男子の6%は「悪徳商法」の、女子の2%は「ストーカー」の被害を受けた経験がある。歯学部女子の5%は「大学内でのセクハラ」の被害を受けており、全学部の中で割合が比較的高い。また、歯学部男子の11%は「大学内のアカハラ」の被害を受けており、前回調査同様全学部の中で最も割合が高く、由々しき事態である。男子の3%、女子の1%は「サークル退部の阻止」を受け、男子の2%、女子の1%で「サークル内のいじめ」を受けている。「カルトの勧誘」は男子の2%、女子の1%が被害を受けている。迷惑行為を受けた際の相談先は「友人」(25%)と「家族」(20%)で、「クラス担任・指導教員」(10%)、「総合相談部門(学生相談室)」(5%)にも相談している。また、学生相談室を利用したことがある学生は、前回同様13%であった。

教職員・友人との交流について、教員との会話あるいは質問を7回以上したことがある歯学部学生は40%と最も割合が高く、一方、教員との交流を全くしたことのない学生も12%いる。親しい教職員がいる学生の割合は52%であり、前回調査(48%)とほぼ同じで、この割合は全学部の中で最も高い。また、学生の70%には親しい友人がいる一方、4%の学生には親しい教職員も友人もいないことから、このような孤立した学生に対する支援体制の構築や強化が必要である。大学事務室の対応について「満足」と「ほぼ満足」と感じる学生の割合は合計60%で、前回(36%)および前々回調査(47%)より大きく増加した。一方、「やや不満」と「不満」の合計は40%であり、全学部の中で最も高い。前回(35%)および前々回調査(23%)と比べても、大学事務室の対応への満足度は下がっている。本調査では具体的内容が把握できないが、何かしらの方法で問題を明らかにし、改善すべきと考える。

盗難等犯罪被害は19%の歯学部学生が被害に遭い、前回調査(21%)とほぼ同じであった。被害の種類としては、男女とも盗難(男子21%、女子9%)が最も多く、女子では痴漢が1%であった。犯罪被害を受けた場所は男女ともに大学構内が最も多い(男子59%、女子53%)ため、早急に大学構内の治安改善の方策が必要である。

修学状況として、本学を選んだ理由は「国立大学だから」が37%と最も高く、次いで「希望する学部・学科があったから」(35%)、「地元の大学だから」(27%)であり、前回調査と同じ傾向である。歯学部学生の82%が所属学部に「満足している」もしくは「ほぼ満足している」。この割合は前回(75%)および前々回調査(68%)よりも高く、満足度は増加傾向にある。一方、19%が何らかの不満を抱いている。単位取得状況については、「全部取得できた」(73%)と「ほとんど取得できた」(23%)を合わせた96%の歯学部学生が、ほぼすべての単位を取得している。また、授業出席状況は92%の歯学部学生が「全部」あるいは「ほとんど」出席している。一方、「ほとんど出席していない」学生(1%)と「出たり出なかつたりしている」学生(6%)に対しては何らかの積極的指導が必要と思われる。授業欠席

理由として、23%が「授業に魅力がない」、同じく23%が「勉学意欲がわからない」と回答した。「授業が理解できない」学生は9%で前回調査（5%）よりも増加したが、引き続き、このような学生に対しては学習面のサポートが必要である。授業満足度は、「満足」と「ほぼ満足」の合計は80%、「やや不満足」と「不満足」の合計は19%であり、前回調査と比べて、満足と不満足の内いずれも増加した。不満な理由として、「授業内容がつまらない」（58%）、次いで「教員の教え方に工夫が足りない」（44%）の割合が高い。授業の予習復習にかける時間は、1時間未満が63%、1時間以上～2時間未満が21%であり、前回調査と比べて時間をかける学生が減少している。学生教育にアクティブ・ラーニングが導入され促進されるなか、学生側の予習復習はまだ不十分と考えられる。

オフィスアワーを「利用したことがある」歯学部学生は68%であり、全学部の中で突出して高い割合である。一方、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」学生は15%であり、理由としては「教員に相談するのが面倒である」（27%）、「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」（29%）、「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」（20%）の割合が高い。一方、「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」という心配な回答も5%あり、このような学生に対しては早急かつ積極的対処が必要である。図書館の利用回数については、歯学部学生の49%は週1回以上の頻度で、8割弱の学生は月1回以上の頻度で図書館を利用している。一方、図書館をほとんど利用しない学生も7%いる。図書館利用の理由は「自習」（62%）が最も多い。

課外活動として、歯学部学生の75%が学内のサークルに加入しており、その内訳は体育系51%、文科系21%、サポート系3%である。一方、「加入したことがない」と「以前加入していたが現在は加入していない」を合わせると23%である。サークルに加入しない理由として、「学業の妨げとなる」と回答した学生が26%で最も多く、前回（27%）とほぼ同じであった。また、この割合は全学部の中で最も高い。次いで「個人の自由が束縛される恐れがある」と「アルバイトをしているため時間的余裕がない」がそれぞれ16%、9%であった。歯学部学生の43%は学生行事が「必要だと考えており積極的に参加する」と回答した。大学祭への参加は55%、不参加は43%であり、前回調査と同様、参加が不参加を上回っている。72%の歯学部学生はボランティア活動の経験がなく、前回調査（74%）とほぼ同じ割合である。

歯学部の場合、進路や就職の情報の入手手段は限られており、「先輩・知人から」（31%）と「指導教員から」（24%）が多い。進学・就職の相談相手は他学部同様、家族等（35%）が最も割合が高く、次いで知人・先輩（28%）、教員（27%）である。歯学部学生の71%が就職を希望し、進学希望は21%であり、進学希望者が増加した。歯学科においては歯科医師免許取得後1年以上の臨床研修が義務づけられているため、大学卒業後すぐに進学できないことが結果に反映されている。就職先選択で重視するのは「収入」（28%）、「就職先の将来性・安定性」（21%）、「人間関係の良いこと」（15%）が高い。就職情報の入手先として、「インターネット」（32%）が最も高く、次いで「先輩・知人」（25%）、「就職担当教員」（16%）である。希望する職種は専門職が64%であり、卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。歯学部学生の約半数は大学が行う就職セミナーへ参加するが、半数は参加しない。また、9割の歯学部学生はキャリア支援室を利用したことがない。その代わりに、歯学部学生委員会は独自の研修医マッチング説明会や卒業生・開業OBによる就職説明会を開催し、学生を支援している。毎年、歯学部同窓会主催で同窓生と歯学科6年生、口腔保健学科4年生との懇親会を設け、全国各地の歯科医師や歯科衛生士の需給状況などの情報を直接収集できる機会を提供している。今後も、歯科学学生に対しては同窓会や後援会の協力を得ながら、口腔保健学科学生に対してはキャリア支援室と連携を図りながら、医療専門職に適した就職支援体制を充実させたい。

以上、歯学部学生生活の実態からいくつかの重要な課題が浮かび上がった。それらに対する解決策概略を以下に示すが、今後はさらに具体的対策を検討する必要がある。

- 1) ハラスメント防止の啓発と徹底
- 2) 孤立学生に対する支援体制の構築と強化
- 3) 不熱心な学生に対する積極的指導
- 4) 理解不十分な学生に対する学習面のサポート
- 5) 大学事務室の対応改善
- 6) 大学構内の治安改善
- 7) 進路や就職に関する情報収集の場の提供

9-4 薬学部

薬学部は、薬剤師養成を主たる目的とする6年制の薬学科と、創薬・製薬科学の研究者養成を目的とする4年制の創製薬科学科で構成されている。平成30年度入試制度改革により、両学科を一括募集し3年次後期から各学科に配属する従来の制度から、学科別募集に変更した。そのため、今回の調査対象のうち、3年生以上は一括（薬学共通学科）入学後に各学科に配属された学生で、2年生以下は入学時から各学科に配属された学生である。内訳は薬学科258名（1～2年生86名、3～6年生172名）、創製薬科学科167名（1～2年生81名、3～4年生86名）の合計425名であり、調査票回収率は、薬学科95.7%、創製薬科学科91.6%、薬学部全体で94.1%（前回調査92.2%、前々回調査65.8%）と、前回調査から実施している回収率改善に向けた取り組みにより今回も高い回収率を維持したことから、調査結果は薬学部の状況を概ね反映していると判断できる。

「住居・通学」について、自宅からの通学生の割合は19%（全体平均27%）であり、他学部と比較して最も低い。この結果は、前回調査（17%）、前々回調査（19%）と同様であり、県外からの入学者が多い傾向に変わりはない。通学方法としては「自転車」が最も多く（80%）、通学時間は「15分未満」が74%であった。通学中に交通事故に遭った学生の割合は12%（全体平均11%）と、前回調査（14%）、前々回調査（15%）同様、依然として高く、交通安全への意識喚起に継続的に努める必要がある。

「収入・支出」について、家庭の年収状況は全体平均とほぼ同じで、750万円未満が49%であった。1か月の平均支出額が7万円以上と回答した自宅外通学生は28%と前回調査（21%）から増加している。一方で、アルバイトをしていない学生の割合は37%で、全体平均29%より高いが、前回調査（47%）からは減少している。アルバイトに従事している学生も、勉学に支障をきたさない範囲で行っている学生が多く（86%）、1週間のアルバイト従事時間が10時間未満が57%（全体平均47%）、1ヶ月のアルバイト収入が3万円以下が44%（全体平均26%）と、いずれの割合も他学部と比較して高い。そのためか、保護者から1か月に7万円以上の援助を受けている学生は23%（全体平均17%）と高く、奨学金については38%の学生が「現在受給中であり、受給の継続（または増額）を希望する」と回答した。経済状況について「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と回答した学生が35%を占め、前回調査（29%）より増加している。これらの結果は、学生の多くが依然として生活に余裕がないことを示唆しており、奨学金や授業料免除等の学生への経済的支援は、今後も重要課題である。なお、授業料免除制度の周知に努めた結果、「授業料免除制度を知らなかった」と回答した年収500万円未満の家庭の学生は4%（全体平均5%）と、前回調査（12%）から大幅に減少した。一方で、「申請したが不許可だった」が13%（全体平均9%）と今回も高かった。

「健康状態」について、睡眠不足とされる6時間未満と回答した学生の割合が男子35%、女子45%であった。気になる症状が「特にない」と回答した学生は男子で63%、女子で52%であったことから、半数近くの学生が何らかの気になる症状を抱えている。いずれの結果も前回調査と変わらず、今後も保健管理センターと連携したきめ細かい生活指導の必要性が感じられる。喫煙に関しては、「したことが

ない」と回答した学生は、男性88%、女性97%。飲酒に関しては、飲酒習慣がみられなかった（1週間の飲酒回数が0～2回）学生の割合は、男性78%、女性75%であった。

「食事」について、昼食の利用場所として「蔵本会館食堂」との回答（62%）が最も多く、前回調査（59%）と変わらなかった。教養科目（常三島キャンパス）を受講している1、2年生の常三島食堂の利用が5%と低いことから、低学年も蔵本会館食堂をよく利用していることがうかがわれる。食堂利用率が高い一方で、利用時の混雑やメニュー、値段などに不満を持っている学生が多い。他学部でも同様の不満を持つ学生が多いことから、学生の意見を食堂に働きかけるなど大学全体の課題として、学生の食生活をサポートする対応が必要と思われる。

「学生生活上の問題点」について、男子で84%、女子で90%の学生が「迷惑行為を受けたことはない」と回答しており、前回調査と変わらない。しかし、多くはないが悪徳商法、いたずら電話、ストーカー、ハラスメント等の被害を受けた学生がいる。迷惑行為を受けた学生の相談相手として友人（38%）が最も多いが、一方で「誰にも相談しない」と回答した学生が38%（全体平均36%）いる。総合相談部門（学生相談室）と連携した継続的な啓蒙活動・予防対策を推進していくことが求められるが、「総合相談部門（学生相談室）を利用したことがある」と回答した学生は13%であり、「総合相談部門（学生相談室）を知らない」と回答した学生が33%おり、前回調査（40%）及び全体平均（41%）よりは低いが、周知に一層努める必要がある。一方で、「教職員と7回以上会話・質問した」学生は47%（全体平均28%）、「クラス担任・指導教員と親しい」学生が25%（全体平均15%）であり、クラス担任（低学年）や卒業研究指導教員（高学年）とコミュニケーションが図られているものと思われる。大学生生活の意義について、「勉強や研究」と回答した学生の割合が45%と、薬学部が最も高く、専門性の高い職業に結びつく学業への意識が高いことがうかがえる。

「修学状況」について、本学を選んだ理由としては前回調査と同様、「希望する学部学科があったから」、「国立大学だから」の順に回答数が多く、薬学部「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は81%（前回調査60%）、授業に対して「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は82%（前回調査60%）で、ともに前回調査から大幅に増加した。入試制度改革やそれに伴い低学年から学科毎に特色ある科目を導入したことなどが、高い目的意識を持って入学した学生の満足度に結びついたのが一因と推察される。一方で、授業に満足できない理由としては、「授業内容がつまらない」、「教員の教え方に工夫が足りない」が多く、授業改善への要望として教員は受け止める必要がある。また、授業の予習・復習時間が「1時間未満」との回答が71%（全体平均62%）と、前々回調査（80%）、前回調査（74%）から減少傾向ではあるが、他学部と比べて依然として多く、学生の自学自習を促す一層の取り組みが必要である。

「課外活動」について、サークルへの加入や学生行事への参加は、学生教育の一翼を担う事項であるが、サークルへの加入率は84%と高く、「以前に加入していた」を加えると学生の92%がサークル活動の経験がある。一方で、ボランティア活動をした学生の割合は24%と、前回調査（26%）とほぼ同じであり、他学部と比べてまだ低い（全体平均32%）。今後も学生の意見を聴取しながら、課外活動支援に努めていく必要性を感じる。

「進路・就職」について、就職を希望する学生は58%であり、現行の2学科制になって以降、傾向は変わらない（前回調査59%）。希望職種としては「専門職（薬剤師）」が最も多い（49%）。薬学科と創製薬科学科では卒業後の進路が大きく異なるため、回答数に占める薬学科生の割合が創製薬科学科生に比べて高いことを反映した結果であると思われる。なお、89%の学生が「キャリア支援室を利用したことがない」と回答している。

教育目標が異なる薬学科と創製薬科学科を併設する薬学部では、最初に述べたとおり、入試制度改革に伴い、3年生以上は一括入学後、薬学の基礎を学び、自分の適性を考えてから学科配属を決める教育シ

システムを採用しているが、2年生以下は学科別に入学し、入学直後から学科ごとに異なるカリキュラムを導入した教育システムに移行している。更に、令和3年度入学生から、6年制に4年制を発展的に融合し一本化した新6年制に移行する。今回の調査の結果は、学部学生の実態には制度変革による大きな変化は見られなかったが、暫くの間教育制度の大変革を迎えている薬学部では、本学生生活実態調査の貴重なデータを有効に活用し、より良い修学・生活環境を構築するための実効性のある学生支援体制の充実に努めていくことが求められる。

9-5 理工学部（工学部を含む）

理工学部の主たる前身となる工学部と合わせて、両学部学生の動向を検討する。なお、本項では、学部名を書かずに昼間、夜間と記載している場合は理工学部の当該コースである。

「住居・通学」について、理工学部・工学部の学生は自宅が20%前後と他学部と比べて低い。1ヶ月家賃は、4万円未満とする学生の割合が60%~70%と他学部に比べて多い。理工・工共に、4万円未満の割合は夜間が昼間よりやや高い傾向となっている。住居満足度は、工学部夜間で他より10~20ポイント程度低いが、他は他学部と同程度である。

「収入・支出」について、夜間では、年収が500万円未満と回答した学生が41%と最も多いが、他は他学部とあまり変わらない。また、750万円未満とする学生は、夜間は71%と工学部の昼間と同程度であった。一方、昼間では59%と低く、総合科学部（新）と同程度であるが、50%以下の医学部、歯学部、薬学部との差異が認められる。また、理工・工共に夜間では、保護者からの援助が全くないと回答した学生が20%と他学部と比較してやや高いが、前回の31%からは改善した。アルバイトに関しては、1週間に3日以上従事する割合は、理工・工、昼間・夜間問わず約4割を占めるが、1週間の従事時間が15時間以上である割合は、工学部昼間が41%と全体で最も高い。工学部夜間は11%と少ないが全て25時間以上となっている。理工学部は昼間・夜間共に総合科学部や生物資源産業学部と同程度であるが、医学部、歯学部、薬学部よりもかなり多い傾向に有る。アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生は、工学部昼間と理工学部夜間で3割近くとやや高いが、他は他学部と同程度であった。生活上仕方の無い部分も有ると思われるが、勉学とアルバイトに対する適切な助言や授業料免除制度についても周知徹底していく必要がある。また、大学としては、こうした経済的不均衡を考慮しながら、学内での奨学金の採用方法等について検討していく必要があるだろう。アルバイトによる収入（1か月平均）は、いずれも半数程度が5万円未満となっている。

「健康状態」について、喫煙・飲酒の頻度や程度において工学部夜間の男子が他に比べて若干高めであったが、その他は他学部と大きな差異は認められなかった。「食事」について、値段が高いことに不満を感じている学生が、工学部昼間・夜間と理工学部夜間で比較第一位となり、消費税増税も影響したものと思われる。また、昼食時の混雑に対する不満も依然高い（理工学部昼間では1位：45%、その他で2位：理工夜間で29%）が、その割合の低下傾向は前回同様継続している。

「学生生活上の問題点」について、大学生活の意義として理工学部では勉学や研究が最も高い（昼間36%、夜間41%）が、勉学と資格が直接結びついている医学部医学科（44%）や薬学部（45%）に比べ若干低い。工学部では、今回の調査では趣味・娯楽がわずかではあるが勉強や研究を上回り、価値観の多様化が伺える。理工学部・工学部は、修学した知識が就職後に必要になるが、直接的では無く実感出来にくいことが原因と考えられる。実学を意識した授業等の工夫により、勉学意欲も向上させる努力が必要であろう。理工学部・工学部では、「希望した学部・学科があったから入学してきた」とする学生が、医学部（49%）、歯学部（35%）、薬学部（60%）と比較して相変わらず少なく（8~19%）、そのことを前提とし、「勉学や研究」への動機・意欲を向上させるための取り組みも必要であろう。

「勉学」, 「就職や進路」, 「交友・異性関係」など, 多くの学生が何らかの悩みを持っており, 工学部昼間男子で勉学39%, 同じく夜間男子で就職や進路46%, 理工学部夜間女子で勉学が43%などが目立つ。理工学部・工学部では“履修相談室(学びの相談室)”を設置し, “学生支援センター総合相談部門(学生相談室)”等との連携を行なっているが, 総合相談部門(学生相談室)等の利用は少なく, 友人が主な相談相手となっている。女子は男子に比べて友人や家族に相談する割合が高い。また, 「誰にも相談しない」とするのが男子に3割~4割, 女子に2割程度おり, 教員に相談するのは男女とも数%に留まっている。教員側からも, 学生に積極的に働きかけ, 学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要があるだろう。

悪徳商法やいたずら電話等も2%~4%で被害を受けているようである。女性ではストーカーやセクハラも昼間で3%弱の被害が見られる。総合相談部門(学生相談室)には女性職員の相談員もおり, 相談可能であることを周知すべきである。カルトの勧誘も理工学部で4%~5%ある他, 工学部では8%前後とやや高い。新入時にカルト予防の教育を行っているが, 高学年においても啓蒙予防策を講じる必要がある。

先にも触れたが, 理工学部・工学部学生の入学動機は, 「国立大学だから」という回答が多い。満足度は, 理工は他学部とほぼ同様であるが, 工学部はやや低い。単位修得数において, 全部取得できたとする割合は, 昼間46%, 夜間32%と前回調査(昼間53%, 夜間47%)よりも下がり, 相変わらず他学部より明らかに低い。一方, 授業への出席状況において, 全部出席しているとする割合も, 昼間(34%), 夜間(31%)と前回調査(昼間37%, 夜間39%)よりも下がり, 他学部よりやや見劣る結果となりつつある。授業に「不満足」もしくは「やや不満足」な学生は, 昼間24%, 夜間26%と前回調査よりやや増えたが, 回答の選択肢を変更した影響が伺える。そう思う理由としては, 前回と同様に「内容がつまらない」「教え方に工夫が足りない」との回答が半数近くを占めている。授業の予習・復習に費やす1日の平均時間は, 多くの学部で1時間未満が過半数を占める中で, 理工・工共に夜間は1時間以上~2時間未満の割合が他より多い。

「課外活動」について, 学部別のサークル加入率は下位から, 工学部夜間, 工学部昼間, 理工学部夜間, 理工学部昼間となり, 理工学部昼間でも6割程度と他学部よりやや低い結果となっている。しかしながら活動状況は, かなりとまあまあを合わせて熱心に活動している割合は他学部と比べて遜色ない。サークルに加入しない理由として, 理工学部・工学部では, 「学業の妨げとなる」や「アルバイトをしているので」が他学部と比較してやや目立ち, 修学状況や経済的状况での理工・工の特徴とも符合する。また, 「魅力的なサークルがない」も他学部よりやや多い。

また, 学生行事への参加率は, 理工・工, 昼間・夜間問わず3割程度以下と他学部と比較すると概して低い。大学祭への参加も昼間45%, 夜間37%と他学部より低く, 工学部はさらに低い。対してボランティア活動への参加率は, 工学部昼間で平均以上の4割, 理工学部は昼・夜共に平均程度の3割であるが, 工学部夜間は平均よりかなり低い。

「進路・就職」について, 就職先を考える上での情報は, インターネットを通じて得ると回答した学生が25%程度と最も多く, 次いで, 先輩・知人が2割強, 教員は指導教員と就職担当教員を合わせると2割程度であった。相談相手についても, 家族等(24~32%)や知人・先輩(22~30%)が教員(12~23%)を上回っている。理工・工共に, 技術職を希望する学生が圧倒的に多く(理工昼間30%, 理工夜間30%, 工昼間41%, 工夜間50%), 理工では次いで公務員(昼夜・共に16%)が高い。工学部では総合職・営業職(昼間13%, 夜間33%)も目立つ。社会人になるために必要な学外で関わりをもったキャリア形成項目は, インターンシップが3割程度を占め, 他学部に比べて多い。一方でなしも2割強程度おり, 活動の二極化が伺える。工学部夜間ではキャリア形成を意識したアルバイトも28%と目立つ。また, キャリア支援室を利用したことの無い学生は, 理工学部で昼間81%, 夜間77%, 工学部で

昼間63%、夜間69%と全体平均よりは若干低いが、それでも利用率は高くない。キャリア支援室では就職ガイダンスやセミナーなどの開催件数を増やすなど、様々なサービス内容の充実を図っているが、一方で理工学部・工学部では各コース・学科で就職担当教員が配置されているため、そちらである程度きめ細やかな対応が行えているものと思われる。

9-6 生物資源産業学部

平成28年に新設された生物資源産業学部（1学年定員100名）は、令和元年に完成年度を迎え、今回より全学年次の学生を対象に調査した。対象者402人中359人（回収率89.3%）から回答を回収し、本学部学生の実態を反映した結果を得ることができた。前回の調査結果も踏まえて、今回の調査結果から見えてくる本学部の現状と課題を以下にまとめた。

「住居・通学」については、「自宅（家族と同居）」から通学している学生の割合が37%（前回49%）で他学部比べて割合が大きく、家族と別居して「アパート・マンション」から通学している学生の割合は45%（前回32%）で他学部比べて割合が逆に小さい。前回調査時に比べて徳島県出身者の数が減少したことが伺える。「5万円未満」の家賃を支払っている学生の割合が87%であり、また、86%の学生が現在の住居に満足している。通学方法については、「自転車」が最も多く73%であり、「バス・JR」を利用する学生の割合も他学部と比べて比較的高く13%である。通学時間は「15分未満」が61%であったが、バス・JRの利用を反映してか「30分～1時間未満」も20%と高い。通学中の「交通事故」の被害については、約1割程度（13%）あり、今後、交通安全への注意喚起が必要である。

「収入・支出」については、「家庭の年収」では、傾向は医歯薬系学部類似している。特に「年収1000万円以上」である家庭の割合は20%もあり、その比率は歯学部、医学部、薬学部に次いで高い。そのせいか、授業料免除を受けている学生（年収500万円未満の家庭）の割合も比較的低い。自宅外通学者の1ヶ月の平均収入額は、「7万円未満」が58%を占めており、収入のうち保護者からの援助額は、「5万円未満」が60%である。その一方で、保護者からの援助が「全くない」学生も10%存在する。自宅外通学者の1ヶ月の平均支出額は、「7万円未満」がほぼ8割（78%）を占めている。自宅外通学者の1ヶ月の平均食費が「3万円以下」の学生は80%で、前回調査時88%からは減少した。現在の経済状況は、23%の学生が「やや苦しい」、10%の学生が「大変苦しい」と回答しており、経済的な支援が必要である。奨学金については、42%の学生が受給を受けている。「アルバイト」については、81%の学生が行っており、従事時間は1週あたり「15時間未満」の学生が65%を占める。「アルバイトで勉強に支障がある」と答えた学生は11%であり、前回調査時（4%）よりは増加したが、全学部の中では低い。

「健康状態」については、「睡眠時間」では、他学部と同様に大半の学生が、4～8時間である。男子学生の35%および女子学生の48%が何らかの気になる症状があると回答しており、保健管理センターと連携した対処を推進すべきと思われる。「喫煙について」は、男子で76%、女子では97%の学生が「喫煙したことがない」と回答し、「飲酒について」は、3割強（男子33%および女子34%）の学生は、飲酒はしないと回答している。

「食事」については、約半数（47%）の学生が常三島の第1および第2食堂を利用している。「学生食堂について感じていること」は、「昼食時の混雑がひどい」が47%、「値段が高い」が41%、「メニューが少ない」が24%などであり、今後の改善が望まれる。

「学生生活上の問題」については、「大学生活で何を第一においた生活をしていますか」に対する回答としては、「勉強や研究」と答えた学生の比率は、40%で前回調査時45%とほぼ同様であった。しかし、「特に重点もなく程々に」、「ただ何となく」と答えた学生の割合の合計も20%あり、学生への指導が必要である。「悩みと相談」については、本学部男子の32%と女子の34%は「悩みや不安はない」と回答

している。悩みの内容は、本学部では「就職や進路」が、男子で33%、女子で43%と最も高かった。本学部は新設学部であり、就職先などに不安を抱えている学生が多いと思われる。悩みの相談相手としては、男女共に「友人」（男子53%、女子69%）と「家族」（男子37%、女子53%）の割合が多かった。一方で、2割程の学生（男子23%、女子16%）は「誰にもしない」と回答しており、クラス担任や指導教員がよき相談相手になれるような体制を強化すべきと考える。迷惑行為を受けた学生の割合は非常に低い（12%）が、主な迷惑行為としては、「いたずら電話」、「セクハラ」、「カルト勧誘」などであり、相談先として「友人」、「家族」の他、「学務（教務）係」も挙がっていた。また、「親しい教員や友人がいない」と答えた学生の比率は4%（前回調査時3%）であり、学生間および教職員とのコミュニケーションはうまく図られているが、孤立した学生に対する支援をしっかりとしていく必要がある。

「修学状況」については、「本学を選んだ理由」では、「国立大学だから」が48%で最も多く、「地元の大学だから」が33%、「希望する学部・学科があったから」が31%と続いている。「所属学部の満足度」は、「満足している」、「ほぼ満足している」と答えた学生の割合は75%で、「やや不満足である」、「不満足である」と答えた学生は24%である。「これまでの単位取得状況」は、「全部取得できた」および「ほとんど取得できた」を併せて97%であり、他学部と比較して割合が高い。「授業の満足度」に関しては、「満足している」、「ほぼ満足している」と答えた学生の割合は75%で、「やや不満足である」、「不満足である」と答えた学生は23%である。授業に満足できない理由としては、「授業内容がつまらない」（67%）が突出しており、「教員の教え方に工夫が足りない」（48%）が、これに続く。また、授業の予習・復習時間が「1時間未満」との回答が68%と、他学部よりも割合が高い。教員は学生に興味を持たせる講義を行うことを常に念頭におき、学生の自学自習を促す取り組みをすることが肝要である。また、本学部では、「オフィスアワー」についての認知度は、89%と最も高かった。「図書館の利用状況」に関しては、前回調査時には「1週間に1回以上来館する」学生の割合が75%と非常に高かったが、今回は他学部とほぼ同様な値（45%）となっている。学部専用の建物はまだ無いが、研究場所は確保されていることも関連しているものと考えられる。

「課外活動」については、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせて61%である。その中で約70%の学生が熱心に活動をしている。「サークルに加入していない理由」についての質問では、「魅力的なサークルがない」や「アルバイトのため時間がない」が挙げられている。「学生行事に積極的に参加している」学生の割合は39%で、「大学祭への参加状況」については、ほぼ半数（52%）の学生が参加している。

「進路・就職」については、本学部では、「進路情報入手手段」は「インターネット」、「先輩・知人」、「指導教員」の順序で割合が多く、「相談相手」は「家族等」、「先輩・知人」、「教員」の順序で割合が多い。また、「就職」を希望する学生と「進学」を希望する学生の割合は、それぞれ48%、45%とほぼ等価である。「就職の希望職種」は、本学部の特徴として「公務員」、「技術・研究職」、「総合・営業職」、「事務職」など多岐に亘っている。「学外で関わりをもったキャリア形成項目」については、本学部では長期インターンシップが必修化されていることもあり、「インターンシップ」の割合が43%と他学部より抜き出て高い。「キャリア支援室の利用状況」は、70%学生が「利用したことはない」と回答しており、今後、周知強化を図ることが必要である。

本年度の調査結果から、前回の調査結果において目立っていた本学部の特徴、自宅通学生でバス・JR利用者が多い、授業への満足度が低い、図書館の利用頻度が高い、などの項目は、まだ高い傾向ではあるものの、他学部の値に接近してきているのが読み取れた。今回の調査で得られた貴重なデータを活かすべく、今後は、学部専用棟建設の検討も視野に入れ、より良い修学・生活環境を構築するための学生支援に尽力していくことが求められる。

第10章 総括と提言

第29回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員（5,848人）を対象として実施し、4,009人から回答を得た。回収率は68.6%で、前回調査の64.0%、前々回調査の59.1%に比べて上昇した。回収率の向上は、講義やゼミナール時にアンケートを実施、回収した学部によるところが大きい。実態の正確な把握には高い回収率が必須であり、今後この回収率をあげる工夫が求められる。

調査項目は、「基本的事項」、「住居・通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「学生生活上の問題点」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目であり、過去の調査と現状を対比して質問内容の見直し（内容修正、設問の削除および新規設定）を行い、今回の総設問数は80問とした。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的な立場から学生生活支援をおこなうために、以下の総括と提言をまとめた。

1. 住居・通学について

全体の80%以上が30分未満の通学時間であることから、大学の近くに住居があり、通学している学生が多い。一方、ほぼ毎回の調査毎に約10%の学生が通学中に何らかの交通事故に遭っていることは甚だ問題である。本学においては自転車通学者が73%にも達していることから、自転車事故への注意喚起と交通安全に関する指導を今後さらに強化する必要がある。

2. 経済状況について

学部間に差違はあるが、家庭の収入が250万円未満に満たない家庭が8%で、これに対応して「生活が大変苦しい」という学生が10%、「生活がやや苦しい」という学生が23%にのぼる。授業料免除制度に関しては、「授業料免除は知っているが申請していない」との回答を、年収250万円未満の家庭では36%、年収250～500万円未満の家庭では51%がしている。今後、免除制度の周知徹底を図ると同時に、授業料免除の制度を活用しない理由について調査し、申請しやすい環境や体制を整えるように取り組む必要がある。

生活費や学資のためにアルバイトをしている学生の比率は42%である。一方で、23%の学生がアルバイト中に何らかのトラブルに巻き込まれている。今後は、被害に遭った学生からの情報収集を含め、被害を未然に防ぐように方策を練る必要がある。

3. 健康状態について

4時間未満の過度の睡眠不足の学生が男子6%女子2%、さらに何らかの気になる症状を抱えている学生が男子34%女子48%で、ほぼ例年と同様である。これらの症状への対処や生活習慣等の生活面の指導を含めた対処法の事例や解決の手伝いをする仕組みが、保健管理・総合相談センター保健管理部門等の大学側の仕組みとしてあることを十分に知らせることが大事である。また、毎年健康診断をしっかり受診するような周知も重要である。

喫煙については、現在でも約10%の学生が喫煙をしている。これら喫煙学生に対しては、積極的な禁煙指導や治療などの対策が必要である。キャンパス内の禁煙区域は年々拡大しており、構内における分煙の徹底やマナー向上、非喫煙者への配慮をさらに目指すべきである。

4. 食事について

朝食をほとんど取らない学生が25%いるという状況は、前々回、前回調査とほぼ同じである。これ

については生協食堂からの協力もあるが、なかなか改善していない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。住居別では、間借り（下宿）、アパート・マンション（家族と別居）、学生寮学生の朝食率がそれぞれ37%、40%、40%であり、自宅学生の67%に比べて大きく下回っている。勉強効率の低下に加え、健康への影響も懸念される。一人暮らしの学生に対する健康指導を推進していく必要がある。

大学内の食堂を約半数（49%）の学生が利用している。恒常的な昼食時の混雑緩和の要望が特に高いので、自主学习スペースの活用、昼食時間内における時間差での利用等工夫できる部分は検討の余地があるだろう。

5. 学生生活上の問題点について

大学生活の意義として、第一に「勉強や研究」におく学生が最も多いことは望ましい傾向であるが、一方で、「ただ何となく」というネガティブな回答も依然として6%ほど存在していることは問題で、ケアする必要がある。

悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が、男子の19～39%、女子の9～21%相変わらず存在し、その中には相談すること自体によって何らかの解決法が見つかるものも存在するはずである。担任教員やゼミの指導教員などは、悩みを持ちながら相談できずにいる学生を見つけたら、相談先や相談方法について伝えていくことを心がける必要がある。

また、保健管理・総合相談センター総合相談部門（学生相談室）があることを知らない学生が41%に達し、前回調査とほぼ同様であったが、これは問題である。総合相談部門での相談が必要と思われる学生に対して、相談方法も含め、十分に情報が行きわたるようにしっかりと周知する必要がある。

何らかの迷惑行為を受けたことがある学生は13%であり、前回調査（15%）より少し減少した。未成年および成人後間もない学生が様々なトラブルに巻き込まれないように、対処法をしっかりと伝えておく必要がある。

セクハラおよびアカハラについては全体では共に1%の比率であるが、学部によっては（総合科学部（旧）など）、10%を超えるハラスメント被害にあったと答えている。大学内におけるハラスメント行為を根絶に向けて、学生・教職員等の構成員全てが十分な意識共有のもと真摯に取り組み続けて行く必要がある。

6. 修学状況について

例年、出席状況のあまり芳しくない学生が10%程度いるのが問題である。授業の欠席理由について「勉強の意欲がわからない」が37%、「授業に魅力がない」が32%、「授業が理解できない」が17%と続き、前々回および前回調査とほぼ同じである。修学状況の改善のためには、専門性を高めていく上での基礎勉強の必要性について学生に認識させ、欠席しないような指導を粘り強く行っていくことに加え、教員側の授業に対する創意工夫も求められる。

現在のクラス担任制への満足度はほぼ90%であり、担任制度がうまく機能していることが伺える反面、「オフィスアワーについて知らない」学生が31%もあり、その活用方法も含めて周知が必要である。

図書館の利用については、43%の学生が「1週間に1回程度来館する」と回答し、サービスに対する満足度は93%である。一方で、「半年に1回程度来館する」と回答した学生も21%もいた。今後は、折りにつけ大学内における修学施設である図書館の積極的な利用を促すことが肝要である。

7. 課外活動について

サークル加入率は全体で67%を占めており、前々回および前回調査とほぼ同じである。課外活動を通して、学生が社会人として必要な様々な資質を自主的に身につけ、鍛練することを切に願う。32%の学生が課外活動を行っていないが、課外活動以外の学園祭等の学生行事やボランティア活動などで、社会における必要な資質を自主的に学んでいただきたい。

新入生歓迎行事や大学祭については「必要だ」と考える学生が、前回とほぼ同様に全体で68%であり、「どちらでもいい」「なくてもいい」とする学生が全体で32%であった。学生の興味が多様化している結果と考えられる。

8. 進路・就職について

進路情報の主な入手先は「指導教員」、「先輩・知人」、「インターネット」となっており、キャリア支援室は3%であった。また、「就職・進学相談相手」では、家族等33%、知人・先輩30%、教員22%と続き、一方で、「相談相手はいない」の回答も前回と同様に6%あり、さらなる学生支援の充実が求められる。

今回の調査で新たな設問として加えた「キャリア形成」においては、キャリア形成を目的に学外と関わりをもった項目として「ボランティア」、「インターンシップ」、「先輩・知人」、「アルバイト」などが挙がっており、週あたりの活動時間は、2時間未満が一番多く57%であった。しかし、本学のキャリア支援室を利用したことがない学生が81%もいるのは問題であり、キャリア支援室の活用方法も含めた学生への周知やサポートが求められる。

学生支援室としては、今回の調査結果が徳島大学における今後の学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ と が き

この学生実態調査の第1回目の実施は、昭和28年まで遡ります。以来、60余年の間、継続的に実施され、今回で29回目を数えました。学部生全員を対象とする調査になったのは、第22回（平成16年）からで、今回で8回目の実施になりました。今回の調査の回収率は約7割（68%）であり、本学学部生の2/3以上の学生の皆さんにご協力をいただき、学生生活に関する詳細かつ貴重なデータを収集することができました。

本調査は、「本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善および修学支援に資する基礎資料を得ること」を目的として実施されています。調査実施時には毎回、時代の変化や大学の置かれている状況などに合わせて、設問の追加・削除および変更を行っています。今回の調査では、幾つかの設問を削除し、学生が所属するクラスの担任制度、学修に際し利用する図書館および社会人になるために必要なキャリア形成についての設問を追加しました。これらにより、より現状に則した「修学状況」および「進路・就職」に関する判断ができるものと思われま

す。現在の大学においては、少子化の加速やICTの急速な発展などを時代背景として、学生生活においても時代に則した対応が必要になってきています。本報告書に記載されている学生生活において出会う様々な事象を数値化した客観的かつ最新のデータをご覧いただくことにより、現在の学生生活の状況や問題点を具体的に把握することが可能になります。是非、ご一読していただき、今後の指導や支援に活かしていただきたく存じます。

最後に、本調査に関する貴重なデータを提供していただきました本学学生の皆さんにお礼を申し上げます。また、徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の皆様には、厳しい日程にも関わらず、本報告書を作成していただきましたことに深謝いたします。そして、本報告書の作成を支えていただきました学生支援課の事務職員の方々にお礼を申し上げます。

徳島大学学生が心身共に健康で、充実かつ安全な学生生活を送り、学修に専念できるために、本報告書が有効に活用されることを祈念しています。

令和2年3月

徳島大学総合教育センター
学生支援部門学生生活支援室長

松 木 均



令和2年3月

徳島大学



UNIVERSITY
ACCREDITED
March 2020

徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

(2020年3月24日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・認定期間：7年間